

第11回 川越市市民意識調査 報告書

平成25年2月

川 越 市

川越市民憲章

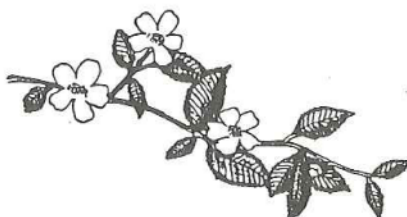
先人の輝かしいあゆみにより、すばらしい歴史的遺産をもつ川越。わたくしたちは、このまちに生きること誇りをもって、さらに住みよい魅力あふれるまちづくりをすすめていくことを誓い、ここに市民憲章を定めます。

- 1 郷土の伝統をたいせつにし、平和で文化の香りたかいまちにします。
- 1 自然を愛し、清潔な環境を保ち、美しいうるおいのあるまちにします。
- 1 きまりを守り、みんなで助けあう明るいまちにします。
- 1 働くことに生きがいと喜びを感じ、健康でしあわせなまちにします。
- 1 教養をふかめ、心ゆたかな市民として、活力にみちたまちにします。

市の木（かし）



市の花（山吹）



市の鳥（雁^{かり}）





はじめに

本市は、県下初の市制施行から平成24年には90周年を迎えました。また、平成25年は県下初の中核市となってから10年という節目の年を迎えます。中核市移行により、福祉、保健衛生、環境、都市計画などに関する事務権限が大幅に拡大し、市の窓口でさまざまな行政サービスを展開するようになりました。引き続き市民の皆様にも最も身近な自治体として、行政サービスの向上に努めるとともに、県南西部地域の拠点都市にふさわしいまちづくりを進めてまいります。

私は、市民本位の市政を進めるために、「タウンミーティング」や「市政懇談会」を開催して市民の皆様から直接ご意見等を伺うとともに、「市民意見箱」を設置して市民の意識・意向の把握に努め、自由に開かれた風通しのよい市政の推進を図るよう努めているところでございます。

今後も、市民の皆様一人ひとりが「住むことに誇りを持ち、住んでよかったと思えるまち川越」を実感していただけるよう、品格のある明るく住みよいまちづくりを進めてまいります。

市民意識調査は、市民の皆様の市政全般にわたる意識や意向、要望等の実態を把握するために、3年毎に実施しております。調査結果につきましては、今後の市政運営に反映させるとともに、まちづくりのための貴重な資料として役立ててまいりたいと考えております。

おわりに、調査にご協力いただきました市民の皆様にも、心からお礼を申し上げます。

平成25年2月

川越市長 川合善明

目次

調査の概要	1
調査票と回答	1 1
調査結果の分析	
1．都市基盤・生活基盤	
1 - 1 主に利用する最寄り駅	3 5
1 - 2 最寄り駅への手段	3 8
1 - 3 川越市の将来像	4 0
1 - 4 推進すべき道路交通施策	4 3
2．産業・観光	
2 - 1 川越市の観光スポット、伝統行事の周知状況	4 7
2 - 2 観光振興のために必要な施策	5 0
2 - 3 品物別の主な購入先	5 3
2 - 4 市内商店街への要望	5 7
2 - 5 農業政策に期待すること	6 2
3．教育・文化・スポーツ	
3 - 1 してみたい国際交流活動	6 4
3 - 2 興味のある文化・スポーツイベント	6 7
3 - 3 文化活動の頻度	6 9
3 - 4 文化活動への取組	7 1
3 - 5 文化に対する考え方	7 2
3 - 6 生涯学習活動の取組状況	7 4
3 - 7 生涯学習活動を行う目的	7 6
3 - 8 スポーツ・運動の頻度	7 8
3 - 9 スポーツ・運動 1 回あたりの時間 / はじめてからの期間	8 0
3 - 10 スポーツ・運動をしない理由	8 2
3 - 11 運動習慣を身に付けるために必要なこと	8 5
4．保健・医療・福祉	
4 - 1 健康のために注意していること	8 7
4 - 2 老後の生活への不安	9 0
4 - 3 老後の過ごし方	9 3
4 - 4 医療に対する要望	9 5
4 - 5 「健康づくりスケジュール」の利用法	9 7
4 - 6 特定健康診査の認知度	9 9
4 - 7 特定健康診査の受診率向上のための取組	1 0 1

目 次

4 - 8	がん検診の受診状況	1 0 3	
4 - 9	がん検診を受診していない理由	1 0 6	
4 - 10	精神障害者のために充実すべきこと	1 0 8	
5 . 環境			
5 - 1	川越市の環境への満足度	1 1 1	
5 - 2	環境に関する情報の入手先	1 1 4	
5 - 3	ごみ減量のための方策	1 1 7	
5 - 4	実行している省エネ活動	1 1 9	
5 - 5	まちの緑化への活動内容 / 今後したい活動	1 2 2	
5 - 6	まちの緑化への施策	1 2 5	
6 . 地域社会と市民生活			
6 - 1	防災対策	1 2 8	
6 - 2	水・食料の備蓄量	1 3 1	
6 - 3	家族等との安否確認手段	1 3 3	
6 - 4	関心のある人権問題	1 3 5	
6 - 5	人権意識を高めていくために必要な取組	1 3 8	
6 - 6	男女平等に関する意識	1 4 1	
6 - 7	「男は仕事、女は家庭」という考え方について	1 4 9	
7 . 市政全般			
7 - 1	「広報川越」の閲覧状況	1 5 1	
7 - 2	市の情報の入手方法	1 5 3	
7 - 3	インターネット利用状況	1 5 5	
7 - 4	市の情報提供に対する満足度	1 5 8	
7 - 5	必要な市の行政情報	1 5 9	
7 - 6	市政への市民参加を進めるための取組	1 6 3	
7 - 7	地域の生活環境の満足度	1 6 5	
7 - 8	市職員のイメージについて	1 6 8	
7 - 9	よくなってきた市の施策 / 力を入れるべき市の施策	1 7 1	
7 - 10	市への定住意向	1 7 9	
7 - 11	定住意向理由	1 8 2	
7 - 12	転出意向理由	1 8 4	
8 . 市政運営に対する意見・まちづくりへの要望			1 8 6

調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の行政に対する意向・要望・生活環境・重点施策・定住意識等の実情を的確に把握し、今後のまちづくりをすすめていくための基礎資料とすることを目的とする。なお、この調査は昭和56年度以降11回目となっている。

2. 調査の内容

- (1) 都市基盤・生活基盤
- (2) 産業・観光
- (3) 教育・文化・スポーツ
- (4) 保健・福祉・医療
- (5) 環境
- (6) 地域社会と市民生活
- (7) 市政全般

3. 調査の設計

調査地域	川越市全域
調査対象	川越市在住の満20歳以上の男女(外国籍市民含む)
標本数	3,000人
抽出方法	川越市住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送配布 - 郵送回収法
調査期間	平成24年10月5日(調査票発送)～10月24日

4. 集計にあたって

- (1) Nは比率算出の基数であり(Number of Casesの略)、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (3) 複数回答(M.A.(Multiple Answerの略))を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100.0%を超える。
- (4) 誤差を考慮し、Nが20未満のものについてはコメントしない。

(5) 標本を無作為に抽出した世論調査の統計数値には誤差があり、次の公式によって算出される。

$$b = \sqrt{2 \times \frac{X - n}{X - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 X = 母集団数
 n = 回収数
 P = 回答率

今回の調査の実際の質問にあてはめると、「あなたは最寄りの駅へ行くのに主にどんな手段で行きますか。」(問2)という質問に答えた人は1,621人であり、そのうち、42.1%の人が「徒歩」と答えた。それぞれの数値を公式に代入すると、次の誤差が算出される。

$$\sqrt{2 \times \frac{283,090 - 1,621}{283,090 - 1} \times \frac{0.421(1 - 0.421)}{1,621}} = 0.024$$

したがって、±2.4%が誤差の範囲となる。つまり、この回答に対する川越市民の真の値は39.7%~44.5%の間と考えられる。

今回の調査の標本誤差早見表

回答比率	90% (または10%)	80% (または20%)	70% (または30%)	60% (または40%)	50%
標本誤差	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.4%	±2.5%

(6) 図表及び文章中、選択肢を一部省略している場合がある。

各回答比率における標本誤差早見表

回答の比率 基数(n) \ (P)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,621	± 1.5%	± 2.0%	± 2.3%	± 2.4%	± 2.5%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
400	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
200	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
100	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	±10.0%
50	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

5 . 集計結果の有意性について

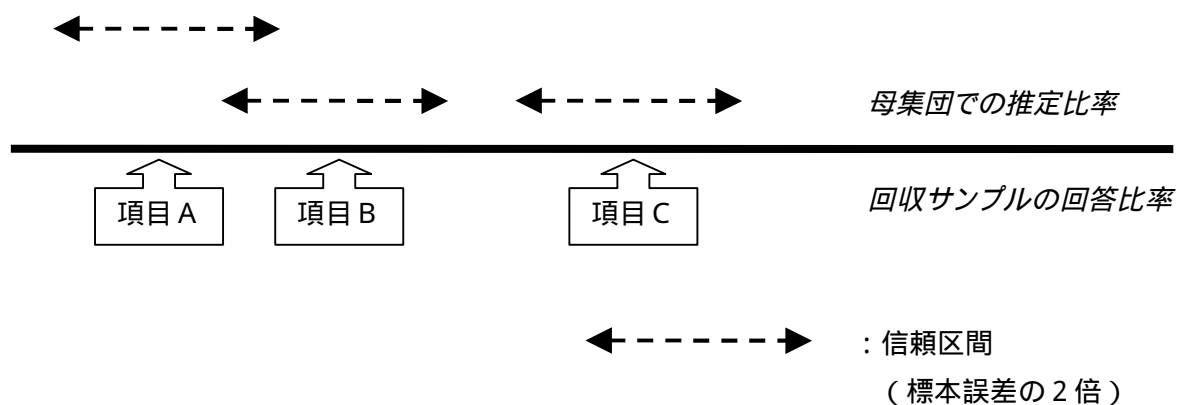
今回の調査は「標本調査」であり調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じる。そのため、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が重要な問題となる。

今回調査では、有効サンプルが 1,621 票であり、回答比率がちょうど 50% の場合、標本誤差は $\pm 2.5\%$ となる。したがって、アンケート調査結果で得た 50% という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差 $\pm 2.5\%$ の誤差が生じることになり、母集団の傾向として評価する際には、50% ではなく $50 \pm 2.5\%$ (= 47.5% ~ 52.5%) という一定の幅を持った値 (信頼区間) として取り扱う必要がある。その結果、その信頼区間に基づいて母集団の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が 5.0% (= 標本誤差の 2 倍) 以上でなければ意味をなさない、つまり有意性を持たないことになる。(下図参照)

そのため、アンケート調査結果に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収サンプル数が必要とされており、例えば、100 票そこそこの場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率 50% において $\pm 10.0\%$ となり、信頼区間は 20.0% にも上ることになる。このような状況では評価どころではなく、アンケート調査自体が意味をなさない。こういった事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収サンプル数が 1,000 票は必要と考えられる。

今回のアンケート調査の場合、回収サンプル数が 1,621 票であり、評価に当たっての前提条件はクリアされていることが分かる。ただし、標本誤差が生じるので、評価・分析にあたっては信頼区間 (今回調査の場合は 5.0% 程度) 未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

項目 B は項目 A よりも有意に高いといえない場合



この場合、項目 C については、項目 A、項目 B それぞれよりも有意に高いといえる。

6 . 回収結果

(1) 市全体の回収

内 訳	母集団数	構成比 (母集団)	標本数	有 効 回収数	回収率 (%)
市 全 体	283,090	100.0%	3,000	1,621	54.0%

(2) 性別、性年齢別の回収結果

区 分 \ 内 訳	母集団数	構成比 (母集団)	標本数	有 効 回収数	回収率 (%)
市 全 体	283,090	100.0%	3,000	1,621	54.0%
男 性	141,666	50.0%	1,500	645	43.0%
女 性	141,424	50.0%	1,500	910	60.7%
無 回 答	-	-	-	66	-

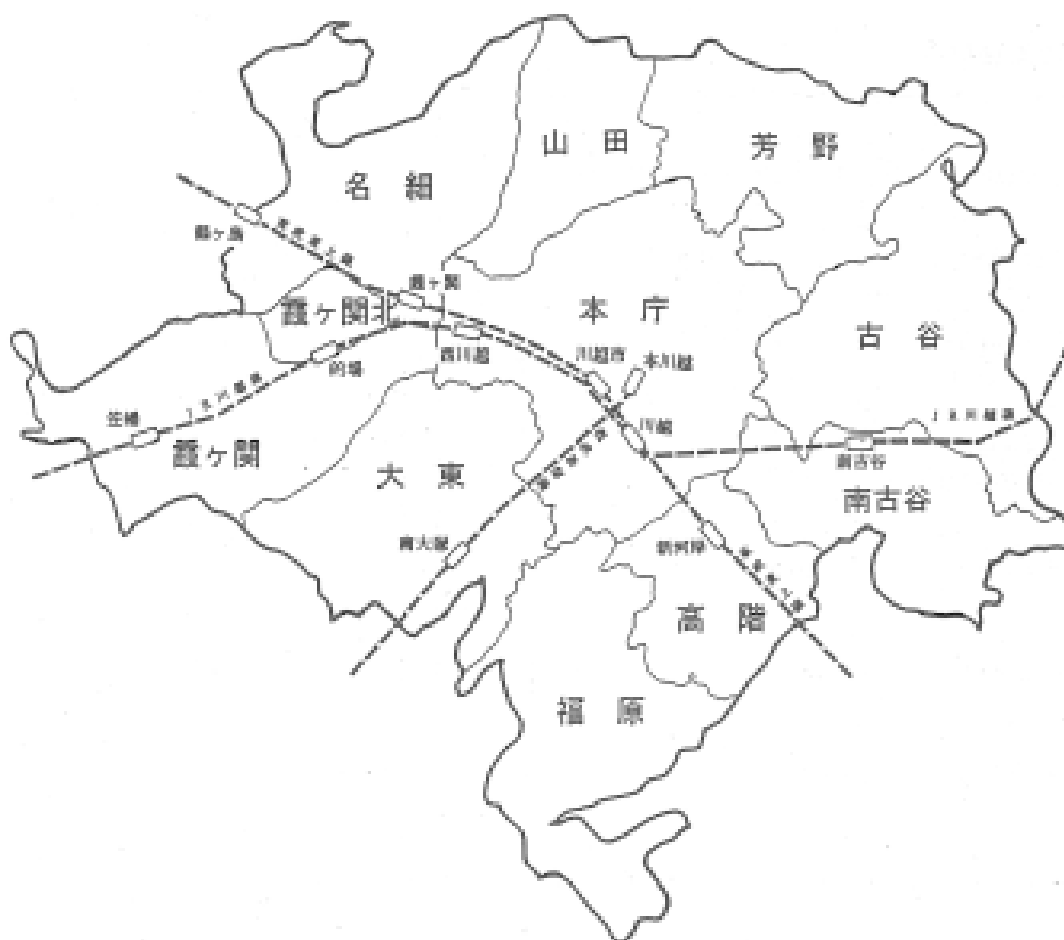
男 性	区 分 \ 内 訳	母集団数	構成比 (母集団)	標本数	有 効 回収数	回収率 (%)
	全 体	141,666	100.0%	1,500	645	43.0%
20 ~ 29 歳	20,617	14.6%	249	49	19.7%	
30 ~ 39 歳	27,595	19.5%	321	90	28.0%	
40 ~ 49 歳	25,696	18.1%	275	93	33.8%	
50 ~ 59 歳	20,050	14.2%	189	99	52.4%	
60 ~ 69 歳	25,600	18.1%	256	156	60.9%	
70 歳以上	22,108	15.6%	210	158	75.2%	

女 性	区 分 \ 内 訳	母集団数	構成比 (母集団)	標本数	有 効 回収数	回収率 (%)
	全 体	141,424	100.0%	1,500	910	60.7%
20 ~ 29 歳	18,692	13.2%	223	78	35.0%	
30 ~ 39 歳	24,850	17.6%	297	164	55.2%	
40 ~ 49 歳	23,470	16.6%	246	150	61.0%	
50 ~ 59 歳	19,620	13.9%	184	123	66.8%	
60 ~ 69 歳	27,335	19.3%	280	208	74.3%	
70 歳以上	27,457	19.4%	270	186	68.9%	
無 回 答	-	-	-	1	-	

(3) 地区別回収結果

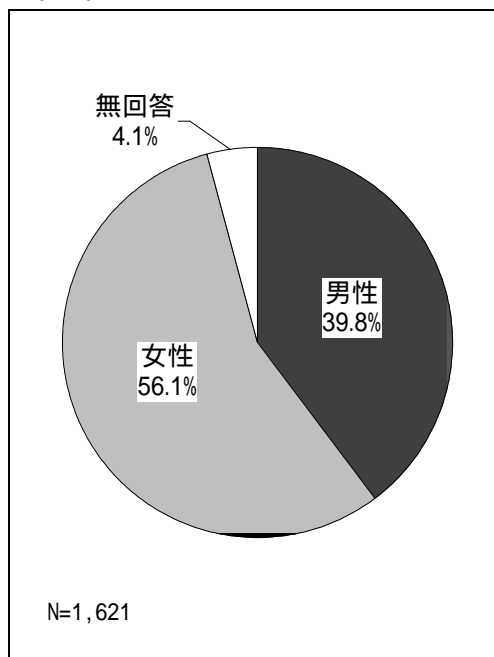
内 訳 区 分	母集団数	構成比 (母集団)	標本数	有 効 回収数	回収率 (%)
本 庁 地 区	86,042	30.4%	764	373	48.8%
芳 野 地 区	4,587	1.6%	101	50	49.5%
古 谷 地 区	9,245	3.3%	139	74	53.2%
南 古 谷 地 区	18,376	6.5%	212	115	54.2%
高 階 地 区	42,907	15.2%	413	202	48.9%
福 原 地 区	16,275	5.7%	196	87	44.4%
大 東 地 区	27,793	9.8%	289	139	48.1%
霞ヶ関地区	27,755	9.8%	288	179	62.2%
霞ヶ関北地区	14,956	5.3%	185	108	58.4%
名 細 地 区	26,260	9.3%	277	121	43.7%
山 田 地 区	8,894	3.1%	136	66	48.5%
無 回 答	-	-	-	107	-
計	283,090	100.0%	3,000	1,621	54.0%

【地区別区分図】

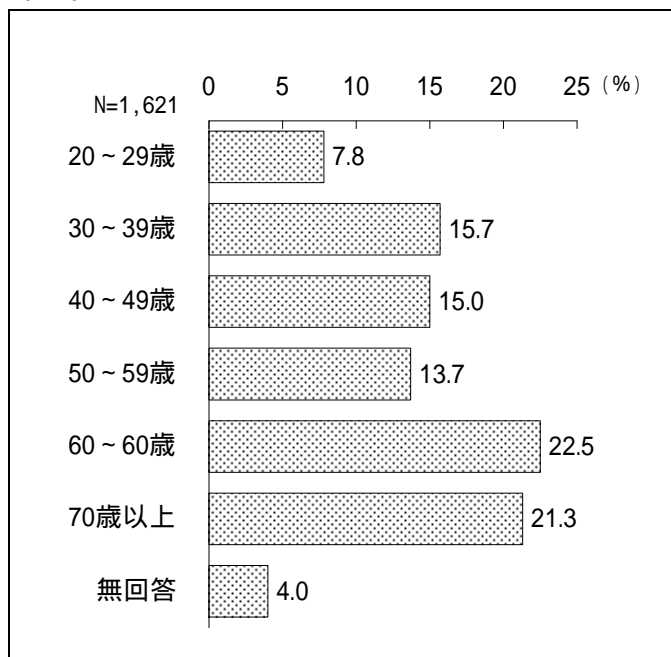


7. 回答者の属性

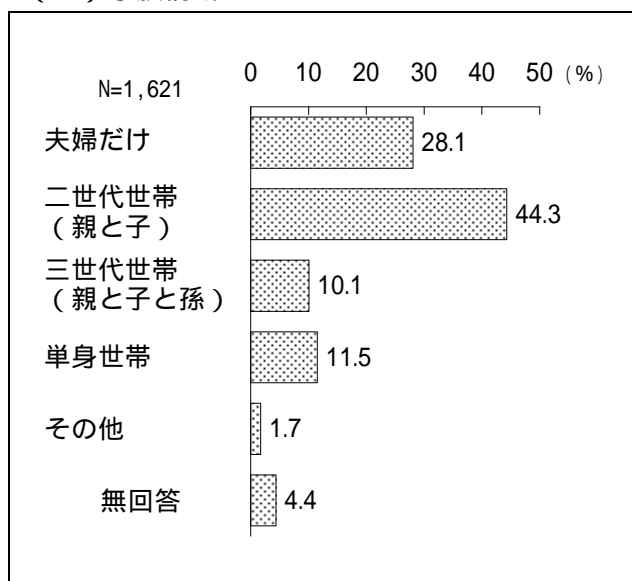
(1) 性別



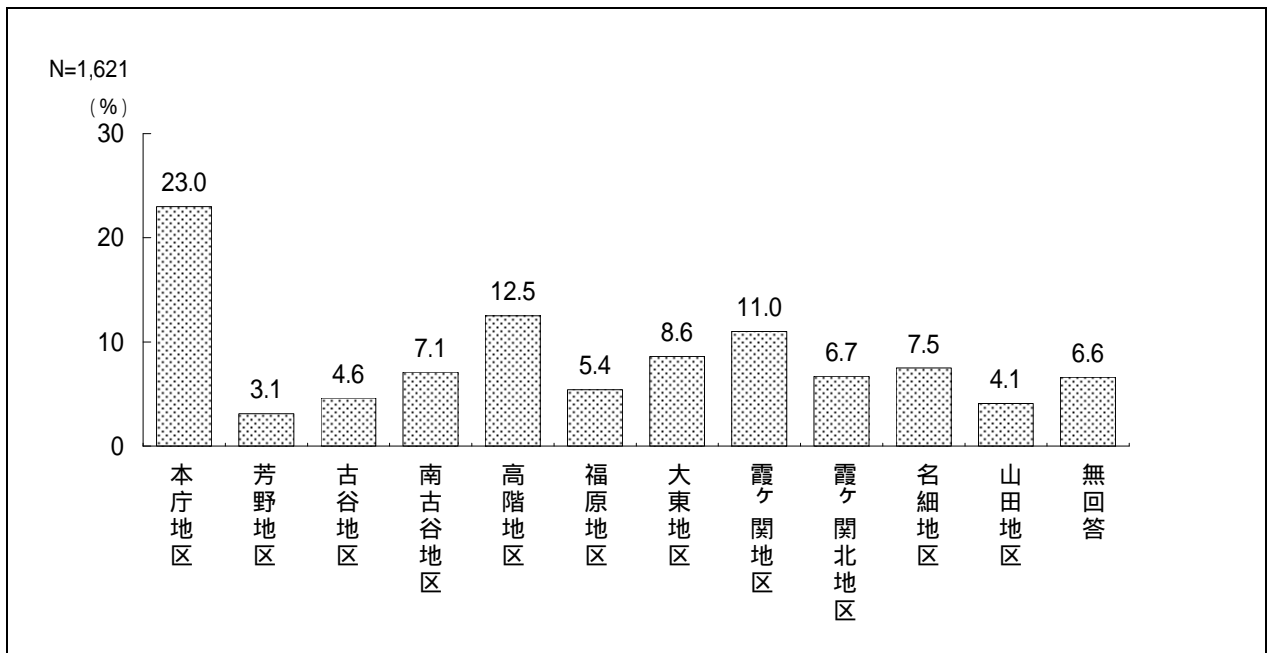
(2) 年齢



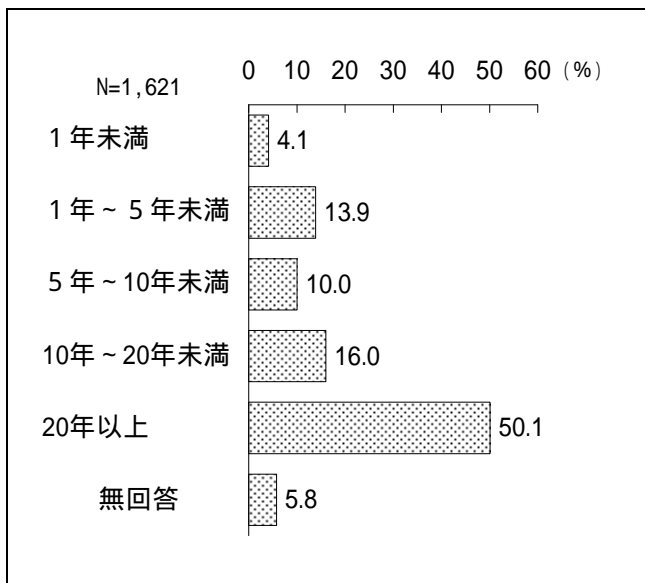
(3) 家族構成



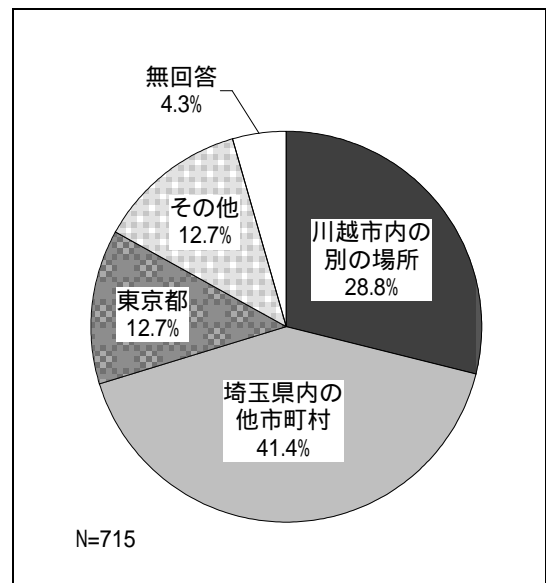
(4) 居住地区



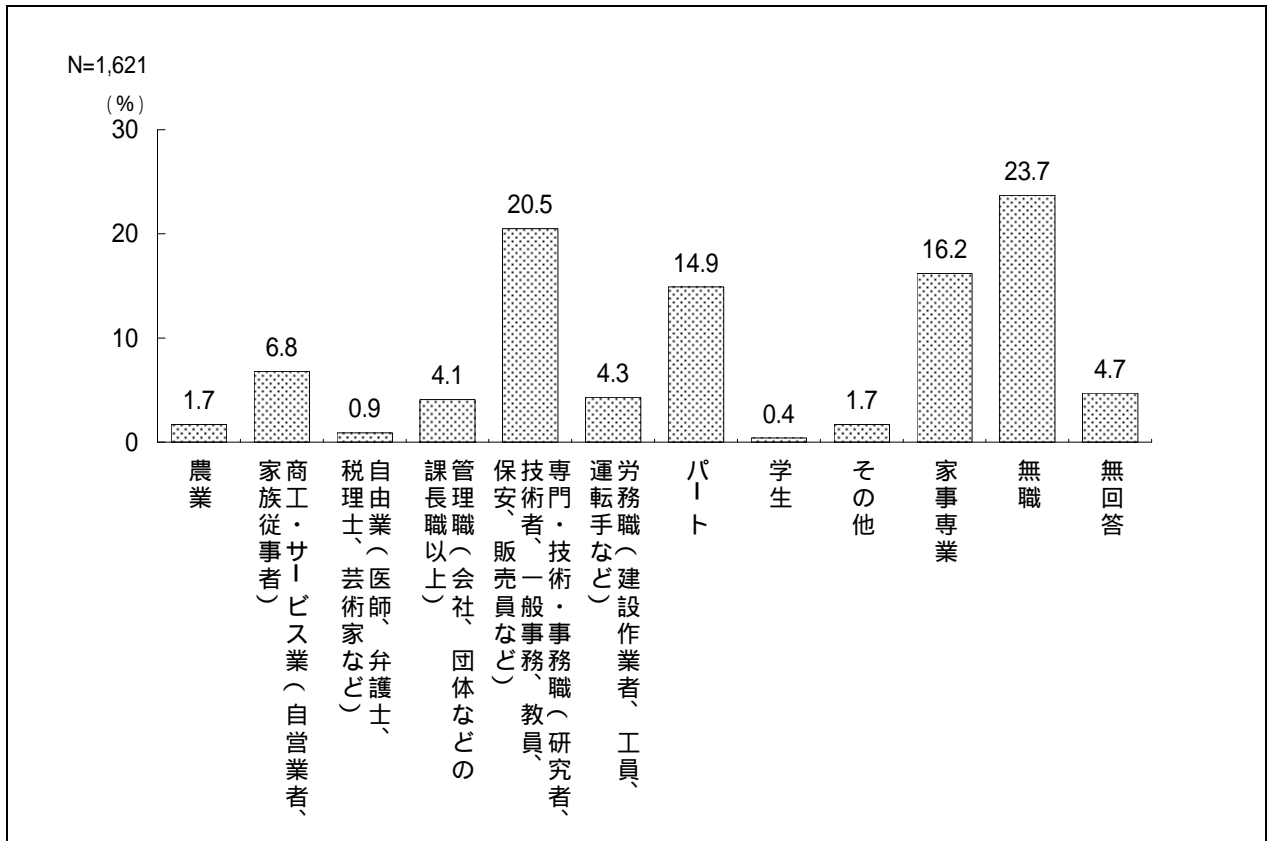
(5) 居住年数



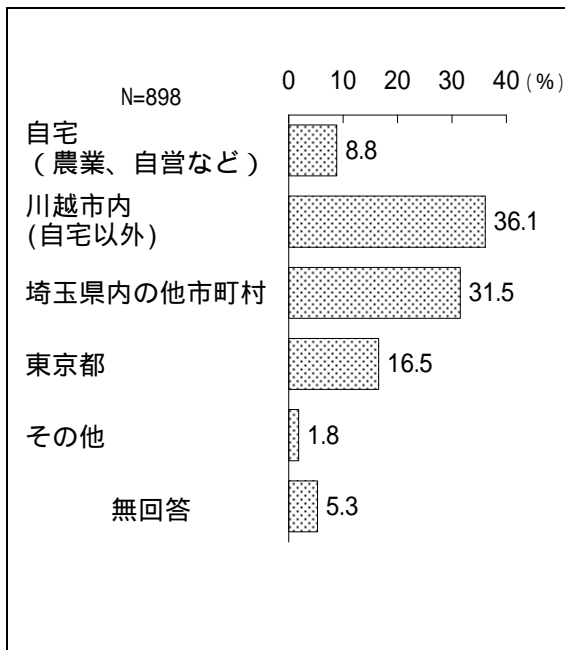
(6) 転入前居住地



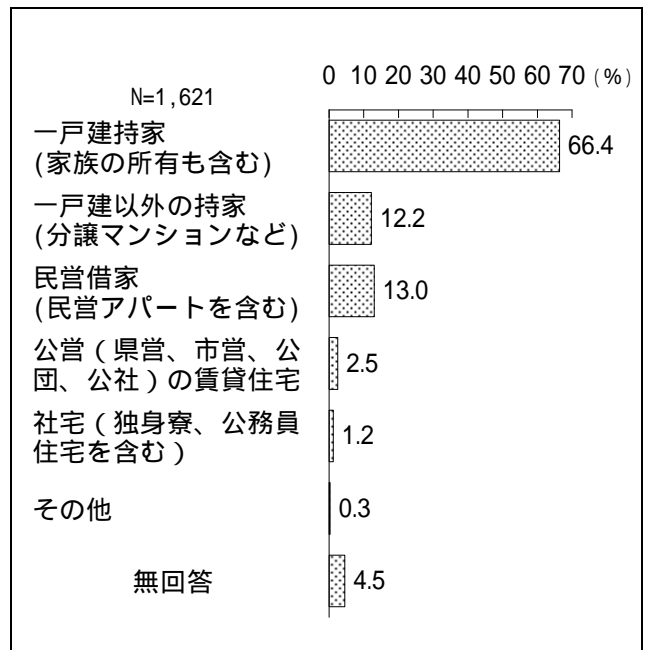
(7) 職業



(8) 通勤・通学先



(9) 住居形態



調査票と回答

川越市市民意識調査

アンケート調査ご協力のお願い

日頃皆様には、市政の発展のために深いご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、市では10月上旬から10月下旬にかけて市民意識調査を行います。

この調査は、生活環境に関する意識、市政に対するご意見など市民生活の全般にわたり、皆様のご意見をお伺いし、それを今後の行政施策への資料とするために行うもので、この種の調査は昭和56年度以来11回目です。

この調査は、住民基本台帳に登録されている20歳以上の市民の中から、3,000人を無作為に選ばせていただき、お願いするものです。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご意見がいただけますようご協力をお願い申し上げます。

平成24年10月

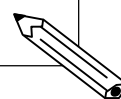
川越市長 川合 善明

調査結果はコンピュータで統計的に処理しますので、ご回答いただきました皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございません。

ご記入にあたってのお願い

1. 対象となったご本人がお答えください。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. 回答は最初から1問ずつ、最後までお答えください。ただし、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きをよくお読みください。
4. お答えは、あてはまる番号に 印をつけてください。
5. 質問によって、 をつける数を「1つ」「いくつでも」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えくださるようお願いいたします。
6. 「その他」にあてはまる場合は、() 内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。

ご記入がおわりましたら...



ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて **10月24日(水)** までにご投函ください(切手は貼る必要ありません)。

なお、調査の内容、考え方、記入の仕方などについて、わからないことがございましたら、お気軽に下記までご連絡ください。

【お問い合わせ先】 川越市市民部広聴課 広聴担当
〒350-8601 川越市元町一丁目3番地1
☎ (049) 224-5011 (直通)
FAX (049) 222-5454

各選択肢に続く数値は回答結果(%)をあらわしている。
比率算出の基数(N)はことわりのない限り、1,621である。

都市基盤・生活基盤についてお伺いします

問1 あなたが主に利用する最寄りの駅はどこですか。(は1つ)

J R川越線	1.南古谷	10.4	2.川越	13.5	3.西川越	0.9
	4.的場	3.8	5.笠幡	3.0	6.武蔵高萩	0.1
東武東上線	7.上福岡	5.7	8.新河岸	10.7	9.川越	15.9
	10.川越市	5.8	11.霞ヶ関	10.2	12.鶴ヶ島	8.0
西武新宿線	13.本川越	3.1	14.南大塚	5.9	15.新狭山	0.6
	16.その他の駅	1.3				

無回答 1.1

問2 あなたは最寄りの駅へ行くのに主にどんな手段で行きますか。(は1つ)

1.徒歩	42.1	3.自転車又はオートバイ	24.1	5.その他	1.6
2.バス	14.4	4.自家用自動車	17.1		

無回答 0.7

問3 あなたは、川越市をどのようなまちにしたらよいと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

1.緑の保全・育成に力を注ぐ自然豊かなまち	13.3	10.教育や文化の香り高い教養のまち	7.4
2.多くの人働く工業のまち	3.0	11.人と人とのつながりを感じる地域コミュニティ活動の活発なまち	11.0
3.活力あふれる商業のまち	6.9	12.交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち	30.1
4.農業を大切にすまち	4.6	13.県西部の中心都市	6.8
5.歴史的遺産を活かした観光のまち	22.3	14.住環境の整備された住宅のまち	5.5
6.スポーツの盛んな健康づくりのまち	3.0	15.環境保全を推進する地球にやさしいまち	4.1
7.子育てのしやすいまち	13.9	16.市民と行政がともに知恵と力を出し合う協働のまち	11.3
8.子ども、お年寄、障害のある方などに思いやりのあるまち	33.9	17.その他	1.3
9.公園や広場などが多いうるおいのあるまち	11.5		

無回答 1.2

問4 あなたは、ゆとりや豊かさが実感できる市民生活を確保するために、どのような方針に重点をおいて道路交通政策を推進すべきだと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。（は2つ以内）

1. 都市間を結ぶ幹線道路や、高速道路へのアクセス性の強化を図る	8.9
2. 日常生活を支える身近な道路整備の推進を図る	43.1
3. 歩行者や自転車交通を優先した、安全で人にやさしい交通政策の推進を図る	48.9
4. 路線バスの案内など、誰もが利用しやすい交通の利用促進策の推進を図る	18.4
5. 駅や公共施設といった人・車が集中する場所への連絡路の充実を図る	19.0
6. 駐車場の整備や交差点改良など、渋滞緩和に重点をおいた交通政策の推進を図る	30.2
7. 交通規制など既存の道路を活かした交通政策の推進を図る	4.7
8. その他	2.2

無回答 3.4

産業・観光についてお伺いします

問5 市内には多くの観光スポットや伝統行事がありますが見たことがありますか。各項目ごとに1つずつ選んでください。（はそれぞれ1つずつ）

	行ったことがある	機会があれば、行ってみたい	知っているが行ったことがない	知らない	無回答
ア) 蔵造りの町並み・時の鐘	94.0	1.0	2.7	0.4	2.0
イ) 菓子屋横丁	91.1	2.4	4.1	0.6	1.9
ウ) 市立川越まつり会館	40.8	14.9	28.8	10.9	4.6
エ) 蔵造り資料館	42.2	13.4	29.6	9.9	4.9
オ) 小江戸蔵里(川越市産業観光館)	37.0	14.6	21.0	22.0	5.4
カ) 大沢家住宅	21.8	15.6	24.1	33.2	5.3
キ) 旧山崎家別邸	20.2	15.4	25.3	32.9	6.2
ク) 本丸御殿	65.6	9.3	11.2	10.1	3.8
ケ) 市立博物館	49.9	14.4	20.8	10.1	4.8
コ) 市立美術館	36.5	18.4	26.3	12.5	6.2
サ) 氷川神社	83.7	3.7	7.8	1.7	3.1
シ) 三芳野神社	34.4	9.4	18.5	31.0	6.7
ス) 喜多院	90.2	2.8	3.6	1.2	2.2
セ) 中院	57.5	7.5	10.7	20.0	4.4
ソ) 仙波東照宮	49.0	8.3	12.8	24.2	5.6
タ) 川越水上公園	79.4	4.6	10.9	1.2	3.9
チ) 伊佐沼	82.9	2.8	7.1	3.6	3.5
ツ) 川越まつり	87.5	4.9	4.4	0.4	2.8
テ) 石原のささら獅子舞	4.8	15.0	19.6	54.3	6.3
ト) 老袋の弓取式	1.7	13.3	17.6	60.7	6.7
ナ) 老袋の万作	1.3	12.2	16.0	63.9	6.7
ニ) 南大塚の餅つき踊り	3.8	12.3	18.6	58.9	6.4
ヌ) ほろ祭	5.6	9.9	10.9	65.7	7.9
ネ) 初大師(喜多院)	58.2	9.2	12.4	14.9	5.2
ノ) 小江戸川越花火大会	59.0	12.8	18.3	4.8	5.2
ハ) 春まつり(舟運)	14.6	21.0	24.6	34.2	5.6

問6 あなたは、ますます観光客が多く訪れる街になるためにどのような施策が必要だと思えますか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

1. 駐車場の整備	42.5	7. 観光施設のバリアフリー化	8.5
2. トイレの整備	23.4	8. 乳幼児用の設備や施設の整備	7.2
3. 観光スポットへのアクセスの向上	24.7	9. 観光スポットの整備	17.8
4. 来訪者に対する案内情報の発信	13.5	10. 農業観光の充実	2.6
5. 国内外への観光情報の発信	15.2	11. その他	4.3
6. 休憩施設の整備	19.9	12. わからない	1.7

無回答 2.3

問7 あなたは、次の品物を主にどこで買いますか。品物別(小型店・大型店別)にそれぞれに該当する地域(1~18)を1つずつ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

品物	地域	市内										市外						自分では買わない	無回答	
		本庁地区の店	古谷地区の店	南古谷地区の店	高階地区の店	福原地区の店	大東地区の店	霞ヶ関地区の店	霞ヶ関北地区の店	名細地区の店	山田、芳野地区の店	さいたま市の店	鶴ヶ島市、坂戸市の店	狭山市、所沢市の店	ふじみ野市の店	その他の県内の店	都内の店			その他
ア) 食料品	小型店	11.9	2.3	3.9	7.4	0.7	3.7	5.9	4.1	1.5	2.6	0.2	3.3	0.7	1.7	0.7	0.2	0.9	3.3	44.7
	大型店	25.2	1.9	10.2	7.3	0.4	3.8	9.0	5.8	1.2	4.4	0.7	7.2	1.5	4.9	2.3	0.2	1.6	2.7	9.6
イ) 日用雑貨品	小型店	12.3	1.5	4.1	6.0	0.7	2.8	5.1	3.4	1.0	2.2	0.1	3.8	1.2	2.0	0.9	0.7	1.5	4.3	46.4
	大型店	24.2	2.3	10.4	6.1	0.4	2.9	6.4	3.9	1.0	3.1	0.5	11.7	1.9	6.0	3.0	0.9	1.6	2.0	11.7
ウ) 日用衣料品	小型店	13.4	0.4	2.7	3.8	0.2	1.1	3.5	2.3	0.4	1.7	0.7	2.7	1.6	1.9	1.7	2.6	3.5	6.0	49.8
	大型店	31.0	1.1	4.7	4.7	0.2	1.4	4.9	3.5	0.4	2.8	2.9	6.2	2.7	6.1	5.1	6.4	4.2	1.9	9.8
エ) 高級衣料品	小型店	11.2	0.1	0.4	0.7	0.1	0.2	0.9	0.6	0.2	0.6	1.5	1.0	0.6	1.0	2.2	9.0	4.3	14.0	51.5
	大型店	32.4	0.3	0.7	1.4	0.1	0.9	1.2	1.0	0.1	0.3	2.7	1.5	0.9	1.6	4.9	20.4	6.1	11.4	12.1
オ) 電気製品	小型店	11.5	1.0	1.8	2.0	0.2	1.2	2.8	1.8	0.7	0.6	0.5	4.1	1.7	1.9	1.5	1.5	4.2	9.6	51.3
	大型店	27.1	3.9	4.6	1.5	0.4	2.9	2.0	1.7	0.3	1.2	1.6	13.5	5.9	4.6	5.2	5.6	5.2	3.0	9.7
カ) 家具類	小型店	11.0	0.6	1.2	0.7	0.2	0.7	1.0	0.5	0.2	0.3	0.9	4.4	0.7	1.7	2.4	1.6	5.2	13.8	52.7
	大型店	27.6	3.0	3.3	1.4	0.4	2.8	1.2	0.8	0.3	1.0	2.0	10.4	1.6	2.8	7.2	4.5	8.9	8.8	12.0
キ) 贈答品(3000円以上)	小型店	14.6	0.9	0.7	1.9	0.2	0.7	1.4	1.0	0.3	0.7	0.6	2.5	0.6	1.7	1.2	3.9	3.9	11.4	51.9
	大型店	41.3	0.7	1.9	1.7	0.1	1.3	1.6	1.7	0.4	1.0	2.2	3.6	0.9	3.5	3.9	11.4	5.9	7.8	9.1

小型店・・・個人商店、コンビニエンスストア等

大型店・・・スーパー、デパート、ホームセンター等

問8 あなたは市内の商店街にどんな商業関連施設の設置や事業をしてほしいですか。

〔1〕商店街施設について

(は2つ以内)

1. 緑地、街路樹、広場	23.9	6. 店街街路灯	7.9
2. 休憩所、水飲み場	15.7	7. 歩行者専用道路	23.2
3. 駐車場、自転車置場	46.0	8. アーケード	14.3
4. 商店街案内板	6.2	9. その他	2.2
5. 公衆便所	15.5	10. 特にない、わからない	8.2

無回答 1.6

〔2〕商店街で実施してもらいたい事業、サービスについて

(は2つ以内)

1. 空きビン、空き缶のリサイクル事業 (デポジット)	21.0	5. ナイトバザール	11.4
2. 宅配サービス事業	19.8	6. 共同売り出し	24.0
3. カード事業	6.4	7. その他	2.8
4. スタンプ事業	8.7	8. 特にない、わからない	34.1

無回答 3.4

問9 あなたが、川越市の農業施策に期待することは何ですか。

(はいくつでも)

1. 減農薬栽培の推進	32.6	6. 農産物のブランド化	15.9
2. 朝市の開催	23.1	7. 荒れている農地に対する指導	28.6
3. 農産物直売所の増設	44.3	8. 田園風景の保存	26.0
4. 市民農園の増設	9.7	9. その他	4.0
5. 地元農産物を使った加工品の開発	22.2		

無回答 2.2

教育・文化・スポーツについてお伺いします

問10 あなたは、どんな国際交流をしてみたいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。

(は3つ以内)

1. 外国人との交流行事やサークル活動	22.4	6. 外国の歴史や文化を学ぶ	24.2
2. ホームステイを受け入れる	6.2	7. 国際ボランティア活動へ参加する	7.1
3. 観光で海外旅行に行く	34.4	8. 地域の外国人への支援活動をする	8.1
4. 外国人の友人を作る	15.7	9. その他	1.2
5. 外国語を習得する	28.6	10. 特にない	27.6

無回答 2.8

問11 あなたは、どのような文化・スポーツイベントに興味がありますか。 (は2つ以内)

1.クラシックコンサートやオペラ鑑賞	17.5	7.日頃の活動を発表できる市民参加の音楽祭・文化祭	9.7
2.落語や歌舞伎などの古典芸能鑑賞	18.5	8.市民参加のスポーツ大会	11.0
3.文化人などの講演会	11.0	9.地域の伝統行事や祭	26.9
4.著名な画家などの美術展	12.5	10.その他	3.5
5.プロ選手などのスポーツ観戦	26.4		
6.知識や技能、教養を高めるための講座や教室	23.3		

無回答 3.0

問12 あなたは、文化活動をどの程度行っていますか。次の中から1つ選んでください。

(は1つ)

*「文化」とは、芸術・メディア芸術・伝統芸能・芸能・生活文化・地域における伝統文化を想定しており、「文化活動」とは、これらを行うことについて想定しています。

1.ほとんど毎日	1.2	
2.週に3～5日	1.9	
3.週に2日	2.9	
4.週に1日	2.5	→ にお答えください
5.月に1～3日	7.6	
6.ほとんど行っていない、または行っていない		80.1

無回答 3.9

で「4.週に1日」「5.月に1～3日」と答えた方におたずねします。

現状に対する考え方を教えてください。

N = 163 (は1つ)

1.現状に満足しており、頻度として適度であると考え、以前と変わらない	47.2
2.行いたい、家庭のライフスタイルに合わせて減少している	26.4
3.行きたい、ある事情について落ち着いたら積極的に取り組んでいきたい	20.9
4.もっと減らしていきたい、減っていく可能性がある	1.2
5.その他	1.8
6.わからない	1.2

無回答 1.2

問13 文化に対するあなたの考え方を教えてください。

(は1つ)

1.仕事として確実に行うもの	1.8
2.趣味として行うもの	25.0
3.時間や経済的なゆとりがあるから行うもの	12.8
4.教養として心を豊かにするために行うもの	43.2
5.興味がない	5.7
6.その他	1.3
7.わからない	6.7

無回答 3.5

問14 あなたは、日ごろ次のような生涯学習を行っていますか。 (は2つ以内)

「生涯学習」とは、自己の啓発や充実のため、生活の向上のためや職業上の能力の向上のため、自発的に行う学習活動のことを想定しています。

1. 公民館の講座や教室 (体操教室なども含む)	8.3
2. 図書館・博物館・美術館の講座や教室	5.6
3. その他、市が行っている講座や教室	4.1
4. 県や国が行っている講座や教室	1.7
5. 公民館などで自主的・自発的に行っているサークル活動	7.0
6. 大学等のオープンカレッジ	1.2
7. 民間のカルチャーセンター・スポーツクラブなどの講座や教室	10.7
8. 通信教育やCDソフトなどを使った自主的な学習	8.8
9. その他	4.4
10. 特に行っていない	59.1

無回答 2.5

で「10.特に行っていない」以外に答えた方(生涯学習を行っている方)におたずねします。
学習活動を行う主な目的は何ですか。 N = 623 (は2つ以内)

1. 趣味を広げたり、教養を高めるため	33.7
2. 健康・体力づくりのため	29.1
3. 家庭生活や日常生活を充実させるため	11.2
4. 現在の仕事や、転職などに必要な知識・技能を身につけるため	12.0
5. ボランティア活動に生かすため	2.4
6. 地域の人との親睦を深めたり、仲間づくりのため	12.0
7. 自由時間を有効に活用するため	14.1
8. セカンドライフを充実したものにするため	6.3
9. その他	1.8

無回答 27.1

問15 あなたは、スポーツや運動をどの程度していますか。

頻度はどの程度ですか。

(は1つ)

1. ほとんど毎日	9.9	→ とにお答えください
2. 週に3～5日	12.5	
3. 週に2日	8.9	
4. 週に1日	9.2	} 問16にお進みください
5. 月に1～3日	7.4	
6. ほとんどしていない	48.9	→ にお答えください

無回答 3.3

で「1.ほとんど毎日」「2.週に3～5日」「3.週に2日」と答えた方におたずねします。

1回の時間はどの程度ですか。

N = 507 (は1つ)

1. 30分未満	17.8	2. 30分以上1時間未満	39.8	3. 1時間以上	41.0
----------	------	---------------	------	----------	------

無回答 1.4

スポーツや運動を初めてからどの程度期間が経過していますか。 N = 507 (は1つ)

1. 6カ月未満	8.7	3. 1年以上	76.9
2. 6カ月以上1年未満	6.7	4. わからない	4.9

無回答 2.8

で「6.ほとんどしていない」と答えた方におたずねします。

スポーツや運動をほとんどしていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。 N = 792 (は1つ)

1. 時間がとれない	33.7	6. 病弱でできない	9.2
2. 疲れていて運動どころではない	12.2	7. 参加できる催し物がない	2.3
3. 運動する施設や場所がない	4.7	8. よい指導者がいない	0.4
4. 運動したいと思わない	7.3	9. その他	5.7
5. 一緒に運動する仲間がいない	3.3	10. 特に理由はない	20.5

無回答 0.8

問16 健康を保つための運動習慣を身に付けるために、どのようなことがあるとよいと思いますか。 (はいくつでも)

1. 自分に合った運動方法や運動量がわかる	40.7	5. 身近に参加しやすい運動教室がある	24.7
2. 運動の指導者がいる	15.1	6. ウォーキング大会などのイベントで運動するきっかけがある	10.3
3. 運動をする仲間がいる	29.4	7. その他	4.1
4. 身近に運動をする場所がある	49.5		

無回答 7.0

保健・医療・福祉についてお伺いします

問17 現在の健康を保つため、日常生活を送る上で特に注意していることはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 (はいくつでも)

1. 休養・睡眠を十分にとる	61.4	7. 歯の管理を大切にしている	27.9
2. 食事・栄養を十分にとる	53.3	8. 運動やスポーツをするようにしている	26.7
3. 規則的な生活を心がけている	48.5	9. アルコール(お酒)を控えている。禁酒している	14.1
4. 家族や友人との交流を大切にしている	29.7	10. たばこを控えている。禁煙している	18.8
5. くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている	35.2	11. その他	1.3
6. 体重の管理に気をつけている	38.2	12. 特に注意していることはない	3.3

無回答 1.1

問18 あなたは、老後の生活について不安を感じますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。 (は1つ)

1. 住居のことで不安を感じる	5.1	5. 家族などの人間関係のことで不安を感じる	5.3
2. 健康のことで不安を感じる	26.2	6. その他	1.5
3. 収入のことで不安を感じる	39.5	7. 特に不安は感じない	16.3
4. いきがいのことで不安を感じる	4.6		

無回答 1.4

問19 あなたは、老後の過ごし方についてどのようにお考えですか。自分の考えに近いものを次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

1.自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい	48.8	4.社会福祉のための奉仕活動や地域活動に参加したい	4.6
2.研究や学習・勉強に取り組みたい	1.8	5.健康の維持・増進に努めたい	22.6
3.できるだけ働き続けたい	14.9	6.特に考えていない	5.9
			無回答 1.4

問20 あなたは、医療について、どのようなことを望みますか。(は1つ)

1.診療所や病院を増やしてほしい	9.1	5.ホスピス(終末期の医療機関)をつくらせてほしい	7.8
2.休日や夜間の診療を充実してほしい	25.9	6.医療について、相談できる窓口をつくらせてほしい	13.8
3.救急時の受け入れ体制を整備してほしい	18.9	7.特に要望はない	11.5
4.自宅への往診や訪問看護を充実してほしい	8.9	8.その他	2.1
			無回答 2.1

問21 あなたは、「健康づくりスケジュール」をどのように利用していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(はいいくつでも)

1.カレンダーとして利用している	18.3
2.毎月の健康情報、健康アドバイスを利用している	11.6
3.予防接種や乳幼児健診・相談等の日程を知るために利用している	11.7
4.成人健(検)診等の日程を知るために利用している	17.0
5.その他	1.0
6.利用していない	51.0
無回答 2.9	

問22 あなたは「特定健康診査」を知っていますか。(は1つ)

特定健康診査は、高血圧症や糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防する目的で行われている健診(メタボ健診)で、40歳以上の方が対象です。

1.知っている	63.7	3.知らない	19.7
2.内容は知らないが言葉は聞いたことがある	14.9		
			無回答 1.7

問23 多くの方に特定健康診査を受けてもらうために、どのようにすべきだと思いますか。(はいいくつでも)

1.健診の必要性を啓発する	27.3	6.土日に健診が受けられる	44.6
2.健診を受けるために仕事を休める	18.4	7.夜間に健診が受けられる	18.8
3.メタボ以外の健診項目がある	18.3	8.待ち時間が短い	31.6
4.各種がん検診もセットで一度に受けられる	44.3	9.その他	2.5
5.健診ができる医療機関が身近にある	36.5		
			無回答 3.4

問24 がん検診の受診状況についてお尋ねします。

平成23年4月1日～平成24年3月31日に次の検診を受けたことがありますか。

胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）

（ は1つ）

1.受けていない	64.4	2.市の検診を受けた	8.2	3.市以外の検診 (人間ドックを含む)を受けた	25.8
----------	------	------------	-----	----------------------------	------

無回答 1.5

肺がん検診（胸部X線撮影）

（ は1つ）

1.受けていない	56.3	2.市の検診を受けた	10.7	3.市以外の検診 (人間ドックを含む)を受けた	31.0
----------	------	------------	------	----------------------------	------

無回答 2.0

で胃がん検診・肺がん検診ともに「1.受けていない」と答えた方におたずねします。

がん検診を受診しない理由は何ですか。

N = 829（はいくつでも）

1.自分は健康だから関係ない	7.7	6.結果に不安がある	6.3
2.受診方法がわからない	15.4	7.症状があれば診察を受ける	30.8
3.経費がかかる	24.4	8.がん治療を受けている	1.6
4.受診したいが時間がない	21.2	9.その他	12.7
5.検診に出かけるのが面倒	19.3		

無回答 3.5

問25 精神に障害がある方のために特に充実していく必要があると思われるものは何ですか。

次の中から3つ以内で選んでください。

（ は3つ以内）

1.普及啓発活動	12.0	6.ボランティアの育成	13.6
2.相談体制の充実	43.5	7.健常者との交流の機会の整備	13.3
3.働く機会の充実	33.3	8.暮らしやすい街づくり	26.7
4.通所施設の充実	30.2	9.その他	1.5
5.協力組織の育成	23.0	10.わからない	10.5

無回答 4.8

環境についてお伺いします

問26 あなたは、川越市の環境について、どのように感じていますか。次の中から1つ選んでください。

（ は1つ）

「環境」とは、地球温暖化、廃棄物問題、生物の多様性、都市のみどりまで幅広く捉えた環境を想定しています。

1.満足	4.3	2.やや満足	16.4	3.ふつう	60.7	4.やや不満	12.4	5.不満	3.5
------	-----	--------	------	-------	------	--------	------	------	-----

無回答 2.7

問27 あなたは、普段、環境に関する情報をどこから入手していますか。次の中から3つ以内で選んでください。

（ は3つ以内）

1.テレビ	72.6	4.雑誌	6.8	7.市が発行する冊子	11.3
2.ラジオ	10.7	5.広報川越	53.2	8.公民館などの講座	1.3
3.新聞	51.0	6.インターネット	20.8	9.その他	1.1

無回答 1.5

問28 あなたは、ごみを減らすために、どのようにすべきだと思いますか。次の中から2つ選んでください。(は2つ以内)

1.ごみ処理の有料化を拡大すべきである	9.5
2.可燃ごみの中の生ごみや廃食用油を分別収集して、資源化すべきである	27.9
3.市民が自由に資源を持ちこめる、古紙・古布等の持ち込み拠点を設置する	44.4
4.スーパー等のレジ袋を有料化すべきである	13.9
5.企業にごみが出ない製品づくりを働きかける	51.4
6.その他	4.4

無回答 3.3

問29 あなたは、省エネのためにどのようなことを行っていますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

1.冷暖房機器の設定温度を控えめにしている	66.6
2.テレビやビデオを長時間使用しないときは主電源を切るようにしている	26.3
3.使っていない部屋の明かりを消すようにしている	78.2
4.冷蔵庫は中身をつめすぎないようにしている	14.4
5.洗濯は風呂の残り湯を使うようにしている	31.5
6.入浴の際はシャワーを出しっぱなしにしないようにしている	23.3
7.自動車を運転するときはエコドライブを心がけるようにしている	13.5
8.緑のカーテンを設置している	10.1
9.その他	1.5
10.省エネは特に心がけていない	0.7

無回答 1.1

問30 あなたは、緑を増やすために、現在どのようなことをしていますか。また 今後どのようなことをしたいですか。(はいいくつでも)

項目	していること	したいこと
1.庭や家のまわりで木や花を育てる	57.9	13.8
2.ベランダや室内で植木鉢などを使って木や花を育てる	41.9	14.2
3.生け垣をつくったり、建物の屋上や壁面を緑化する	10.4	16.2
4.市民農園や近所の空き地を借りて、草花や野菜を育てる	6.0	18.3
5.近所の公園や街路の片隅に木や花を植えたり世話をする	1.4	15.6
6.地域の樹林地や農地を保全したりするボランティア運動に参加する	0.7	15.1
7.特になにもない	13.0	8.7
無回答	19.3	46.6

問31 あなたは街の緑を守り、増やすために、どのようなことを望みますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

1.公園・道路・河川・公共施設などに緑を増やしてほしい	71.9
2.樹木・樹林の保全制度を充実させてほしい	33.9
3.緑に関する活動を支援する制度を充実させてほしい	23.7
4.市民農園の整備を推進してほしい	14.7
5.樹林の保全への市民参加のしくみをつくってほしい	13.0
6.ボランティア活動などの広報をもっと充実させてほしい	9.3
7.その他	3.9

無回答 4.9

地域社会と市民生活についてお伺いします

問32 あなたは、防災対策として、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

1.市民の防災意識を高めること	45.9
2.自主防災組織を育成すること	17.7
3.飲料水や食料などの生活物資を確保すること	53.6
4.下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること	23.8
5.農地の整備を推進し、水害対策を図ること(農業の多面的機能)	4.9
6.避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること	49.2
7.救急・医療体制を充実させること	41.6
8.消防車、防火水槽などの消防力を充実させること	9.7
9.その他	0.9

無回答 2.6

問33 東日本大震災以降、個人で3日分以上の水や食料の備蓄が必要といわれておりますが、あなたは何日分準備していますか。(は1つ)

1.1日分準備している	15.9	3.3日分以上準備している	23.9
2.2日分準備している	23.1	4.準備していない	35.5

無回答 1.6

問34 あなたは、家族等との安否確認手段を決めていますか。(はいいくつでも)

1.予定避難場所を決めている	35.2
2.災害用伝言板サービスを利用することになっている	8.0
3.災害用伝言ダイヤルを利用することになっている	9.6
4.特に決めていない	54.0
5.その他	0.7

無回答 2.3

問35 現在、日本の社会には基本的人権に関わる問題がいくつかありますが、あなたが関心のあるものはどのようなものですか。(はいくつでも)

1.女性にかかる人権問題	26.5	8.アイヌの人々にかかる人権問題	2.9
2.子どもにかかる人権問題	38.6	9.刑を終えて出所した人にかかる人権問題	9.1
3.高齢者にかかる人権問題	42.1	10.性少数者(同性愛者等)にかかる人権問題	5.6
4.障害者にかかる人権問題	36.2	11.その他	1.0
5.同和問題関係者にかかる人権問題	5.9	12.特にない	20.0
6.在日外国人にかかる人権問題	8.7		
7.HIV感染者、ハンセン病患者などにかかる人権問題	9.3		

無回答 5.0

問36 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めていくためには、今後どのような取り組みが必要だとお考えですか。(はいくつでも)

1.慣習や社会の仕組みを改善していく	37.1	9.民間運動団体を充実させる	4.6
2.家庭の中で取り組んでいく	27.6	10.人権意識は向上しており、取り組む必要はない	1.0
3.学校教育の中で教えていく	53.1	11.個人の意識の問題であり、介入する必要はない	5.1
4.市町村が啓発活動を積極的に行う	18.5	12.その他	0.6
5.自治会など地域ぐるみでの取り組みを行う	15.4	13.取り組んでも変わらない	1.9
6.企業や職場での啓発活動を行う	12.8	14.わからない	10.8
7.講演会・シンポジウムなどを開催する	8.9		
8.人権に関する作文や絵画などのコンクールを行う	4.3		

無回答 4.8

問37 あなたは、男女の地位が平等になっていると思いますか。各項目ごとに1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

項目	男性の方が優遇	男性の方が優遇	どちらかといえは平等になっている	女性の方が優遇	女性の方が優遇	わからない	無回答
地位の社会環境							
ア) 家庭生活で	11.4	30.5	37.3	5.4	2.0	8.0	5.4
イ) 学校教育の場で	3.0	10.8	49.2	3.0	1.0	24.6	8.5
ウ) 職場の中で	19.3	36.2	17.6	4.4	1.4	12.8	8.3
エ) 地域社会において	11.3	31.5	28.7	4.4	1.5	14.7	7.8
オ) 社会通念・習慣・しきたりなどで	20.7	41.9	14.9	2.7	1.2	10.7	8.0
カ) 法律や制度において	9.4	23.7	35.5	4.2	1.2	17.9	8.1
キ) 社会全体において	13.3	40.1	19.5	3.4	1.7	14.7	7.3

問38 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

1.そう思う	13.0	3.どちらともいえない	41.9
2.そうは思わない	40.7	4.わからない	1.6

無回答 2.8

市政全般についてお伺いします

問39 あなたは、「広報川越」をご覧になりますか。 (は1つ)

1.よく読む	44.5	2.ところどころ読む	47.7	3.読まない	5.9
--------	------	------------	------	--------	-----

無回答 1.9

問40 あなたは、市の情報をどのような方法で取得していますか。 (はいくつでも)

1.市のホームページ	18.8	4.広報川越	87.8
2.モバイルサイト	1.5	5.その他	4.5
3.メール配信サービス	2.3		

無回答 3.6

問41 あなたは、自宅・職場・学校などでインターネットを利用していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。 (は1つ)

1.パソコンだけで利用している	25.3
2.携帯電話だけで利用している	13.1
3.パソコンと携帯電話で利用している	28.7
4.その他の機器(ゲーム機、テレビ等)だけで利用している	0.6
5.現在利用していないが今後利用したい	10.6
6.今後も利用するつもりがない	17.0

無回答 4.8

問42 あなたは、市の行政に関する情報提供について、どのように感じていますか。1つ選んでください。 (は1つ)

「情報提供」とは、「広報川越」や市のホームページなどによるお知らせや情報公開制度による公文書の公開などを想定しています。

1.満足	7.0	2.やや満足	13.0	3.ふつう	67.4	4.やや不満	6.8	5.不満	2.3
------	-----	--------	------	-------	------	--------	-----	------	-----

無回答 3.6

問43 あなたが、今必要としている市からの情報は何か。次の中から3つ以内で選んでください。 (は3つ以内)

1.医療や健康づくりに関する情報	46.0	9.市の施策・計画に関する情報	19.4
2.福祉サービスに関する情報	25.8	10.地域のお祭りやレクリエーションの場の情報	13.4
3.スポーツ施設と利用法の情報	10.2	11.市民のボランティア・サークル活動の情報	5.5
4.文化施設や催し物の情報	16.1	12.川越産農産物の情報	8.3
5.生涯学習講座に関する情報	8.8	13.その他	2.4
6.災害時の対応の情報	36.9	14.特になし	7.0
7.交通渋滞や道路工事等の情報	11.2		
8.ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報	22.8		

無回答 2.7

問44 あなたは、市政への市民参加を進めるために市はどのような点に力を入れたら良いと思いますか。
(はいいくつでも)

1. 市職員が地域に出向いて、市の施策や事業を説明	22.6
2. 各種事業計画について、政策の策定過程から情報を提供	23.4
3. 自治基本条例()など市民参加を進めるための条例の制定	5.2
4. 市政に関する意向等を継続的に募集するための市政モニター制度	17.5
5. 実施した施策の評価を市民参加で行うための制度	18.9
6. 各種の委員会・審議会の委員を市民から公募する制度	11.4
7. 計画や条例などをつくる時、内容などを広く市民に公表し市民の意見を募集する制度 (パブリックコメント制度)	31.0
8. アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと	41.9
9. 意見や要望を話し合うタウンミーティングなどの開催	15.0
10. 自治会活動やNPOなどの市民活動に対する支援	16.0
11. その他	2.6

無回答 9.9

自治基本条例とは、地方自治体における行財政運営の全般について、理念や基本原則を定める条例のことです。

問45 あなたの住んでいる地域の生活環境について、どのように感じていますか。ア)～チ)の項目ごとに1つずつ選んでください。
(はい1つずつ)

		満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
保	ア) ごみの回収	42.8	37.8	13.2	2.7	3.6
	イ) 排水のはけぐあい	32.1	36.1	16.5	8.6	6.7
	ウ) 予防接種・定期健康診断	26.2	46.2	14.5	3.8	9.3
健	エ) 休日や夜間の急病の時の安心さ	7.5	34.5	37.1	11.7	9.1
	オ) 子どもが外で遊ぶときの安全性	5.8	33.5	38.4	11.8	10.5
安	カ) 高齢者の外出や散歩の安全性	5.9	34.0	41.5	11.3	7.3
	キ) 自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性	10.2	40.9	33.8	7.1	8.0
全	ク) 夜道の明るさ(防犯灯)	6.8	23.1	38.4	26.7	5.1
	ケ) まわりの道路の安全性	4.3	23.7	42.8	23.0	6.2
利	コ) 日用品・食料品等の買物の便利さ	28.8	40.2	16.9	9.3	4.9
	サ) 通勤・通学時の便利さ	19.9	36.7	23.1	11.4	9.0
	シ) 公園・広場等の利用のしやすさ	11.1	38.1	29.1	13.4	8.2
	ス) 公民館・集会場等の利用のしやすさ	11.2	42.9	27.5	9.7	8.8
快	セ) ばい煙・排気ガスからの快適さ	11.2	39.7	31.4	9.6	8.1
	ソ) 工場・車等の振動、騒音からの快適さ	13.3	39.0	28.3	12.0	7.3
	タ) 周囲のにおいの状態からの快適さ	18.0	45.3	21.2	8.0	7.5
	チ) プライバシーの保持	16.5	54.2	17.4	4.6	7.4

問46 市役所職員のイメージについてどう思いますか。それぞれのイメージについて評価してください。(は1つずつ)

	良 い	どちらかといえ ば良い	どちらかといえ ば悪い	悪 い	無回答
ア) 親 切	21.0	54.7	15.5	3.7	5.1
イ) 融通がきく	6.7	42.9	32.6	9.7	8.1
ウ) 能率的	8.1	46.6	29.6	7.6	8.1
エ) 積極的	7.5	40.6	34.8	9.2	8.0
オ) サービス心	10.4	43.4	28.5	10.3	7.4

問47 市政全般について、よくなってきた施策、また、あなたが力を入れてほしい施策をそれぞれ3つずつ選んで、下の回答欄に番号を記入してください。

	よく 力を なって 入れて きた ほしい		よく 力を なって 入れて きた ほしい		
1.市民参加の行政	3.2	1.6	19.住宅	3.6	1.7
2.市の行政に対する情報提供	10.1	2.3	20.雇用の促進	0.4	17.1
3.行財政改革の推進	0.9	4.0	21.農業振興	0.6	3.1
4.インターネットを活用した 行政サービス	12.0	2.9	22.商工業振興	1.4	2.0
5.保育所・幼稚園	4.4	13.4	23.観光による地域振興	20.9	4.1
6.社会福祉	5.3	9.1	24.地球温暖化対策の推進	0.9	4.7
7.保健・医療	8.3	13.8	25.環境衛生	1.5	3.0
8.文化・スポーツ活動の振興	7.2	3.1	26.自然環境の保全	1.5	6.3
9.社会教育の充実	0.4	1.6	27.河川・水路の改良整備	9.0	6.2
10.歴史的環境の保全	18.9	2.0	28.コミュニティの育成	0.5	1.4
11.学校教育の内容・施設・環境の 整備	2.9	11.7	29.男女共同参画	0.7	0.6
12.中心市街地の基盤整備と活性化	13.6	3.3	30.交通安全	2.3	12.5
13.周辺地域の基盤整備と活性化	2.5	8.1	31.防犯	2.3	19.7
14.土地利用 (用途地域の見直しなど)	2.1	5.3	32.防災体制の充実	0.8	9.8
15.道路、交通網の整備	10.1	17.1	33.消防・救急体制の整備	2.1	7.1
16.水道事業	3.8	0.4	34.消費者対策	0.6	3.5
17.下水道整備	8.4	6.6	35.葬祭施設(やすらぎのさと)の充実	11.3	3.9
18.公園・緑地の整備	9.7	10.3	36.火葬施設(斎場)の充実	2.2	15.9
			37.特にない	7.1	1.5

無回答 24.6 15.8

問48 あなたは、これからもずっと川越市に住み続けたいと思いますか。それともよそに移りたいと思いますか。 (は1つ)

1. 今、住んでいるところへ住み続けたい	59.3	→	にお進みください
2. 川越市内のどこかに住み続けたい	12.9		
3. 市外へ移転したい	7.6	→	にお進みください
4. わからない	11.9	→	F 1 にお進みください

無回答 8.3

で「1. 今、住んでいるところへ住み続けたい」「2. 川越市内のどこかに住み続けたい」と答えた方におたずねします。

川越市に住み続けたいというのは、特にどういう理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。 N = 1,171 (は2つ以内)

1. 自然環境がよい	17.4	6. 教育・文化環境がよい	1.1
2. 生活環境がよい	26.3	7. 自分の家(土地)だから	53.5
3. 交通の便がよい	19.1	8. 住みなれて愛着があるから	39.4
4. 商売や勤務の関係で	4.4	9. その他	1.8
5. 人間関係がよい	7.8	10. わからない	0.4

無回答 0.6

で「3. 市外へ移転したい」と答えた方におたずねします。

市外へ移りたいというのは、特にどういう理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。 N = 123 (は2つ以内)

1. 自然環境がよくない	14.6	6. 教育・文化環境がよくない	10.6
2. 生活環境がよくない	17.1	7. 住宅の関係で	16.3
3. 交通の便がよくない	46.3	8. その他	25.2
4. 商売や勤務の関係で	9.8	9. わからない	1.6
5. 人間関係がよくない	14.6		

無回答 -

基本項目（フェイスシート）

F 1 あなたの性別はどちらですか。 (は1つ)

1.男性	39.8	2.女性	56.1	
				無回答 4.1

F 2 あなたの年齢はいくつですか。 (は1つ)

1. 20～29歳	7.8	3. 40～49歳	15.0	5. 60～69歳	22.5	
2. 30～39歳	15.7	4. 50～59歳	13.7	6. 70歳以上	21.3	
						無回答 4.0

F 3 あなたの家族構成は、この中のどれにあたりますか。 (は1つ)

1.夫婦だけ	28.1	4.単身世帯	11.5	
2.二世帯世帯（親と子）	44.3	5.その他	1.7	
3.三世帯世帯（親と子と孫）	10.1			
				無回答 4.4

F 4 あなたはどちらの地区にお住まいですか。 (は1つ)

1.本庁地区	23.0	5.高階地区	12.5	9.霞ヶ関北地区	6.7	
2.芳野地区	3.1	6.福原地区	5.4	10.名細地区	7.5	
3.古谷地区	4.6	7.大東地区	8.6	11.山田地区	4.1	
4.南古谷地区	7.1	8.霞ヶ関地区	11.0			
						無回答 6.6

F 5 あなたは、川越市の現在の場所に何年くらい住んでいらっしゃいますか。 (は1つ)

1. 1年未満	4.1	→ F 6にお答えください	
2. 1年～5年未満	13.9		
3. 5年～10年未満	10.0		
4. 10年～20年未満	16.0		
5. 20年以上	50.1		
			無回答 5.8

F 6 F 5で1.～4.のいずれか（20年未満）と答えた方におたずねします。
現在の場所に移る前はどこにお住みでしたか。 N = 715 (は1つ)

1.川越市内の別の場所	28.8	3.東京都	12.7	
2.埼玉県内の他市町村	41.4	4.その他	12.7	
				無回答 4.3

F 7 あなたの住宅の種類はどれですか。 (は1つ)

1. 一戸建持家 (家族の所有も含む)	66.4
2. 一戸建以外の持家 (分譲マンションなど)	12.2
3. 民営借家 (民営アパートを含む)	13.0
4. 公営 (県営、市営、公団、公社) の賃貸住宅	2.5
5. 社宅 (独身寮、公務員住宅を含む)	1.2
6. その他	0.3
	無回答 4.5

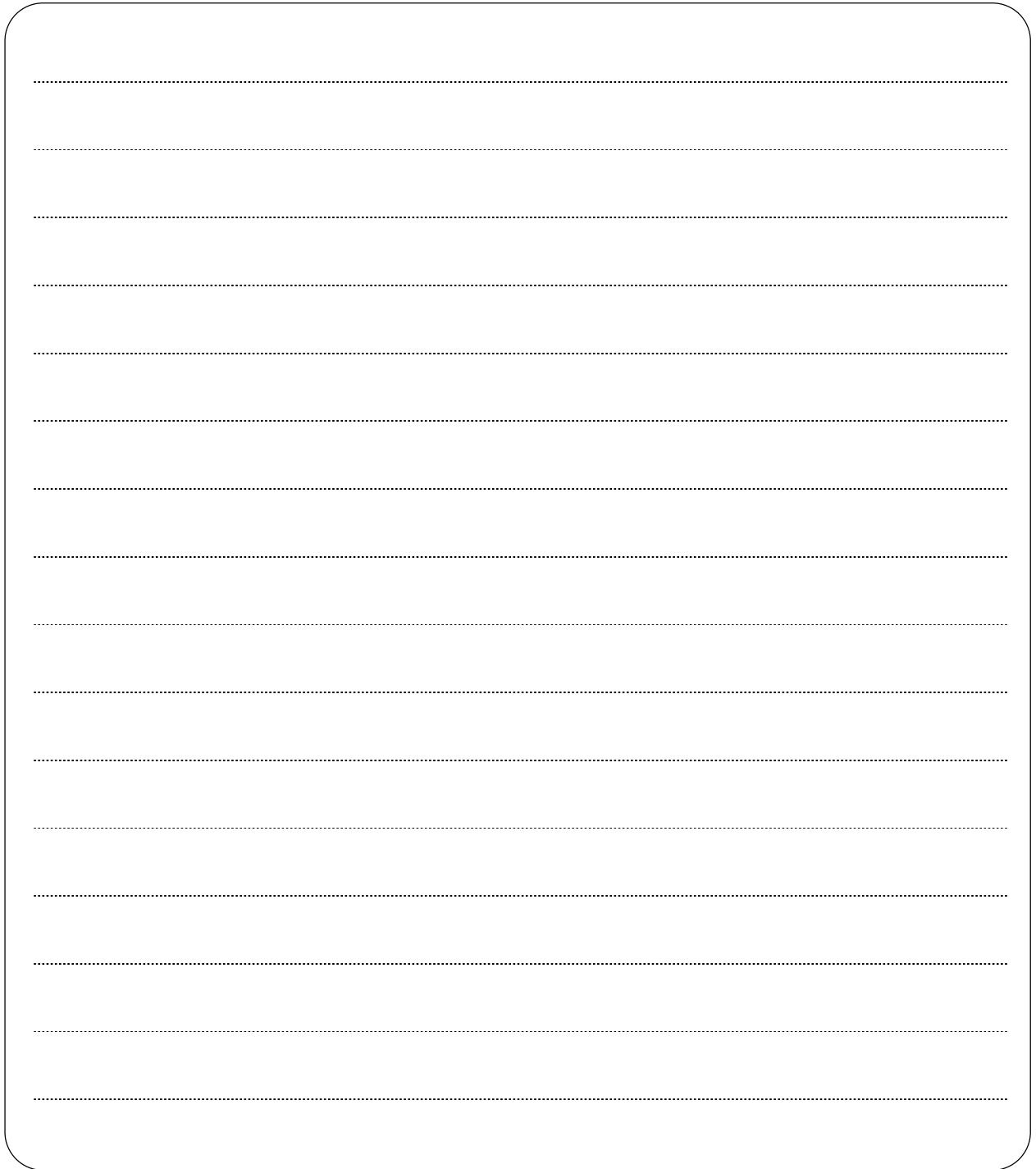
F 8 あなたのご職業は何ですか。複数ある場合は、主となる職業を1つ選んでください。 (は1つ)

1. 農業	1.7
2. 商工・サービス業 (自営業者、家族従事者)	6.8
3. 自由業 (医師、弁護士、税理士、芸術家など)	0.9
4. 管理職 (会社、団体などの課長職以上)	4.1
5. 専門・技術・事務職 (研究者、技術者、一般事務、教員、保安、販売員など)	20.5
6. 労務職 (建設作業員、工員、運転手など)	4.3
7. パート	14.9
8. 学生	0.4
9. その他	1.7
10. 家事専業	16.2
11. 無職	23.7
	無回答 4.7

→ F 9 F 8 で1. ~9. のいずれかと答えた方におたずねします。
 あなたの通勤・通学先はどこですか。複数ある場合は、主な場所を1つ選んでください。
 N = 898 (は1つ)

1. 自宅 (農業、自営など)	8.8	4. 東京都	16.5
2. 川越市内 (自宅以外)	36.1	5. その他	1.8
3. 埼玉県内の他市町村	31.5		
		無回答	5.3

最後に、市に対するご意見やこれからのまちづくりについてのご希望がありましたら、ご自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。

返信用の封筒に、ご住所・お名前などは記入しないでください。

調査結果の分析

1 . 都市基盤・生活基盤

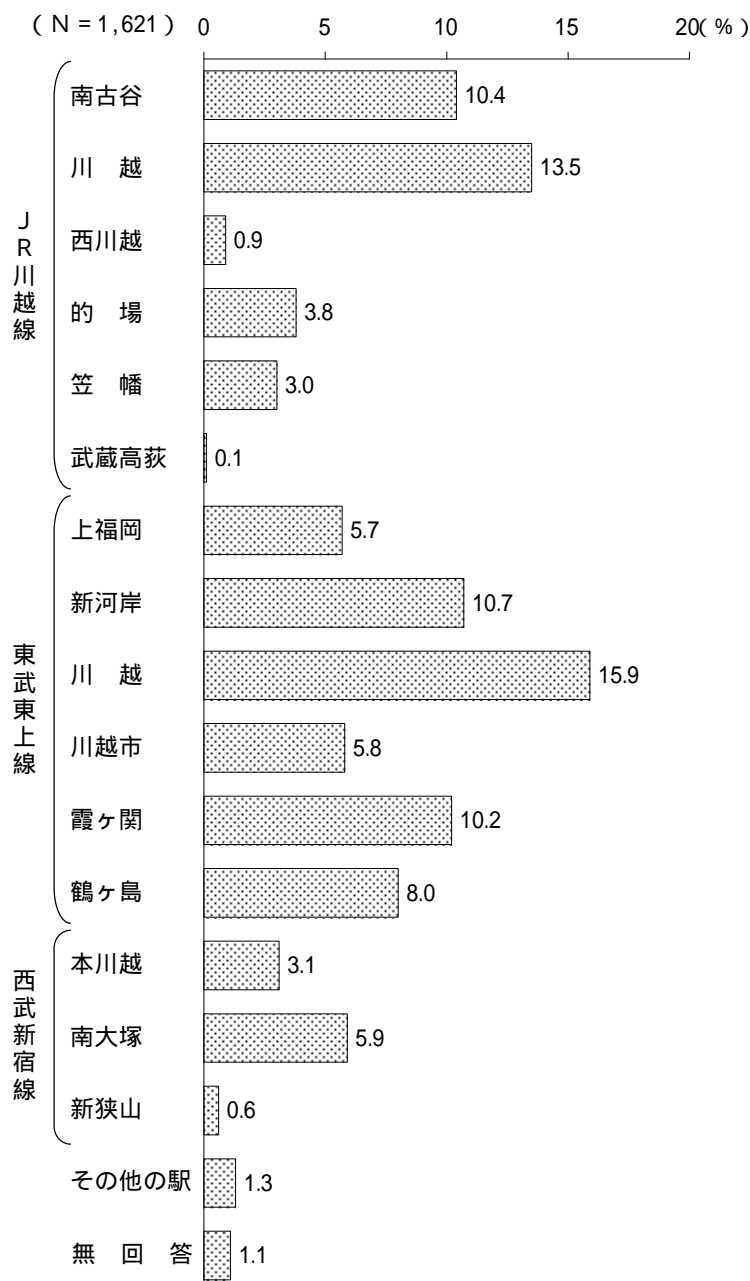
1 - 1 主に利用する最寄り駅

「川越」駅の利用率（東武東上線15.9%・JR川越線13.5%）が高い

問1 あなたが主に利用する最寄りの駅はどこですか。

(は1つ)

図1 - 1 - 1

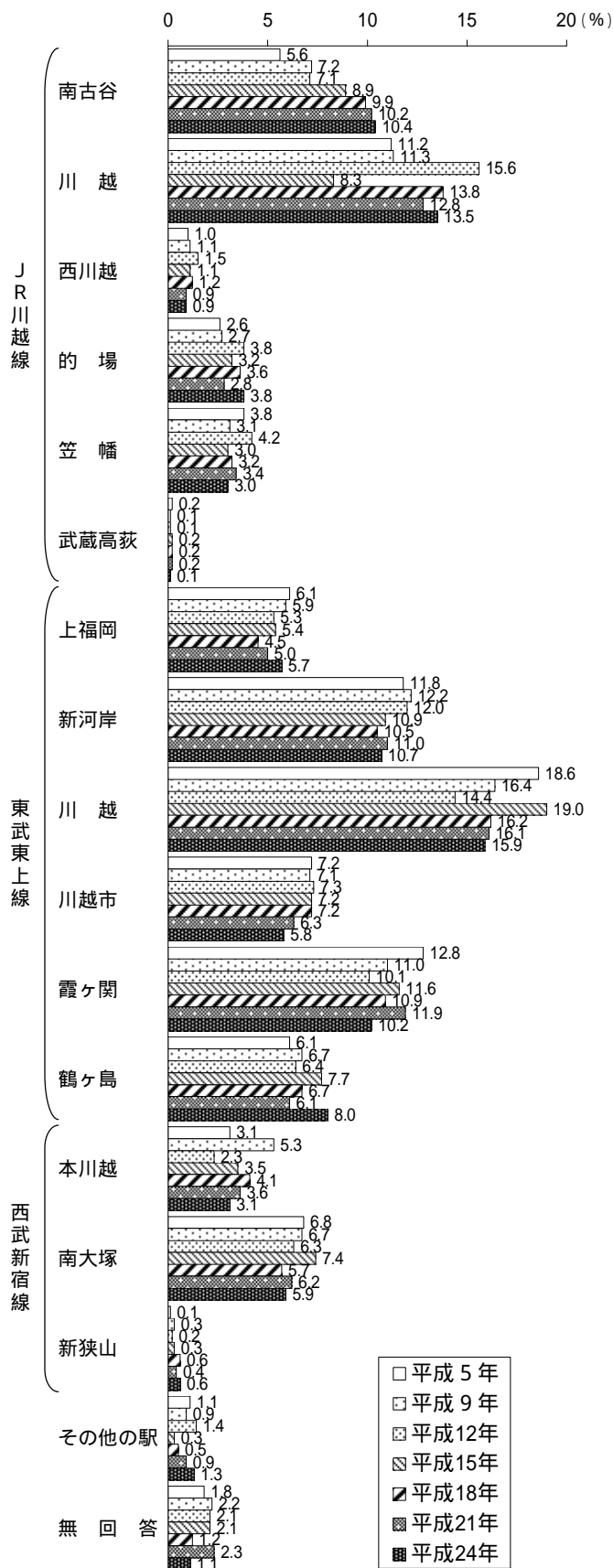


主に利用する最寄り駅をたずねたところ、東武東上線「川越」が15.9%で最も多く、以下、JR川越線「川越」(13.5%)、東武東上線「新河岸」(10.7%)、JR川越線「南古谷」(10.4%)、東武東上線「霞ヶ関」(10.2%)などと続いている。(図1 - 1 - 1)

今回の結果を時系列でみると、JR川越線「南古谷」は依然として増加傾向にある。

(図1-1-2)

図1-1-2 時系列 主に利用する最寄り駅



地区別にみると、古谷地区と南古谷地区ではJR川越線「南古谷」、大東地区では西武新宿線「南大塚」がそれぞれ第1位で、福原地区ではJR川越線「川越」が東武東上線「川越」と並ぶ同率の第1位となっているが、それ以外の地区では東武東上線の駅がいずれも第1位となっている。市全体では、東武東上線の利用率の高さがうかがえる。(表1-1-1)

表1-1-1 地区別 主に利用する最寄り駅

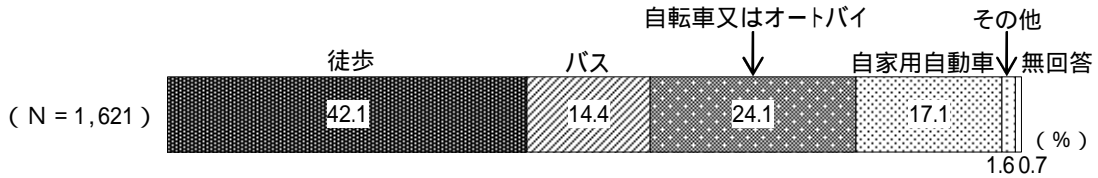
属性	順位	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		1,621	川越(東武東上線) 15.9%	川越(JR川越線) 13.5%	新河岸 10.7%	南古谷 10.4%	霞ヶ関 10.2%
【地区別】							
本 庁 地 区		373	川越(東武東上線) 35.1%	川越(JR川越線) 30.6%	川越市 20.1%	本川越 8.6%	西川越 2.7%
芳 野 地 区		50	川越(東武東上線) 38.0%	南古谷 36.0%	川越(JR川越線) 20.0%	川越市 4.0%	
古 谷 地 区		74	南古谷 62.2%	東武東上線川越 18.9%	川越(JR川越線) 6.8%	新河岸 / 本川越 1.4%	
南 古 谷 地 区		115	南古谷 80.0%	新河岸 8.7%	上福岡 6.1%	川越(JR川越線) / 本川越 0.9%	
高 階 地 区		202	新河岸 65.8%	上福岡 29.7%	川越(JR川越線) 2.0%	川越(東武東上線) 1.5%	南古谷 / 霞ヶ関 0.5%
福 原 地 区		87	川越(東武東上線) / 川越(JR川越線) 21.8%		新河岸 18.4%	上福岡 14.9%	南大塚 9.2%
大 東 地 区		139	南大塚 58.3%	川越(東武東上線) 17.3%	川越(JR川越線) 16.5%	新狭山 3.6%	本川越 2.2%
霞 ヶ 関 地 区		179	霞ヶ関 35.2%	的場 22.3%	笠幡 21.2%	鶴ヶ島 14.0%	新狭山 2.2%
霞 ヶ 関 北 地 区		108	霞ヶ関 60.2%	的場 16.7%	鶴ヶ島 14.8%	川越(JR川越線) / 笠幡 2.8%	
名 細 地 区		121	鶴ヶ島 67.8%	霞ヶ関 26.4%	川越(JR川越線) 1.7%	川越(東武東上線) / 新河岸 0.8%	
山 田 地 区		66	川越(東武東上線) 42.4%	川越(JR川越線) 27.3%	川越市 16.7%	本川越 9.1%	南古谷 / 西川越 1.5%

1 - 2 最寄り駅への手段

「徒歩」が42.1%

問2 あなたは最寄りの駅へ行くのに主にどんな手段で行きますか。 (は1つ)

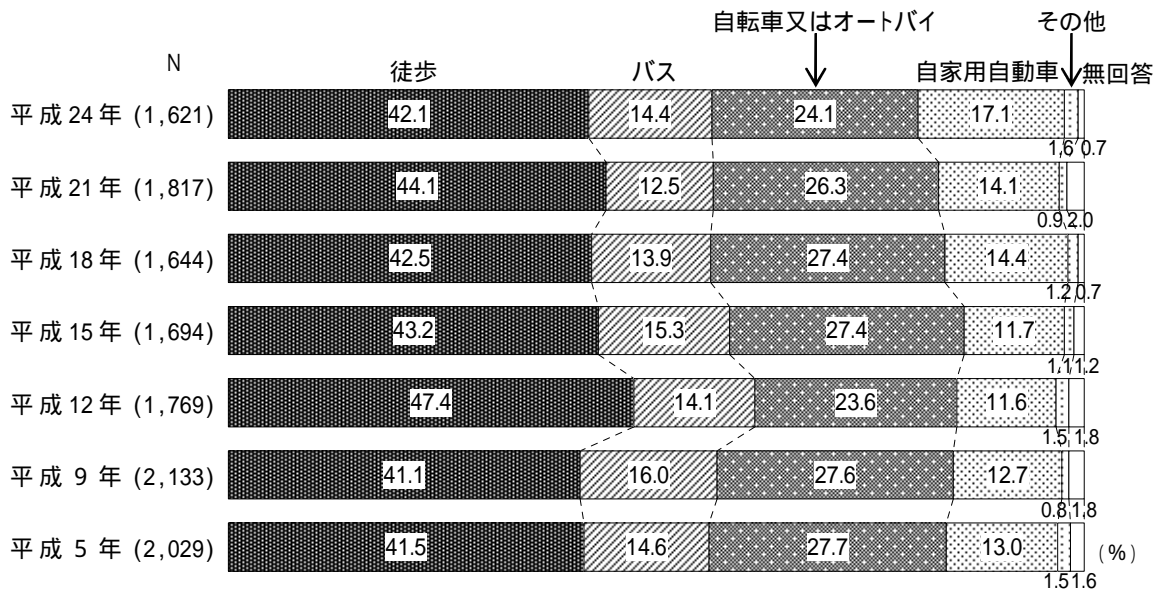
図1 - 2 - 1



最寄り駅への主な交通手段をたずねたところ、「徒歩」(42.1%)が最も多く、40%を超えている。以下、「自転車又はオートバイ」(24.1%)、「自家用自動車」(17.1%)、「バス」(14.4%)の順となっている。(図1 - 2 - 1)

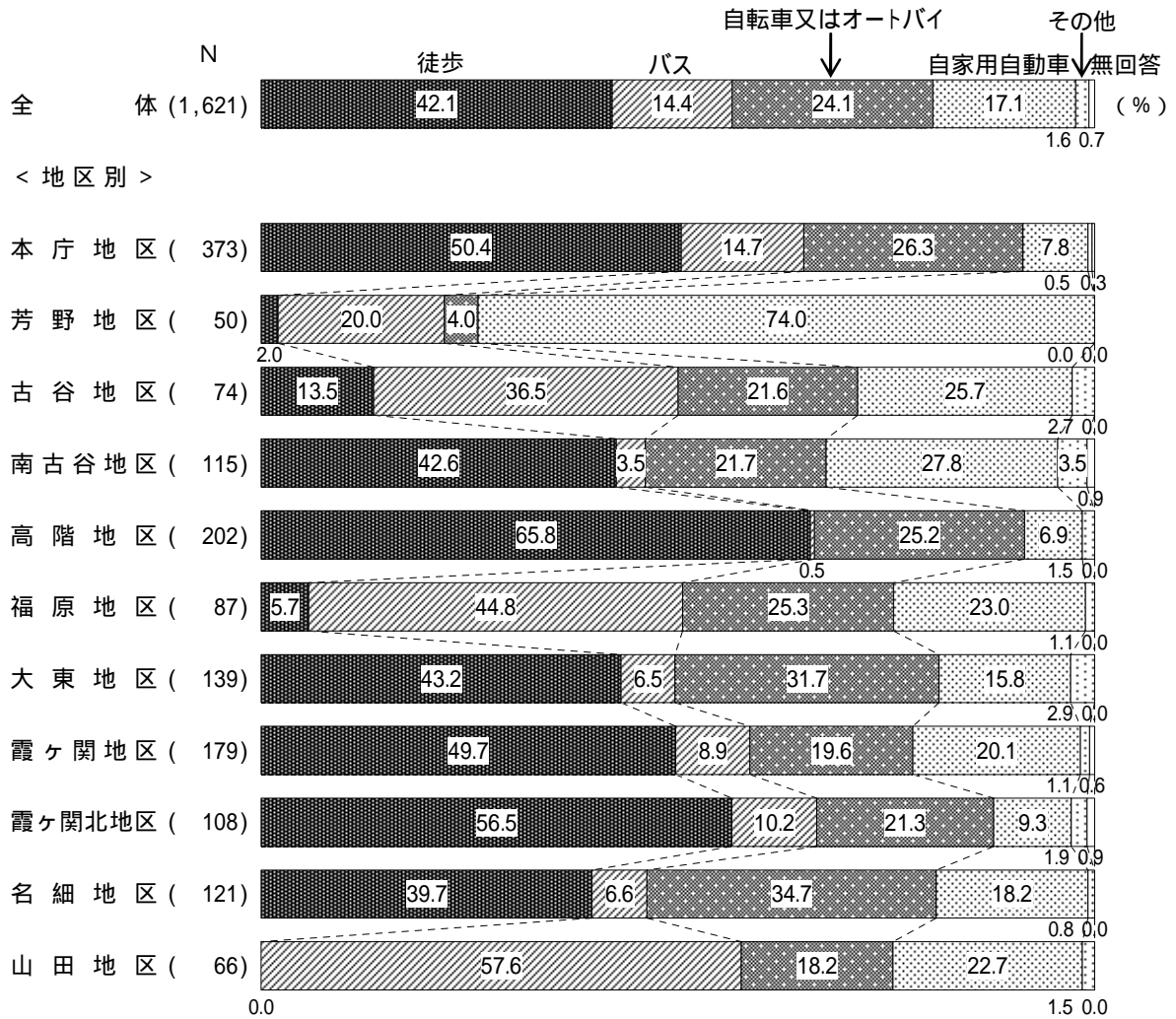
時系列でみると、「自家用自動車」は前回調査と比べて3.0ポイント増加している。(図1 - 2 - 2)

図1 - 2 - 2 時系列 最寄り駅への手段



地区別にみると、「徒歩」は高階地区が60%半ばで最も多く、本庁地区、南古谷地区、大東地区、霞ヶ関地区、霞ヶ関北地区、名細地区でも他の手段と比べて最も割合が高くなっている。「バス」は山田地区が60%近く、福原地区が40%半ば、古谷地区が30%半ばで多く、「自家用自動車」は芳野地区が70%半ばで最も多くなっている。(図1-2-3)

図1-2-3 地区別 最寄り駅への手段

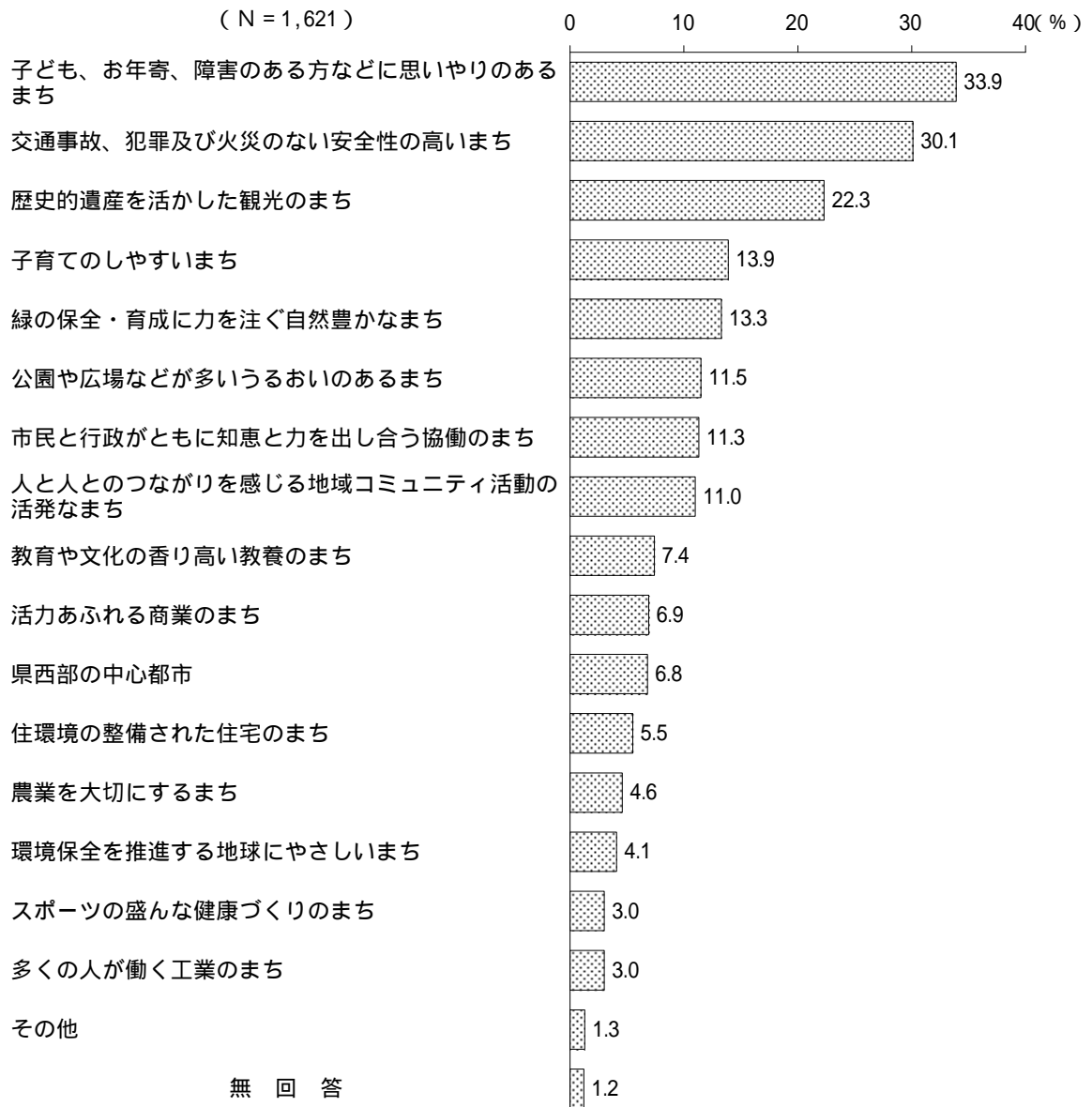


1 - 3 川越市の将来像

「子ども、お年寄、障害のある方などに思いやりのあるまち」が33.9%

問3 あなたは、川越市をどのようなまちにしたらよいと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

図1 - 3 - 1

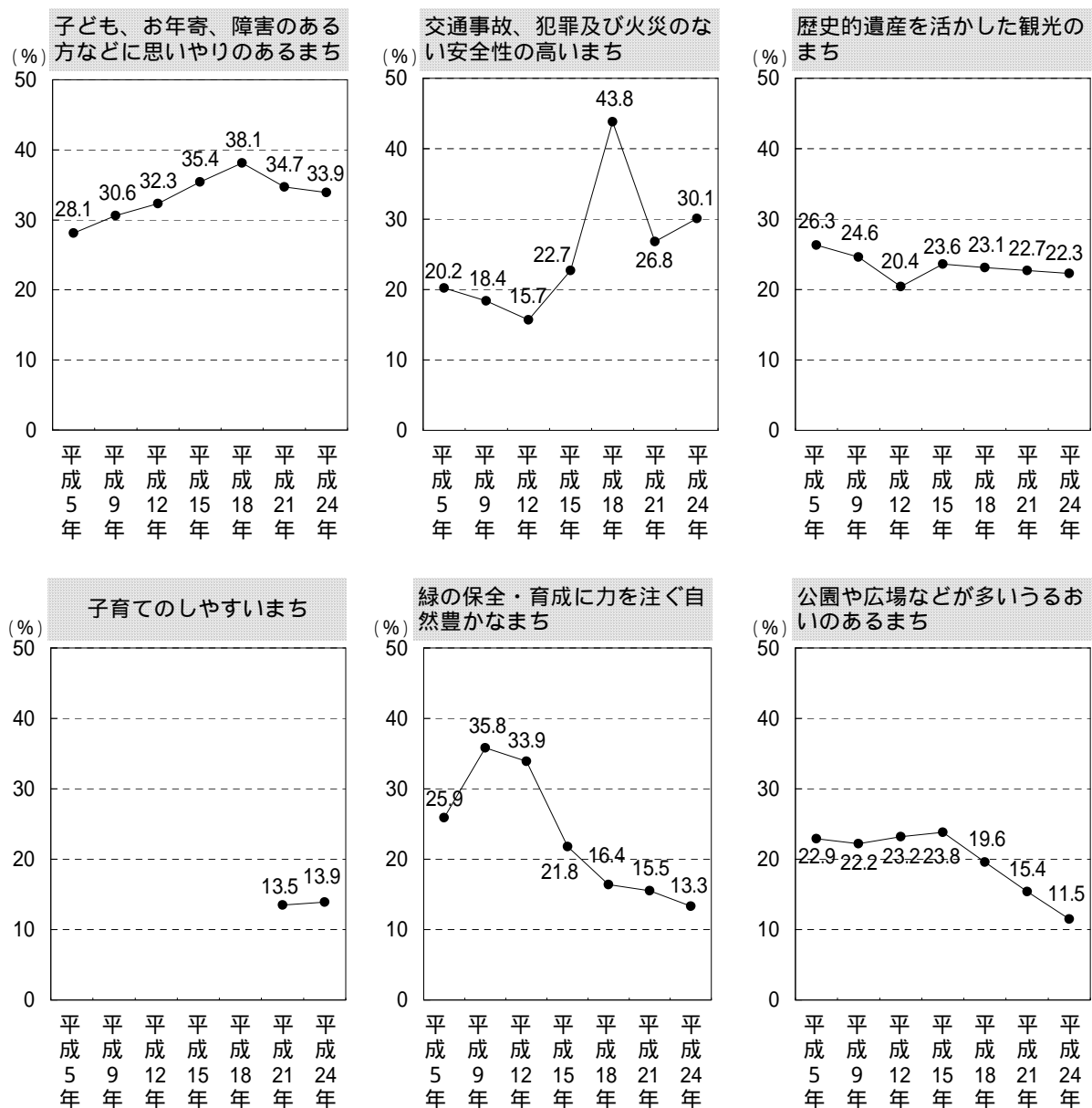


川越市の将来像をたずねたところ、「子ども、お年寄、障害のある方などに思いやりのあるまち」(33.9%)が最も多く、30%を超えている。以下、「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」(30.1%)、「歴史的遺産を活かした観光のまち」(22.3%)などの順となっている。

(図1 - 3 - 1)

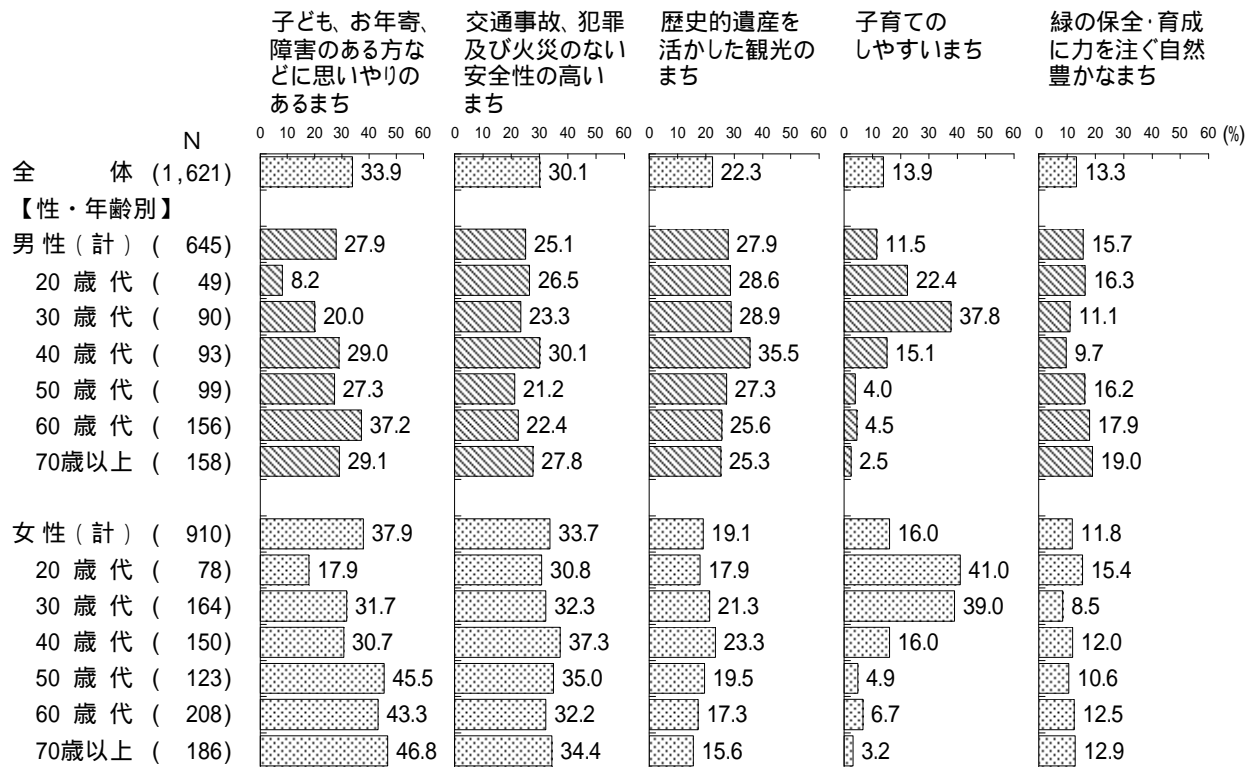
上位6項目を時系列でみると、「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」は前回調査と比べて3.3ポイント増加している。「緑の保全・育成に力を注ぐ自然豊かなまち」は平成9年以降減少傾向となっている。「公園や広場などが多いうるおいのあるまち」は平成15年以降減少傾向となっている。(図1-3-2)

図1-3-2 時系列 川越市の将来像



上位5項目を性・年齢別にみると、「子ども、お年寄、障害のある方などに思いやりのあるまち」は女性の50歳代以上の年代がいずれも40%台で多くなっている。「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」は女性40歳代が40%近くとなっており、「歴史的遺産を活かした観光のまち」は男性40歳代が30%半ばで多くなっている。「子育てのしやすいまち」は女性20歳代と30歳代が40%前後で多くなっている。(図1-3-3)

図1-3-3 性・年齢別 川越市の将来像

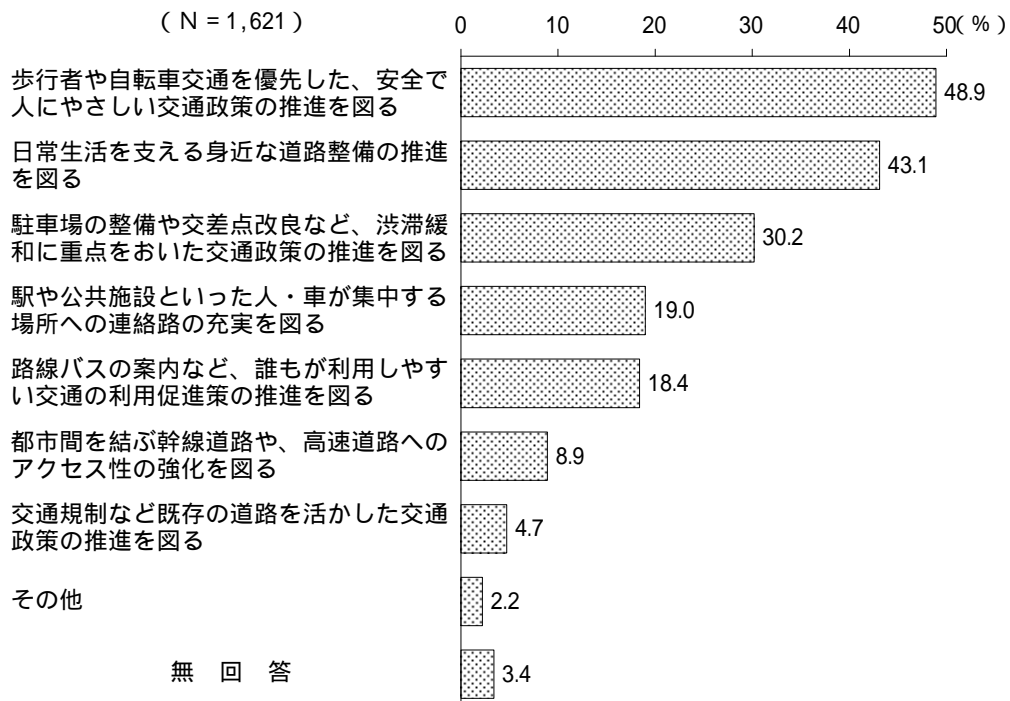


1 - 4 推進すべき道路交通施策

「歩行者や自転車交通を優先した、安全で人にやさしい交通政策の推進を図る」が48.9%

問4 あなたは、ゆとりや豊かさが実感できる市民生活を確保するために、どのような方針に重点をおいて道路交通政策を推進すべきだと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

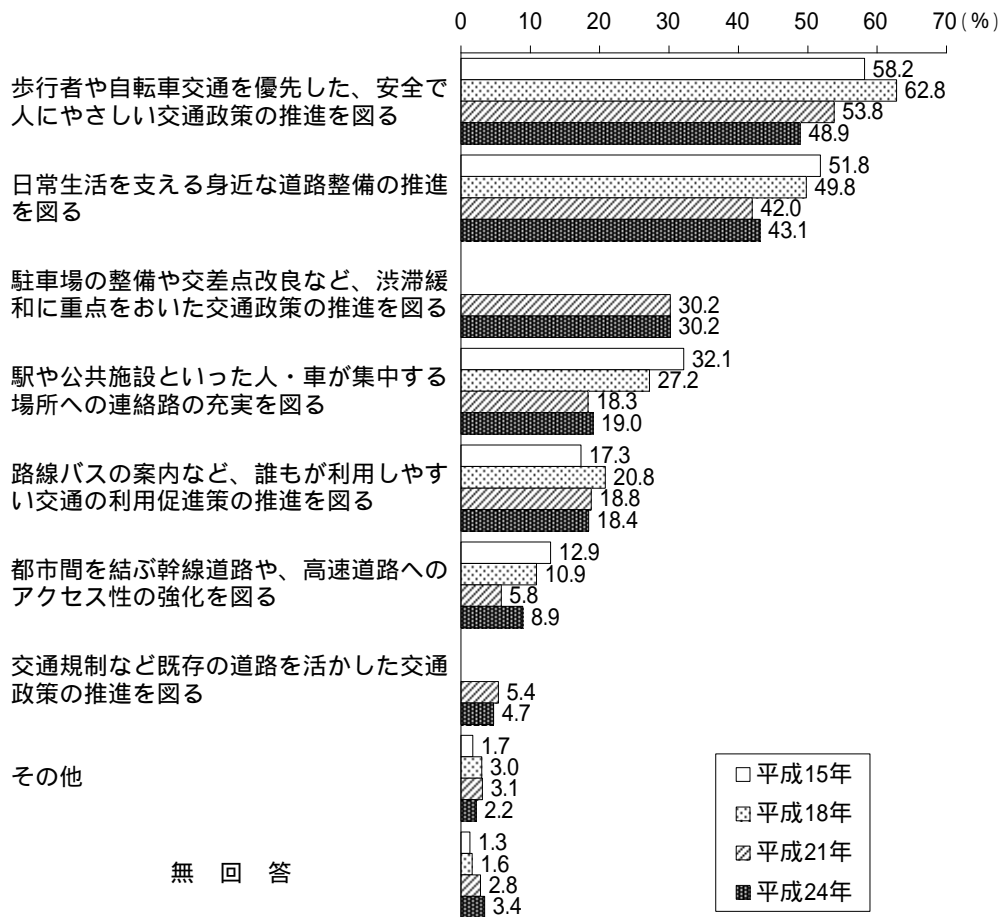
図1 - 4 - 1



推進すべき道路交通政策をたずねたところ、「歩行者や自転車交通を優先した、安全で人にやさしい交通政策の推進を図る」(48.9%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、「日常生活を支える身近な道路整備の推進を図る」(43.1%)、「駐車場の整備や交差点改良など、渋滞緩和に重点をおいた交通政策の推進を図る」(30.2%)などの順となっている。(図1 - 4 - 1)

時系列でみると、平成21年調査から選択肢の追加を行っているため、平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「歩行者や自転車交通を優先した、安全で人にやさしい交通政策の推進を図る」は前回調査と比べて4.9ポイント減少している。(図1-4-2)

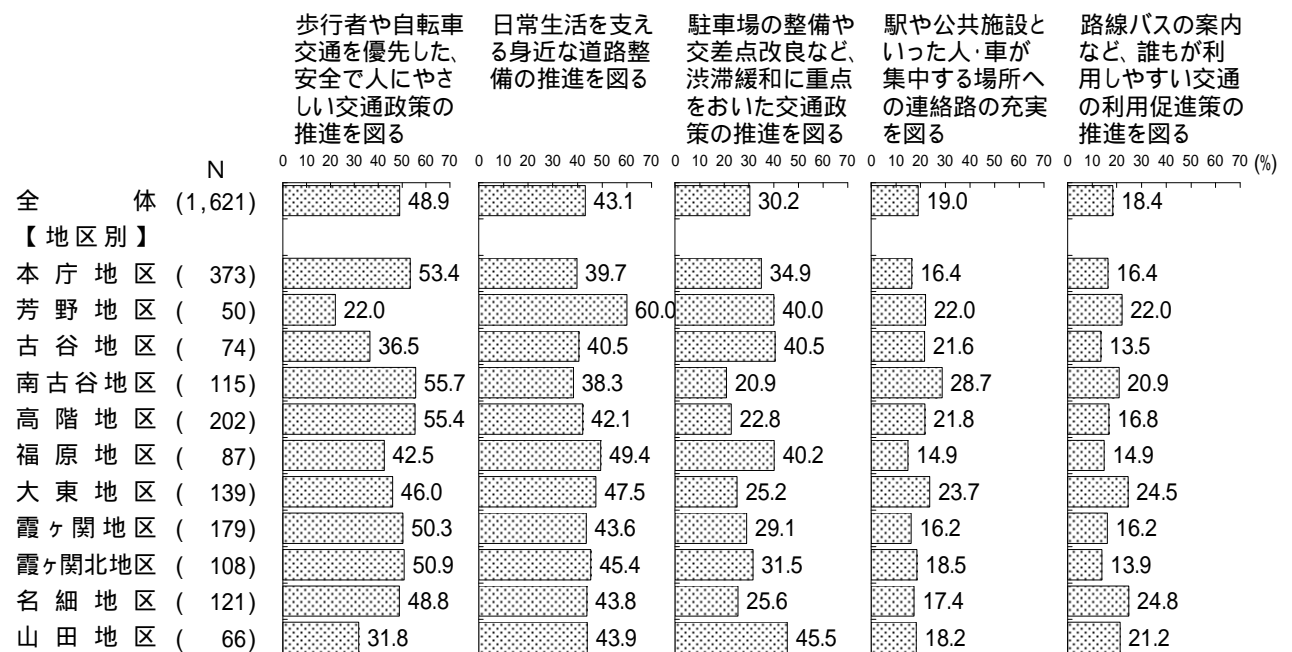
図1-4-2 時系列 推進すべき道路交通施策



上位5項目について地区別にみると、「歩行者や自転車交通を優先した、安全で人にやさしい交通政策の推進を図る」は南古谷地区と高階地区がともに50%半ばで多くなっている。「日常生活を支える身近な道路整備の推進を図る」は芳野地区が60%で多くなっている。「駐車場の整備や交差点改良など、渋滞緩和に重点をおいた交通政策の推進を図る」は山田地区が40%半ばで多くなっている。

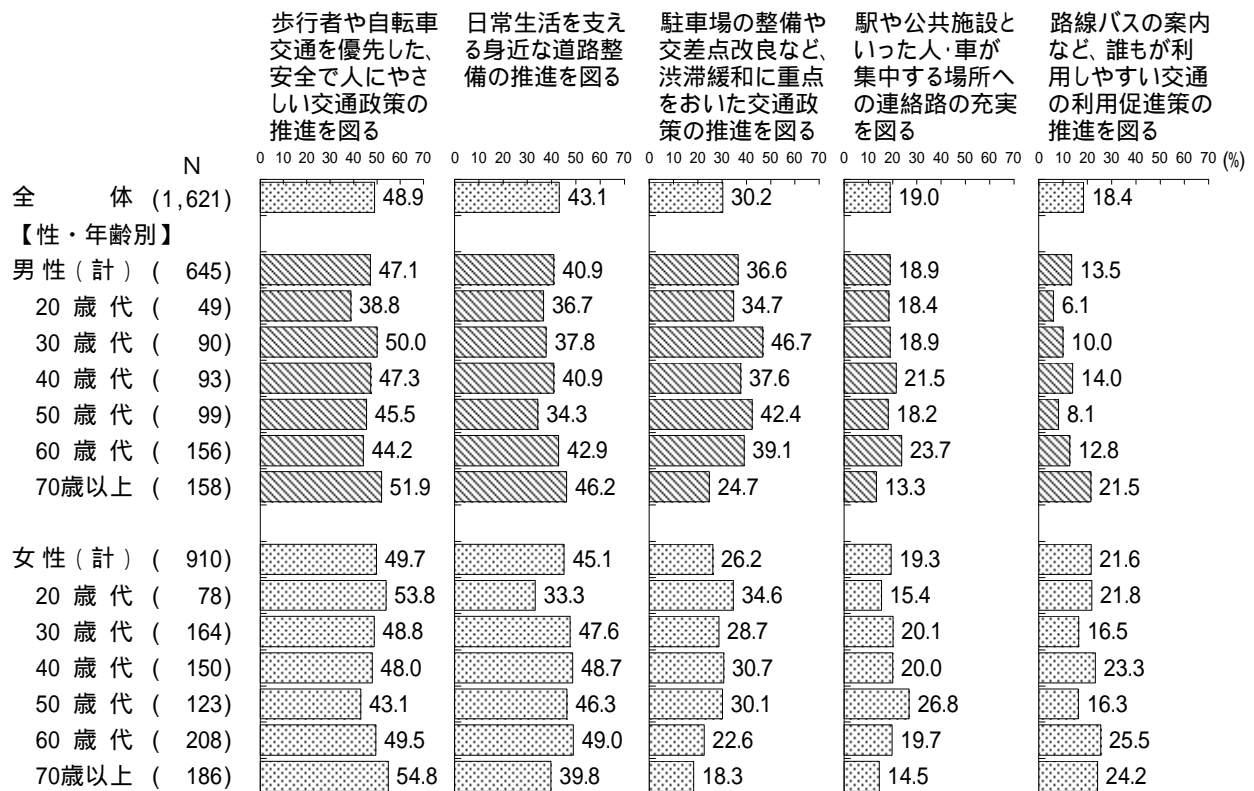
(図1-4-3)

図1-4-3 地区別 推進すべき道路交通施策



上位5項目について性・年齢別にみると、「駐車場の整備や交差点改良など、渋滞緩和に重点をおいた交通政策の推進を図る」は男性（36.6%）が女性（26.2%）より10.4ポイント高く、特に男性30歳代が40%半ばで多くなっている。「路線バスの案内など、誰もが利用しやすい交通の利用促進策の推進を図る」は女性（21.6%）が男性（13.5%）より8.1ポイント高く、特に女性60歳代と70歳以上がともに20%半ばで多くなっている。（図1-4-4）

図1-4-4 性・年齢別 推進すべき道路交通施策



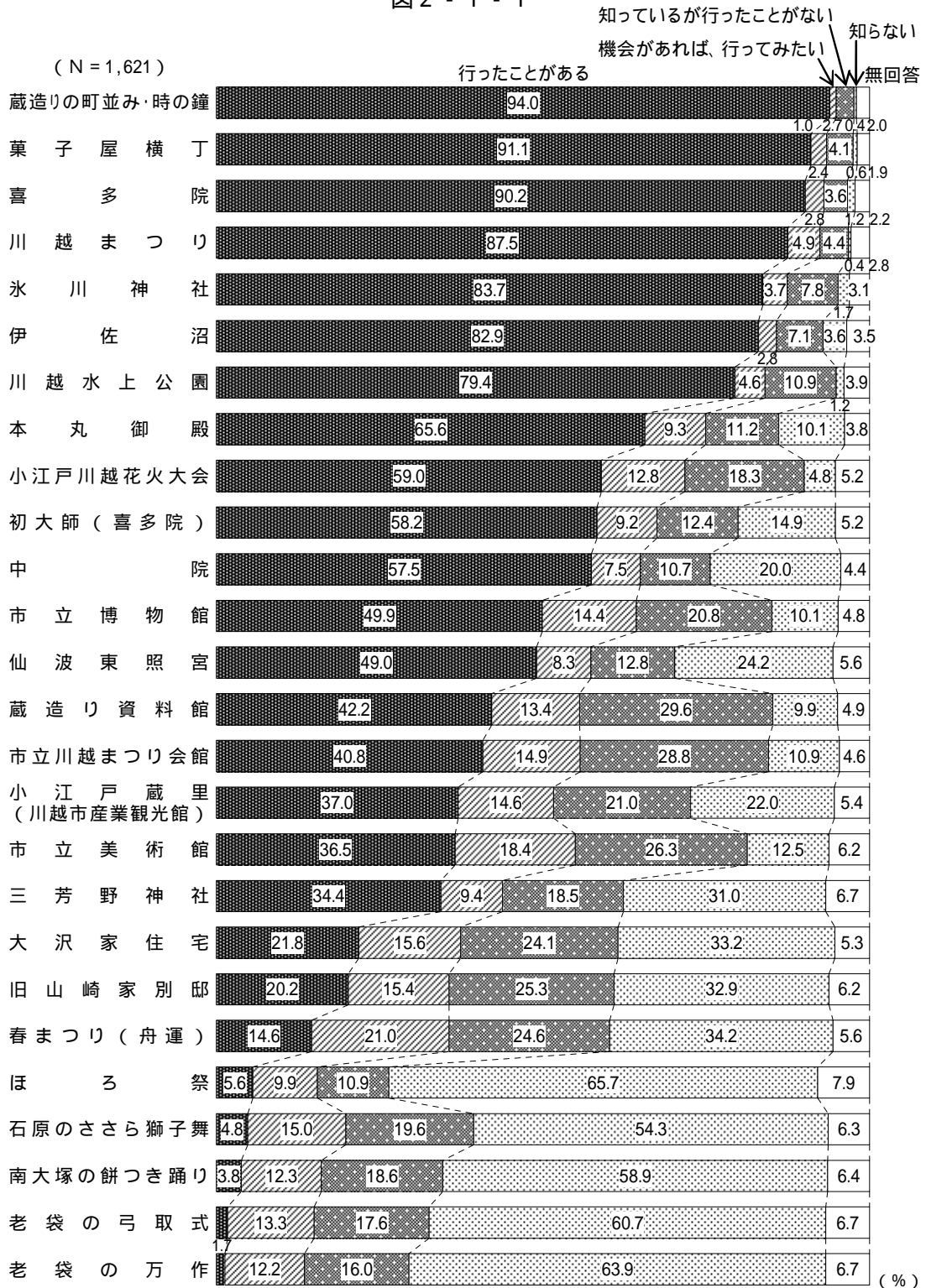
2. 産業・観光

2-1 川越市の観光スポット、伝統行事の周知状況

「行ったことがある」は「蔵造りの町並み・時の鐘」、「菓子屋横丁」、「喜多院」が90%以上

問5 市内には多くの観光スポットや伝統行事がありますが見たことがありますか。各項目ごとに1つずつ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

図2-1-1

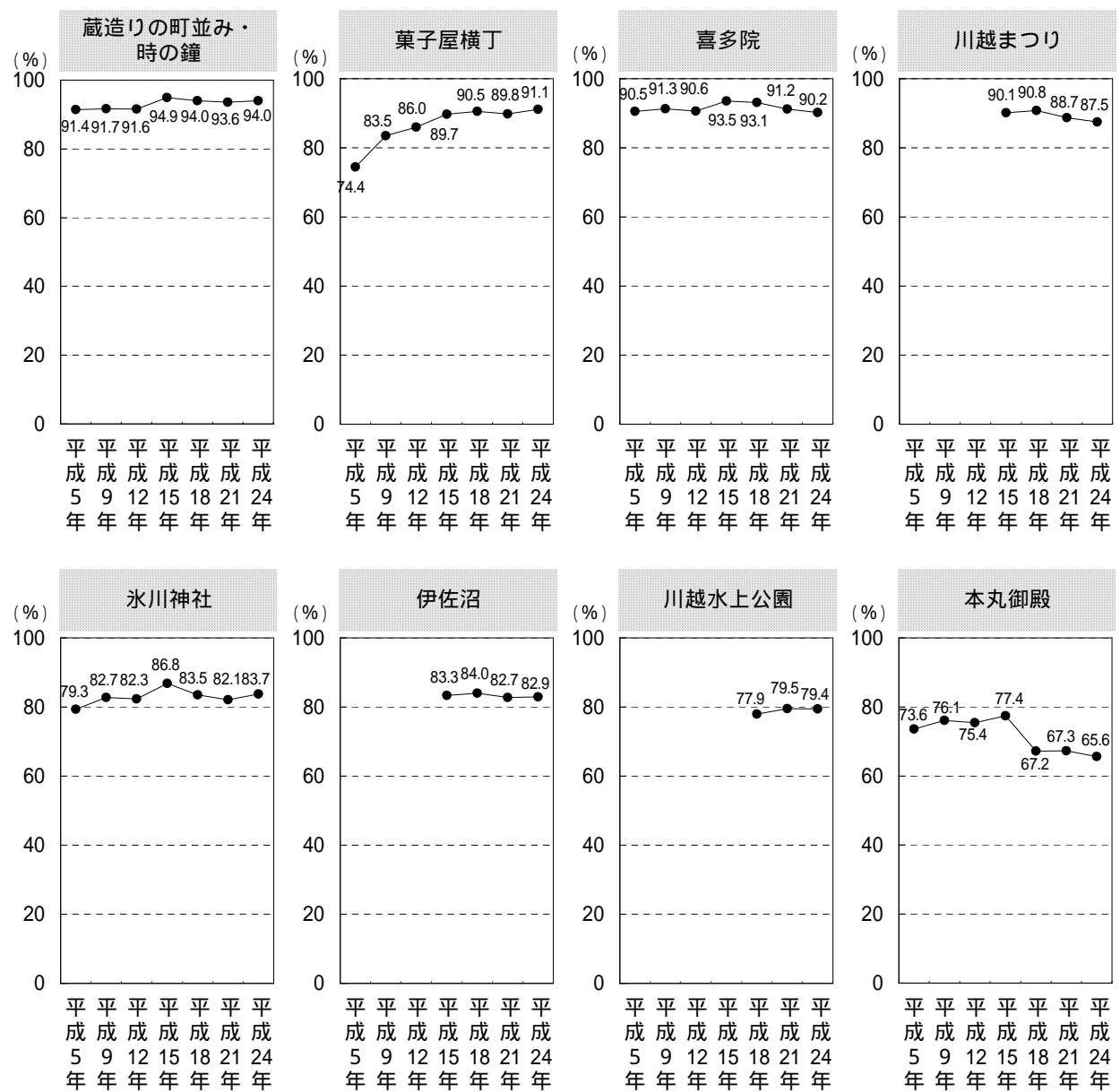


川越市の観光スポット・伝統行事の周知状況をたずねたところ、「行ったことがある」は、『蔵造りの町並み・時の鐘』(94.0%)、『菓子屋横丁』(91.1%)、『喜多院』(90.2%)の3項目が90%を超えており、11項目が50%を超えている。「機会があれば、行ってみたい」は、『春まつり(舟運)』(21.0%)が20%を超えて最も多くなっている。「知っているが行ったことがない」は、『蔵造り資料館』(29.6%)と『市立川越まつり会館』(28.8%)が30%近くで多くなっている。「知らない」は、『ほろ祭』(65.7%)、『老袋の万作』(63.9%)、『老袋の弓取式』(60.7%)の3項目が60%を超えて多くなっている。

(図2-1-1)

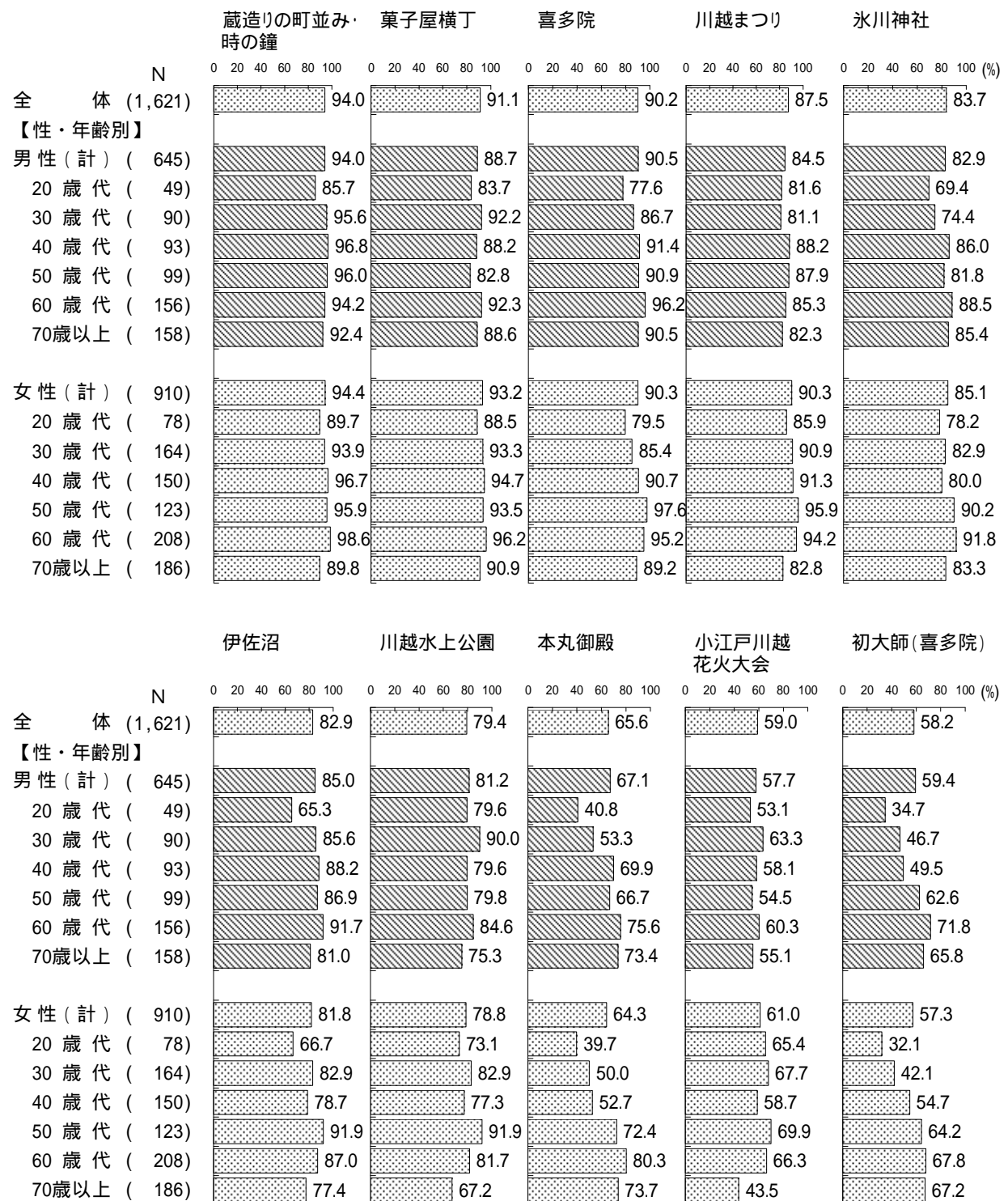
「行ったことがある」の割合の上位8項目を時系列でみると、各項目ともおおむね横ばいとなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 時系列 川越市の観光スポット、伝統行事の周知状況



「行ったことがある」の割合を性・年齢別にみると、「本丸御殿」と「初大師（喜多院）」では男女ともにおおむね年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。（図2 - 1 - 3）

図2 - 1 - 3 性・年齢別 川越市の観光スポット、伝統行事の周知状況

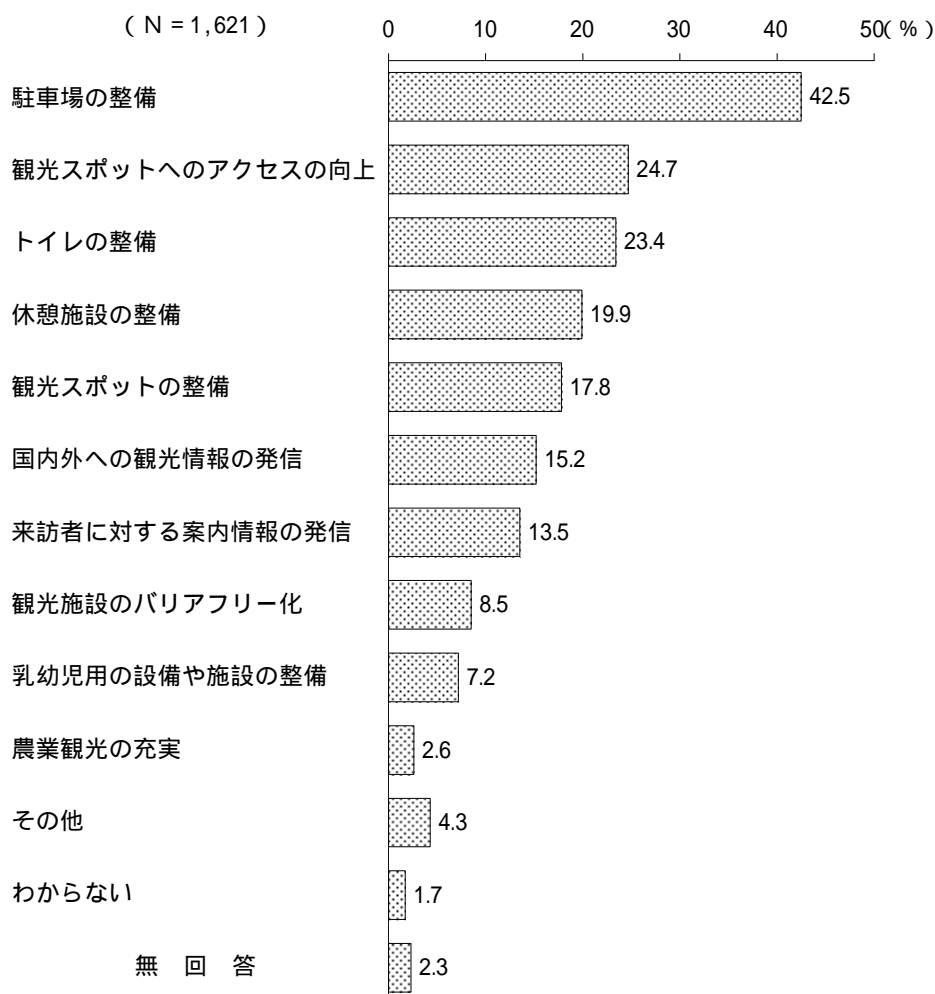


2 - 2 観光振興のために必要な施策

「駐車場の整備」が42.5%

問6 あなたは、ますます観光客が多く訪れる街になるためにどのような施策が必要だと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

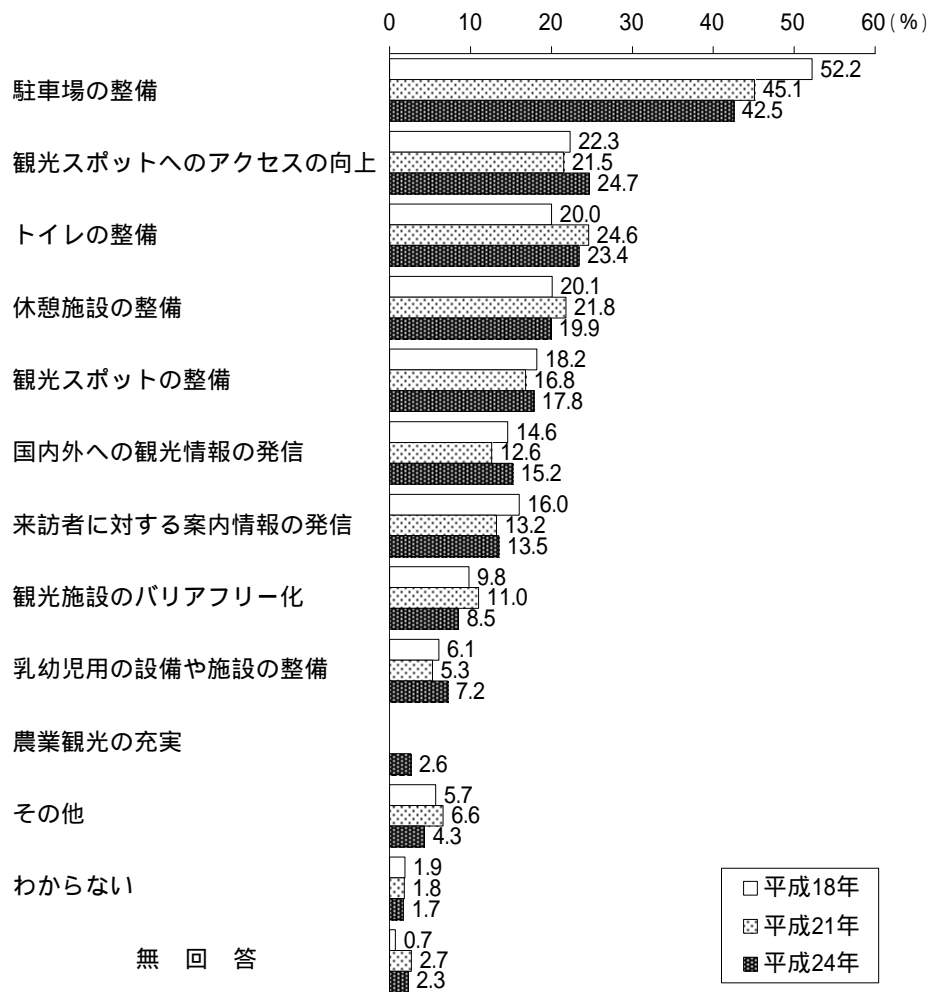
図2 - 2 - 1



観光振興のために必要な施策をたずねたところ、「駐車場の整備」(42.5%)が最も多く、40%を超えている。以下、「観光スポットへのアクセスの向上」(24.7%)、「トイレの整備」(23.4%)、「休憩施設の整備」(19.9%)、「観光スポットの整備」(17.8%)などの順となっている。(図2 - 2 - 1)

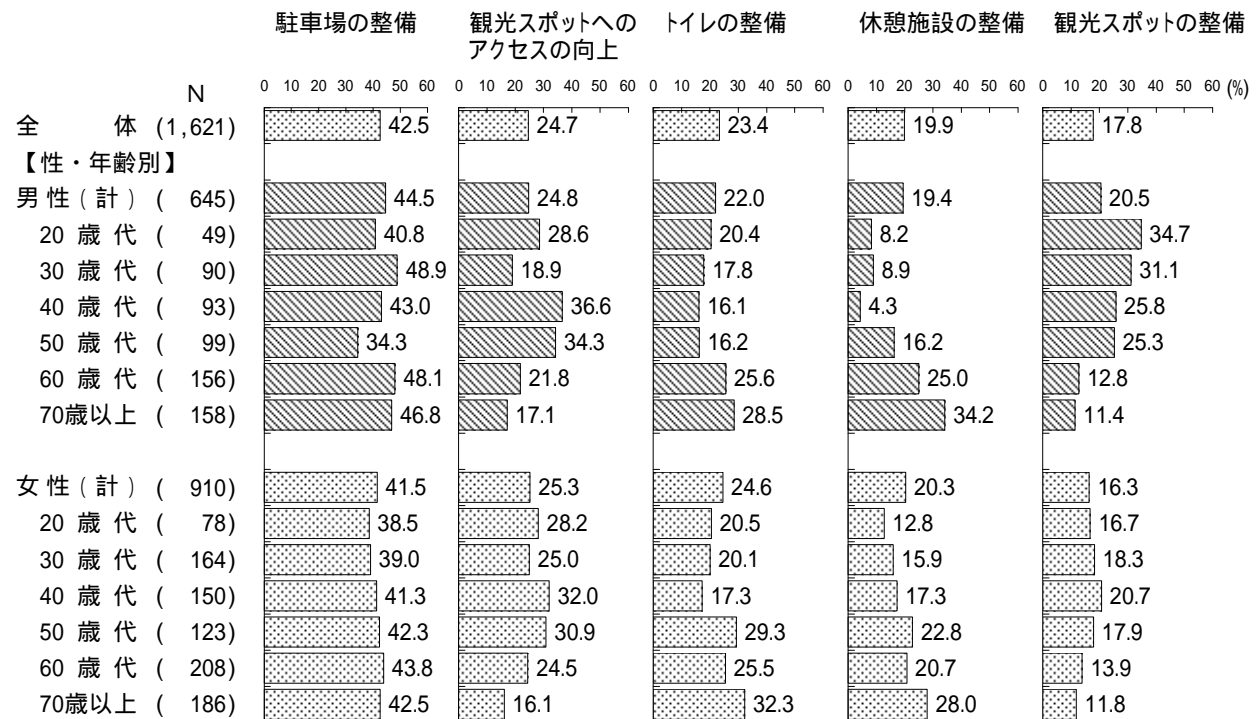
時系列でみると、「駐車場の整備」は減少傾向にある。「観光スポットへのアクセスの向上」は前回調査と比べて3.2ポイント増加している。(図2-2-2)

図2-2-2 時系列 観光振興のために必要な施策



上位5項目を性・年齢別にみると、「観光スポットへのアクセスの向上」は男性の40歳代と50歳代が30%半ばで多くなっている。「トイレの整備」は女性70歳以上が30%を超えて多く、「休憩施設の整備」は男性70歳以上が30%半ばで多くなっている。「観光スポットの整備」は男性20歳代で30%半ば、男性30歳代で30%を超えて多くなっている。(図2 - 2 - 3)

図2 - 2 - 3 性・年齢別 観光振興のために必要な施策

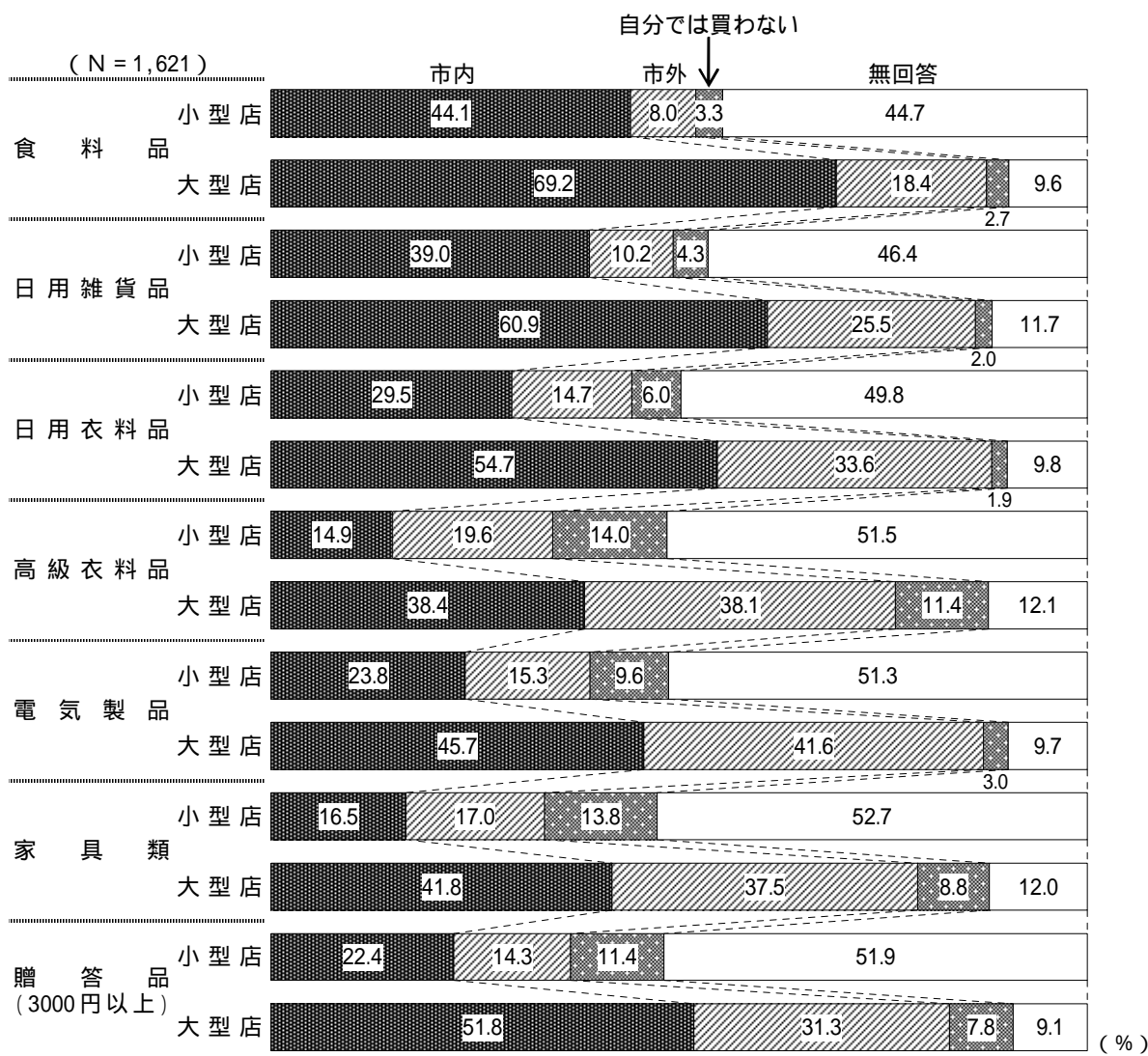


2 - 3 品物別の主な購入先

市内小型店での買物は『食料品』が44.1%、『日用雑貨品』が39.0%

問7 あなたは、次の品物を主にどこで買いますか。品物別（小型店・大型店別）にそれぞれに該当する地域を1つずつ選んでください。（はそれぞれ1つずつ）

図2 - 3 - 1



品物の主な購入先をたずねたところ、市内小型店での買物は、『食料品』（44.1%）が最も多く、40%半ばとなっている。以下、『日用雑貨品』（39.0%）、『日用衣料品』（29.5%）、『電気製品』（23.8%）、『贈答品（3000円以上）』（22.4%）などの順となっている。市外大型店での買物は、『電気製品』（41.6%）が最も多く、40%を超えている。以下、『高級衣料品』（38.1%）、『家具類』（37.5%）、『日用衣料品』（33.6%）、『贈答品（3000円以上）』（31.3%）などの順となっている。

(図2 - 3 - 1)

地区別に各品目の買物動向をみると、『食料品』は古谷地区、霞ヶ関北地区、高階地区で市内小型店での買い物が50%台と多くなっている。市外の買い物は名細地区が最も多く、次いで福原地区が多くなっている。

『日用雑貨品』は古谷地区と霞ヶ関北地区で市内小型店の買い物が50%前後と多くなっている。市外大型店の買い物は名細地区が50%半ばで、霞ヶ関地区、福原地区、霞ヶ関北地区、高階地区でも30%台となっている。

『日用衣料品』は本庁地区で市内小型店の買い物が40%近くと多くなっている。市外大型店の買い物は本庁地区、芳野地区、山田地区以外のすべての地区で30%を超えている。

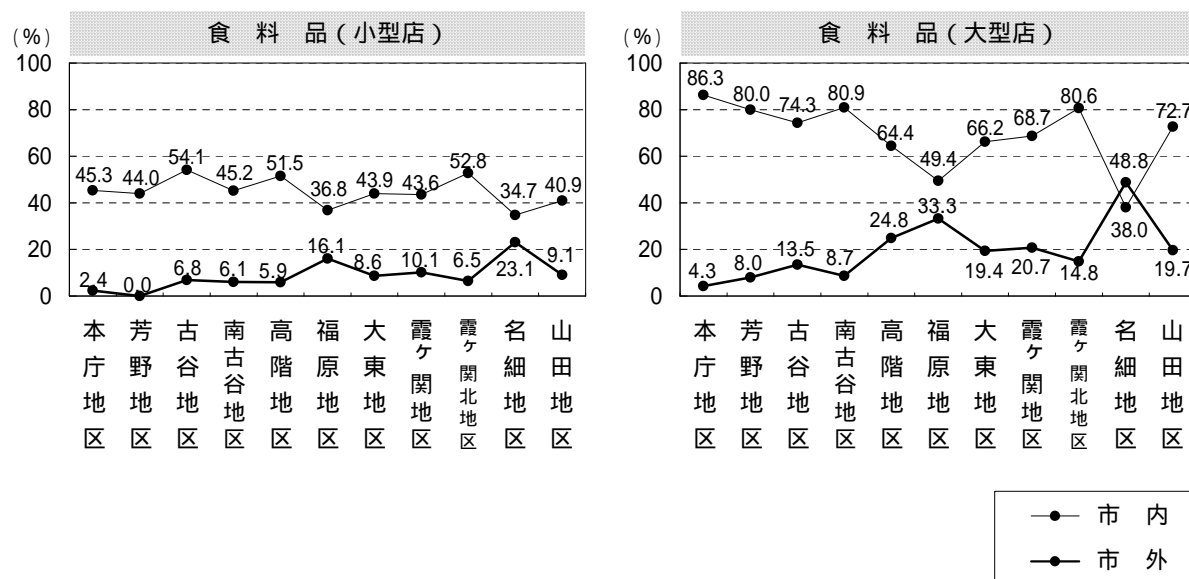
『高級衣料品』は芳野地区、本庁地区、山田地区で市内小型店の買い物が20%前後と多くなっている。市外大型店の買い物は南古谷地区と名細地区が50%を超えている。

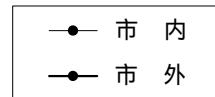
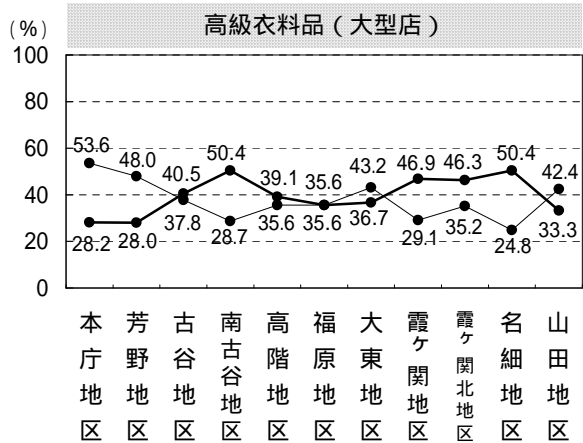
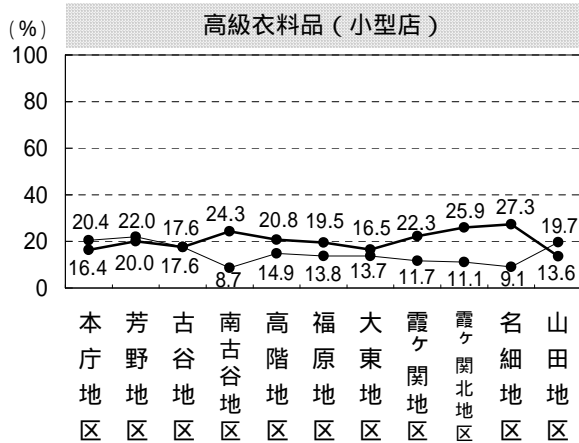
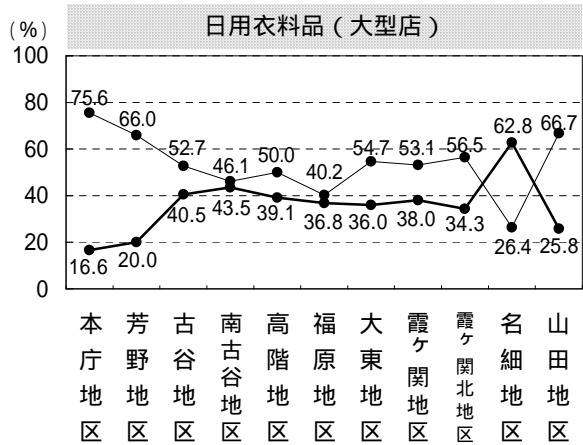
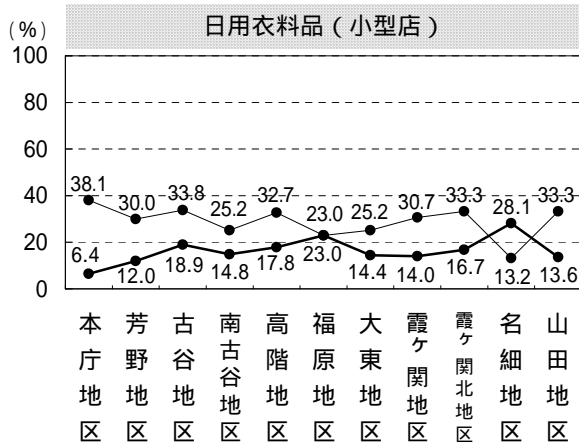
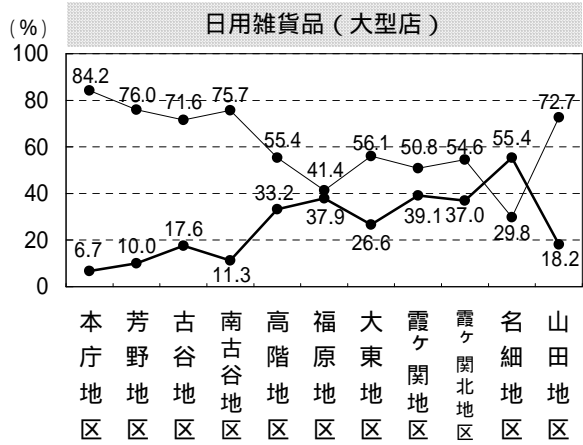
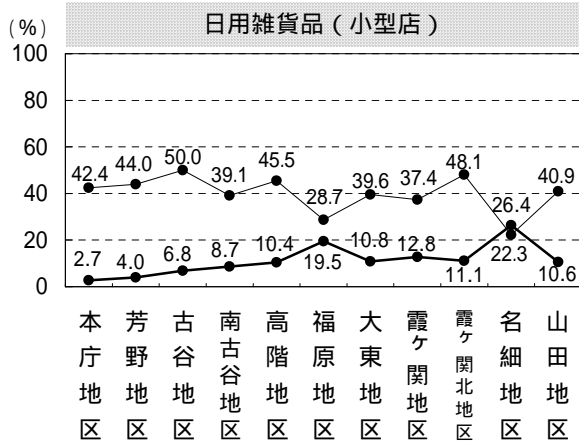
『電気製品』は芳野地区で市内小型店の買い物が30%半ばと多くなっている。市外大型店の買い物は名細地区で80%を超え、霞ヶ関地区と霞ヶ関北地区でも60%前後となっている。

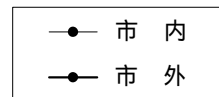
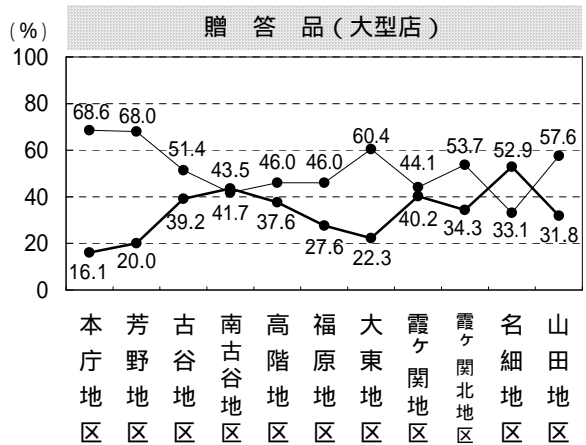
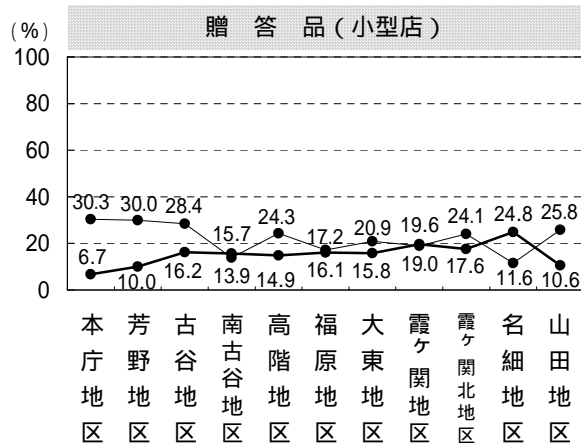
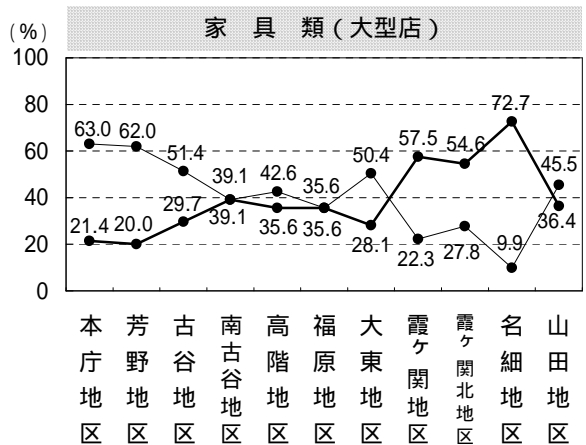
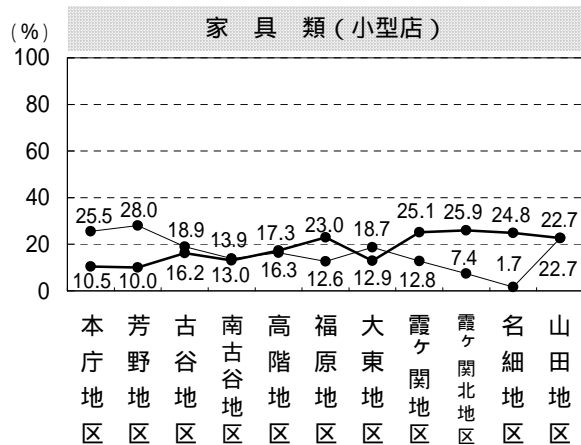
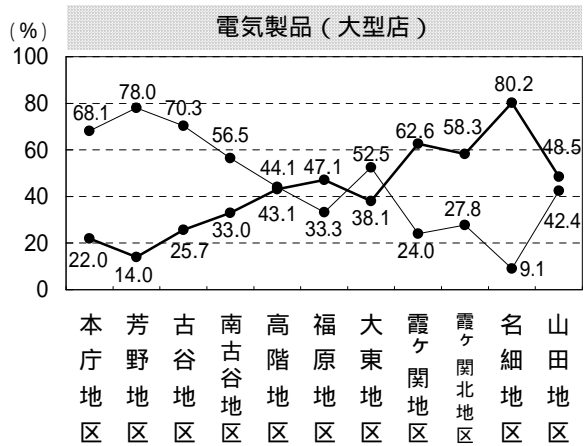
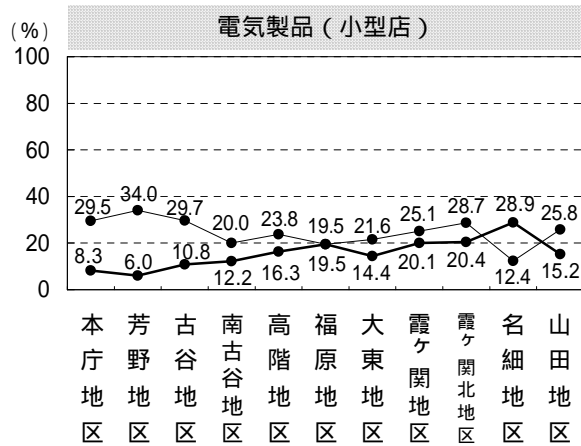
『家具類』は芳野地区、本庁地区、山田地区で市内小型店の買い物が20%台と多くなっている。市外大型店の買い物は名細地区が70%を超え、霞ヶ関地区と霞ヶ関北地区でも50%台となっている。

『贈答品(3000円以上)』は、本庁地区、芳野地区、古谷地区で市内小型店の買い物が30%前後と多くなっている。市外大型店の買い物は名細地区で50%を超え、南古谷地区と霞ヶ関地区でも40%を超えている。(図2-3-2)

図2-3-2 地区別 品物別の主な購入先







2 - 4 市内商店街への要望

商店街施設についての要望は「駐車場、自転車置場」が46.0%

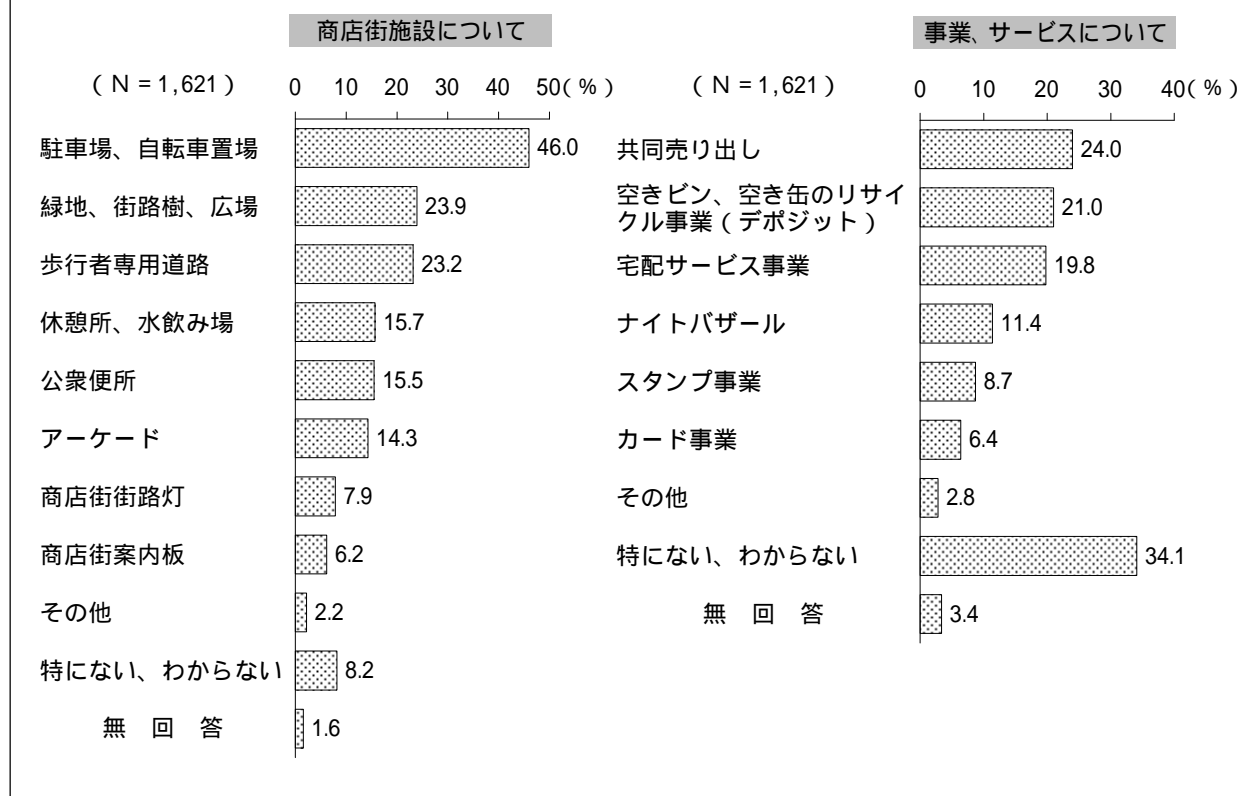
事業、サービスについての要望は「共同売り出し」が24.0%

問8 あなたは市内の商店街にどんな商業関連施設の設置や事業をしてほしいですか。

〔1〕商店街施設について (は2つ以内)

〔2〕商店街で実施してもらいたい事業、サービスについて (は2つ以内)

図2 - 4 - 1



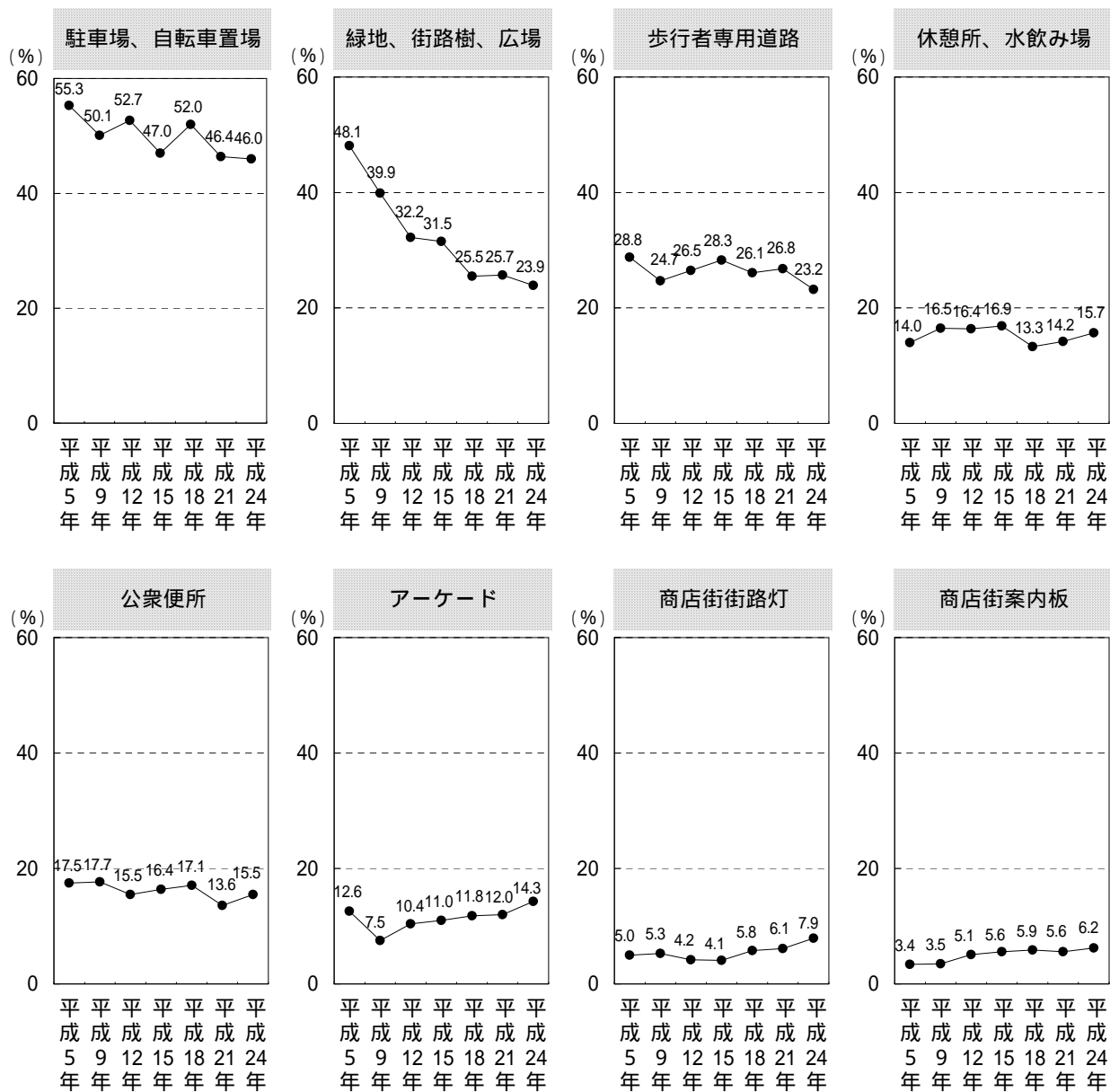
市内商店街への要望を、〔商店街施設について〕と〔事業、サービスについて〕に分けてたずねたところ、〔商店街施設について〕の要望は、「駐車場、自転車置場」(46.0%)が最も多く、40%半ばとなっている。以下、「緑地、街路樹、広場」(23.9%)、「歩行者専用道路」(23.2%)などの順となっている。

〔事業、サービスについて〕の要望は、「共同売り出し」(24.0%)が最も多く、20%半ばとなっている。以下、「空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット)」(21.0%)、「宅配サービス事業」(19.8%)などの順となっている。(図2 - 4 - 1)

商店街施設についての要望

時系列でみると、「緑地、街路樹、広場」はおおむね減少傾向となっている。(図2-4-2)

図2-4-2 時系列 商店街施設についての要望



地区別にみると、すべての地区で「駐車場、自転車置き場」が第1位にあげられている。第2位には、本庁地区、南古谷地区、大東地区、霞ヶ関地区、山田地区で「緑地、街路樹、広場」が、古谷地区、高階地区、霞ヶ関北地区、名細地区で「歩行者専用道路」があげられている。

年齢別にみると、すべての年代で「駐車場、自転車置き場」が第1位にあげられている。第2位には、20歳代から60歳代の年代では「緑地、街路樹、広場」、70歳以上では「歩行者専用道路」があげられている。(表2-4-1)

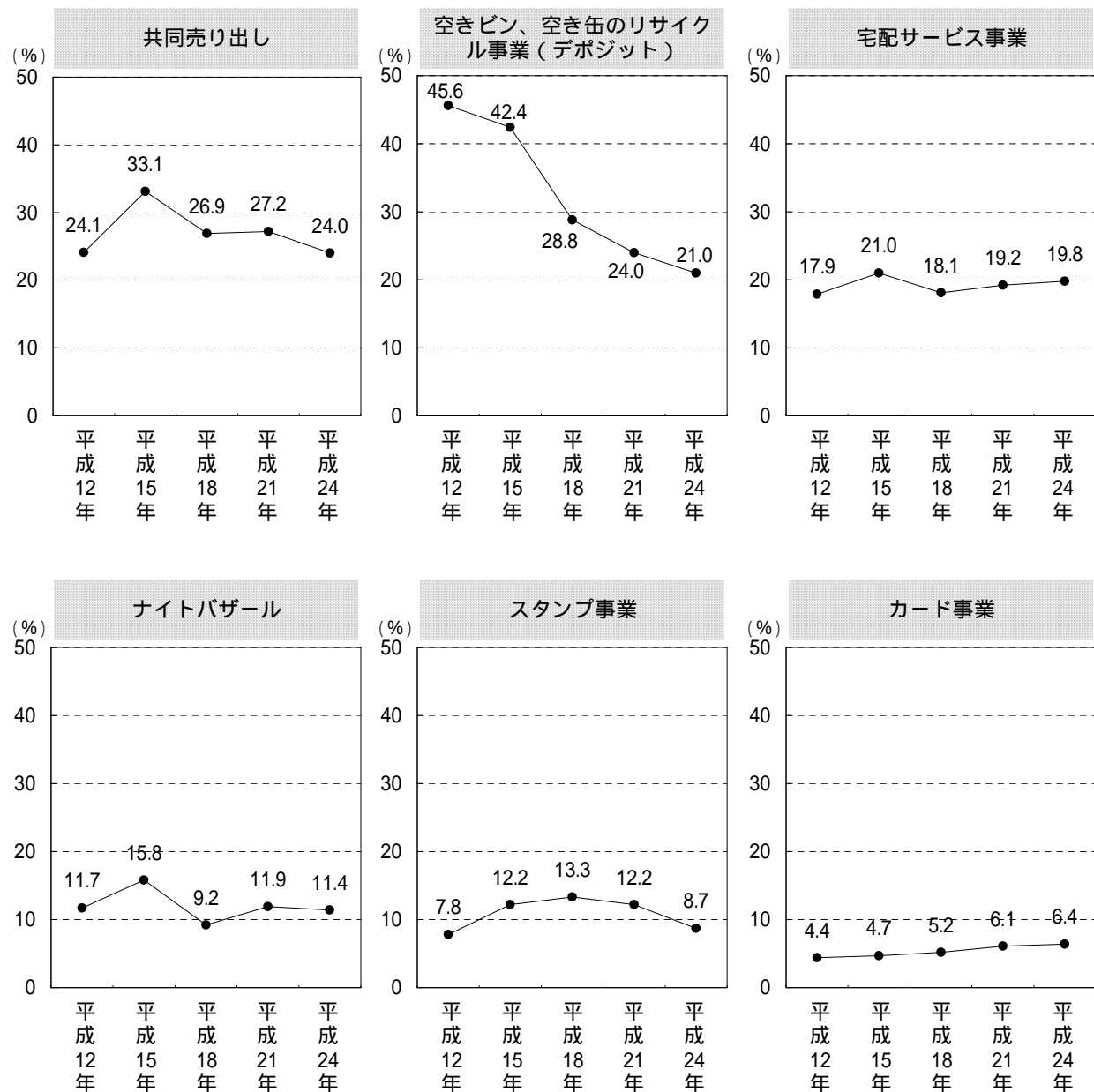
表2-4-1 地区別/年齢別 商店街施設についての要望

属性	順位	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		1,621	駐車場、自転車置き場 46.0%	緑地、街路樹、広場 23.9%	歩行者専用道路 23.2%	休憩所、水飲み場 15.7%	公衆便所 15.5%
【地区別】							
本 庁 地 区		373	駐車場、自転車置き場 49.6%	緑地、街路樹、広場 28.7%	歩行者専用道路 27.6%	休憩所、水飲み場 14.7%	公衆便所 14.5%
芳 野 地 区		50	駐車場、自転車置き場 54.0%	休憩所、水飲み場 20.0%	緑地、街路樹、広場 / 公衆便所 18.0%		歩行者専用道路 / 店街街路灯 10.0%
古 谷 地 区		74	駐車場、自転車置き場 55.4%	歩行者専用道路 28.4%	緑地、街路樹、広場 21.6%	休憩所、水飲み場 16.2%	公衆便所 13.5%
南 古 谷 地 区		115	駐車場、自転車置き場 36.5%	緑地、街路樹、広場 27.8%	アーケード 24.3%	歩行者専用道路 19.1%	休憩所、水飲み場 14.8%
高 階 地 区		202	駐車場、自転車置き場 49.0%	歩行者専用道路 24.8%	緑地、街路樹、広場 21.8%	休憩所、水飲み場 16.3%	公衆便所 / アーケード 14.9%
福 原 地 区		87	駐車場、自転車置き場 44.8%	公衆便所 20.7%	緑地、街路樹、広場 / 歩行者専用道路 19.5%		休憩所、水飲み場 18.4%
大 東 地 区		139	駐車場、自転車置き場 50.4%	緑地、街路樹、広場 25.2%	公衆便所 20.1%	休憩所、水飲み場 15.8%	歩行者専用道路 / アーケード 14.4%
霞 ヶ 関 地 区		179	駐車場、自転車置き場 43.6%	緑地、街路樹、広場 21.2%	歩行者専用道路 20.7%	アーケード 17.3%	休憩所、水飲み場 14.0%
霞 ヶ 関 北 地 区		108	駐車場、自転車置き場 38.0%	歩行者専用道路 23.1%	公衆便所 18.5%	休憩所、水飲み場 / アーケード 15.7%	
名 細 地 区		121	駐車場、自転車置き場 39.7%	歩行者専用道路 28.1%	緑地、街路樹、広場 21.5%	公衆便所 18.2%	休憩所、水飲み場 / アーケード 14.9%
山 田 地 区		66	駐車場、自転車置き場 53.0%	緑地、街路樹、広場 30.3%	歩行者専用道路 24.2%	休憩所、水飲み場 / アーケード 15.2%	
【年 齢 別】							
20 歳 代		127	駐車場、自転車置き場 44.1%	緑地、街路樹、広場 40.9%	アーケード / 店街街路灯 15.7%		歩行者専用道路 11.8%
30 歳 代		254	駐車場、自転車置き場 45.7%	緑地、街路樹、広場 26.0%	歩行者専用道路 22.4%	アーケード 22.0%	休憩所、水飲み場 12.6%
40 歳 代		243	駐車場、自転車置き場 47.7%	緑地、街路樹、広場 19.3%	歩行者専用道路 18.5%	アーケード 18.1%	休憩所、水飲み場 13.2%
50 歳 代		222	駐車場、自転車置き場 47.3%	緑地、街路樹、広場 25.7%	歩行者専用道路 23.4%	アーケード 14.4%	休憩所、水飲み場 12.6%
60 歳 代		365	駐車場、自転車置き場 48.2%	緑地、街路樹、広場 25.2%	歩行者専用道路 24.9%	公衆便所 18.6%	休憩所、水飲み場 15.1%
70 歳 以 上		345	駐車場、自転車置き場 43.2%	歩行者専用道路 28.1%	公衆便所 24.6%	休憩所、水飲み場 22.9%	緑地、街路樹、広場 16.5%

事業、サービスについての要望

時系列でみると、「空きビン、空き缶のリサイクル事業（デポジット）」は減少傾向にあり、前回調査と比べて3.0ポイント減少している。また、「スタンプ事業」は前回調査と比べて3.5ポイント、「共同売り出し」は前回調査と比べて3.2ポイント、それぞれ減少している。（図2 - 4 - 3）

図2 - 4 - 3 時系列 事業、サービスについての要望



地区別にみると、「空きビン、空き缶のリサイクル事業（デポジット）」は古谷地区と南古谷地区で第1位にあげられている。「宅配サービス事業」は福原地区と山田地区が第1位で、本庁地区でも同率の第1位にあげられている。それ以外の地区では「共同売り出し」が第1位にあげられている。

年齢別にみると、20歳代では「ナイトバザール」、30歳代では「空きビン、空き缶のリサイクル事業（デポジット）」、40歳代以上の年代では「共同売り出し」が第1位にあげられている。

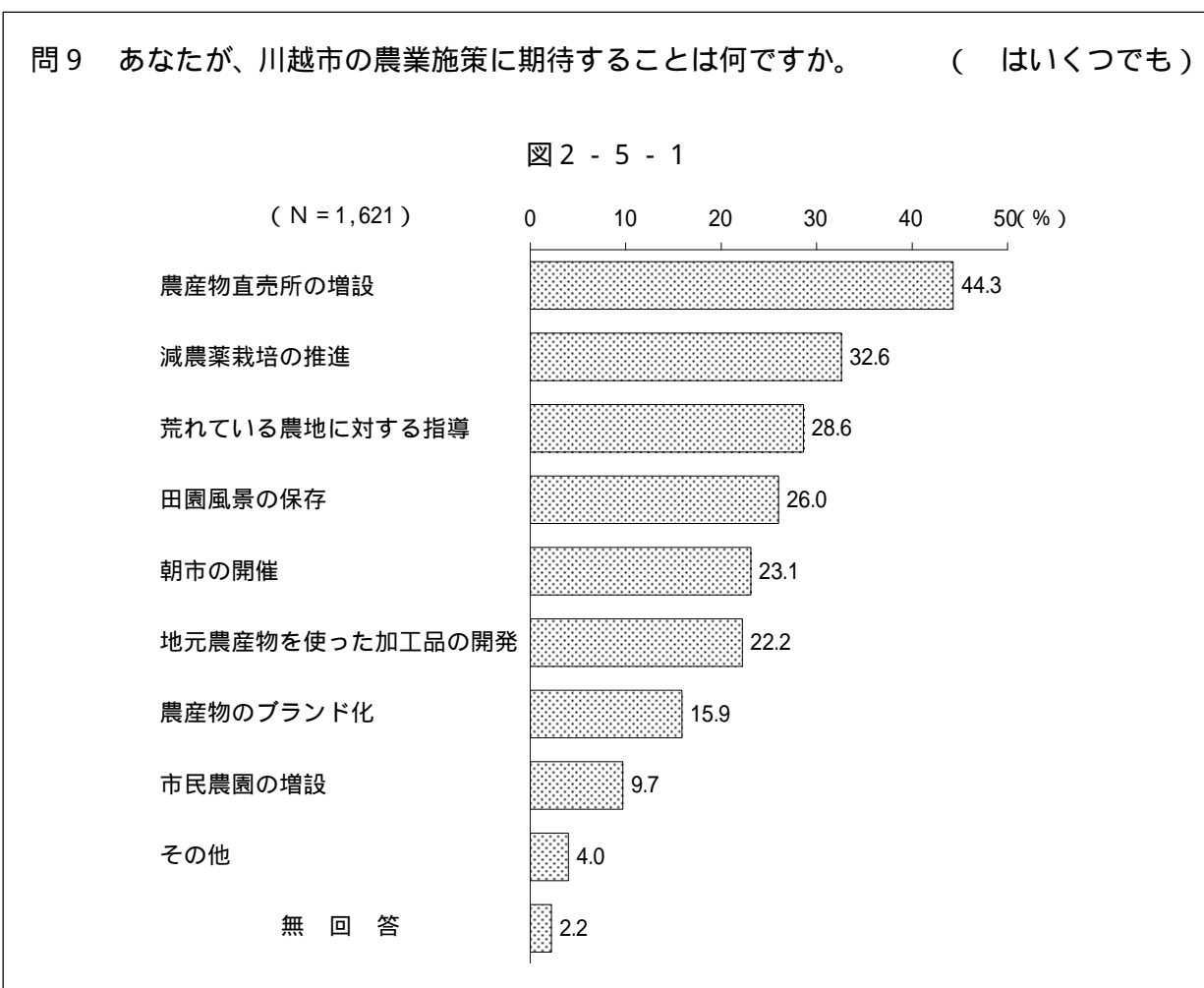
(表2 - 4 - 2)

表2 - 4 - 2 地区別 / 年齢別 事業、サービスについての要望

属性	順位	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		1,621	共同売り出し 24.0%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 21.0%	宅配サービス事業 19.8%	ナイトバザール 11.4%	スタンプ事業 8.7%
【地 区 別】							
本 庁 地 区		373	共同売り出し / 宅配サービス事業 23.6%		空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 20.9%	ナイトバザール 15.5%	スタンプ事業 9.7%
芳 野 地 区		50	共同売り出し 22.0%	宅配サービス事業 16.0%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) / スタンプ事業 12.0%		ナイトバザール 10.0%
古 谷 地 区		74	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 18.9%	共同売り出し 17.6%	宅配サービス事業 14.9%	スタンプ事業 / カード事業 9.5%	
南 古 谷 地 区		115	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 23.5%	共同売り出し / 宅配サービス事業 19.1%		スタンプ事業 12.2%	ナイトバザール 10.4%
高 階 地 区		202	共同売り出し 25.2%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 23.8%	宅配サービス事業 17.8%	ナイトバザール 9.4%	スタンプ事業 6.9%
福 原 地 区		87	宅配サービス事業 19.5%	共同売り出し / 空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 17.2%	ナイトバザール / カード事業 8.0%		
大 東 地 区		139	共同売り出し 28.8%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 19.4%	宅配サービス事業 14.4%	ナイトバザール 12.9%	スタンプ事業 10.1%
霞ヶ関地区		179	共同売り出し 28.5%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 22.3%	宅配サービス事業 19.0%	ナイトバザール 12.3%	スタンプ事業 9.5%
霞ヶ関北地区		108	共同売り出し 32.4%	宅配サービス事業 22.2%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 17.6%	ナイトバザール / スタンプ事業 7.4%	
名 細 地 区		121	共同売り出し 28.1%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 25.6%	宅配サービス事業 17.4%	ナイトバザール 14.0%	スタンプ事業 9.1%
山 田 地 区		66	宅配サービス事業 25.8%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 21.2%	共同売り出し 18.2%	ナイトバザール 12.1%	スタンプ事業 7.6%
【年 齢 別】							
20 歳 代		127	ナイトバザール 24.4%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 23.6%	宅配サービス事業 15.0%	共同売り出し / カード事業 14.2%	
30 歳 代		254	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 22.0%	宅配サービス事業 17.3%	共同売り出し 16.1%	ナイトバザール 15.7%	スタンプ事業 13.0%
40 歳 代		243	共同売り出し 20.6%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 16.0%	ナイトバザール 14.8%	宅配サービス事業 12.8%	スタンプ事業 11.1%
50 歳 代		222	共同売り出し 24.3%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 23.9%	宅配サービス事業 18.0%	ナイトバザール 13.1%	スタンプ事業 8.1%
60 歳 代		365	共同売り出し 32.3%	宅配サービス事業 23.0%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 20.8%	ナイトバザール 9.6%	スタンプ事業 7.1%
70 歳 以 上		345	共同売り出し 27.8%	宅配サービス事業 25.2%	空きビン、空き缶のリサイクル事業(デポジット) 21.2%	スタンプ事業 5.8%	カード事業 3.8%

2 - 5 農業政策に期待すること

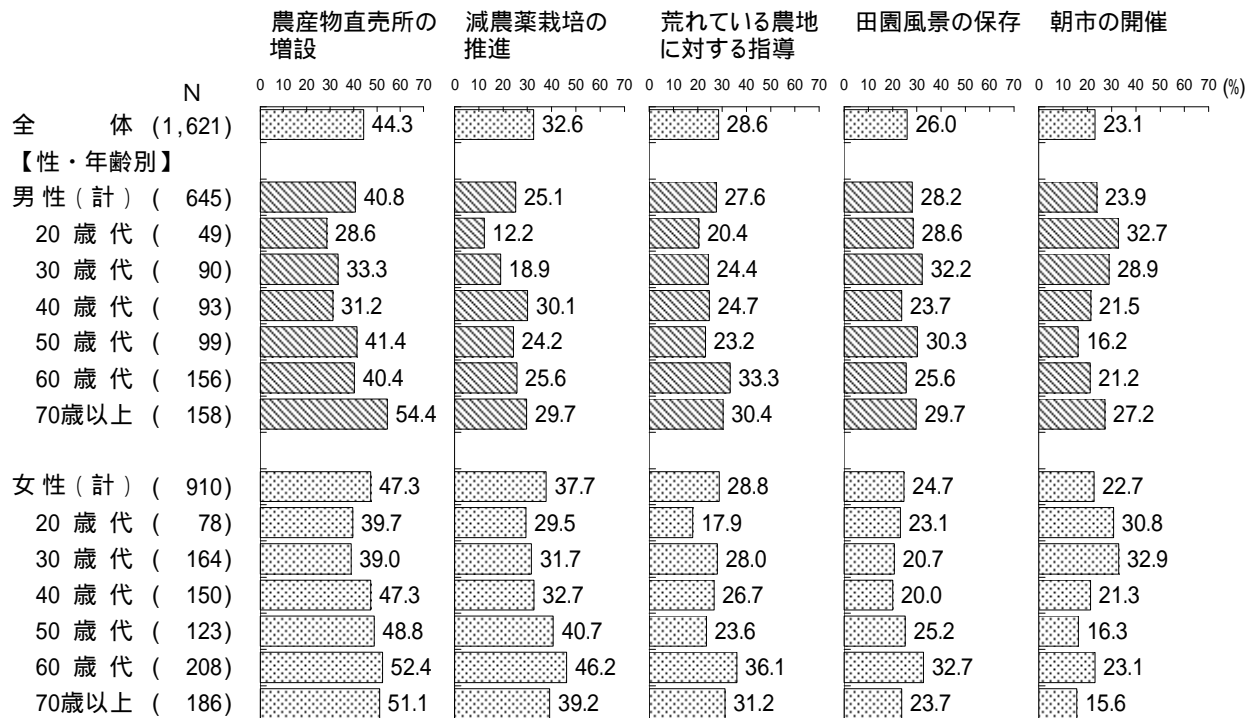
「農産物直売所の増設」が44.3%



農業政策に期待することをたずねたところ、「農産物直売所の増設」(44.3%)が最も多く、40%半ばとなっている。以下、「減農薬栽培の推進」(32.6%)、「荒れている農地に対する指導」(28.6%)、「田園風景の保存」(26.0%)、「朝市の開催」(23.1%)、「地元農産物を使った加工品の開発」(22.2%)などの順となっている。(図2 - 5 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「農産物直売所の増設」は男性70歳以上が50%半ば、女性60歳代と70歳以上がともに50%を超えて多くなっている。「減農薬栽培の推進」は女性(37.7%)が男性(25.1%)より12.6ポイント高く、特に女性60歳代が40%半ばで多くなっている。「朝市の開催」は男性20歳代、女性20歳代と30歳代がいずれも30%を超えている。(図2-5-2)

図2-5-2 性・年齢別 農業政策に期待すること



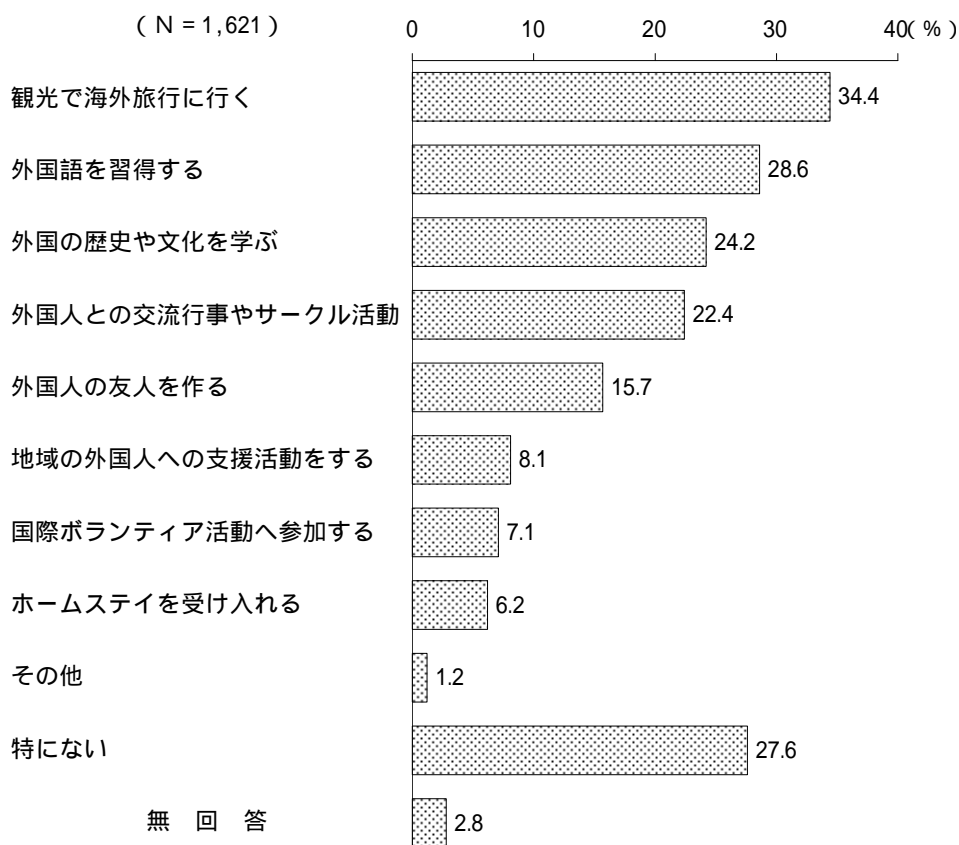
3 . 教育・文化・スポーツ

3 - 1 してみたい国際交流活動

「観光で海外旅行に行く」が34.4%

問10 あなたは、どんな国際交流をしてみたいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。 (は3つ以内)

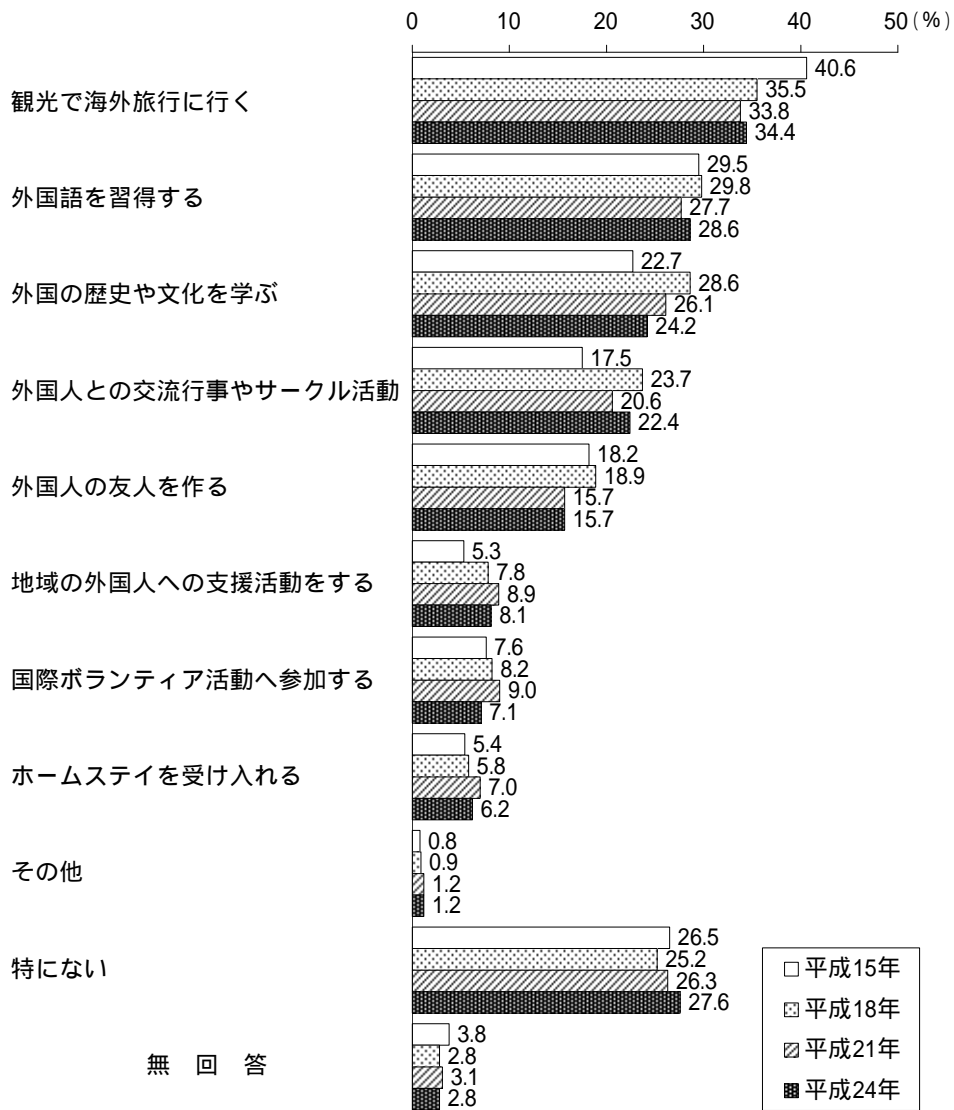
図3 - 1 - 1



してみたい国際交流活動をたずねたところ、「観光で海外旅行に行く」(34.4%)が最も多く、30%半ばとなっている。以下、「外国語を習得する」(28.6%)、「外国の歴史や文化を学ぶ」(24.2%)、「外国人との交流行事やサークル活動」(22.4%)、「外国人の友人を作る」(15.7%)などの順となっている。(図3 - 1 - 1)

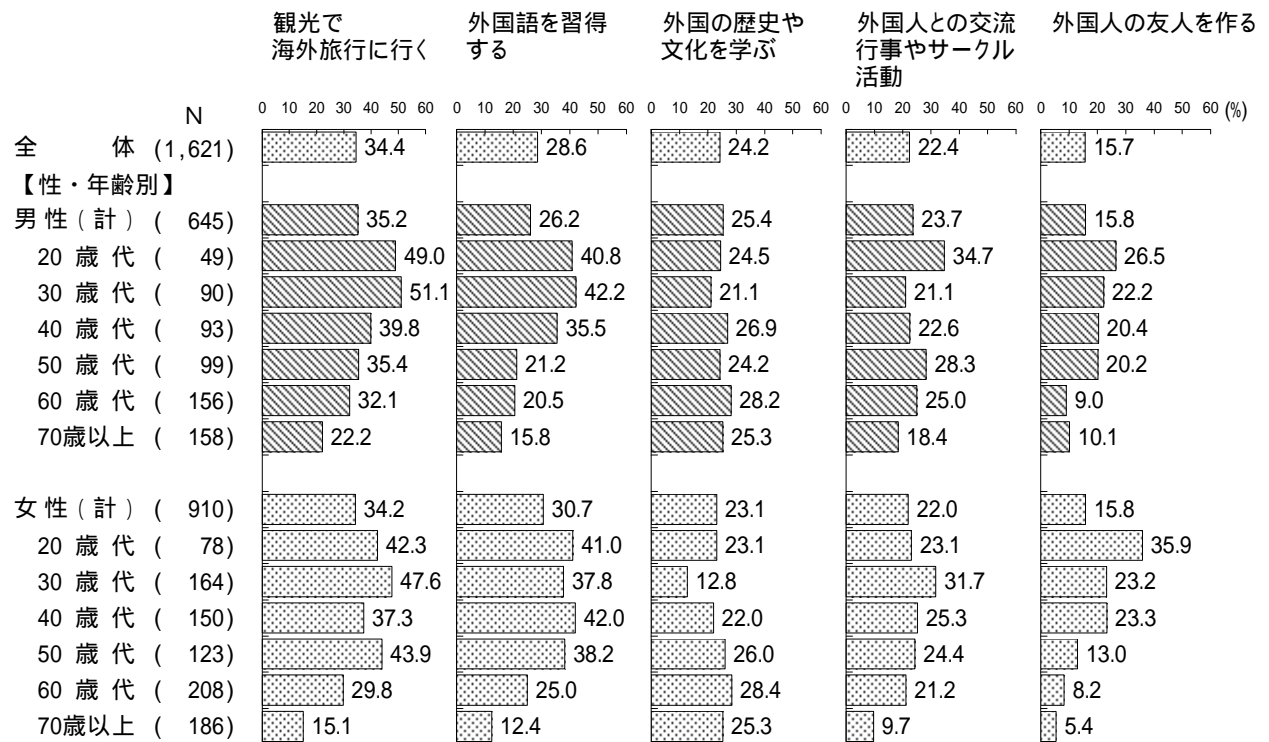
時系列でみると、前回調査と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図3 - 1 - 2)

図3 - 1 - 2 時系列 してみたい国際交流活動



上位5項目を性・年齢別にみると、「観光で海外旅行に行く」は男性20歳代と30歳代が50%前後で多くなっている。「外国語を習得する」は男性20歳代と30歳代、女性20歳代と40歳代がいずれも40%を超えている。「外国人との交流行事やサークル活動」は男性20歳代が30%半ばで多くなっている。「外国人の友人を作る」は女性20歳代が30%半ばで多くなっている。(図3 - 1 - 3)

図3 - 1 - 3 性・年齢別 してみたい国際交流活動

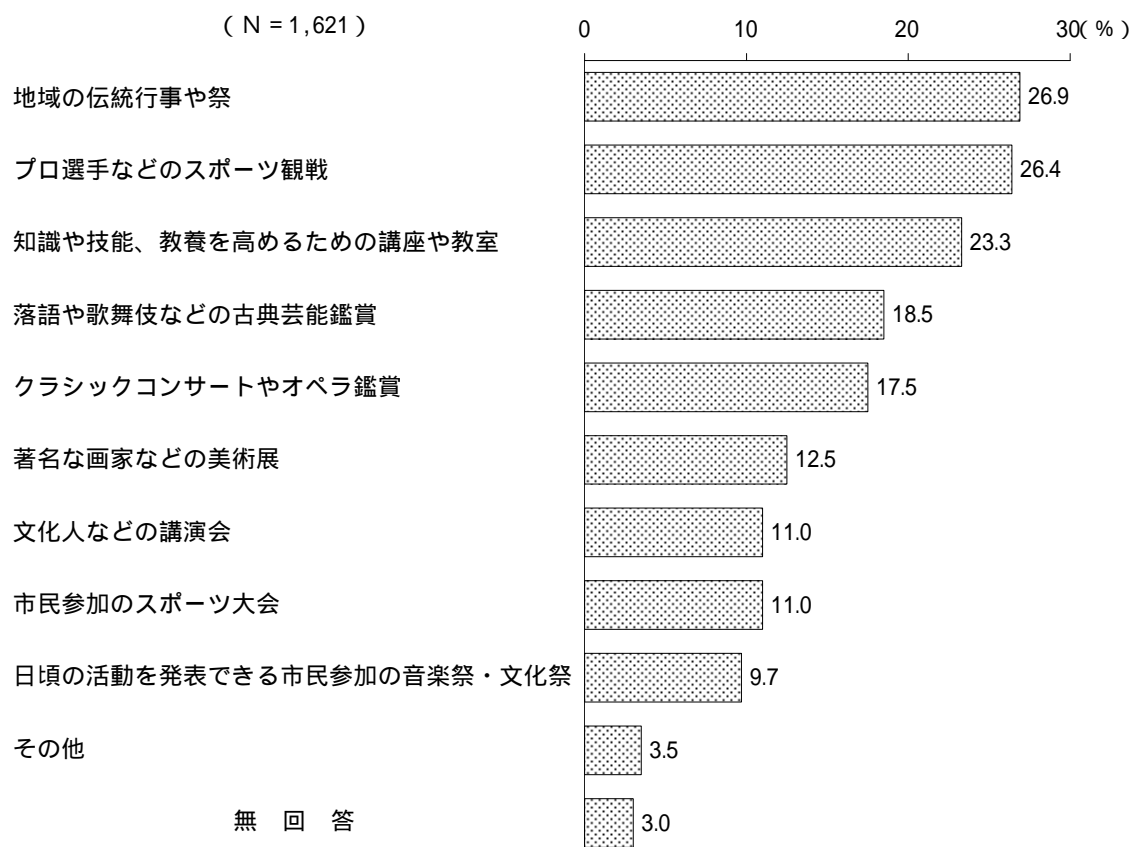


3 - 2 興味のある文化・スポーツイベント

「地域の伝統行事や祭」が26.9%、「プロ選手などのスポーツ観戦」が26.4%

問11 あなたは、どのような文化・スポーツイベントに興味がありますか。(は2つ以内)

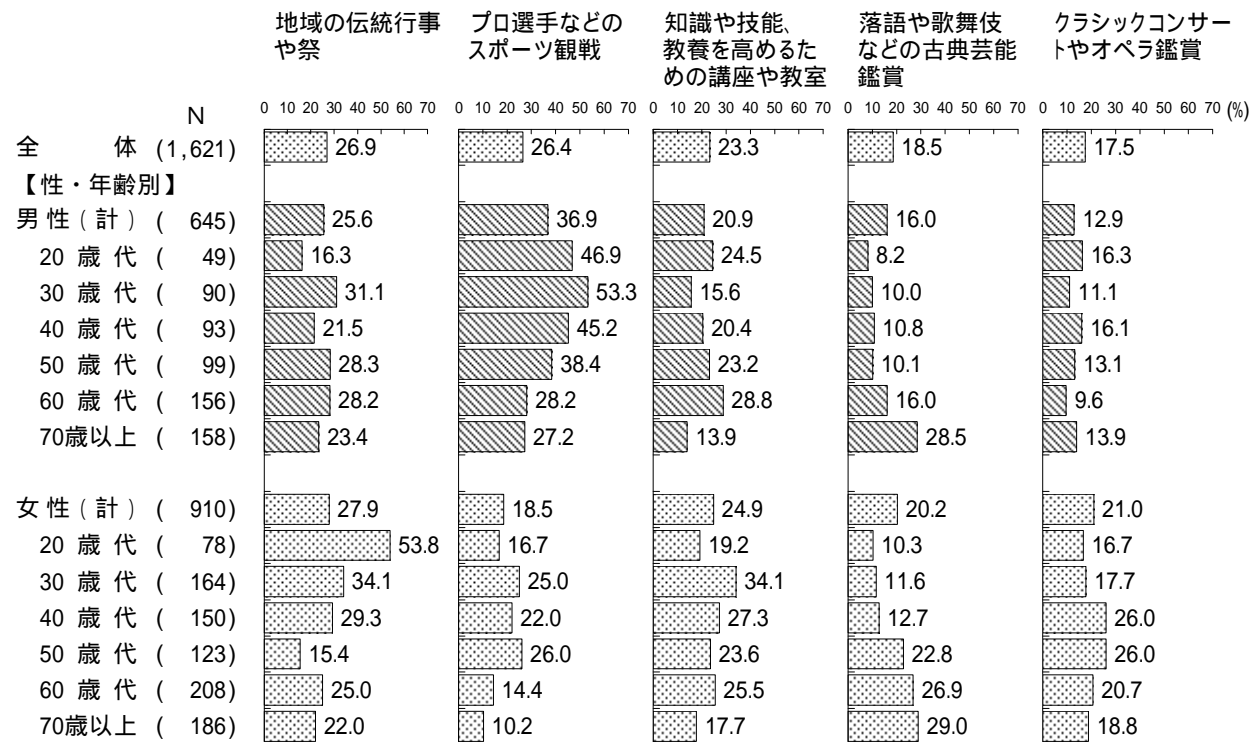
図3 - 2 - 1



興味のある文化・スポーツイベントをたずねたところ、「地域の伝統行事や祭」(26.9%)と「プロ選手などのスポーツ観戦」(26.4%)がともに20%半ばとなっている。以下、「知識や技能、教養を高めるための講座や教室」(23.3%)、「落語や歌舞伎などの古典芸能鑑賞」(18.5%)、「クラシックコンサートやオペラ鑑賞」(17.5%)などの順となっている。(図3 - 2 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「地域の伝統行事や祭」は女性20歳代が50%を超えて最も多くなっている。「プロ選手などのスポーツ観戦」は男性30歳代が50%を超え、男性20歳代と40歳代が40%半ばで多くなっている。「落語や歌舞伎などの古典芸能鑑賞」は男女とも70歳以上が30%近くで多くなっている。(図3 - 2 - 2)

図3 - 2 - 2 性・年齢別 興味のある文化・スポーツイベント



3 - 3 文化活動の頻度

<実施率>は16.1%

問12 あなたは、文化活動をどの程度行っていますか。次の中から1つ選んでください。

(は1つ)

*「文化」とは、芸術・メディア芸術・伝統芸能・芸能・生活文化・地域における伝統文化を想定しており、「文化活動」とは、これらを行うことについて想定しています。

図3 - 3 - 1

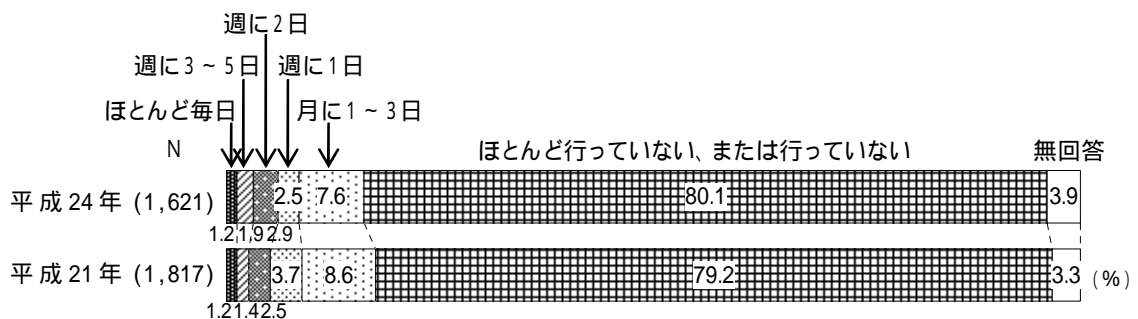


文化活動の頻度をたずねたところ、「ほとんど行っていない、または行っていない」(80.1%)が最も多く、80%を超えている。「ほとんど毎日」(1.2%)、「週に3~5日」(1.9%)、「週に2日」(2.9%)、「週に1日」(2.5%)、「月に1~3日」(7.6%)を合わせた<実施率>は16.1%となっている。

(図3 - 3 - 1)

時系列でみると、前回調査とほぼ同じ傾向になっている。(図3 - 3 - 2)

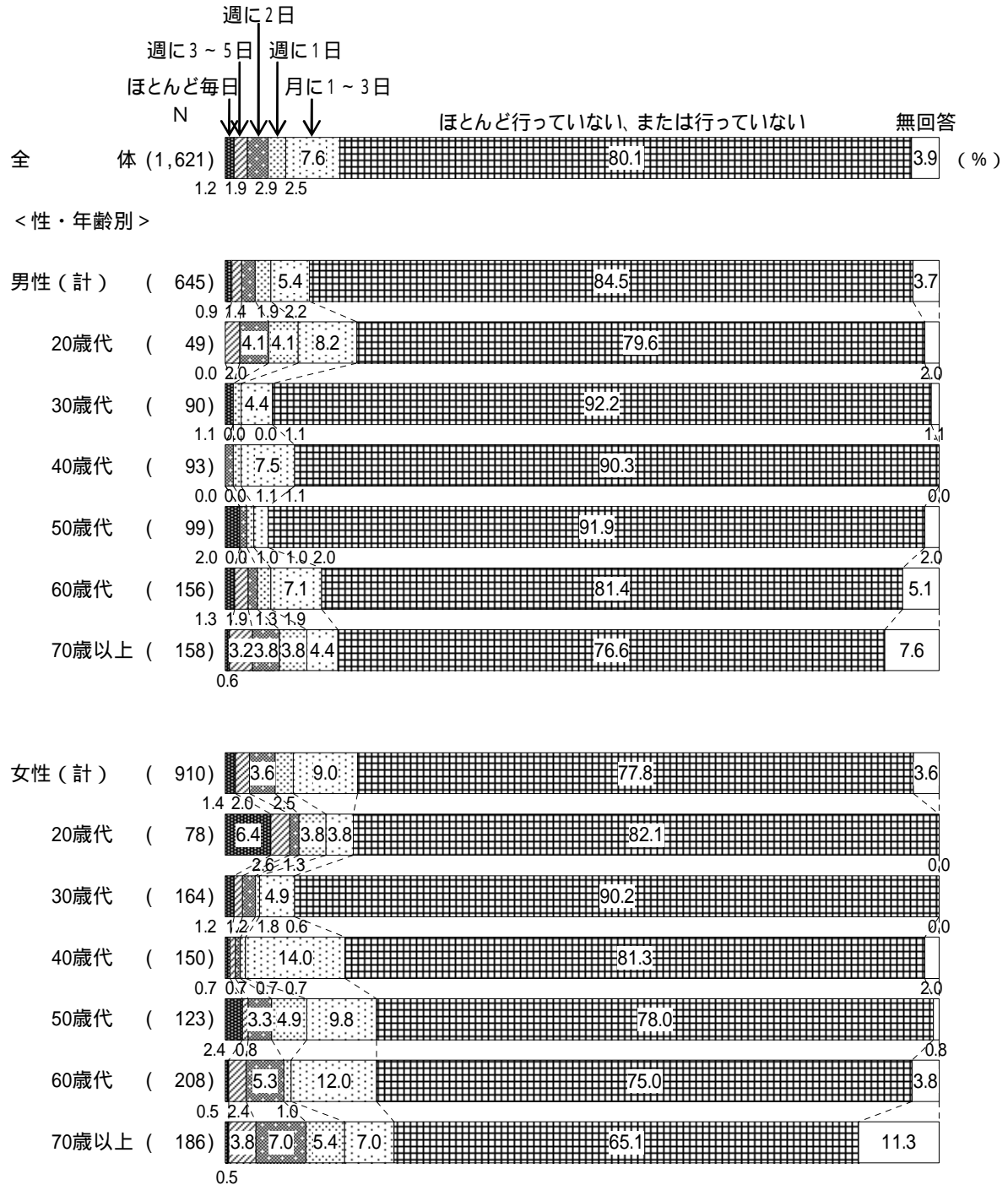
図3 - 3 - 2 時系列 文化活動の頻度



性・年齢別にみると、＜実施率＞は女性70歳以上(23.7%)が20%を超えて最も多くなっている。一方、男性の30歳代から50歳代の年代と女性30歳代では、＜実施率＞が10%未満となっている。

(図3-3-3)

図3-3-3 性・年齢別 文化活動の頻度



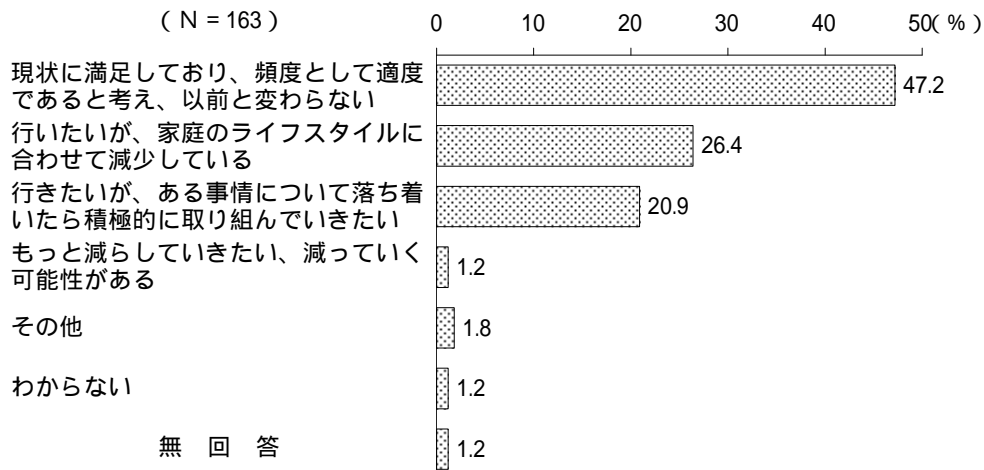
3 - 4 文化活動への取組

「現状に満足しており、頻度として適度であると考え、以前と変わらない」が47.2%

問12 で「週に1日」「月に1～3日」と答えた方におたずねします。

問12 現状に対する考え方を教えてください。 (は1つ)

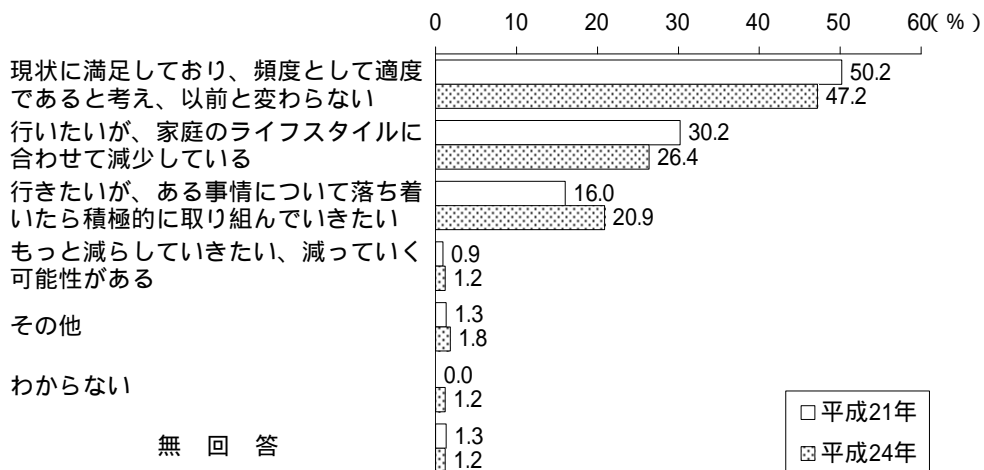
図3 - 4 - 1



問12 で「週に1回」「月に1～3日」文化活動を行っていると感じた人(163人)に、文化活動への取り組みをたずねたところ、「現状に満足しており、頻度として適度であると考え、以前と変わらない」(47.2%)が最も多く、50%近くとなっている。「行きたいが、家庭のライフスタイルに合わせて減少している」(26.4%)は20%半ばで、「行きたいが、ある事情について落ち着いたら積極的に取り組んでいきたい」(20.9%)は20%を超えている。(図3 - 4 - 1)

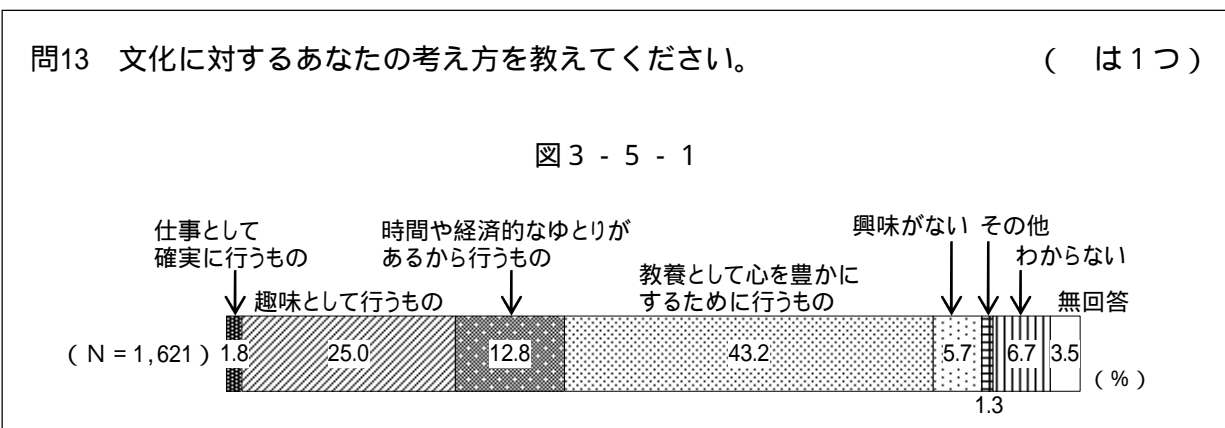
時系列でみると、「行きたいが、ある事情について落ち着いたら積極的に取り組んでいきたい」は前回調査と比べて4.9ポイント増加している。(図3 - 4 - 2)

図3 - 4 - 2 時系列 文化活動への取組



3 - 5 文化に対する考え方

「教養として心を豊かにするために行うもの」が43.2%

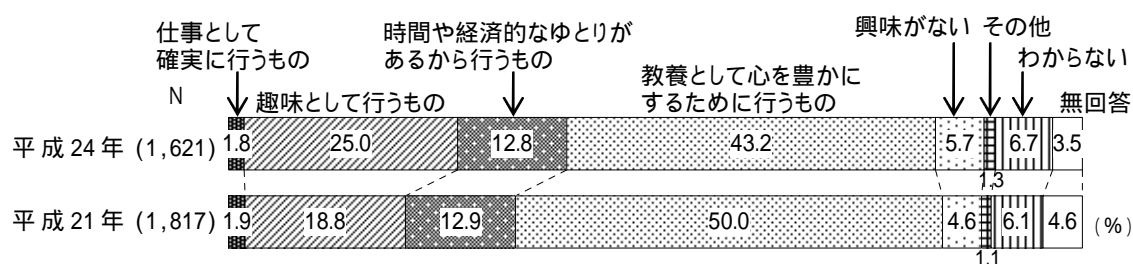


文化に対する考え方をたずねたところ、「教養として心を豊かにするためにやるもの」(43.2%)が最も多く、40%を超えている。以下、「趣味としてやるもの」(25.0%)、「時間や経済的なゆとりがあるからやるもの」(12.8%)などの順となっている。(図3 - 5 - 1)

時系列でみると、「趣味としてやるもの」は前回調査と比べて6.2ポイント増加している。一方、「教養として心を豊かにするためにやるもの」は前回調査と比べて6.8ポイント減少している。

(図3 - 5 - 2)

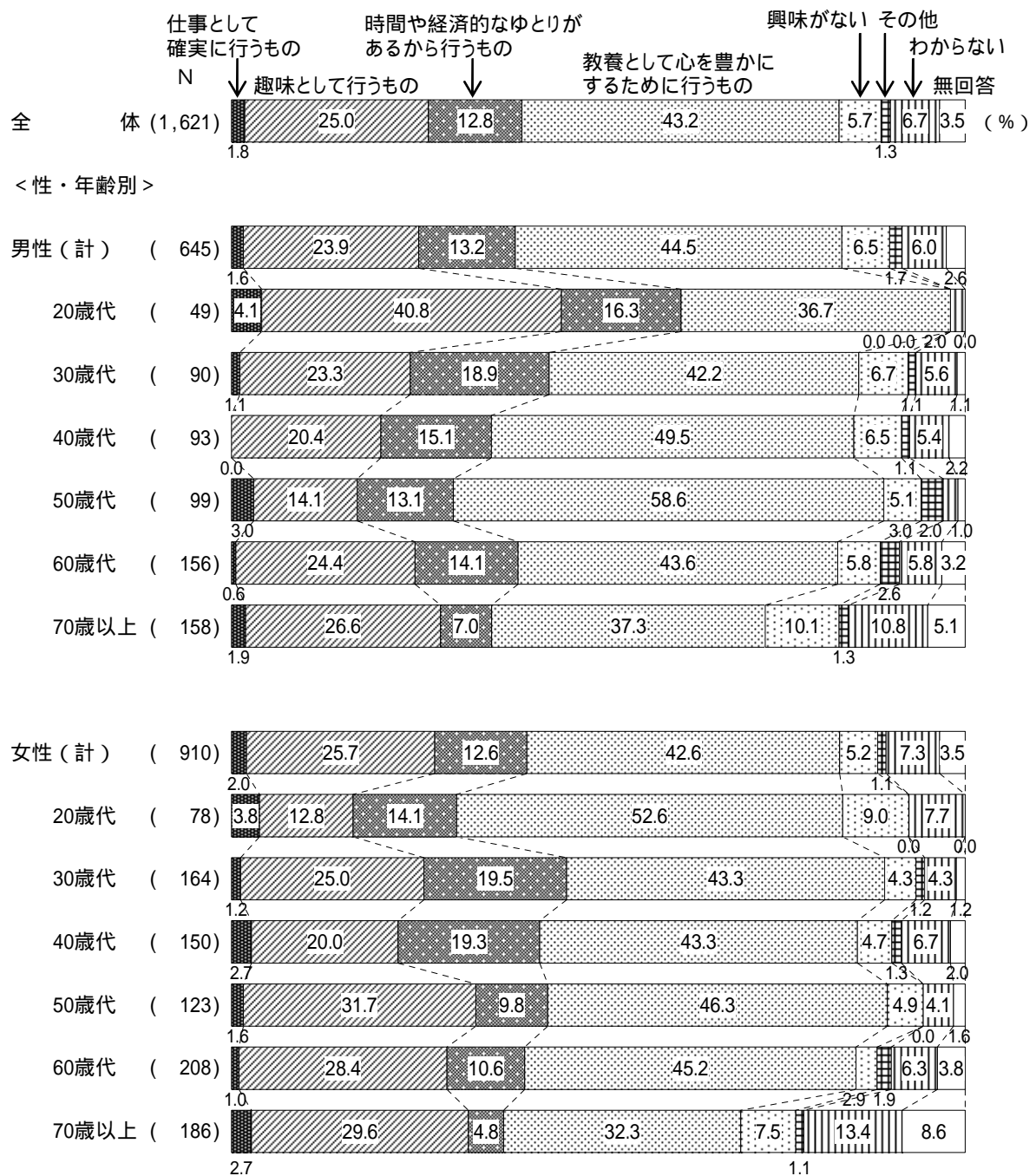
図3 - 5 - 2 時系列 文化に対する考え方



性・年齢別にみると、「教養として心を豊かにするために行うもの」は男性50歳代が60%近くで最も多くなっている。「趣味として行うもの」は男性20歳代が40%を超えて多くなっている。

(図3-5-3)

図3-5-3 性・年齢別 文化に対する考え方

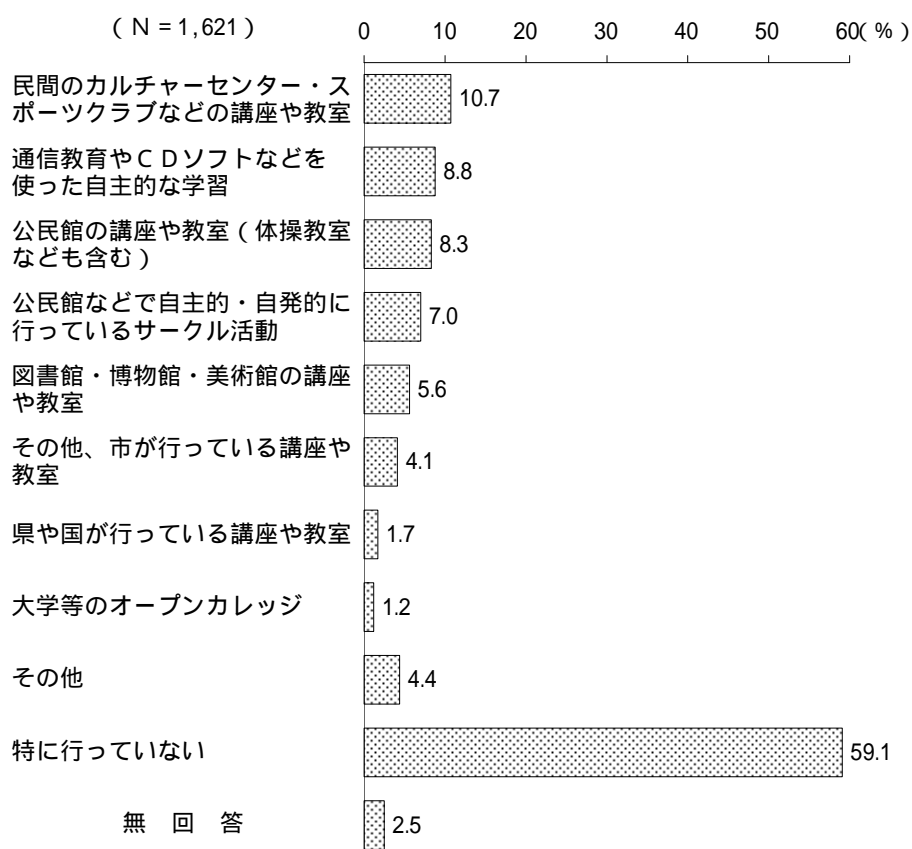


3 - 6 生涯学習活動の取組状況

「民間のカルチャーセンター・スポーツクラブなどの講座や教室」が10.7%

問14 あなたは、日ごろ次のような生涯学習を行っていますか。 (は2つ以内)
 「生涯学習」とは、自己の啓発や充実のため、生活の向上のためや職業上の能力の向上のため、自発的に行う学習活動のことを想定しています。

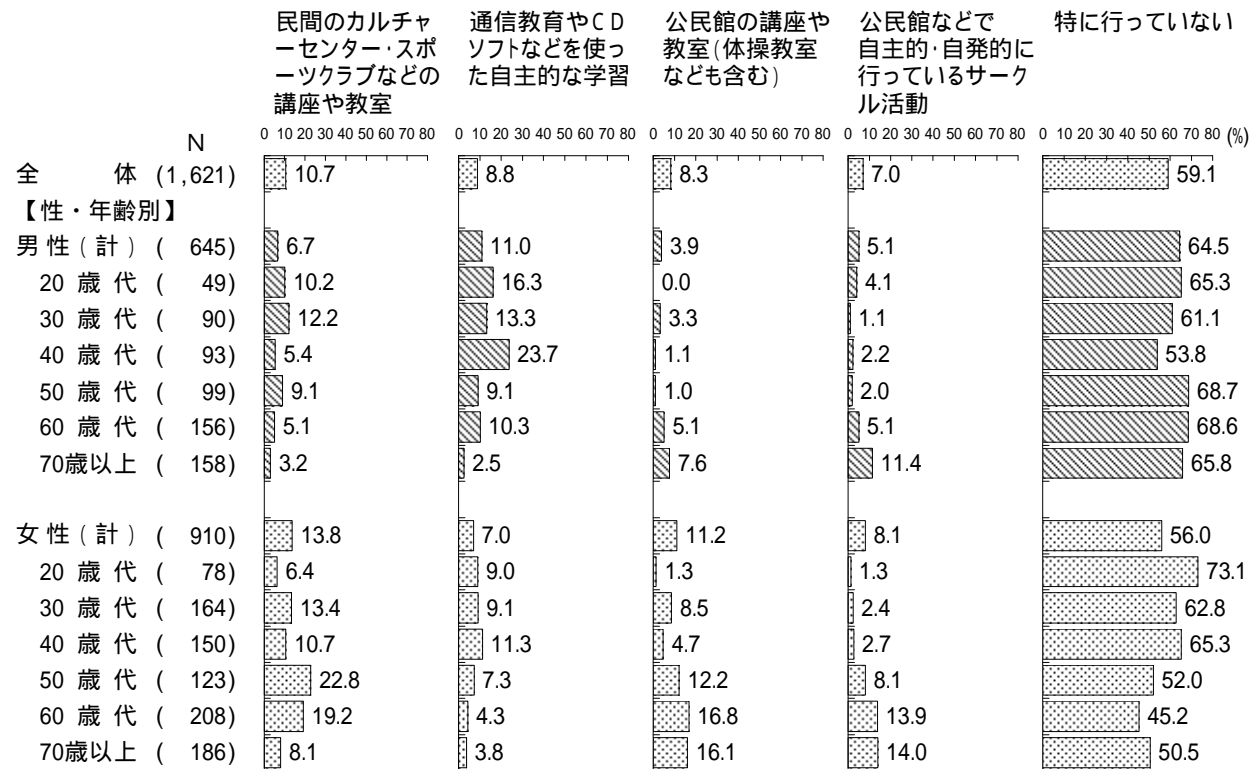
図3 - 6 - 1



生涯学習活動の取組状況をたずねたところ、「民間のカルチャーセンター・スポーツクラブなどの講座や教室」(10.7%)が10%を超えている。以下、「通信教育やCDソフトなどを使った自主的な学習」(8.8%)、「公民館の講座や教室(体操教室なども含む)」(8.3%)、「公民館などで自主的・自発的に行っているサークル活動」(7.0%)などの順となっている。「特に行っていない」(59.1%)は60%近くとなっている。(図3 - 6 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「民間のカルチャーセンター・スポーツクラブなどの講座や教室」は女性50歳代と60歳代が20%前後で多くなっている。「通信教育やCDソフトなどを使った自主的な学習」は男性40歳代が20%を超えて多くなっている。「公民館の講座や教室(体操教室なども含む)」と「公民館などで自主的・自発的に行っているサークル活動」は、ともに女性60歳代と70歳以上の割合が最も多くなっている。(図3-6-2)

図3-6-2 性・年齢別 生涯学習活動の取組状況



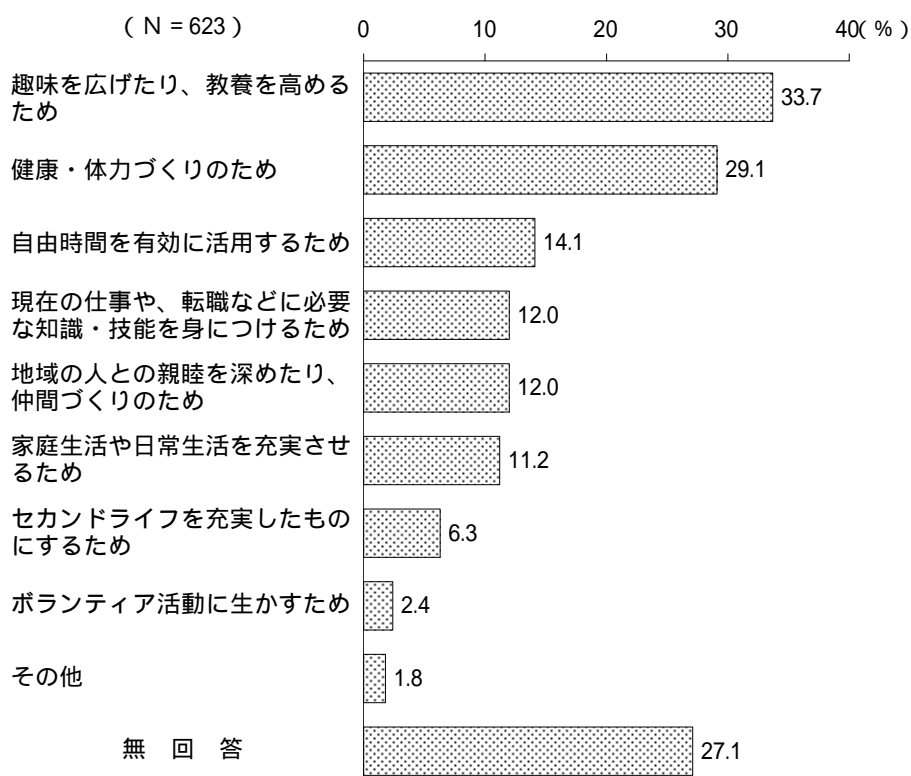
3 - 7 生涯学習活動を行う目的

「趣味を広げたり、教養を高めるため」が33.7%

問14 で「特に行っていない」以外に答えた方（生涯学習を行っている方）におたずねします。

問14 学習活動を行う主な目的は何ですか。 (は2つ以内)

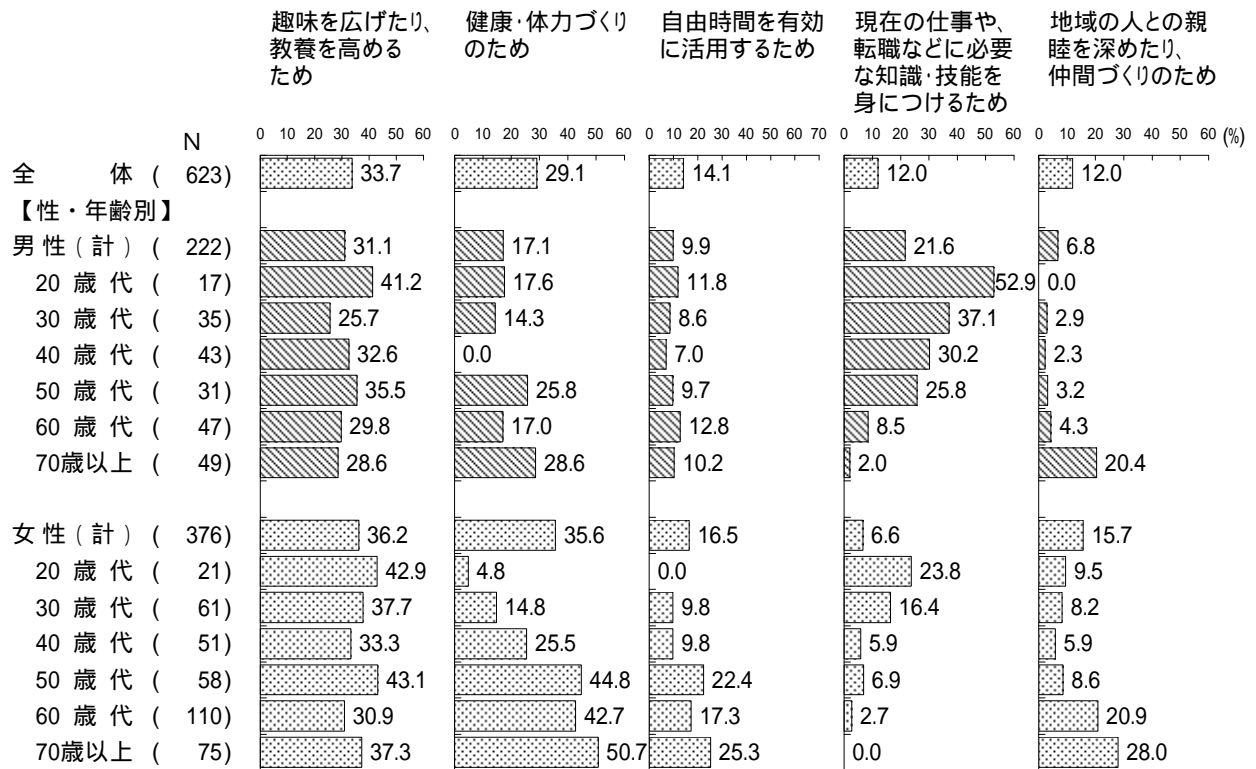
図3 - 7 - 1



問14 で生涯学習を行っていると答えた人(623人)に、生涯学習活動行う目的をたずねたところ、「趣味を広げたり、教養を高めるため」(33.7%)が最も多く、30%を超えている。以下、「健康・体力づくりのため」(29.1%)、「自由時間を有効に活用するため」(14.1%)、「現在の仕事や、転職などに必要な知識・技能を身につけるため」(12.0%)、「地域の人との親睦を深めたり、仲間づくりのため」(12.0%)などの順となっている。(図3 - 7 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「健康・体力づくりのため」は女性の50歳以上の年代が40%台から50%台で多くなっている。「現在の仕事や、転職などに必要な知識・技能を身につけるため」は男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にある。「地域の人との親睦を深めたり、仲間づくりのため」は女性70歳以上が30%近く、男性70歳以上と女性60歳代が20%を超えて多くなっている。(図3-7-2)

図3-7-2 性・年齢別 生涯学習活動を行う目的



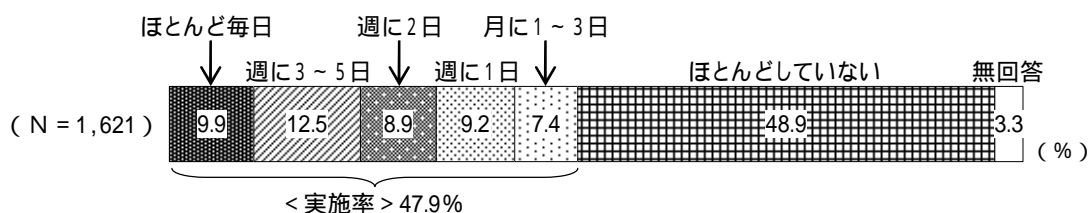
3 - 8 スポーツ・運動の頻度

<実施率>は47.9%

問15 あなたは、スポーツや運動をどの程度していますか。
頻度はどの程度ですか。

(は1つ)

図3 - 8 - 1

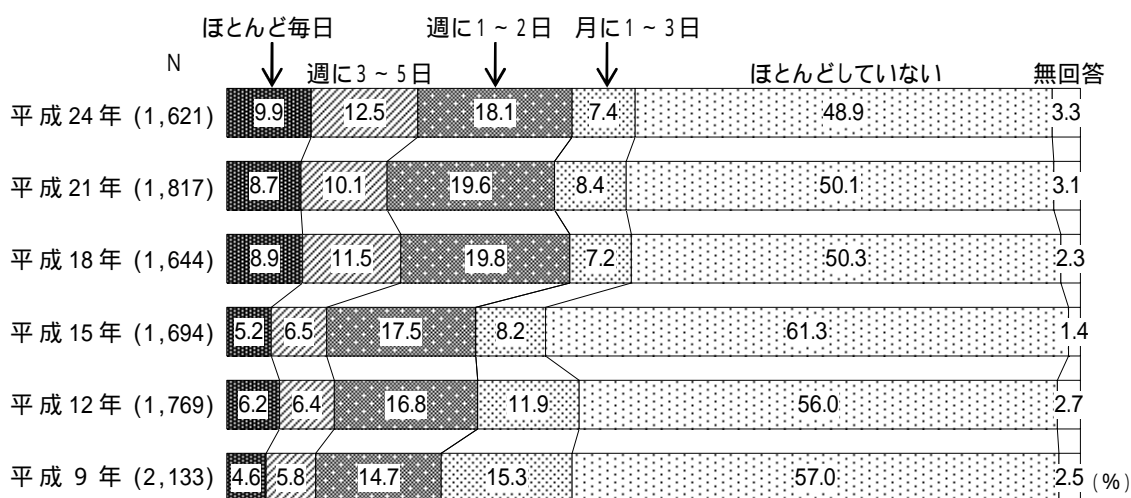


スポーツ・運動の頻度をたずねたところ、「ほとんどしていない」(48.9%)が最も多く、50%近くとなっている。「ほとんど毎日」(9.9%)、「週に3~5日」(12.5%)、「週に2日」(8.9%)、「週に1日」(9.2%)、「月に1~3日」(7.4%)を合わせた<実施率>は47.9%となっている。

(図3 - 8 - 1)

時系列でみると、平成18年調査以降<実施率>は50%近くで推移しており、大きな変化はみられない。(図3 - 8 - 2)

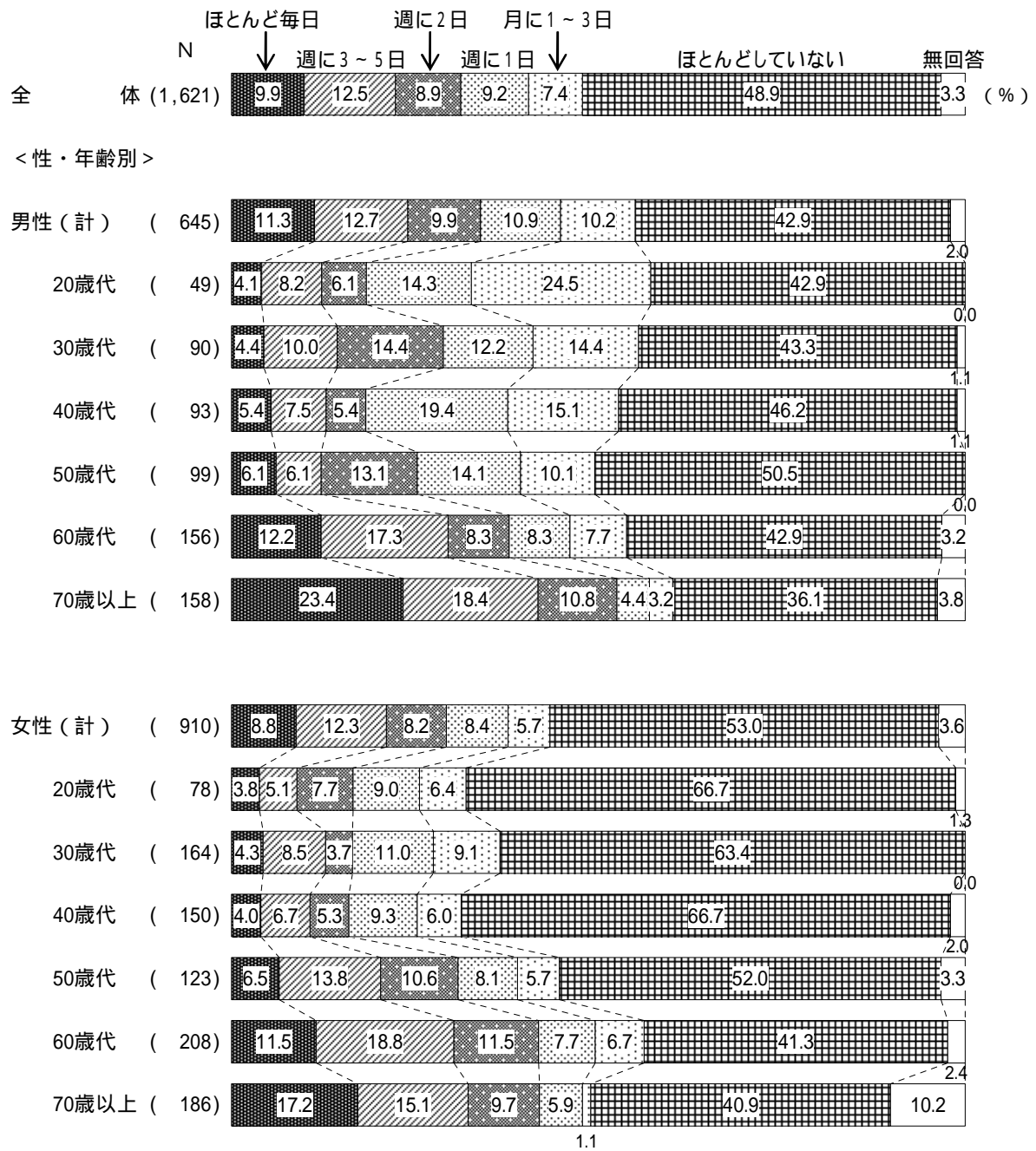
図3 - 8 - 2 時系列 スポーツ・運動の頻度



性・年齢別にみると、＜実施率＞は男性70歳以上が60%を超えて最も多くなっている。一方、「ほとんどしていない」は女性の20歳代から40歳代の年代がいずれも60%台で多くなっている。

(図3-8-3)

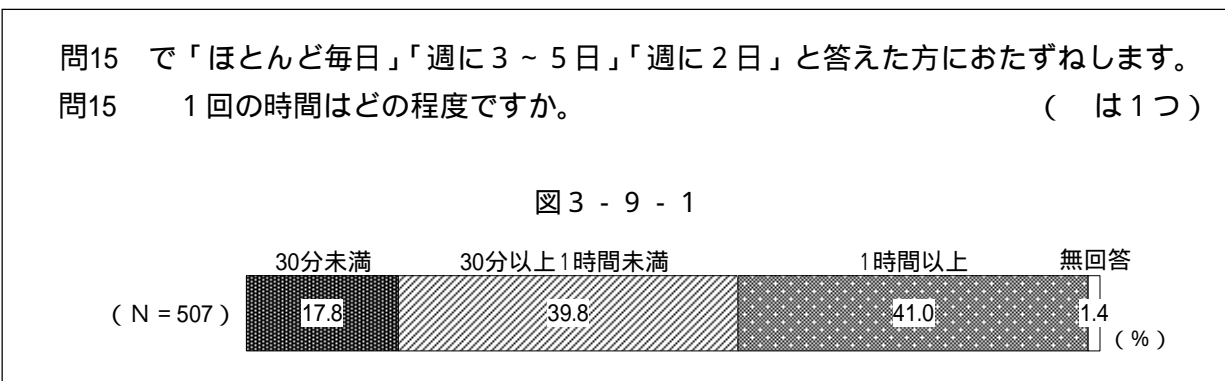
図3-8-3 性・年齢別 スポーツ・運動の頻度



3 - 9 スポーツ・運動 1 回あたりの時間 / はじめてからの期間

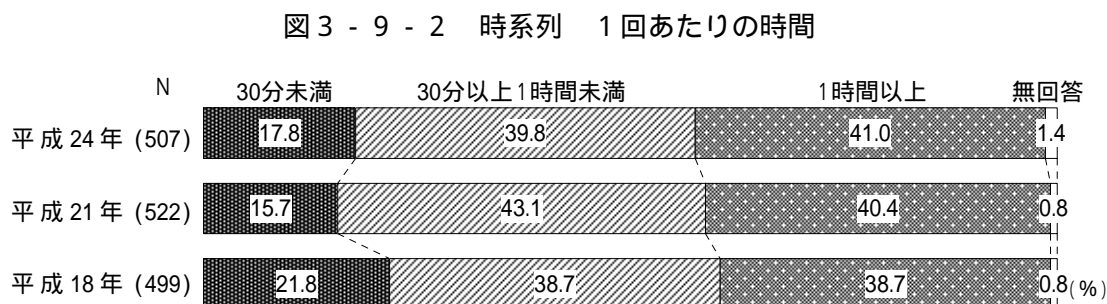
(1) 1 回あたりの時間

1 回あたりのスポーツをする時間は「1 時間以上」が41.0%

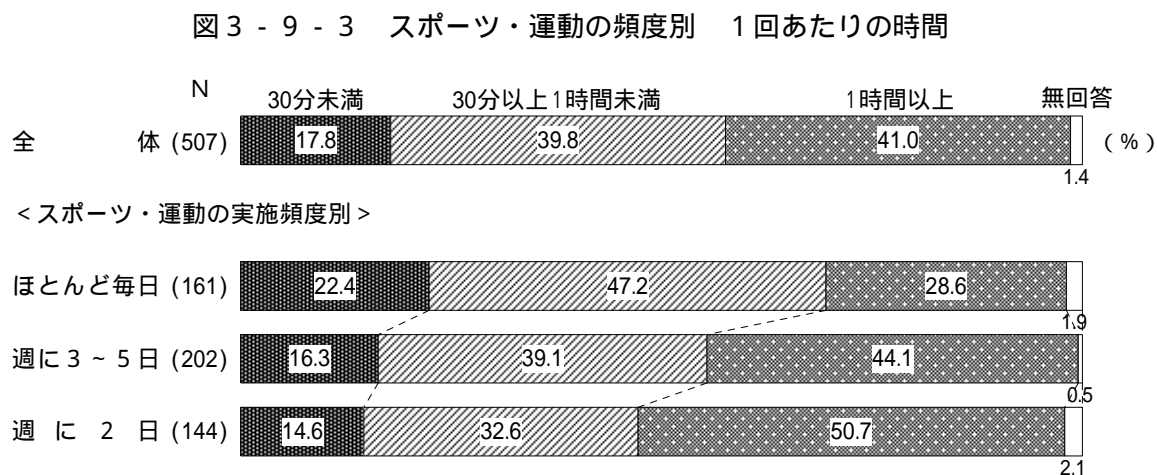


問15 で「週に2日」以上スポーツ・運動をしていると答えた人(507人)に、1 回あたりの時間をたずねたところ、「1 時間以上」(41.0%)と「30分以上1 時間未満」(39.8%)がともに40%前後で多くなっている。(図3 - 9 - 1)

時系列でみると、前回調査と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図3 - 9 - 2)



スポーツ・運動の実施頻度(問15・78ページ参照)別にみると、スポーツ・運動の実施頻度が高くなるほど、1 回あたりの時間が短い人の割合が多くなる傾向がみられる。(図3 - 9 - 3)



(2) はじめてからの期間

「1年以上」が76.9%

問15 で「ほとんど毎日」「週に3～5日」「週に2日」と答えた方におたずねします。
 問15 スポーツや運動をはじめてからどの程度期間が経過していますか。(は1つ)

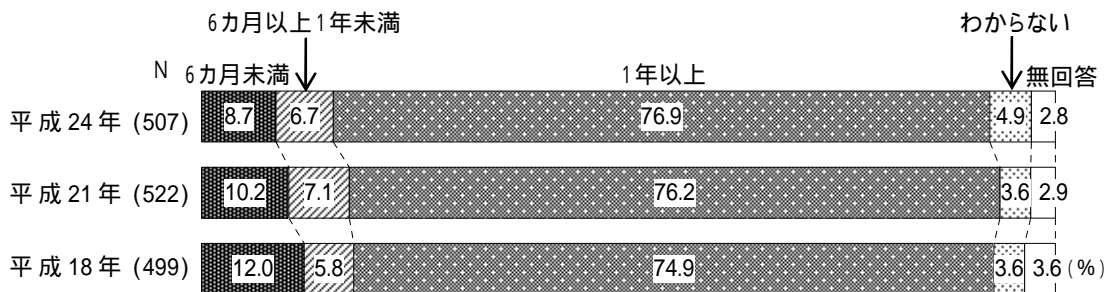
図3-9-4



問15 で「週に2日」以上スポーツ・運動をしていると答えた人(507人)に、スポーツをはじめてからの期間をたずねたところ、「1年以上」(76.9%)が最も多く、70%半ばに達している。「6ヶ月未満」(8.7%)と「6ヶ月以上1年未満」(6.7%)はともに10%未満である。(図3-9-4)

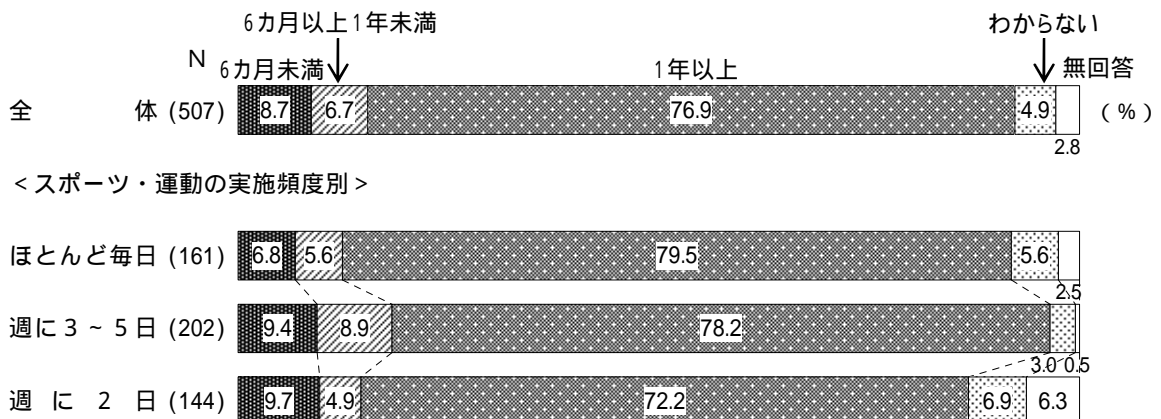
時系列でみると、過去の調査とほぼ同じ傾向になっている。(図3-9-5)

図3-9-5 時系列 はじめてからの期間



スポーツ・運動の実施頻度(問15・78ページ参照)別にみると、実施頻度の違いによる大きな傾向の違いはみられない。(図3-9-6)

図3-9-6 スポーツ・運動の頻度別 はじめてからの期間



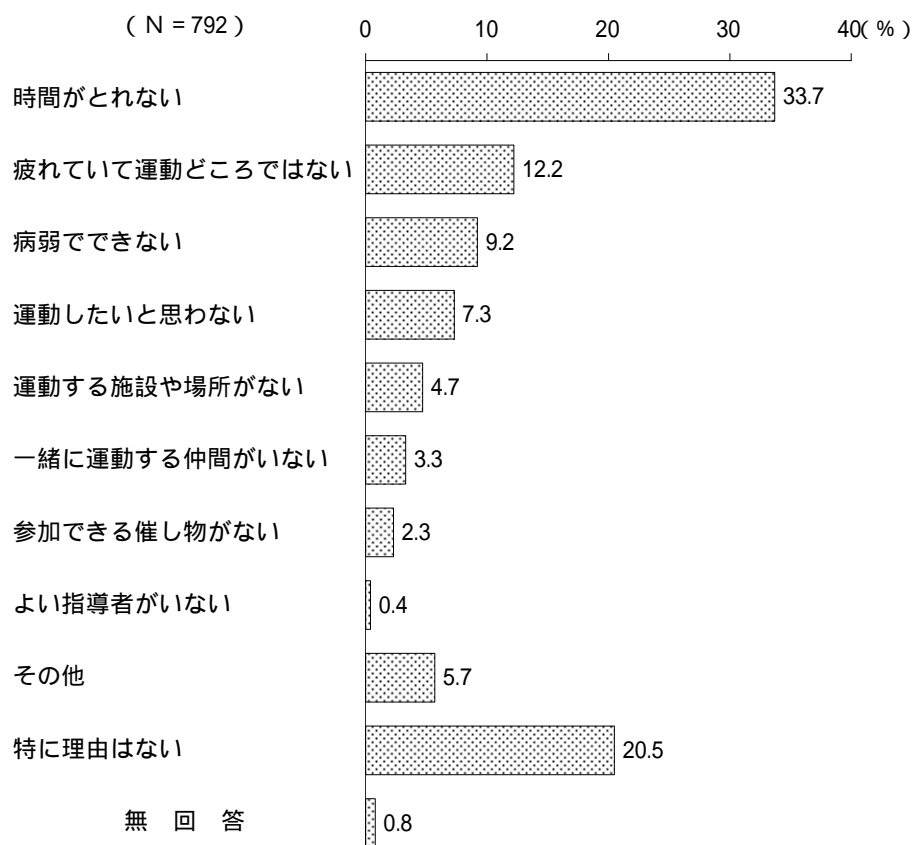
3 - 10 スポーツ・運動をしない理由

「時間がとれない」が33.7%

問15 で「ほとんどしていない」と答えた方におたずねします。

問15 スポーツや運動をほとんどしていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

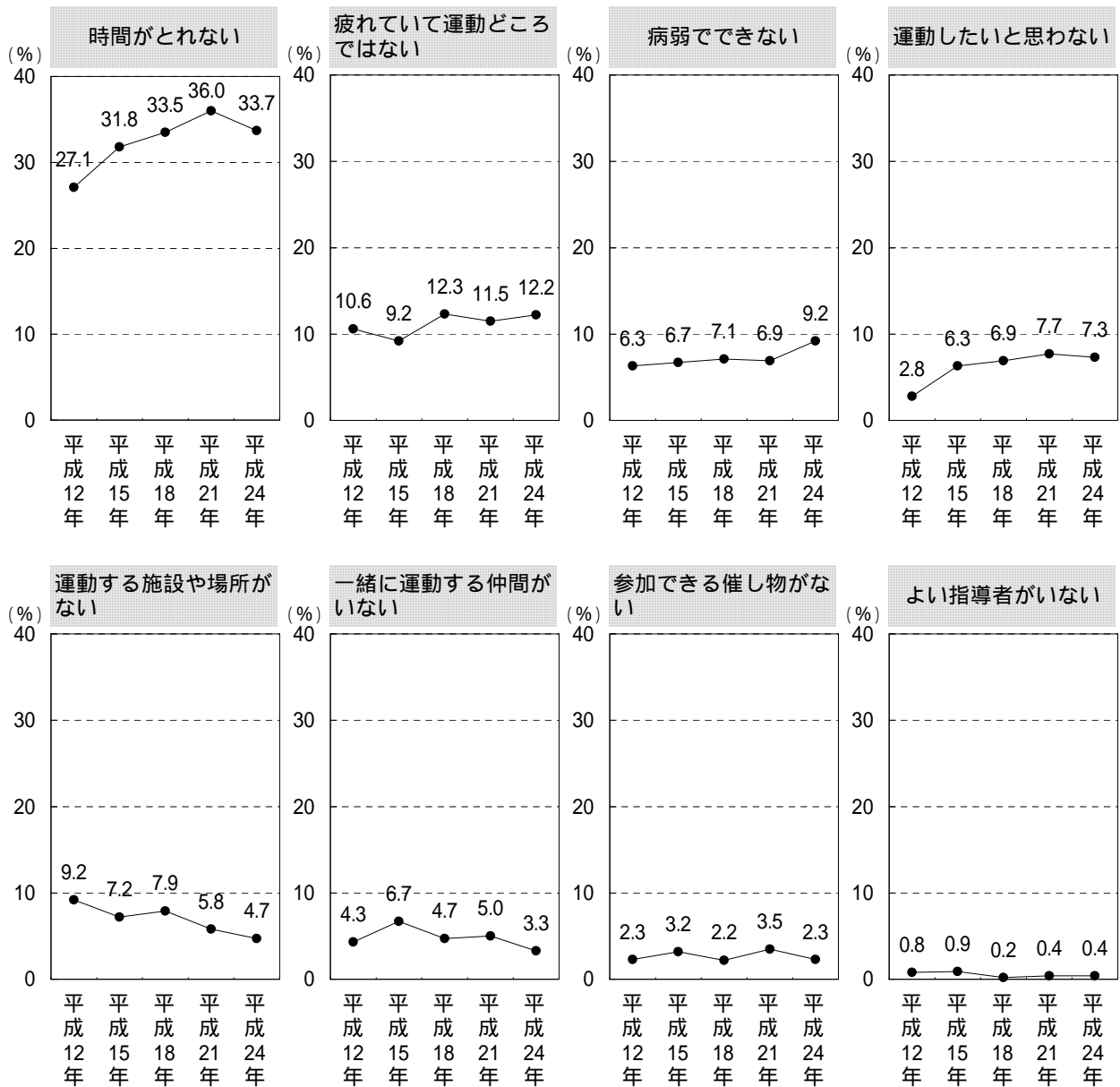
図3 - 10 - 1



問15 でスポーツ・運動を「ほとんどしていない」と答えた人(792人)に、その理由をたずねたところ、「時間がとれない」(33.7%)が最も多く、30%を超えている。以下、「疲れていて運動どころではない」(12.2%)、「病弱でできない」(9.2%)、「運動したいと思わない」(7.3%)などの順となっている。(図3 - 10 - 1)

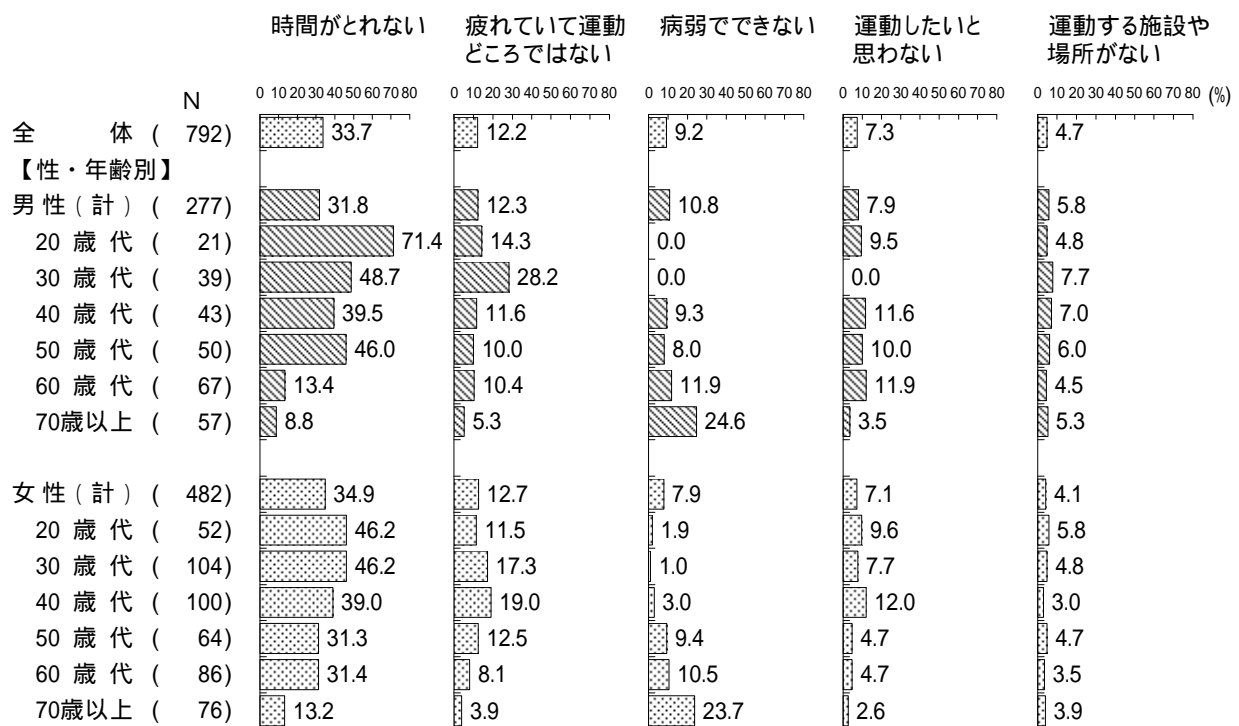
時系列でみると、過去の調査と同様に、「時間がとれない」が最も多い理由となっている。また、「運動する施設や場所がない」はおおむね減少傾向となっている。(図3 - 10 - 2)

図3 - 10 - 2 時系列 スポーツ・運動をしない理由



上位5項目を性・年齢別にみると、「時間がとれない」は男性20歳代が70%を超えて最も多くなっている。「疲れていて運動どころではない」は男性30歳代が30%近くで最も多く、「病弱でできない」は男女とも70歳以上が20%台で多くなっている。(図3-10-3)

図3-10-3 性・年齢別 スポーツ・運動をしない理由

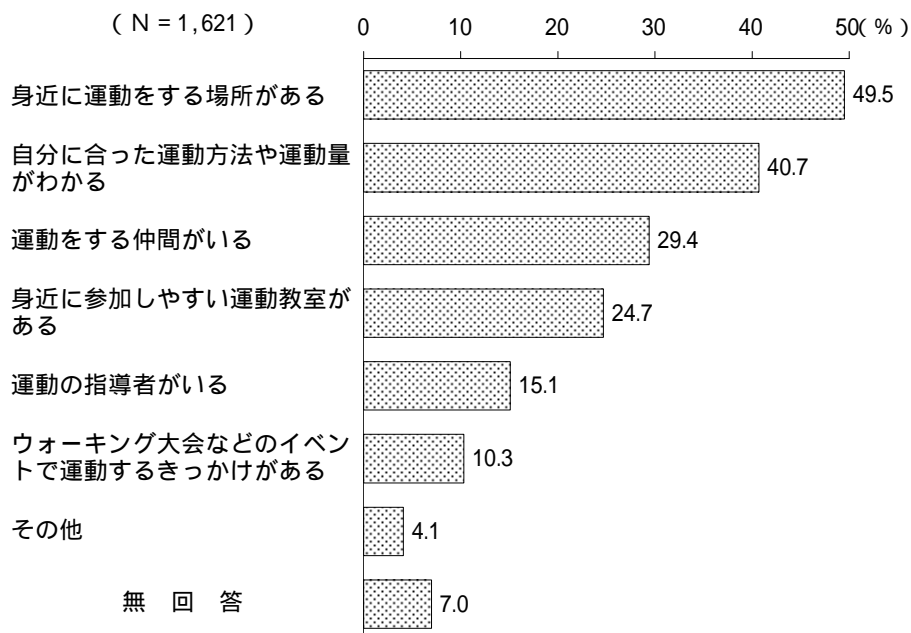


3 - 11 運動習慣を身に付けるために必要なこと

「身近に運動をする場所がある」が49.5%

問16 健康を保つための運動習慣を身に付けるために、どのようなことがあるとよいと思いますか。 (はいくつでも)

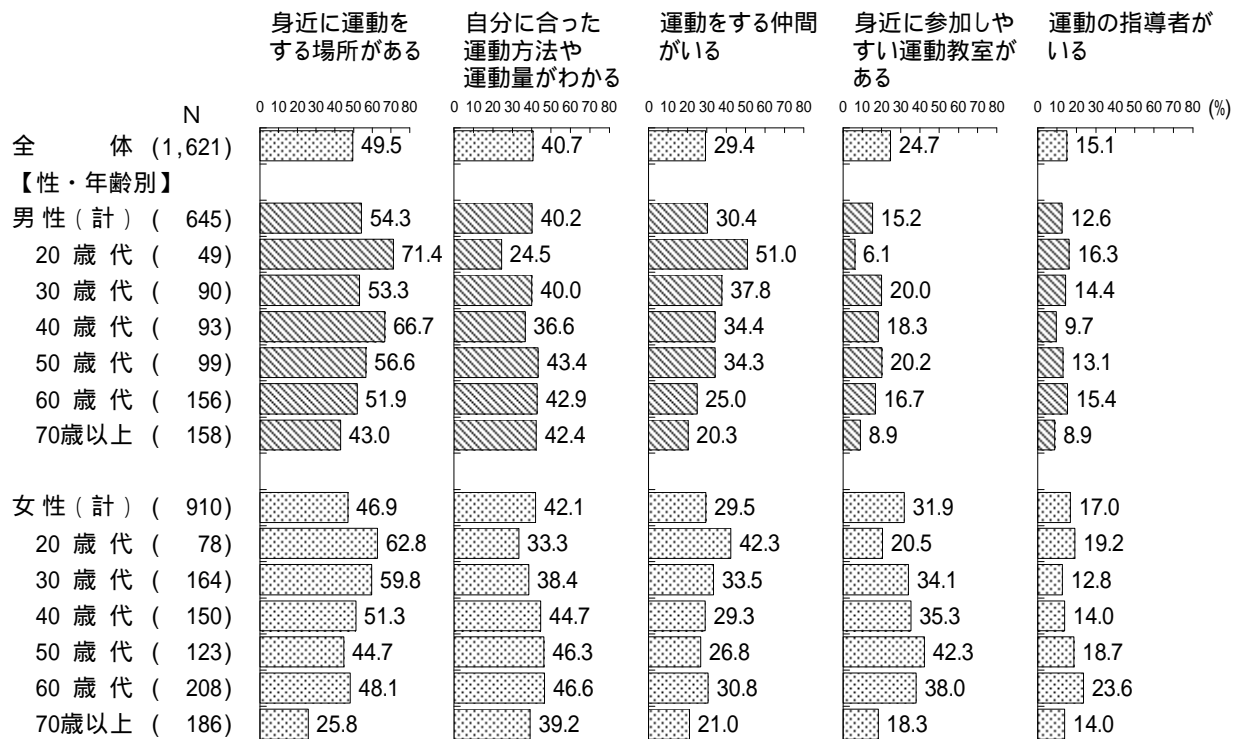
図3 - 11 - 1



運動習慣を身につけるために必要なことをたずねたところ、「身近に運動をする場所がある」(49.5%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、「自分に合った運動方法や運動量がわかる」(40.7%)、「運動をする仲間がいる」(29.4%)、「身近に参加しやすい運動教室がある」(24.7%)、「運動の指導者がいる」(15.1%)などの順となっている。(図3 - 11 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「身近に運動をする場所がある」は男性20歳代が70%を超えて最も多く、「運動をする仲間がいる」は男性20歳代が50%を超えて最も多くなっている。「身近に参加しやすい運動教室がある」は女性（31.9%）が男性（15.2%）より16.7ポイント高く、特に女性50歳代が40%を超えて多くなっている。（図3 - 11 - 2）

図3 - 11 - 2 性・年齢別 運動習慣を身につけるために必要なこと



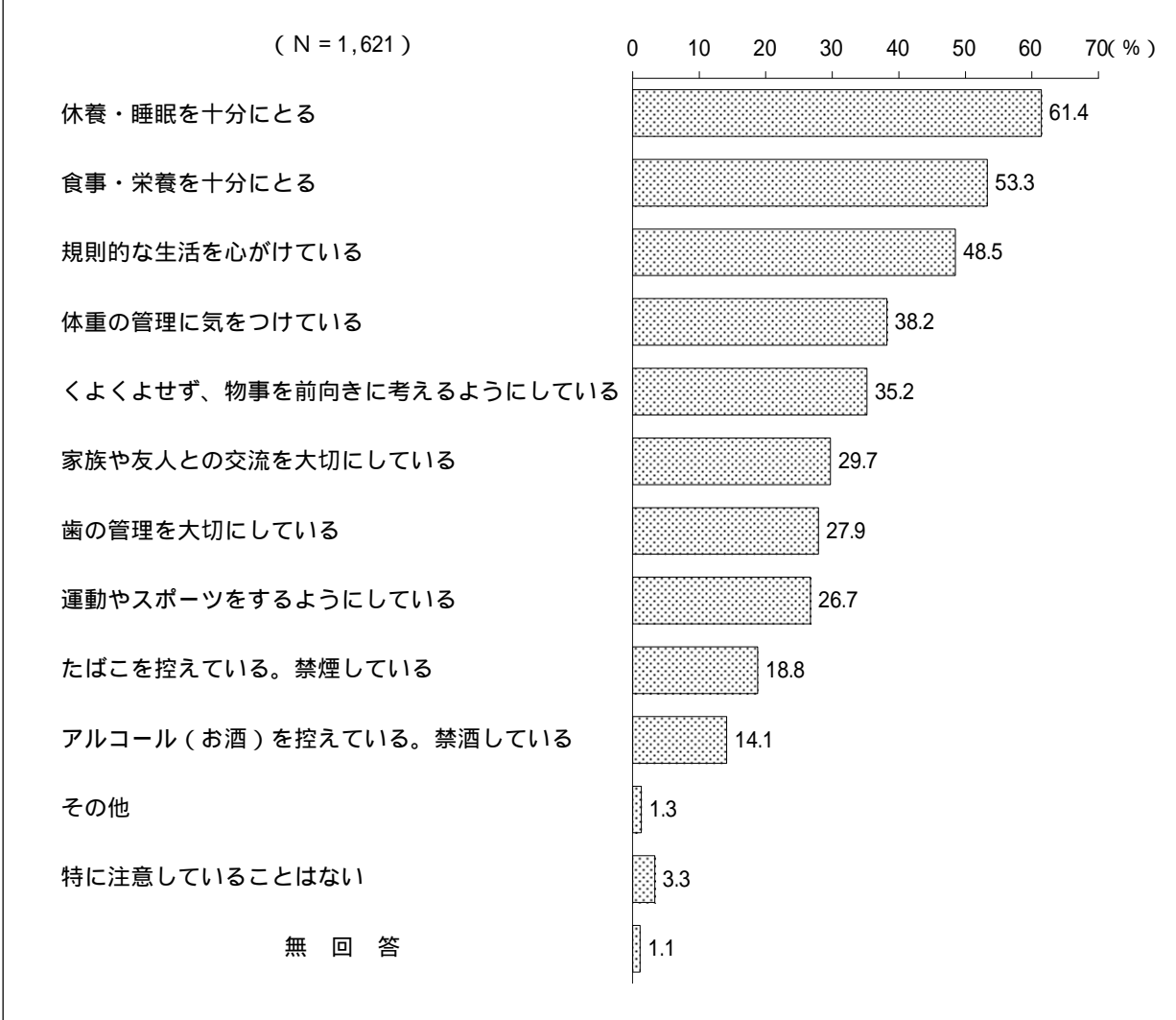
4 . 保健・福祉・医療

4 - 1 健康のために注意していること

「休養・睡眠を十分にとる」が61.4%

問17 現在の健康を保つため、日常生活を送る上で特に注意していることはありますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 (はいいくつでも)

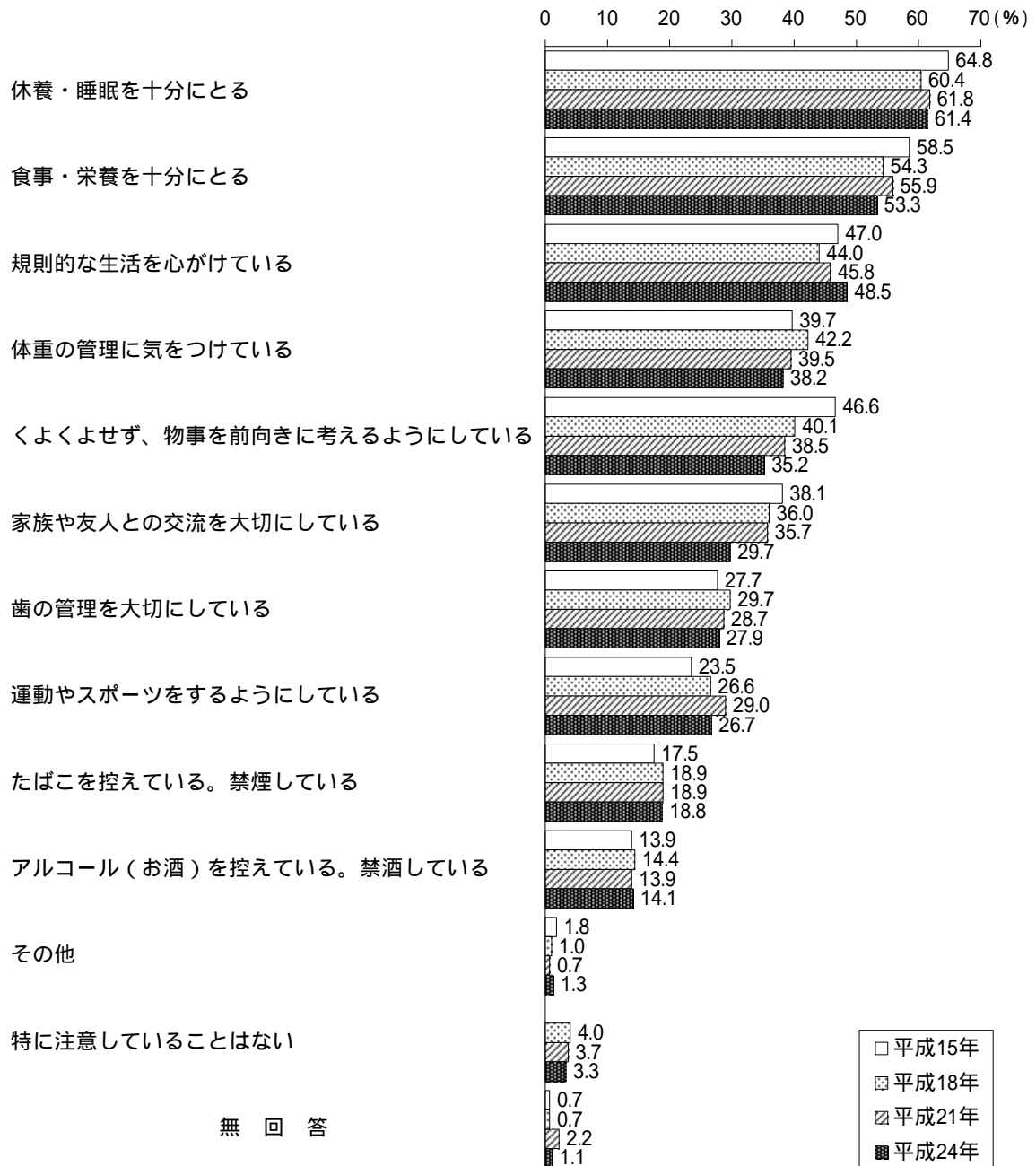
図4 - 1 - 1



健康のために注意していることをたずねたところ、「休養・睡眠を十分にとる」(61.4%)が最も多く、60%を超えている。以下、「食事・栄養を十分にとる」(53.3%)、「規則的な生活を心がけている」(48.5%)、「体重の管理に気をつけている」(38.2%)、「くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている」(35.2%)などの順となっている。(図4 - 1 - 1)

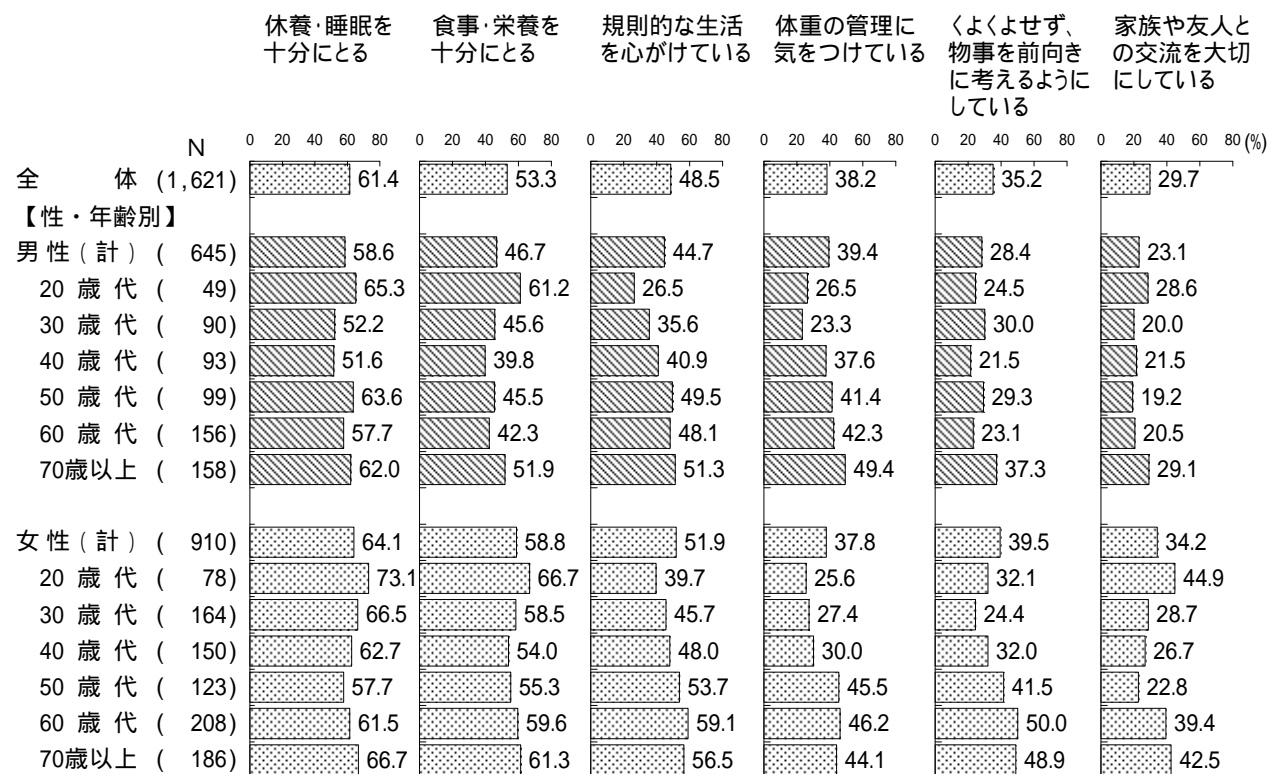
時系列でみると、「くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている」と「家族や友人との交流を大切にしている」が減少傾向となっている。それ以外の項目では、大きな傾向の違いはみられない。(図4 - 1 - 2)

図4 - 1 - 2 時系列 健康のために注意していること



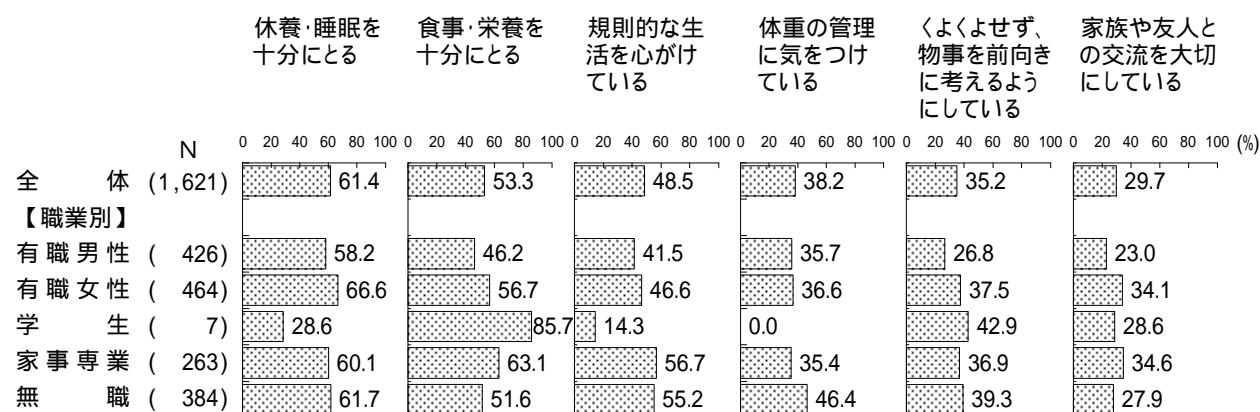
上位6項目について性・年齢別にみると、「休養・睡眠を十分にとる」と「食事・栄養を十分にとる」は、男女とも20歳代が他の年代に比べて最も割合が多くなっている。「規則的な生活を心がけている」と「体重の管理に気をつけている」はおおむね年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にある。「くよくよせず、物事を前向きに考えるようにしている」は女性60歳代と70歳以上が50%前後で多くなっている。(図4-1-3)

図4-1-3 性・年齢別 健康のために注意していること



職業別にみると、「規則的な生活を心がけている」は家事専業と無職がともに50%半ばで多くなっている。「体重の管理に気をつけている」は無職が40%半ばで多くなっている。(図4-1-4)

図4-1-4 職業別 健康のために注意していること

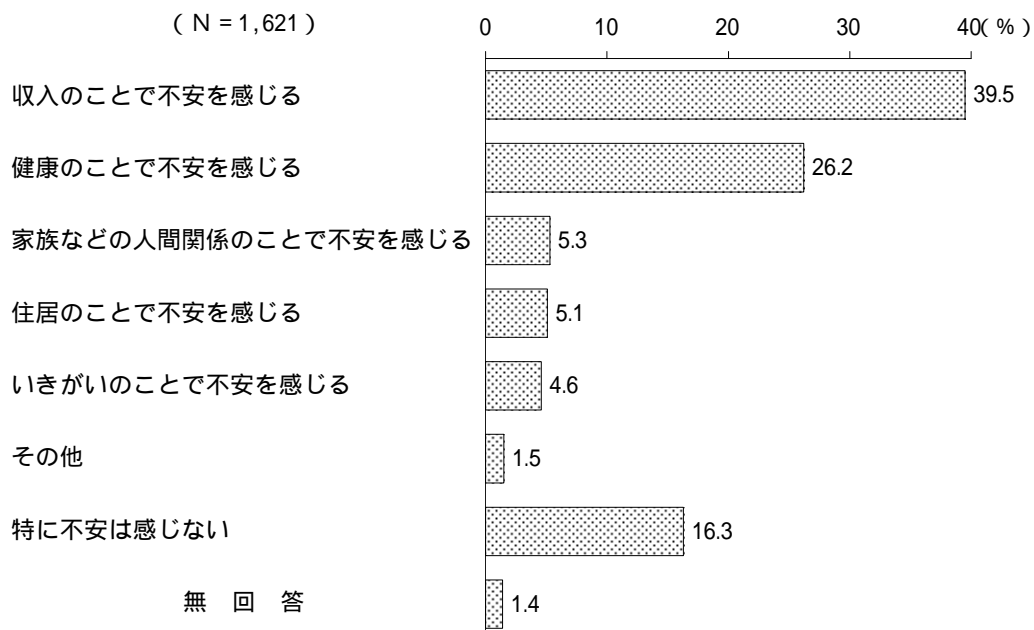


4 - 2 老後の生活への不安

「収入のことで不安を感じる」が39.5%

問18 あなたは老後の生活について不安を感じますか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。 (は1つ)

図4 - 2 - 1



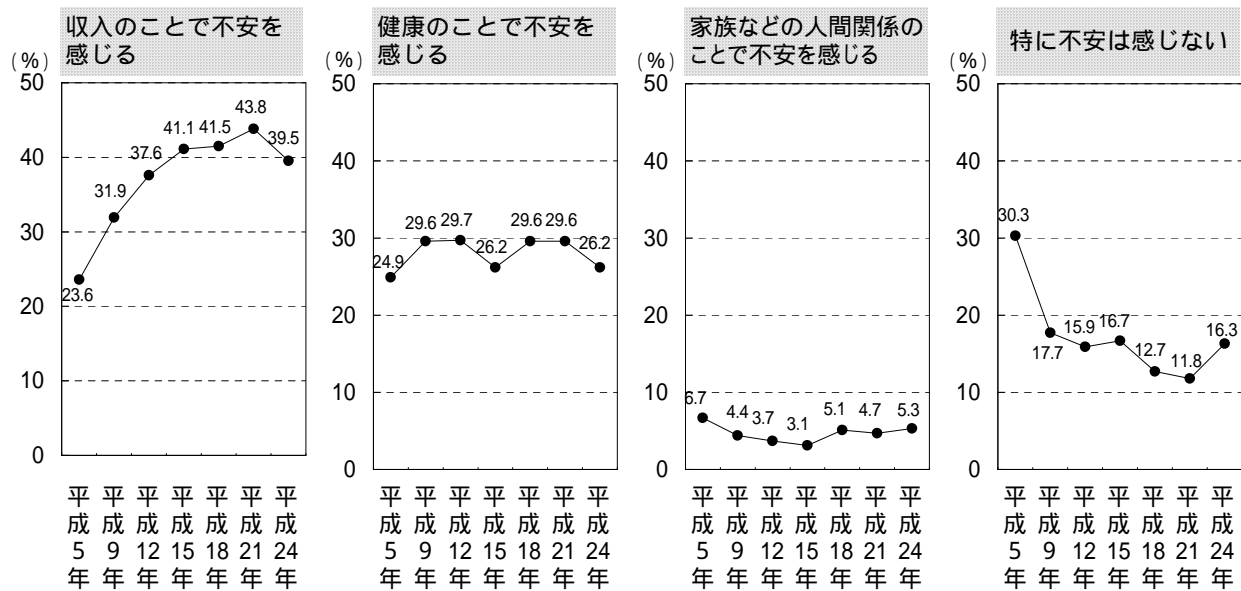
老後の生活への不安をたずねたところ、「収入のことで不安を感じる」(39.5%)が最も多く、40%近くとなっている。以下、「健康のことで不安を感じる」(26.2%)、「家族などの人間関係のことで不安を感じる」(5.3%)、「住居のことで不安を感じる」(5.1%)、「いきがいのことで不安を感じる」(4.6%)の順となっている。また、「特に不安は感じない」(16.3%)は10%半ばとなっている。

(図4 - 2 - 1)

上位4項目を時系列でみると、「収入のことで不安を感じる」は前回調査と比べて4.3ポイント減少している。「特に不安は感じない」は前回調査と比べて4.5ポイント増加している。

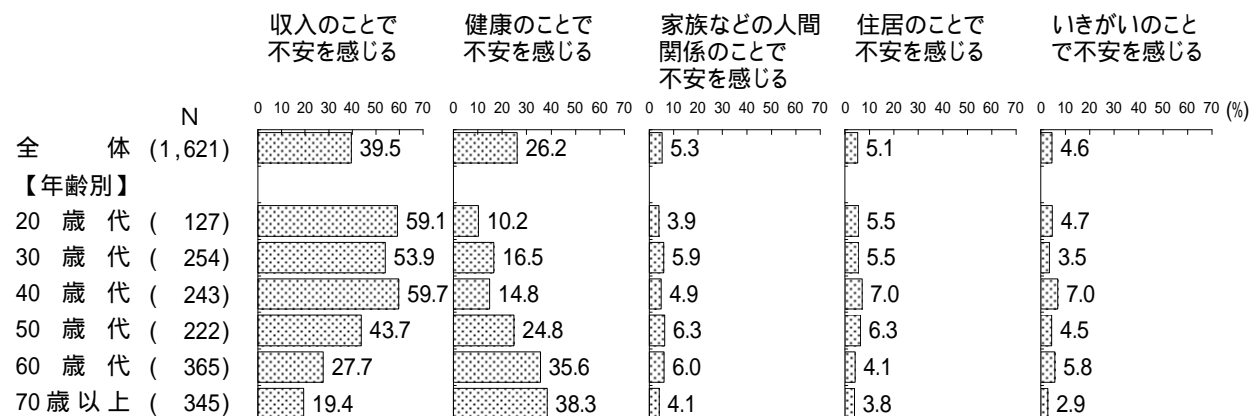
(図4-2-2)

図4-2-2 時系列 老後の生活への不安



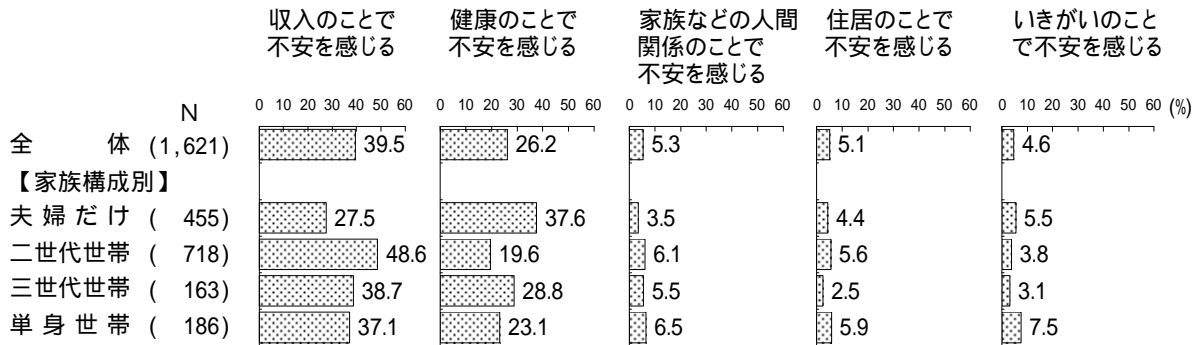
年齢別にみると、「収入のことで不安を感じる」は20歳代から40歳代の年代がいずれも50%台で多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は70歳以上が40%近く、60歳代が30%半ばで多くなっている。(図4-2-3)

図4-2-3 年齢別 老後の生活への不安



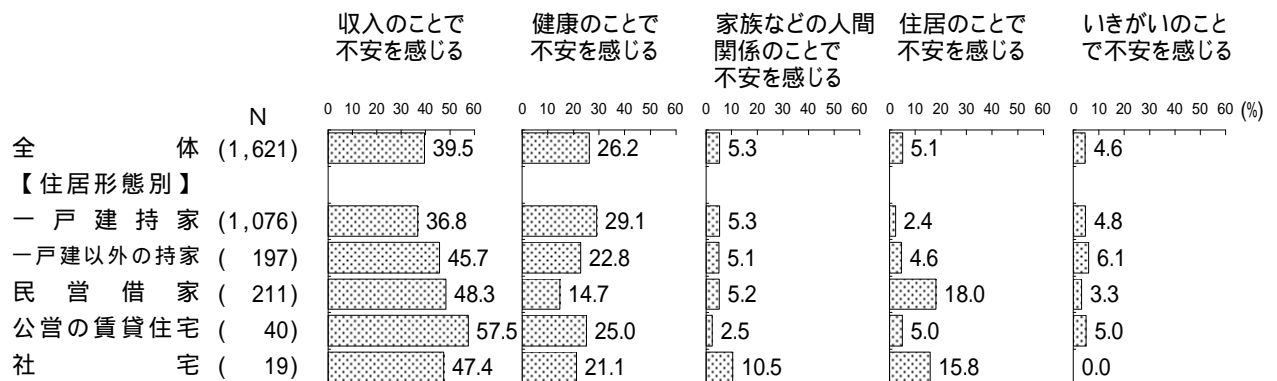
家族構成別にみると、「収入のことで不安を感じる」は二世帯世帯が50%近くで多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は夫婦だけの世帯が40%近くで多くなっている。(図4-2-4)

図4-2-4 家族構成別 老後の生活への不安



住居形態別にみると、「収入のことで不安を感じる」は公営の賃貸住宅が60%近くで多くなっている。「健康のことで不安を感じる」は一戸建持家が30%近くで多くなっている。「住居のことで不安を感じる」は民間借家が20%近くで多くなっている。(図4-2-5)

図4-2-5 住居形態別 老後の生活への不安

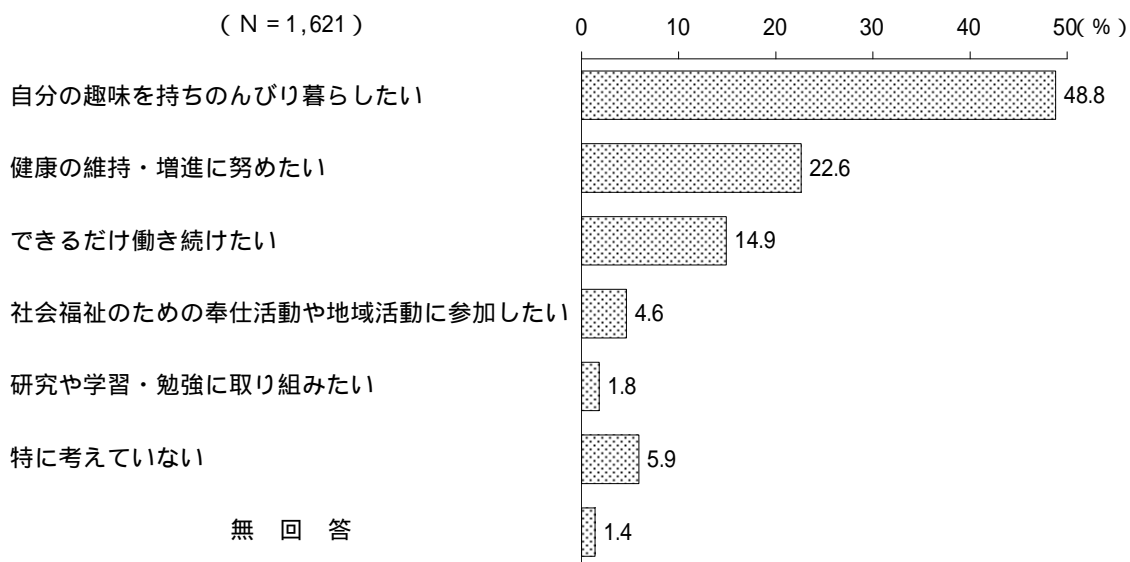


4 - 3 老後の過ごし方

「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」が48.8%

問19 あなたは、老後の過ごし方についてどのようにお考えですか。自分の考えに近いものを次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

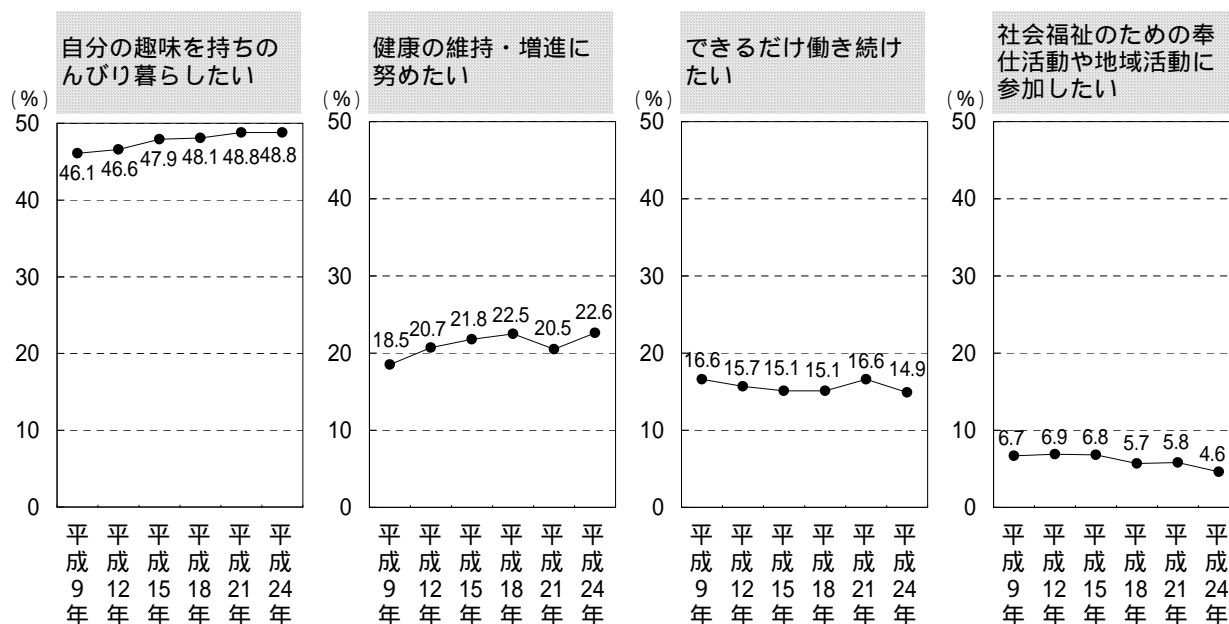
図4 - 3 - 1



老後の過ごし方をたずねたところ、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」(48.8%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、「健康の維持・増進に努めたい」(22.6%)、「できるだけ働きたい」(14.9%)、「社会福祉のための奉仕活動や地域活動に参加したい」(4.6%)などの順となっている。(図4 - 3 - 1)

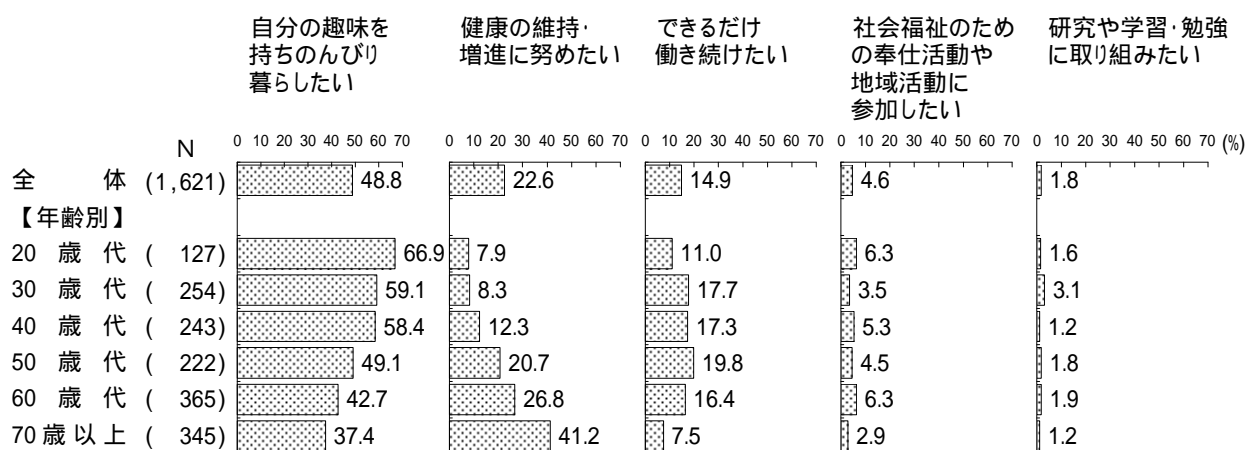
上位4項目を時系列でみると、過去の調査とほぼ同じ傾向となっている。(図4-3-2)

図4-3-2 時系列 老後の過ごし方



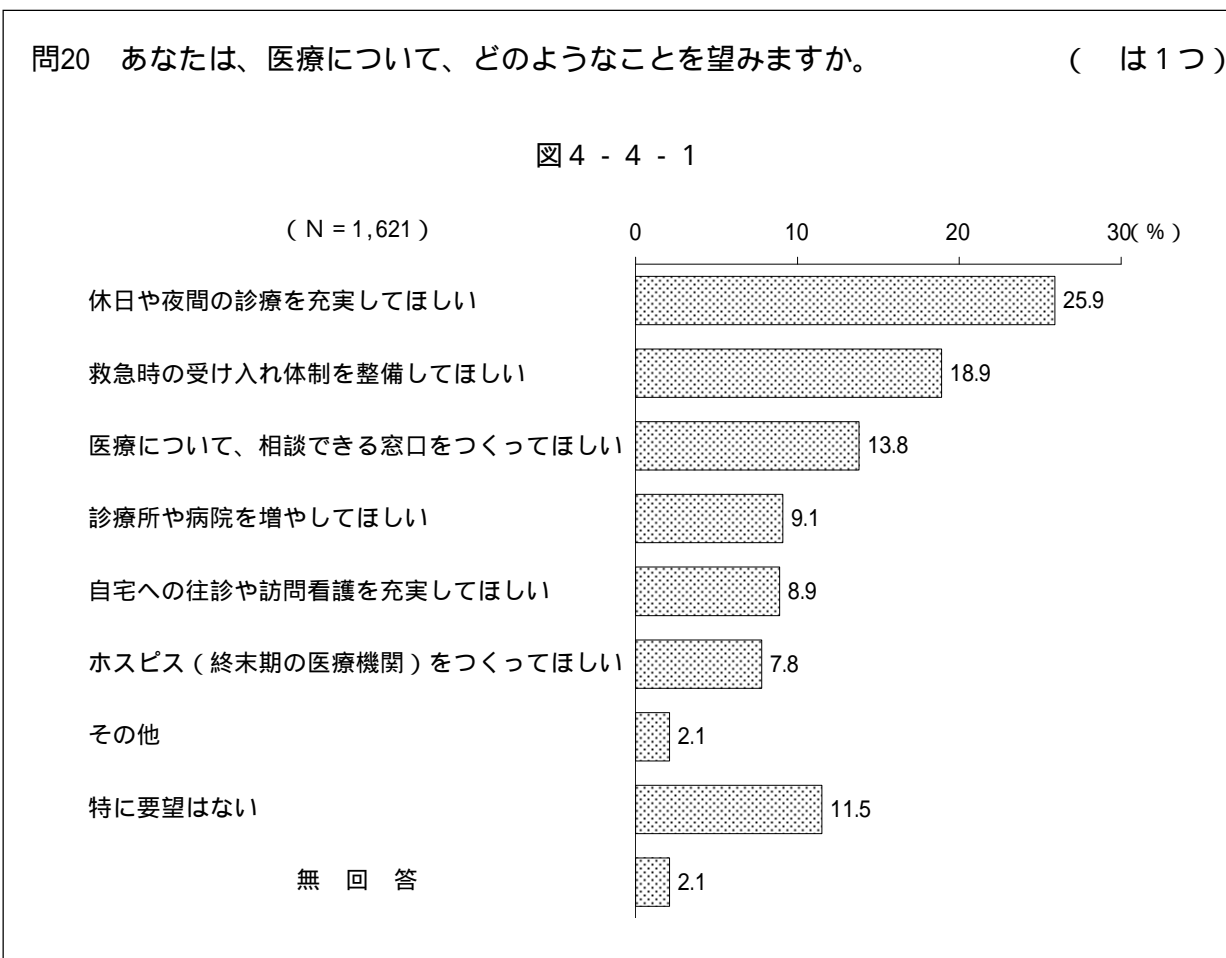
年齢別にみると、「自分の趣味を持ちのんびり暮らしたい」は低い年代ほど割合が高くなっており、特に20歳代が60%半ばで多くなっている。「健康の維持・増進に努めたい」は高い年代ほど割合が高くなっており、特に70歳以上が40%を超えている。(図4-3-3)

図4-3-3 年齢別 老後の過ごし方



4 - 4 医療に対する要望

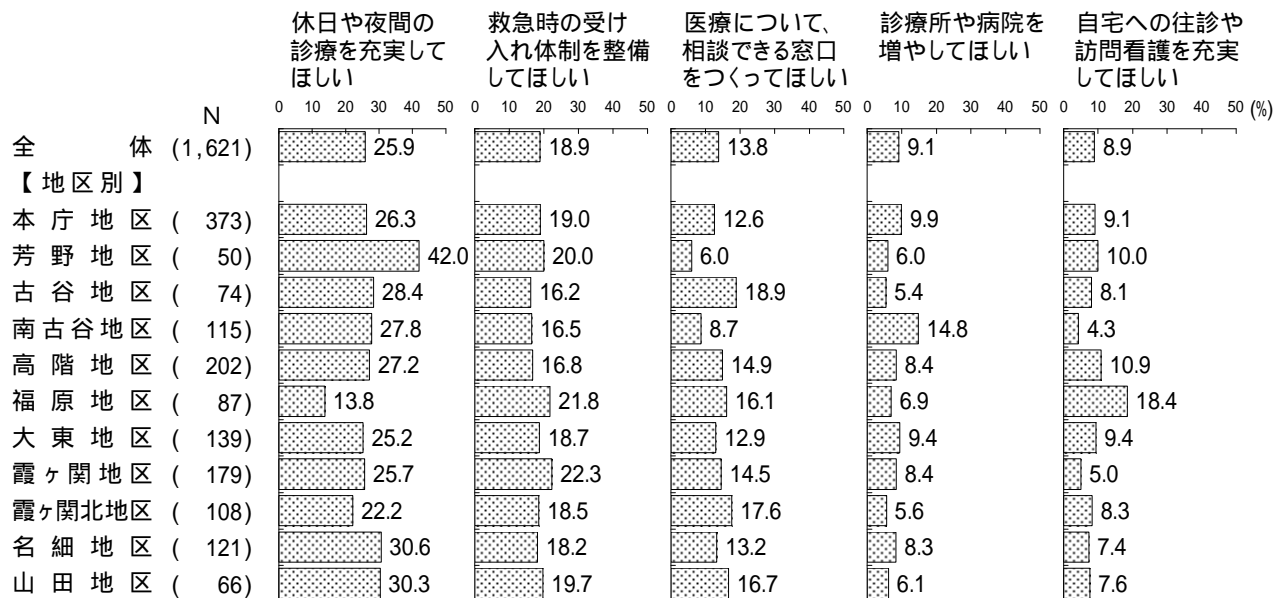
「休日や夜間の診療を充実してほしい」が25.9%



医療に対する要望をたずねたところ、「休日や夜間の診療を充実してほしい」(25.9%)が最も多く、20%半ばとなっている。以下、「救急時の受け入れ体制を整備してほしい」(18.9%)、「医療について、相談できる窓口をつくってほしい」(13.8%)、「診療所や病院を増やしてほしい」(9.1%)、「自宅への往診や訪問看護を充実してほしい」(8.9%)などの順となっている。(図4 - 4 - 1)

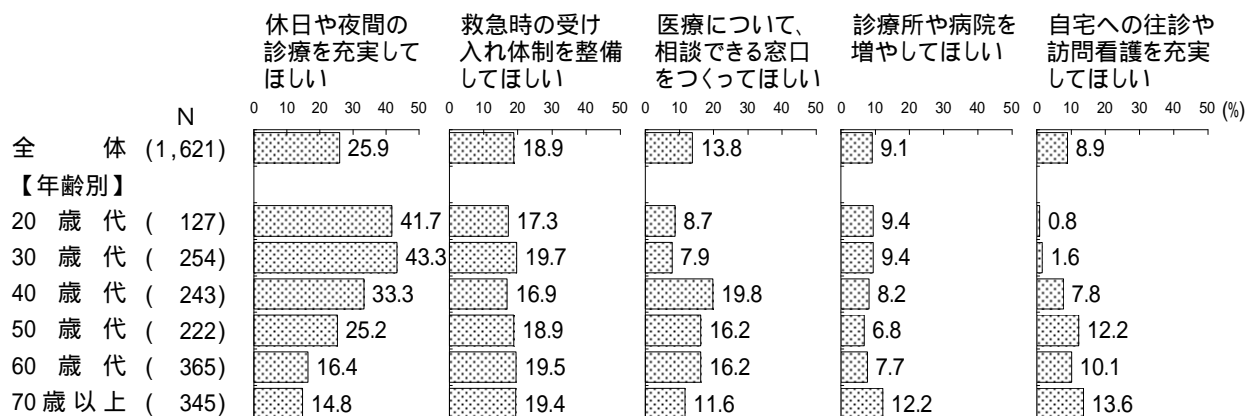
上位5項目を地区別にみると、「休日や夜間の診療を充実してほしい」は芳野地区が40%を超えて多くなっている。「自宅への往診や訪問看護を充実してほしい」は福原地区が20%近くで多くなっている。(図4-4-2)

図4-4-2 地区別 医療に対する要望



上位5項目を年齢別にみると、「休日や夜間の診療を充実してほしい」は20歳代と30歳代がともに40%を超えて多くなっている。「医療について、相談できる窓口をつくってほしい」は40歳代が20%近くとなっている。(図4-4-3)

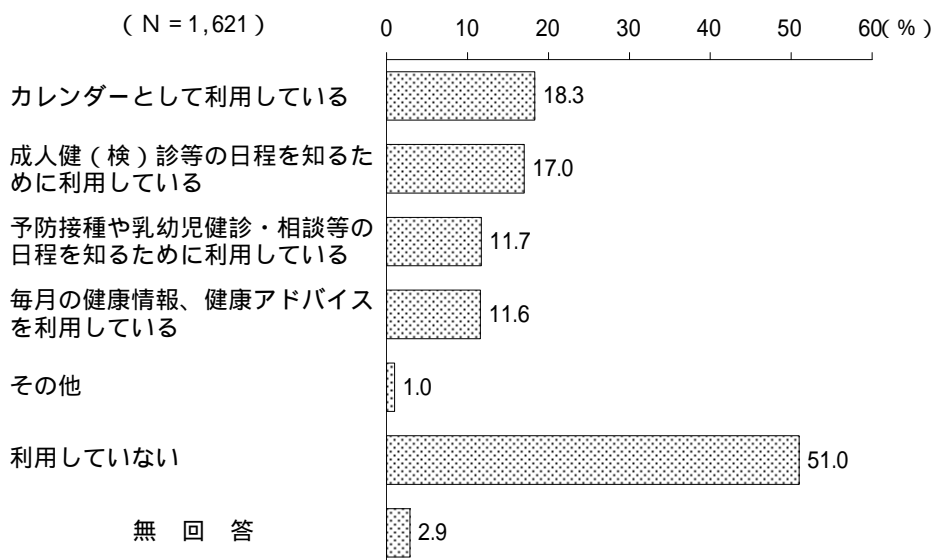
図4-4-3 年齢別 医療に対する要望



4 - 5 「健康づくりスケジュール」の利用法 「カレンダーとして利用している」が18.3%

問21 あなたは、「健康づくりスケジュール」をどのように利用していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（はいくつでも）

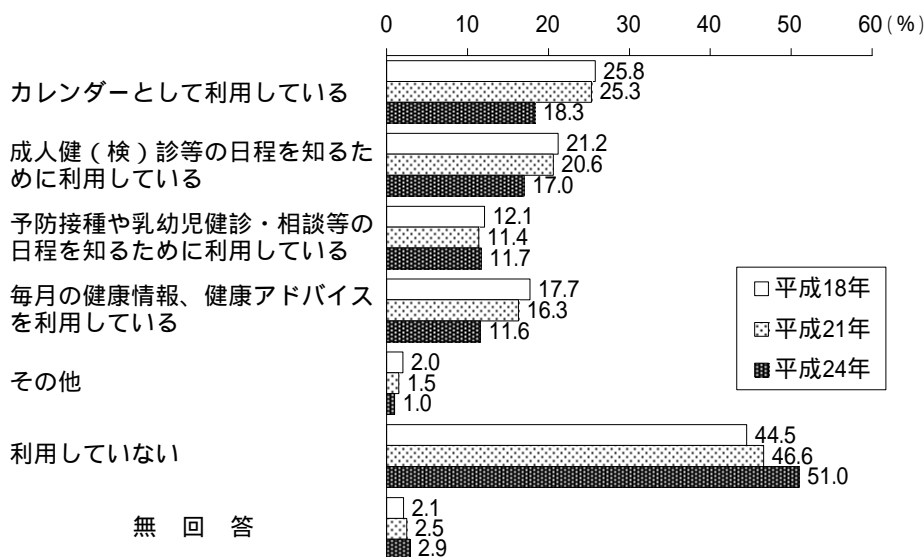
図4 - 5 - 1



「健康づくりスケジュール」の利用法をたずねたところ、「カレンダーとして利用している」（18.3%）が最も多く、20%近くとなっている。以下、「成人健（検）診等の日程を知るために利用している」（17.0%）、「予防接種や乳幼児健診・相談等の日程を知るために利用している」（11.7%）、「毎月の健康情報、健康アドバイスを利用している」（11.6%）の順となっている。また、「利用していない」（51.0%）は50%を超えている。（図4 - 5 - 1）

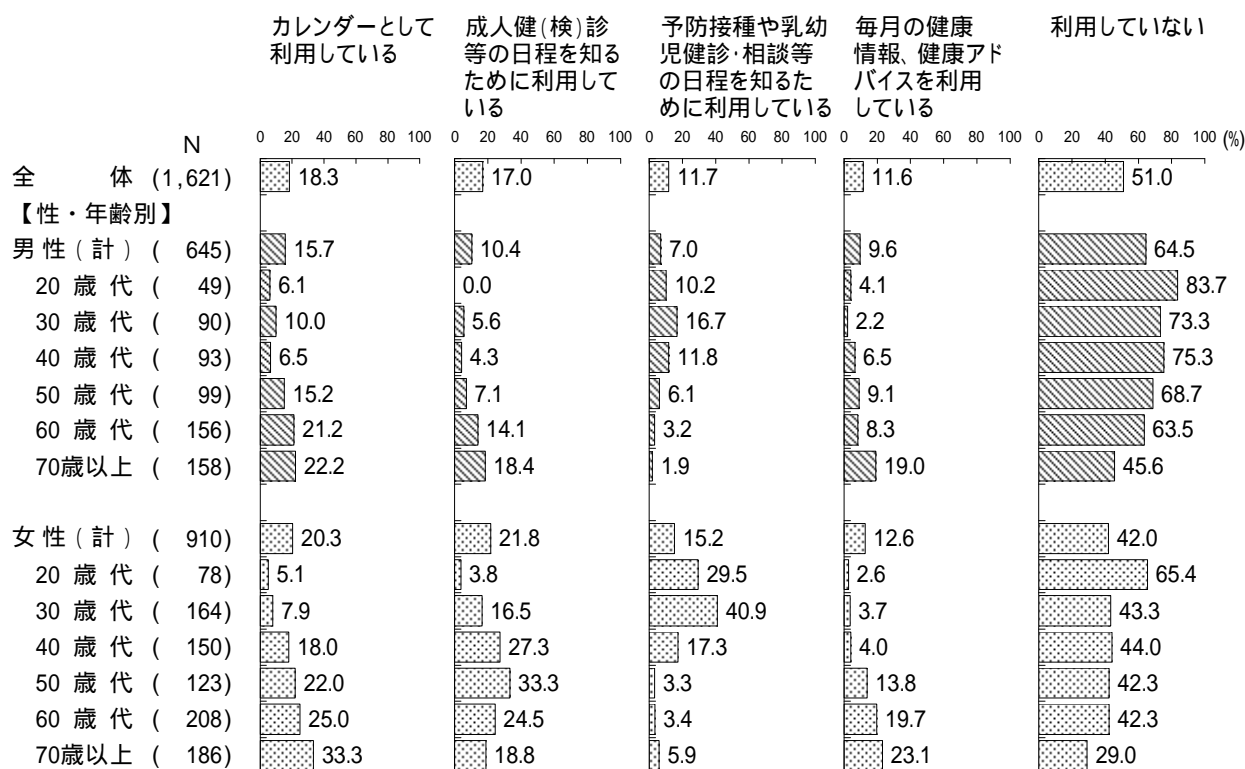
時系列でみると、前回調査と比べて「カレンダーとして利用している」で7.0ポイント、「毎月の健康情報、健康アドバイスを利用している」で4.7ポイント減少している。逆に「利用していない」は前回調査と比べて4.4ポイント増加している。(図4-5-2)

図4-5-2 時系列 「健康づくりスケジュール」の利用法



性・年齢別にみると、「カレンダーとして利用している」は女性70歳以上が30%を超えて多くなっている。「成人健(検)診等の日程を知るために利用している」は女性50歳代が30%を超えて多くなっている。「予防接種や乳幼児健診・相談等の日程を知るために利用している」は女性30歳代が40%を超え、女性20歳代が30%近くで多くなっている。(図4-5-3)

図4-5-3 性・年齢別 「健康づくりスケジュール」の利用法



4 - 6 特定健康診査の認知度

「知っている」は63.7%

問22 あなたは「特定健康診査」を知っていますか。 (は1つ)

特定健康診査は、高血圧症や糖尿病等の生活習慣病の発症や重症化を予防する目的で行われている健診(メタボ健診)で、40歳以上の方が対象です。

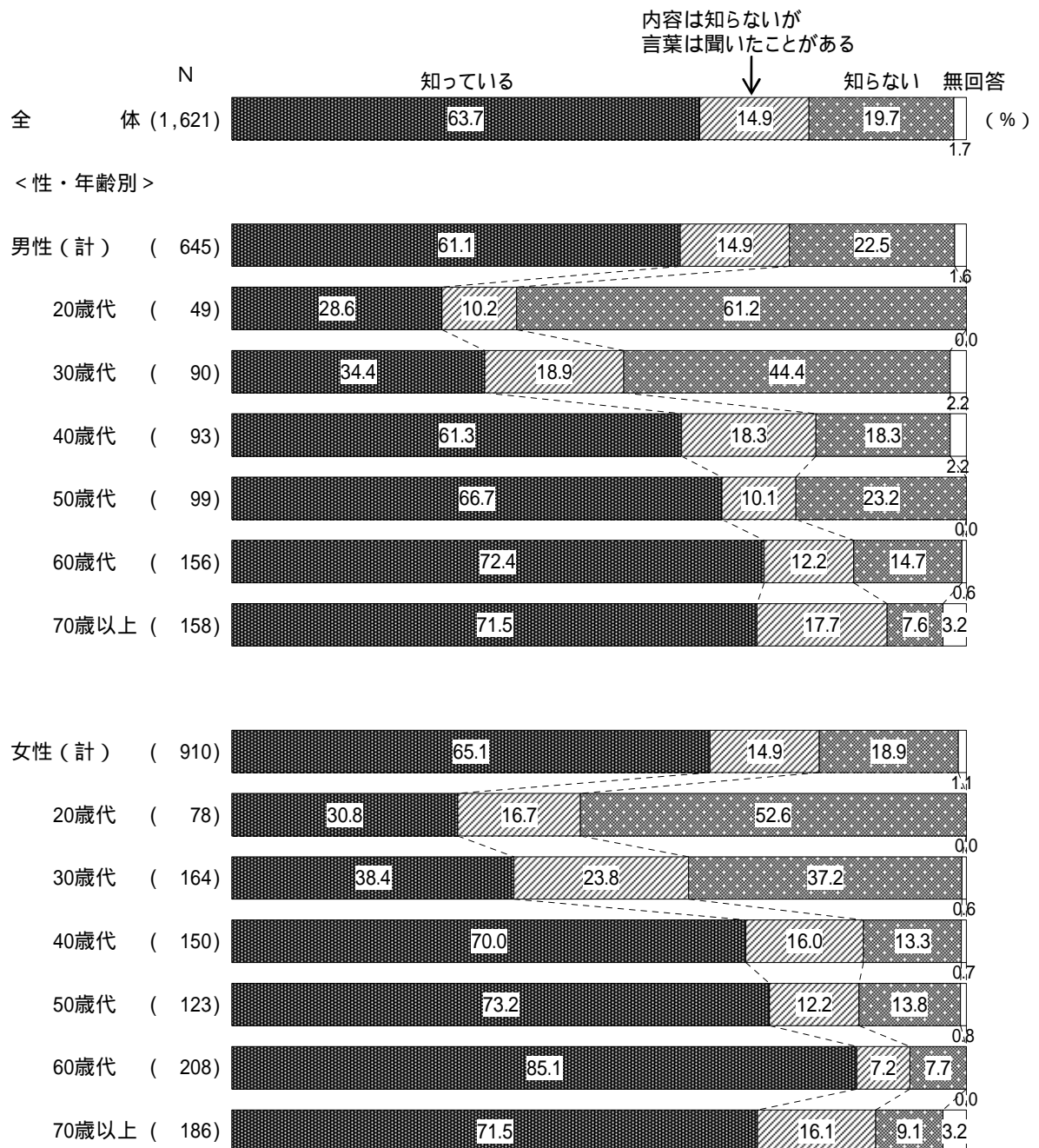
図4 - 6 - 1



特定健康診査を知っているかたずねたところ、「知っている」(63.7%)が最も多く、60%を超えている。「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」(14.9%)は10%半ばで、「知らない」(19.7%)は20%近くとなっている。(図4 - 6 - 1)

性・年齢別にみると、「知っている」は男女とも40歳代以上の年代で多くなっており、特に女性60歳代が80%半ばで多くなっている。「知らない」は男性20歳代が60%を超え、女性20歳代が50%を超えている。(図4-6-2)

図4-6-2 性・年齢別 特定健康診査の認知度

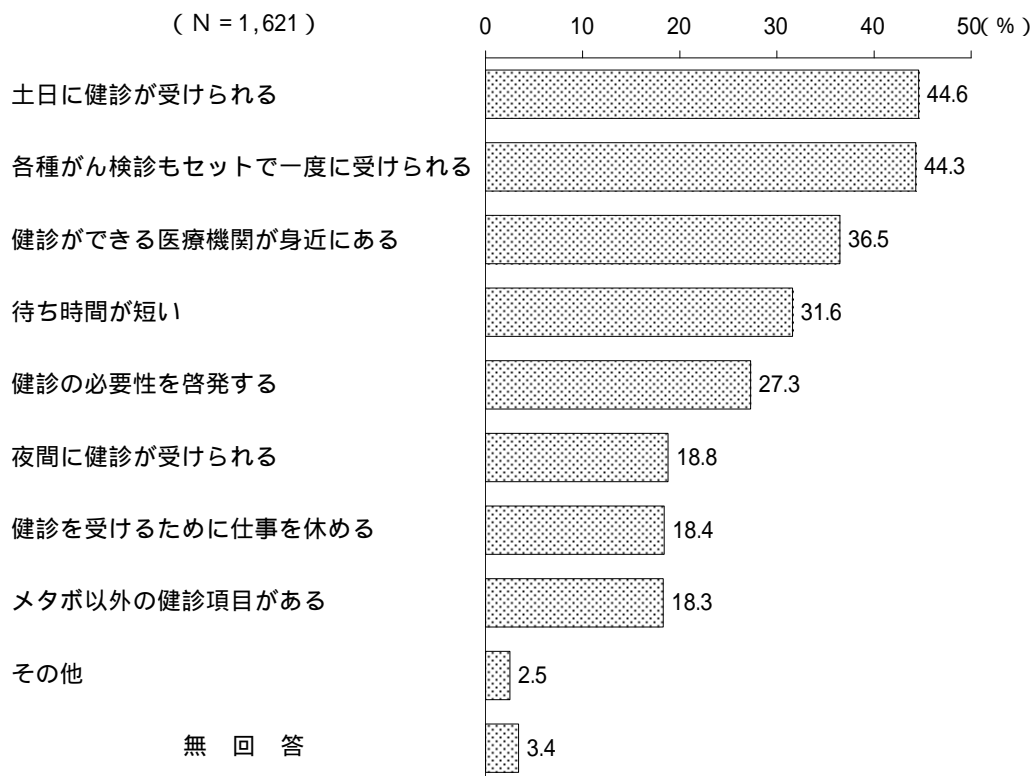


4 - 7 特定健康診査の受診率向上のための取組

「土日に健診が受けられる」が44.6%、「各種がん検診もセットで一度に受けられる」が44.3%

問23 多くの方に特定健康診査を受けてもらうために、どのようにすべきだと思いますか。
(はいくつでも)

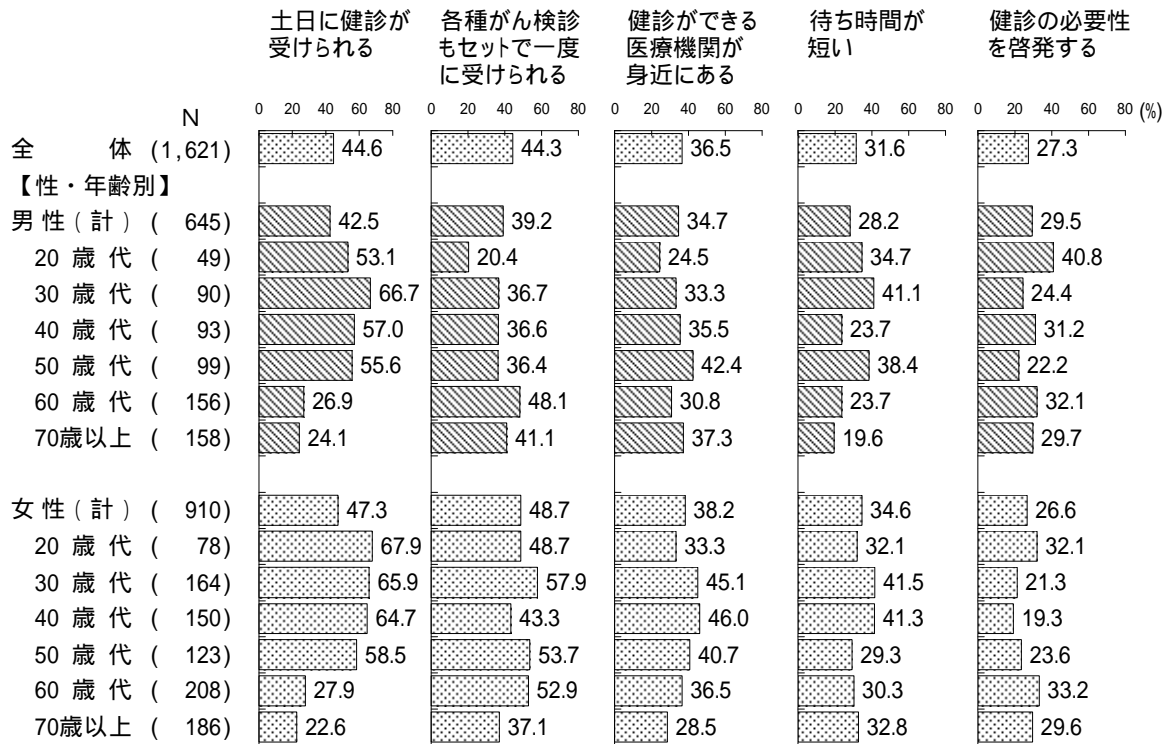
図4 - 7 - 1



特定健康診査の受診率向上のための取組をたずねたところ、「土日に健診が受けられる」(44.6%)と「各種がん検診もセットで一度に受けられる」(44.3%)が多く、ともに40%半ばとなっている。以下、「健診ができる医療機関が身近にある」(36.5%)、「待ち時間が短い」(31.6%)、「健診の必要性を啓発する」(27.3%)などの順となっている。(図4 - 7 - 1)

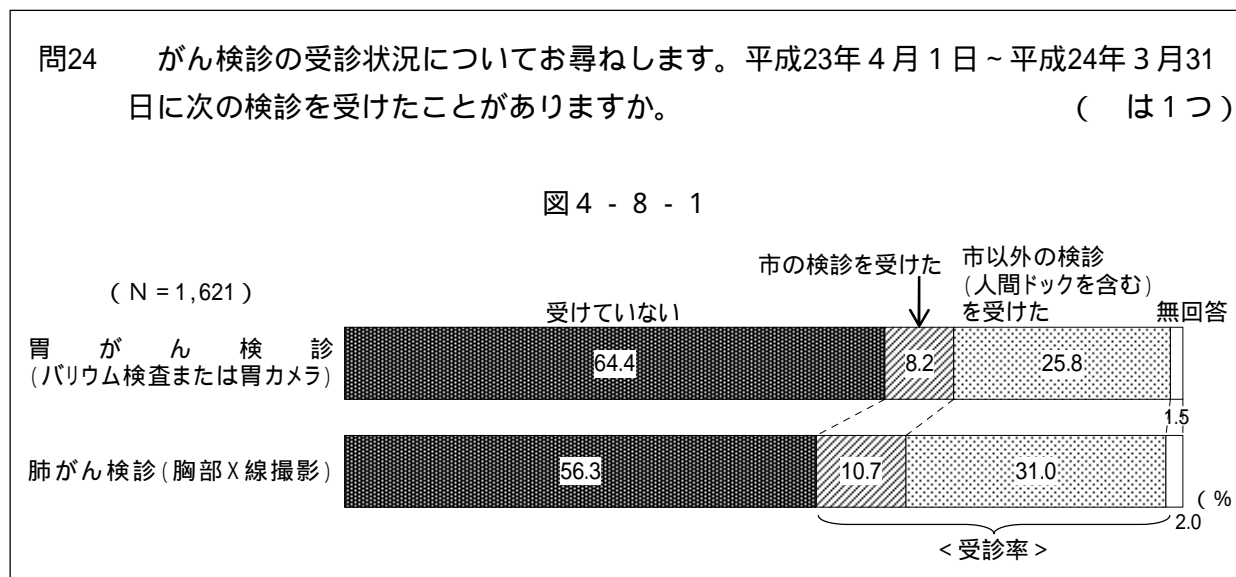
上位5項目を性・年齢別にみると、「土日に健診が受けられる」は男性30歳代、女性の20歳代から40歳代の年代がいずれも60%半ばで多くなっている。「各種がん検診もセットで一度に受けられる」は女性30歳代が60%近くで多くなっている。「健診ができる医療機関が身近にある」は女性30歳代と40歳代がいずれも40%半ばで多くなっている。「待ち時間が短い」は男性30歳代と女性30歳代、40歳代がいずれも40%を超えている。(図4-7-2)

図4-7-2 性・年齢別 特定健康診査の受診率向上のための取組



4 - 8 がん検診の受診状況

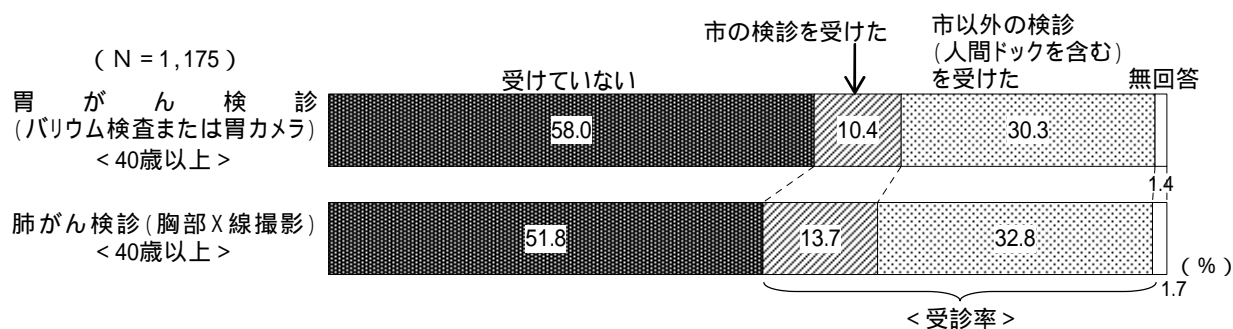
40歳以上の<受診率>は、胃がん検診が40.7%、肺がん検診が46.5%



がん検診の受診状況をたずねたところ、「市の検診を受けた」と「市以外の検診(人間ドックを含む)を受けた」の2つを合わせた<受診率>は、胃がん検診(バリウム検査または胃カメラ)(34.0%)が30%半ば、肺がん検診(胸部X線撮影)(41.7%)が40%を超えている。(図4-8-1)

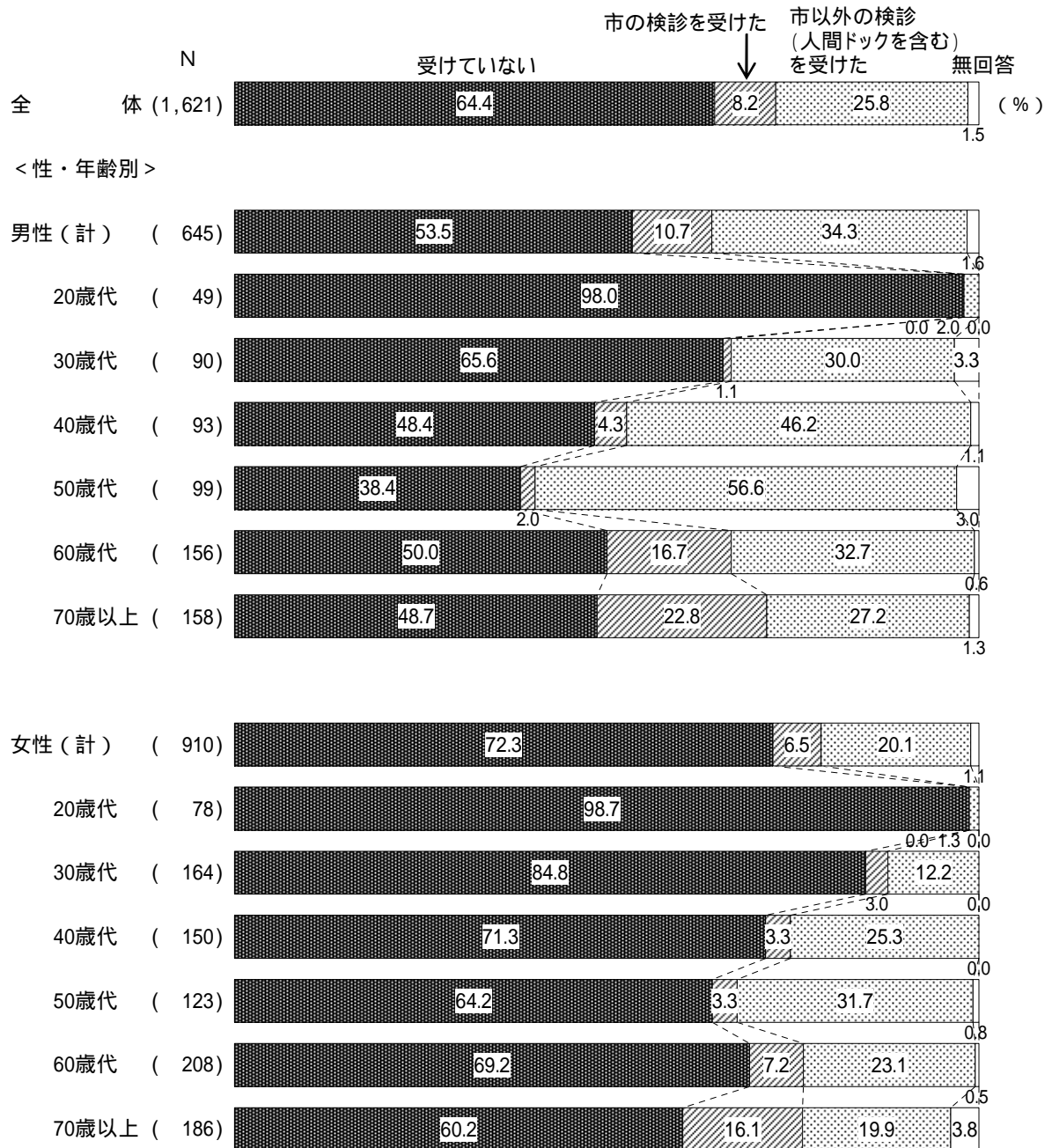
市のがん検診の対象年齢である40歳以上(1,175人)の<受診率>は、胃がん検診(バリウム検査または胃カメラ)(40.7%)が40%を超え、肺がん検診(胸部X線撮影)(46.5%)が40%半ばとなっている。(図4-8-2)

図4-8-2 40歳以上の方のがん検診の受診状況



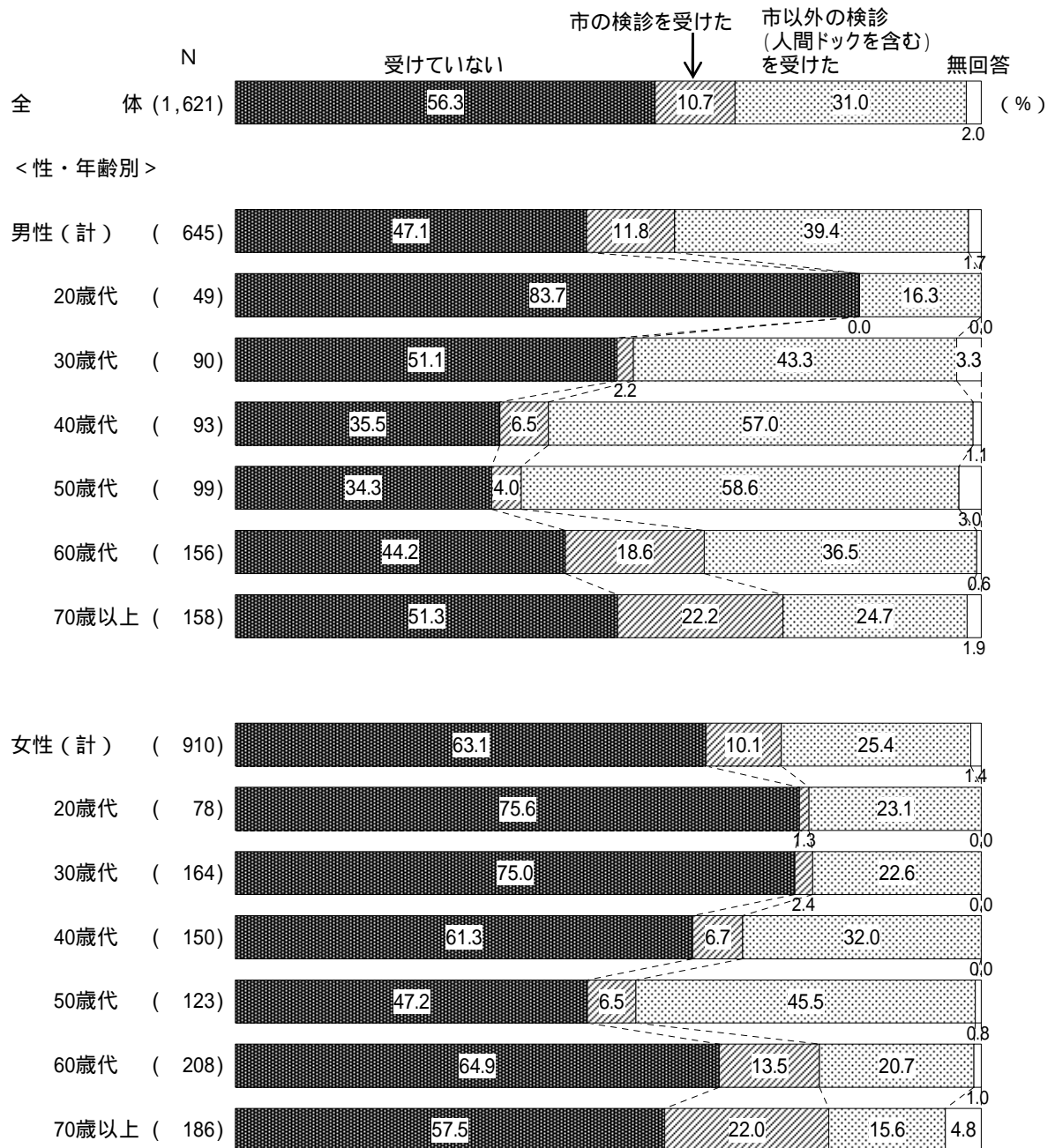
胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）について性・年齢別にみると、「市の検診を受けた」と「市以外の検診（人間ドックを含む）を受けた」の2つを合わせた＜受診率＞は、男性では、50歳代が60%近くで最も多く、40歳代、60歳代、70歳以上でも50%前後となっている。女性では、70歳以上が30%半ばで最も多く、40歳代、50歳代、60歳代でも30%前後となっている。（図4-8-3）

図4-8-3 性・年齢別 胃がん検診（バリウム検査または胃カメラ）の受診状況



肺がん検診（胸部X線撮影）について性・年齢別にみると、「市の検診を受けた」と「市以外の検診（人間ドックを含む）を受けた」の2つを合わせた＜受診率＞は、男性では、40歳代と50歳代がともに60%を超えて多く、60歳代でも50%半ばとなっている。女性では、50歳代が50%を超えて多く、40歳代、70歳以上でも40%近くとなっている。（図4 - 8 - 4）

図4 - 8 - 4 性・年齢別 肺がん検診（胸部X線撮影）の受診状況



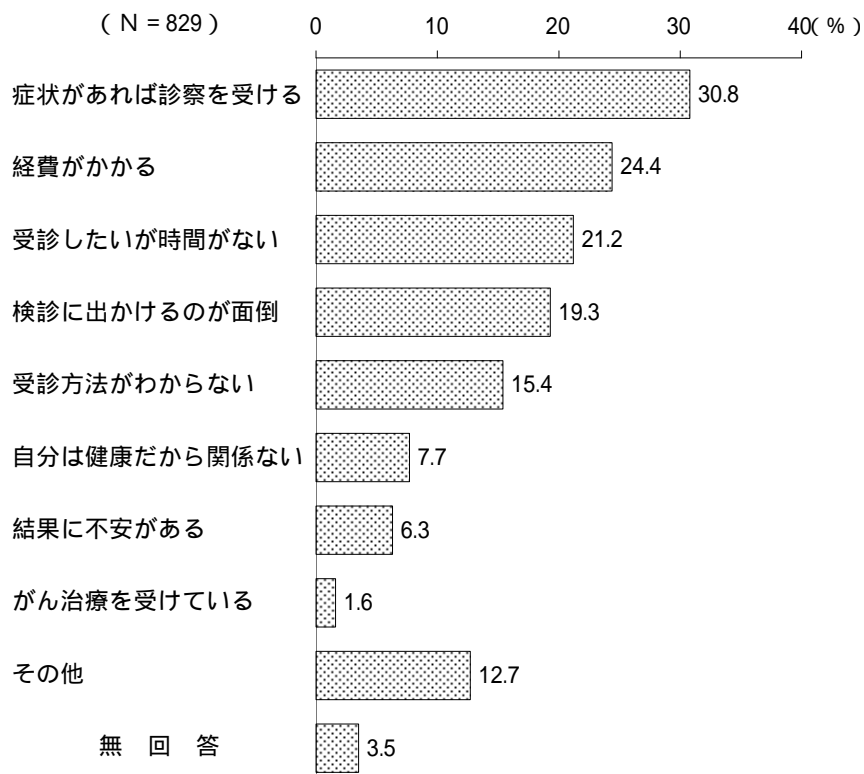
4 - 9 がん検診を受診していない理由

「症状があれば診察を受ける」が30.8%

問24 で胃がん検診・肺がん検診ともに「受けていない」と答えた方におたずねします。

問24 がん検診を受診しない理由は何ですか。 (はいくつでも)

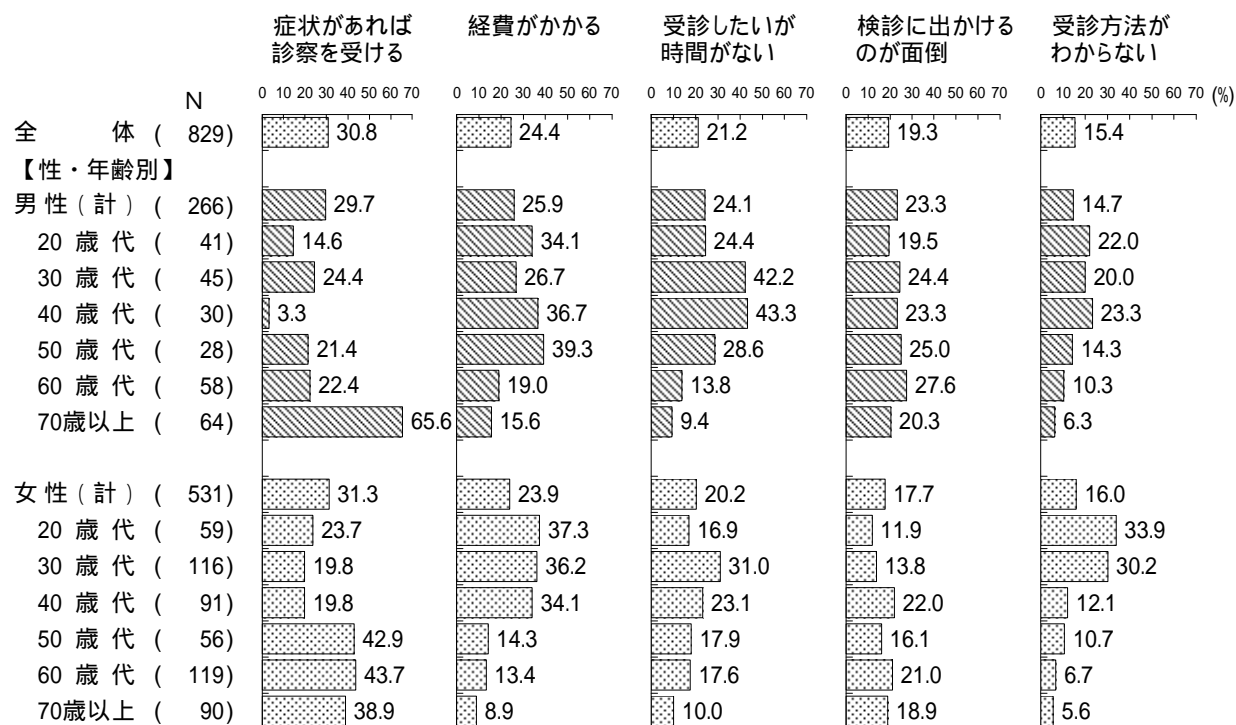
図4 - 9 - 1



問24 で胃がん検診・肺がん検診ともに「受けていない」と答えた人(829人)に、その理由をたずねたところ、「症状があれば診察を受ける」(30.8%)が最も多く、30%を超えている。以下、「経費がかかる」(24.4%)、「受診したいが時間がない」(21.2%)、「検診に出かけるのが面倒」(19.3%)、「受診方法がわからない」(15.4%)などの順となっている。(図4 - 9 - 1)

上位5項目を性・年齢別にみると、「症状があれば診察を受ける」は男性70歳以上が60%半ばで特に多く、女性50歳代と60歳代でもともに40%を超えて多くなっている。「経費がかかる」は男性50歳代と女性20歳代がともに40%近くで多くなっている。「受診したいが時間がない」は男性30歳代と40歳代がともに40%を超えて多く、「受診方法がわからない」は女性20歳代と30歳代がともに30%を超えて多くなっている。(図4-9-2)

図4-9-2 性・年齢別 がん検診を受診していない理由

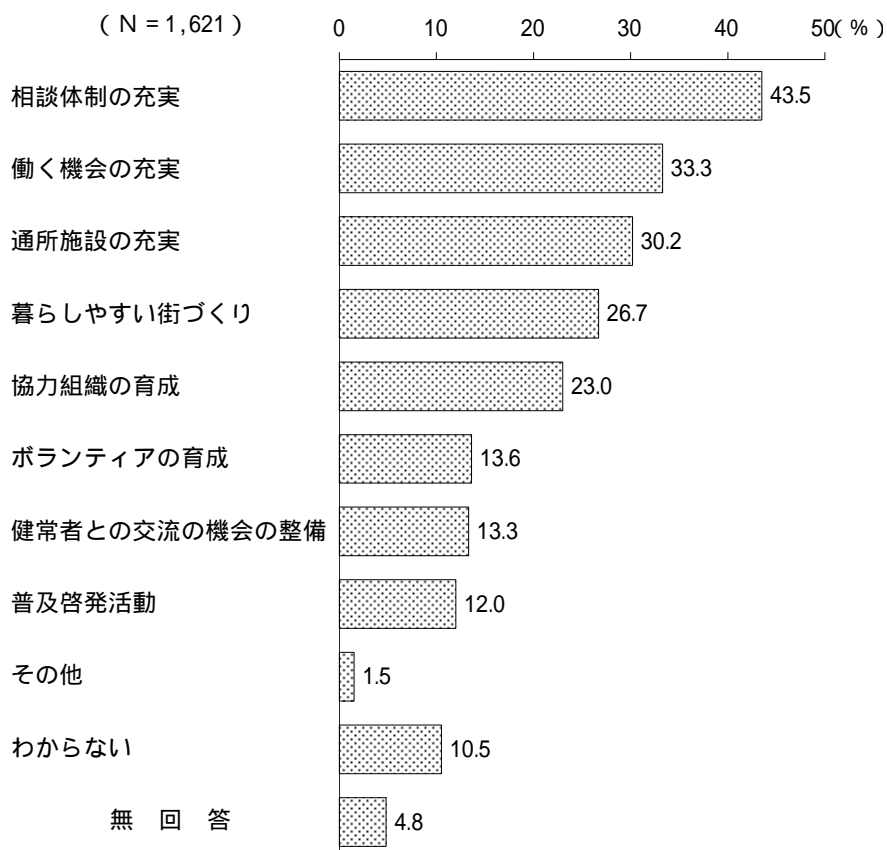


4 - 10 精神障害者のために充実すべきこと

「相談体制の充実」が43.5%

問25 精神に障害がある方のために特に充実していく必要があると思われるものは何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

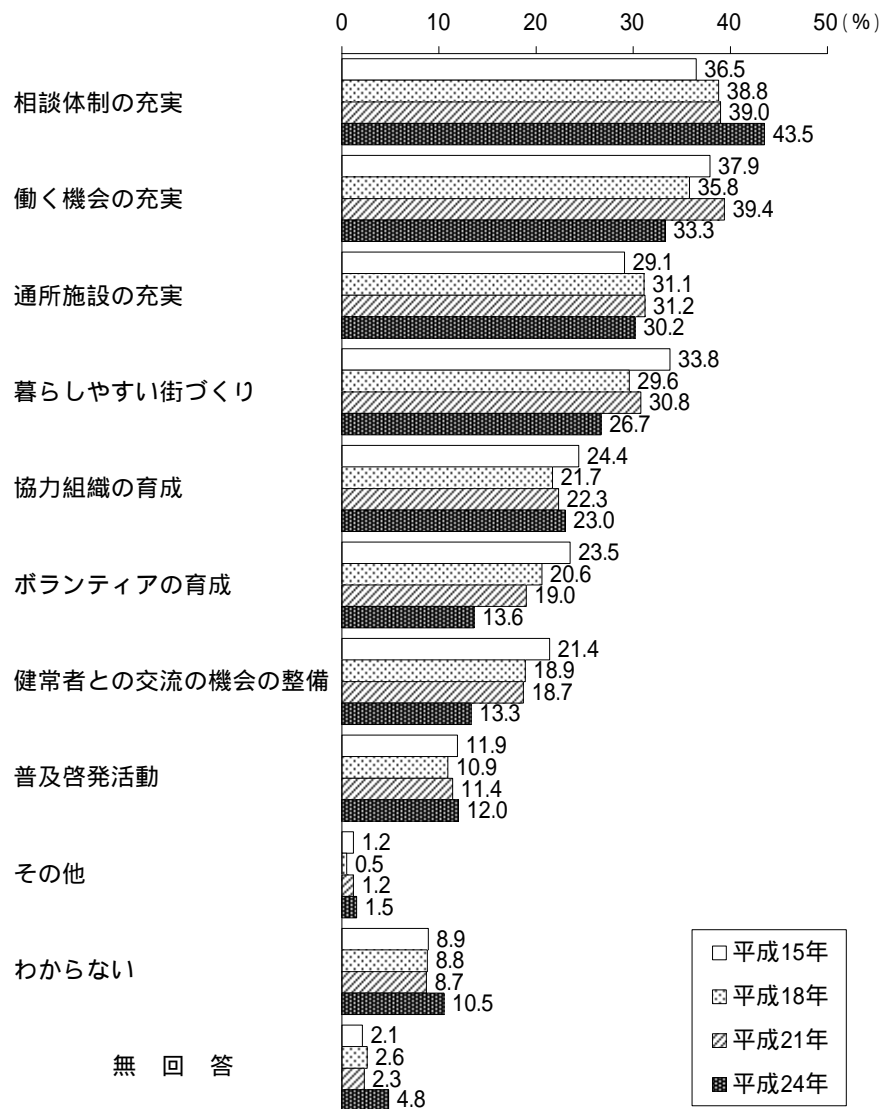
図4 - 10 - 1



精神障害者のために充実すべきことをたずねたところ、「相談体制の充実」(43.5%)が最も多く、40%を超えている。以下、「働く機会の充実」(33.3%)、「通所施設の充実」(30.2%)、「暮らしやすい街づくり」(26.7%)、「協力組織の育成」(23.0%)などの順となっている。(図4 - 10 - 1)

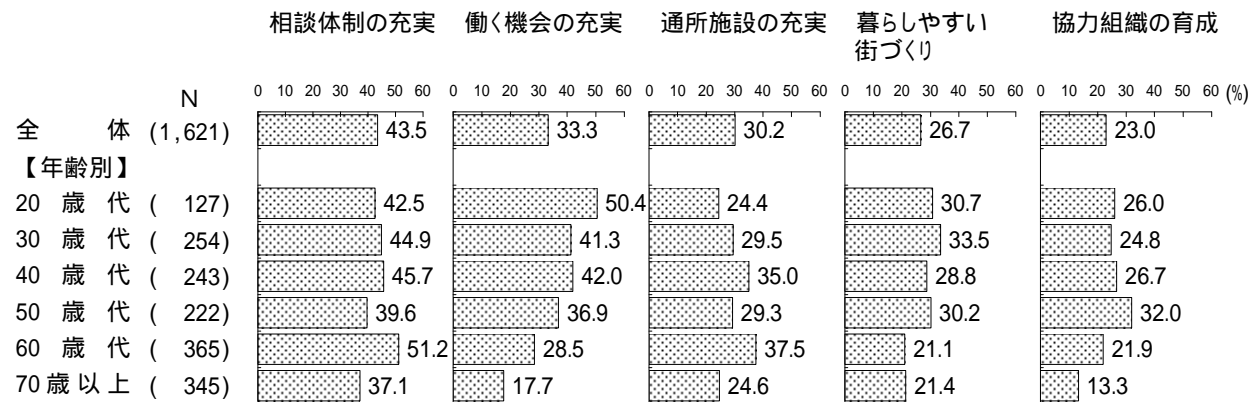
時系列でみると、「相談体制の充実」は増加傾向にあり、前回調査と比べて4.5ポイント増加している。「働く機会の充実」は前回調査と比べて6.1ポイント減少している。「ボランティアの育成」と「健全者との交流の機会の整備」は減少傾向となっている。(図4-10-2)

図4-10-2 時系列 精神障害者のために充実すべきこと



上位5項目を年齢別にみると、「相談体制の充実」は60歳代が50%を超えて多くなっている。「働く機会の充実」はおおむね低い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に20歳代では50%を超えている。「通所施設の充実」は60歳代が40%近くで多くなっている。(図4 - 10 - 3)

図4 - 10 - 3 年齢別 精神障害者のために充実すべきこと



5 . 環境

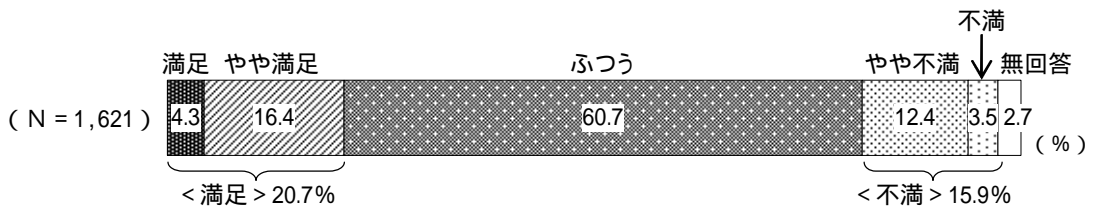
5 - 1 川越市の環境への満足度

「ふつう」が60.7%

問26 あなたは、川越市の環境について、どのように感じていますか。次の中から1つ選んでください。(は1つ)

「環境」とは、地球温暖化、廃棄物問題、生物の多様性、都市のみどりまで幅広く捉えた環境を想定しています。

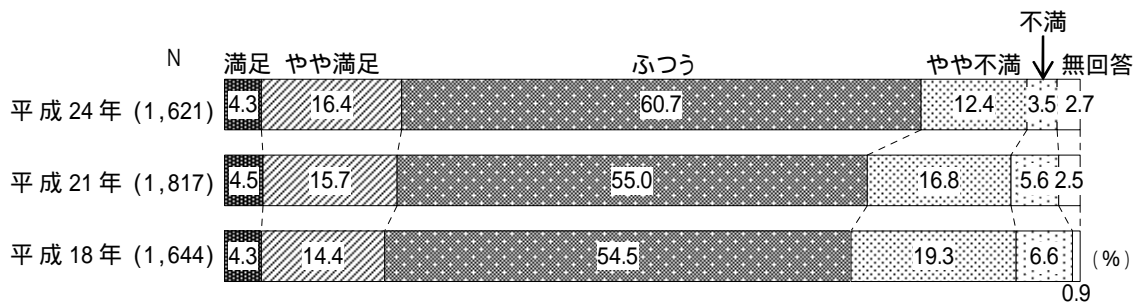
図5 - 1 - 1



川越市の環境への満足度をたずねたところ、「満足」(4.3%)と「やや満足」(16.4%)を合わせた<満足>(20.7%)が20%を超え、「不満」(3.5%)と「やや不満」(12.4%)を合わせた<不満>(15.9%)が10%半ばとなっており、<満足>が<不満>より4.8ポイント高くなっている。「ふつう」(60.7%)は60%を超えている。(図5 - 1 - 1)

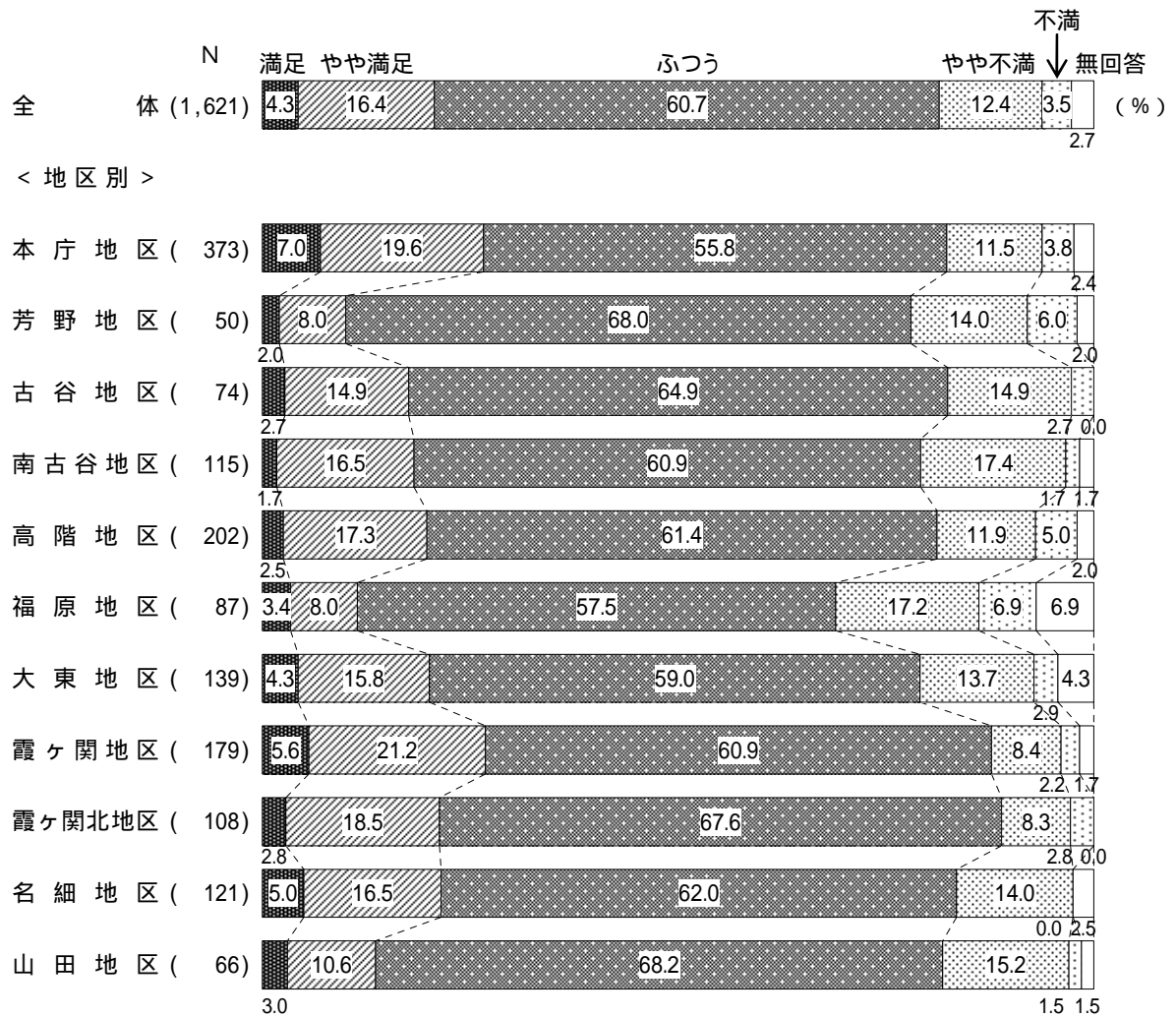
時系列で見ると、<満足>の割合はほぼ同じ傾向になっているが、<不満>は前回調査と比べて6.5ポイント減少している。(図5 - 1 - 2)

図5 - 1 - 2 時系列 川越市の環境への満足度



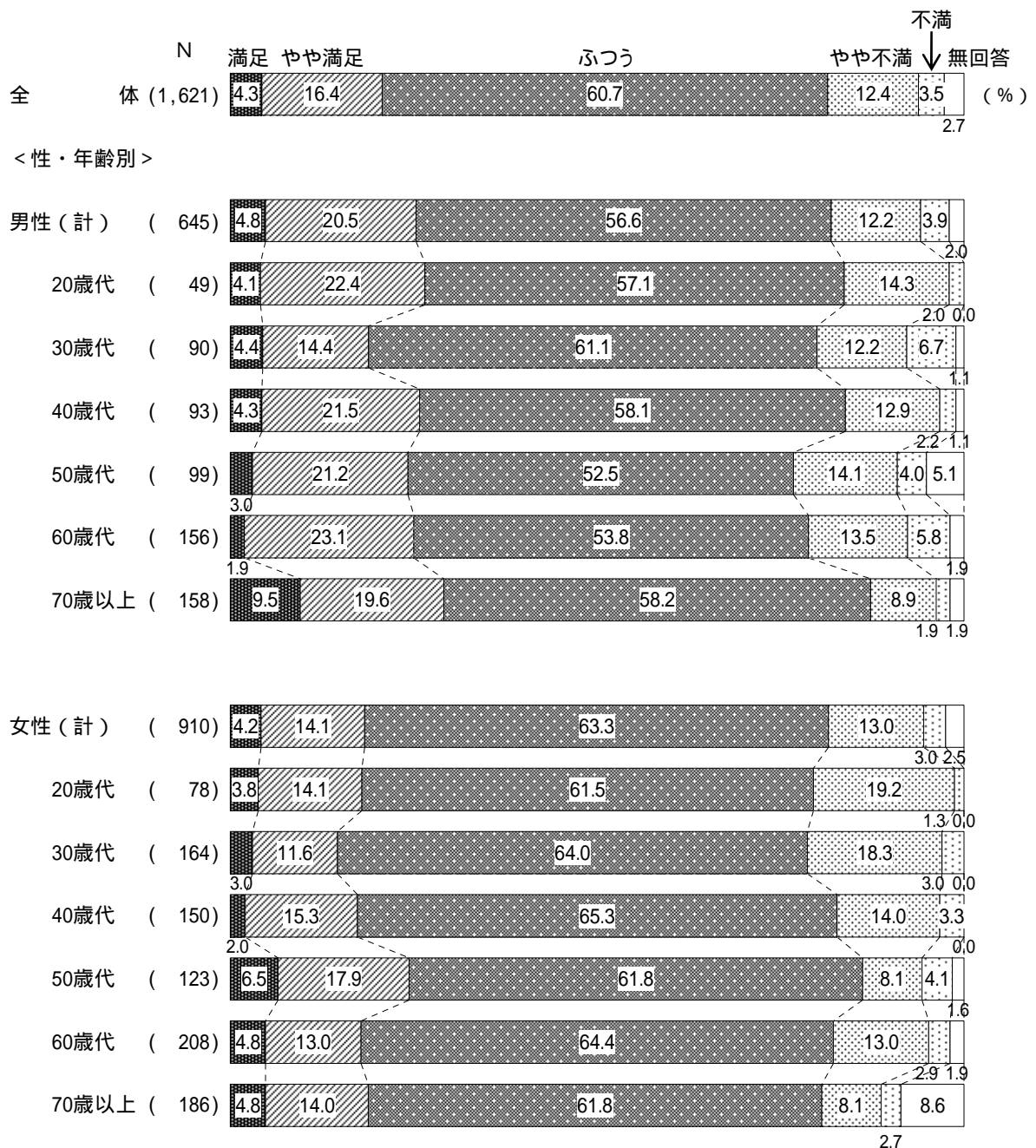
地区別にみると、「満足」と「やや満足」を合わせた<満足>は、本庁地区と霞ヶ関地区がともに20%半ばで多くなっている。「不満」と「やや不満」を合わせた<不満>は、福原地区が20%半ばで多くなっている。(図5 - 1 - 3)

図5 - 1 - 3 地区別 川越市の環境への満足度



性・年齢別に見ると、「満足」と「やや満足」を合わせた＜満足＞は、男性(25.3%)が女性(18.3%)より7.0ポイント高くなっており、特に男性70歳以上が30%近くで多くなっている。「不満」と「やや不満」を合わせた＜不満＞は、女性20歳代と30歳代がともに20%を超えている。(図5-1-4)

図5-1-4 性・年齢別 川越市の環境への満足度

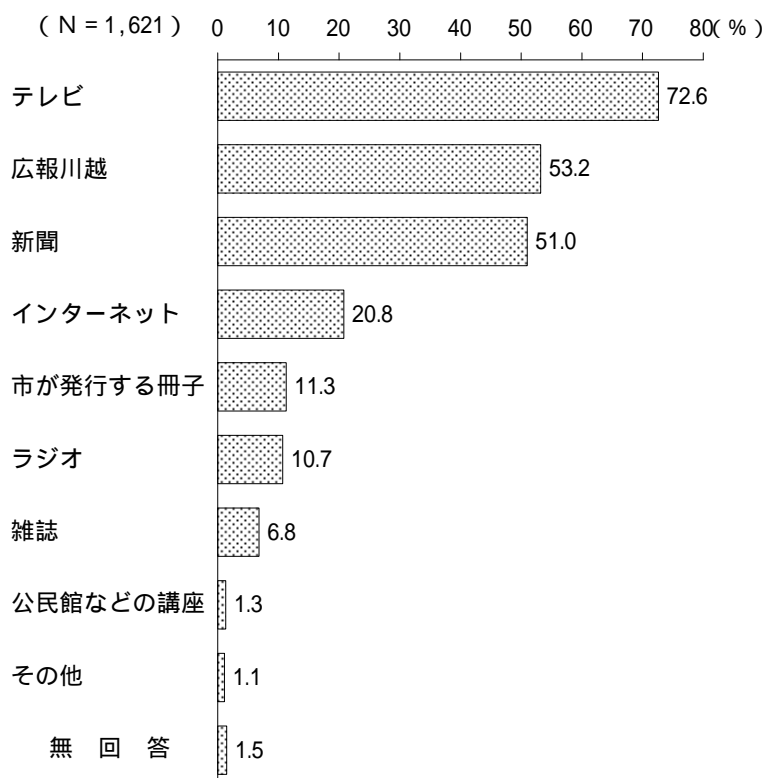


5 - 2 環境に関する情報の入手先

「テレビ」が72.6%

問27 あなたは、普段、環境に関する情報をどこから入手していますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

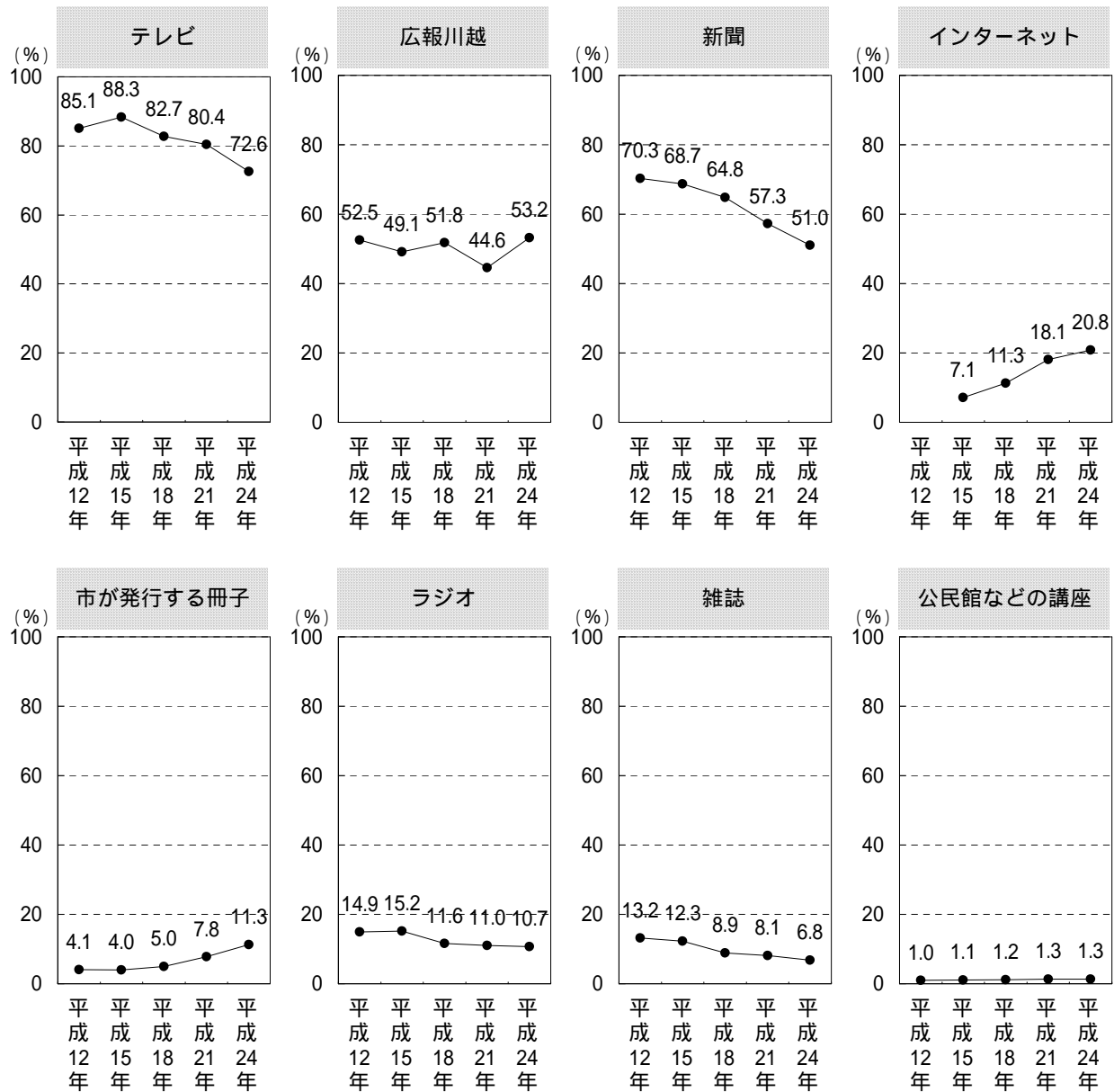
図5 - 2 - 1



環境に関する情報の入手先をたずねたところ、「テレビ」(72.6%)が最も多く、70%を超えている。以下、「広報川越」(53.2%)、「新聞」(51.0%)、インターネット(20.8%)などの順となっている。(図5 - 2 - 1)

時系列でみると、前回調査と比べて「テレビ」が7.8ポイント、「新聞」が6.3ポイント、それぞれ減少している一方で、前回調査と比べて「広報川越」が8.6ポイント、「インターネット」が2.7ポイント、それぞれ増加している。(図5-2-2)

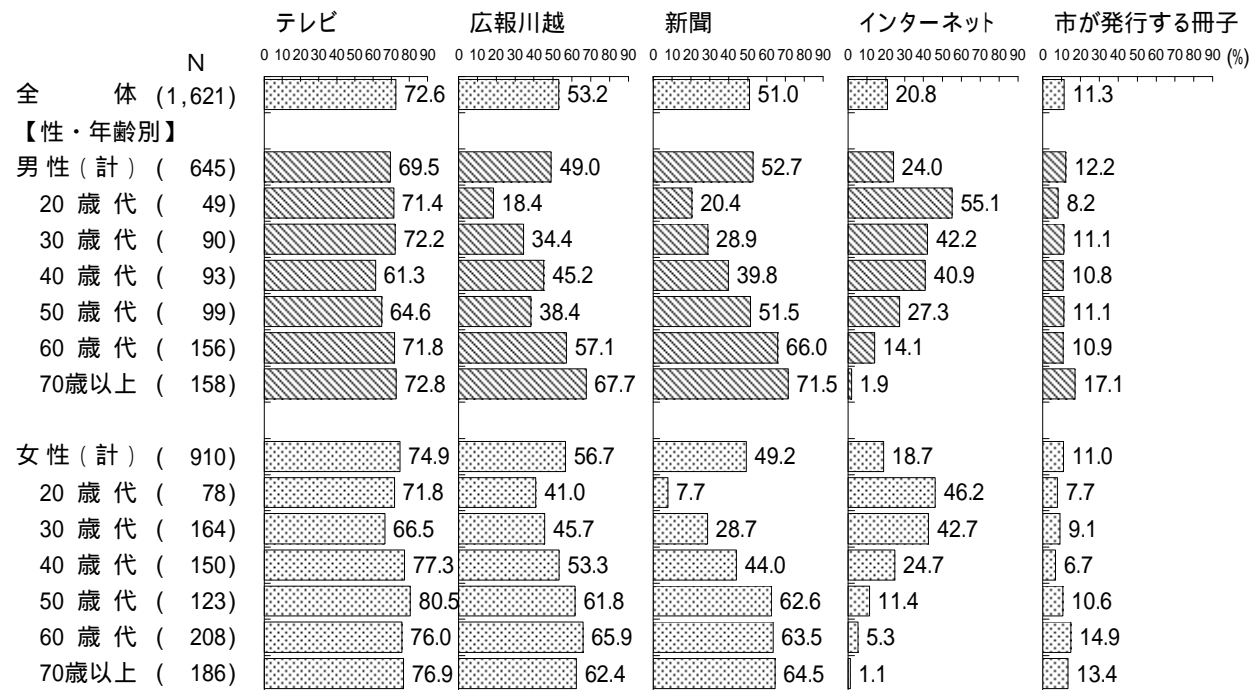
図5-2-2 時系列 環境に関する情報の入手先



上位5項目を性・年齢別にみると、「広報川越」と「新聞」はともに、おおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。逆に「インターネット」は低い年代ほど割合が高くなっている。

(図5-2-3)

図5-2-3 性・年齢別 環境に関する情報の入手先

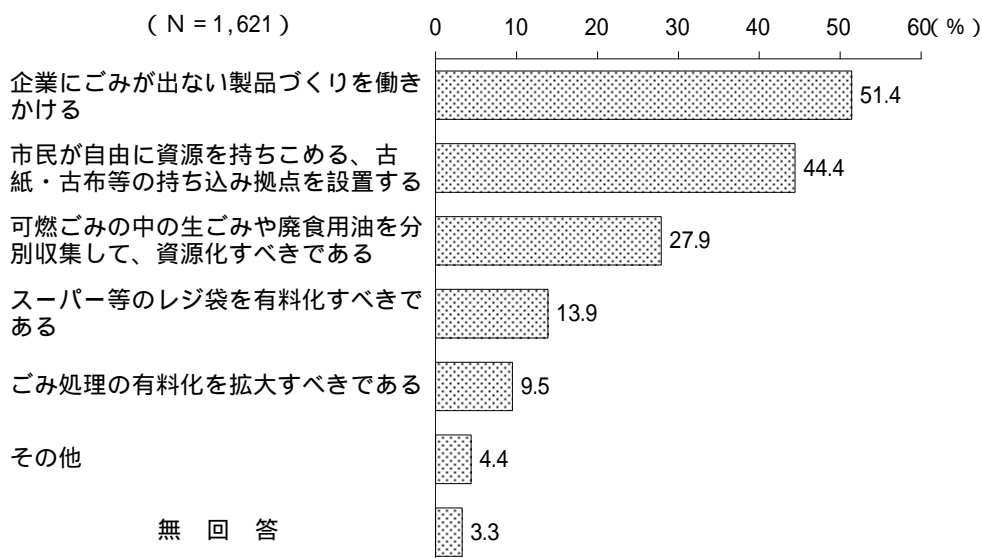


5 - 3 ごみ減量のための方策

「企業にごみが出ない製品づくりを働きかける」が51.4%

問28 あなたは、ごみを減らすために、どのようにすべきだと思いますか。次の中から2つを選んでください。(は2つ)

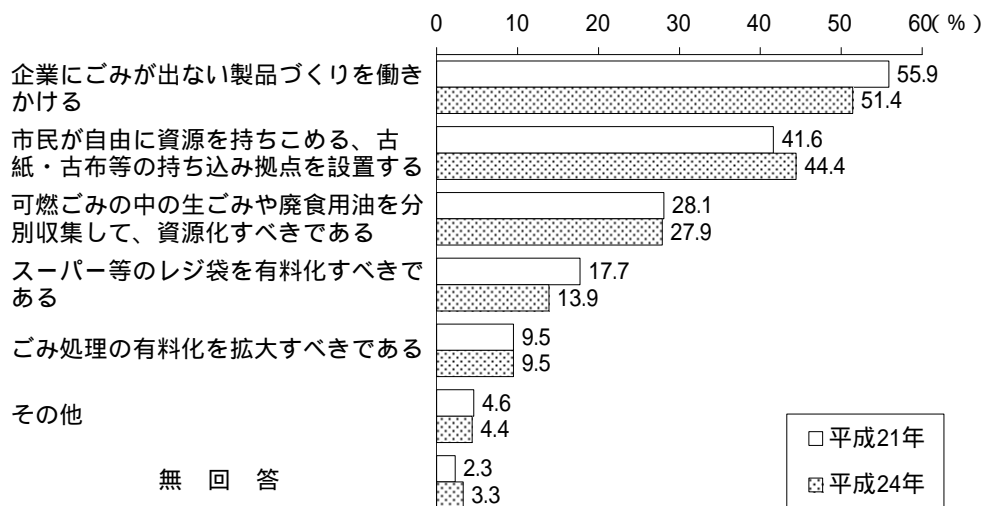
図5 - 3 - 1



ごみ減量のための方策をたずねたところ、「企業にごみが出ない製品づくりを働きかける」(51.4%)が最も多く、50%を超えている。以下、「市民が自由に資源を持ちこめる、古紙・古布等の持ち込み拠点を設置する」(44.4%)、「可燃ごみの中の生ごみや廃食用油を分別収集して、資源化すべきである」(27.9%)、「スーパー等のレジ袋を有料化すべきである」(13.9%)、「ごみ処理の有料化を拡大すべきである」(9.5%)と続いている。(図5 - 3 - 1)

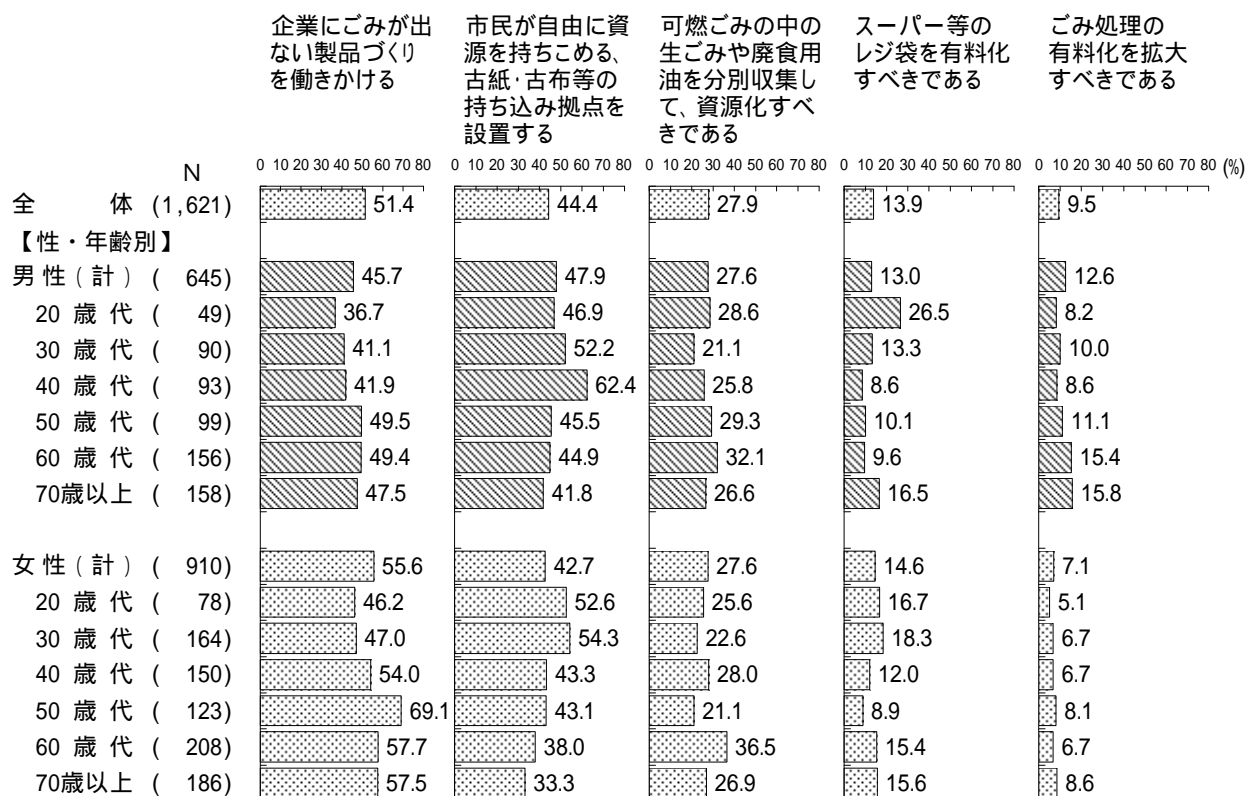
時系列でみると、「市民が自由に資源を持ちこめる、古紙・古布等の持ち込み拠点を設置する」は前回調査と比べて2.8ポイント増加している。「企業にごみが出ない製品づくりを働きかける」は前回調査と比べて4.5ポイント、「スーパー等のレジ袋を有料化すべきである」は前回調査と比べて3.8ポイント、それぞれ減少している。(図5-3-2)

図5-3-2 時系列 ごみ減量のための方策



性・年齢別にみると、「企業にごみが出ない製品づくりを働きかける」は女性50歳代が70%近くで多くなっている。「市民が自由に資源を持ちこめる、古紙・古布等の持ち込み拠点を設置する」は男性40歳代が60%を超えて多くなっている。(図5-3-3)

図5-3-3 性・年齢別 ごみ減量のための方策

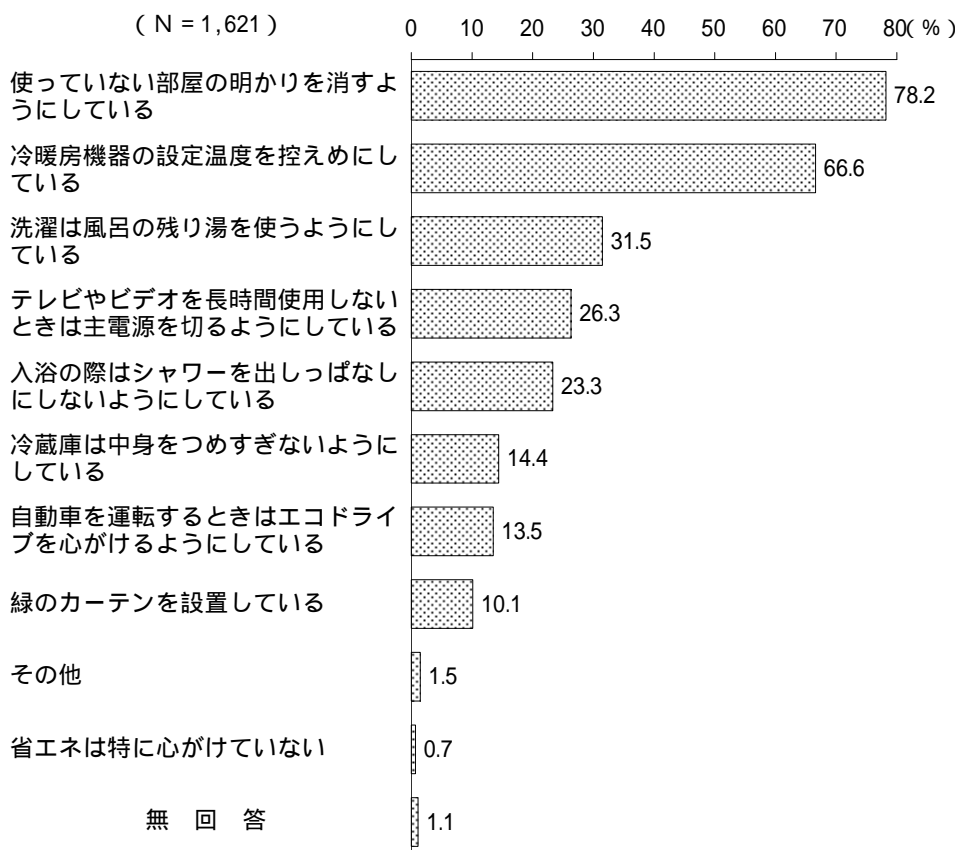


5 - 4 実行している省エネ活動

「使っていない部屋の明かりを消すようにしている」が78.2%

問29 あなたは、省エネのためにどのようなことを行っていますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

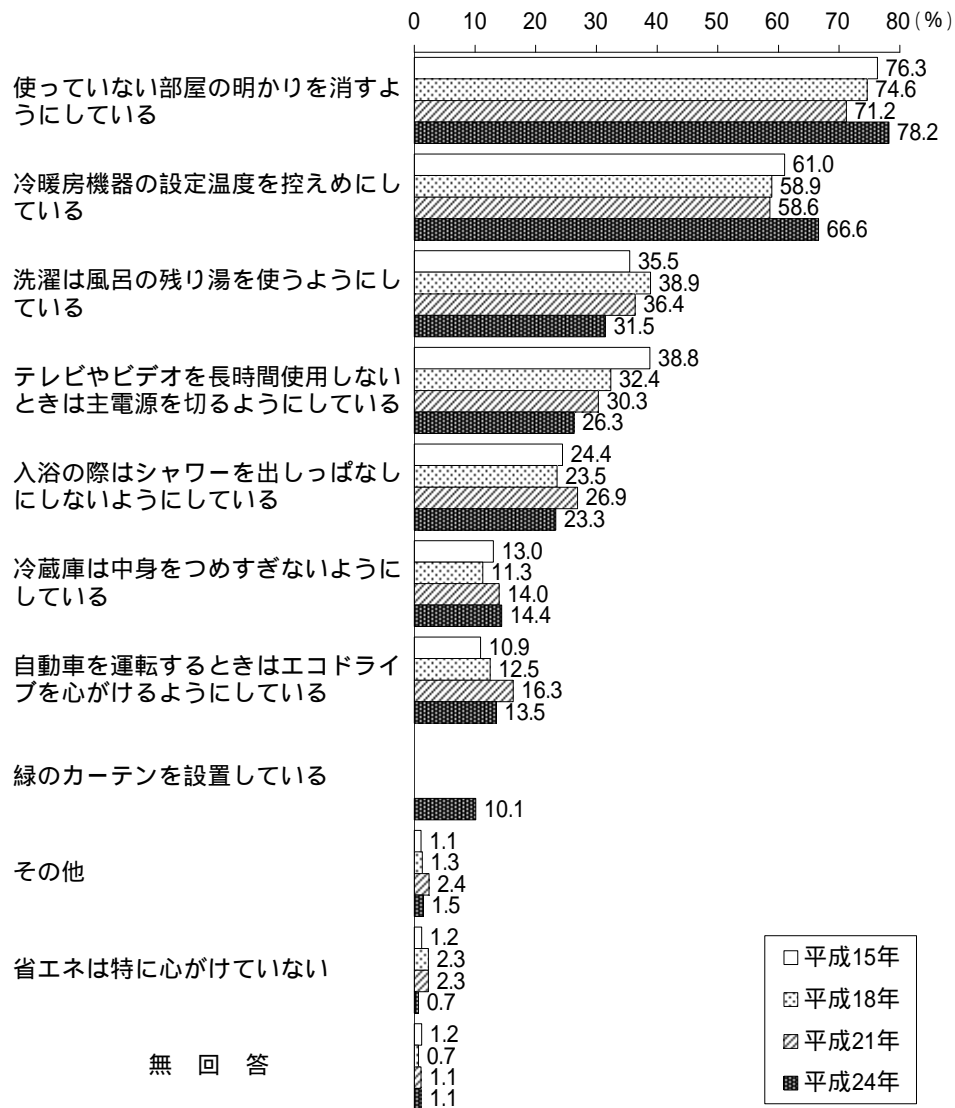
図5 - 4 - 1



実行している省エネ活動をたずねたところ、「使っていない部屋の明かりを消すようにしている」(78.2%)が最も多く、80%近くとなっている。以下、「冷暖房機器の設定温度を控えめにしている」(66.6%)、「洗濯は風呂の残り湯を使うようにしている」(31.5%)、「テレビやビデオを長時間使用しないときは主電源を切るようにしている」(26.3%)、「入浴の際はシャワーを出しっぱなしにしないようにしている」(23.3%)などの順となっている。(図5 - 4 - 1)

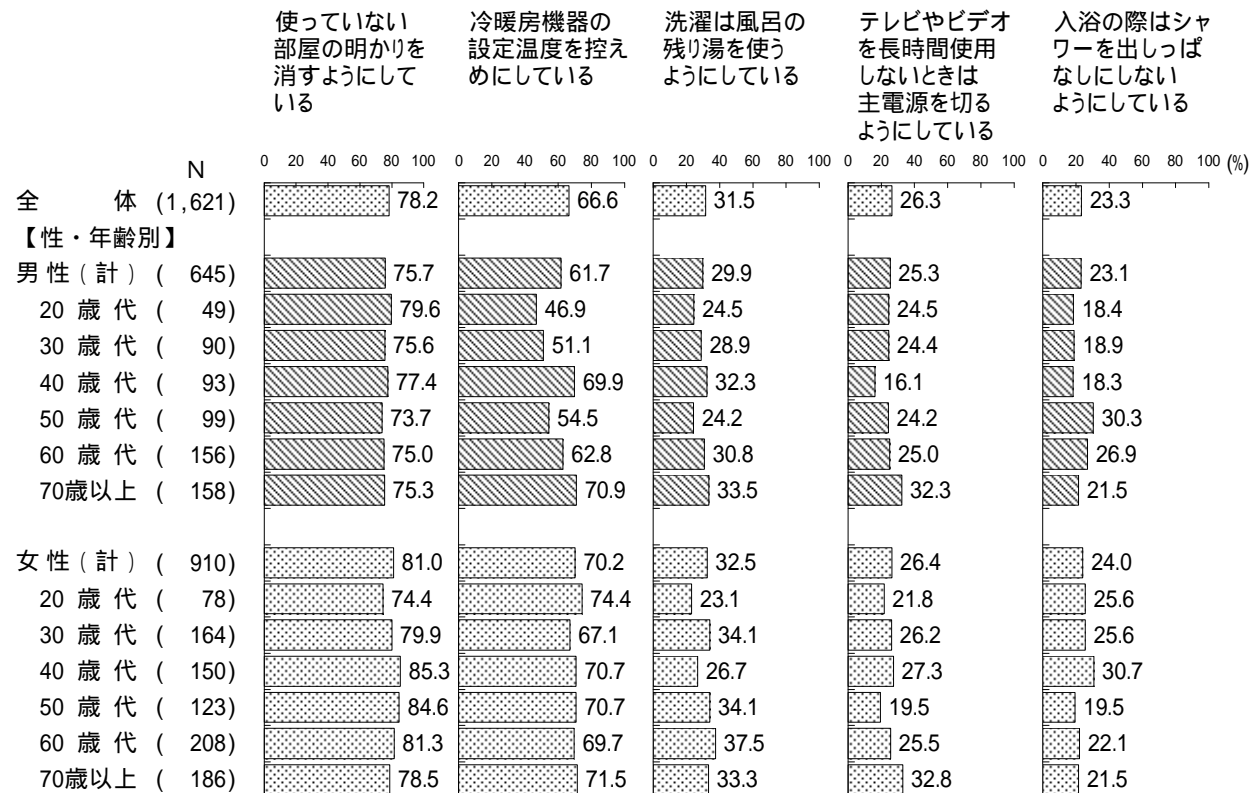
時系列でみると、「冷暖房機器の設定温度を控えめにしている」は前回調査と比べて8.0ポイント、「使っていない部屋の明かりを消すようにしている」は前回調査と比べて7.0ポイント、それぞれ増加している。また、「テレビやビデオを長時間使用しないときは主電源を切るようにしている」は減少傾向となっている。(図5-4-2)

図5-4-2 時系列 実行している省エネ活動



上位5項目を性・年齢別にみると、「冷暖房機器の設定温度を控えめにしている」は、女性(70.2%)が男性(61.7%)より8.5ポイント高くなっており、また、男性の20歳代、30歳代、50歳代で、他の年代に比べて割合が低くなっている。(図5-4-3)

図5-4-3 実行している省エネ活動



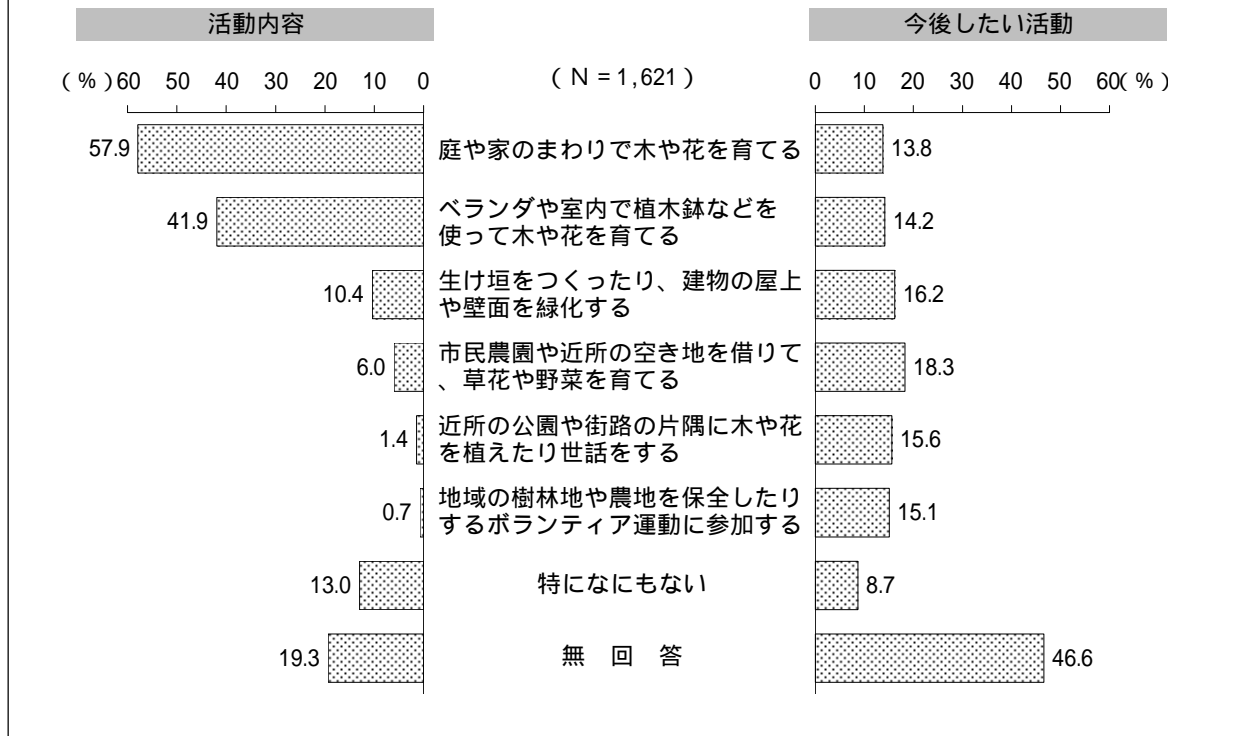
5 - 5 まちの緑化への活動内容 / 今後したい活動

現在している活動は「庭や家のまわりで木や花を育てる」が57.9%、

今後したい活動は「市民農園や近所の空き地を借りて、草花や野菜を育てる」が18.3%

問30 あなたは、緑を増やすために、現在どのようなことをしていますか。また 今後どのようなことをしたいですか。(はいいくつでも)

図5 - 5 - 1



まちの緑化のために〔現在している活動〕と〔今後したい活動〕をたずねたところ、〔現在している活動〕では、「庭や家のまわりで木や花を育てる」(57.9%)が最も多く、60%近くとなっている。以下、「ベランダや室内で植木鉢などを使って木や花を育てる」(41.9%)、「生け垣をつくったり、建物の屋上や壁面を緑化する」(10.4%)などの順となっている。

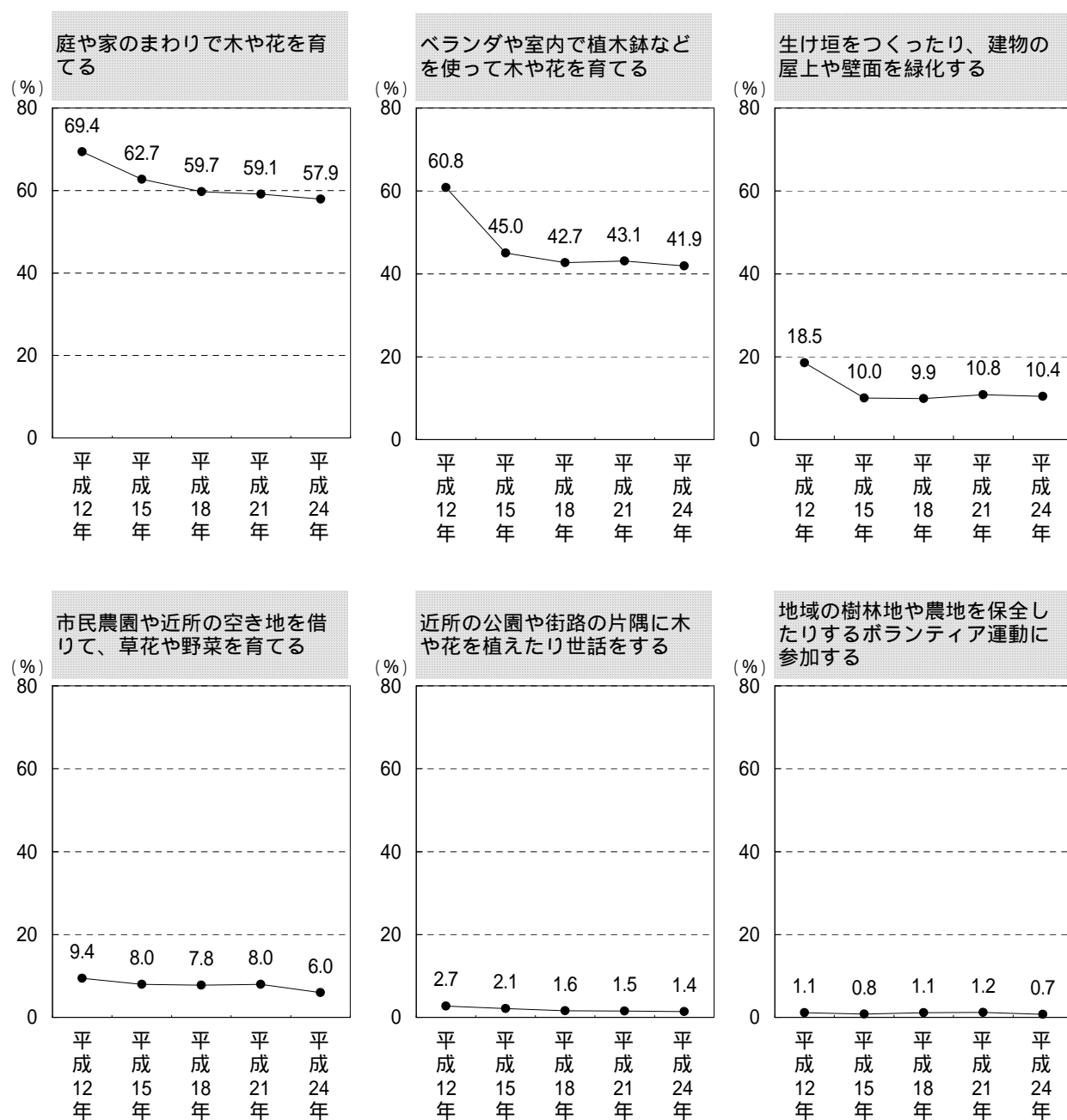
〔今後したい活動〕では、「市民農園や近所の空き地を借りて、草花や野菜を育てる」(18.3%)が最も多く、20%近くとなっている。以下、「生け垣をつくったり、建物の屋上や壁面を緑化する」(16.2%)、「近所の公園や街路の片隅に木や花を植えたり世話をする」(15.6%)、「地域の樹林地や農地を保全したりするボランティア運動に参加する」(15.1%)などの順となっている。

(図5 - 5 - 1)

まちの緑化への活動内容

まちの緑化への活動内容について時系列でみると、各項目ともに平成18年調査以降ではおおむね横ばいとなっている。(図5-5-2)

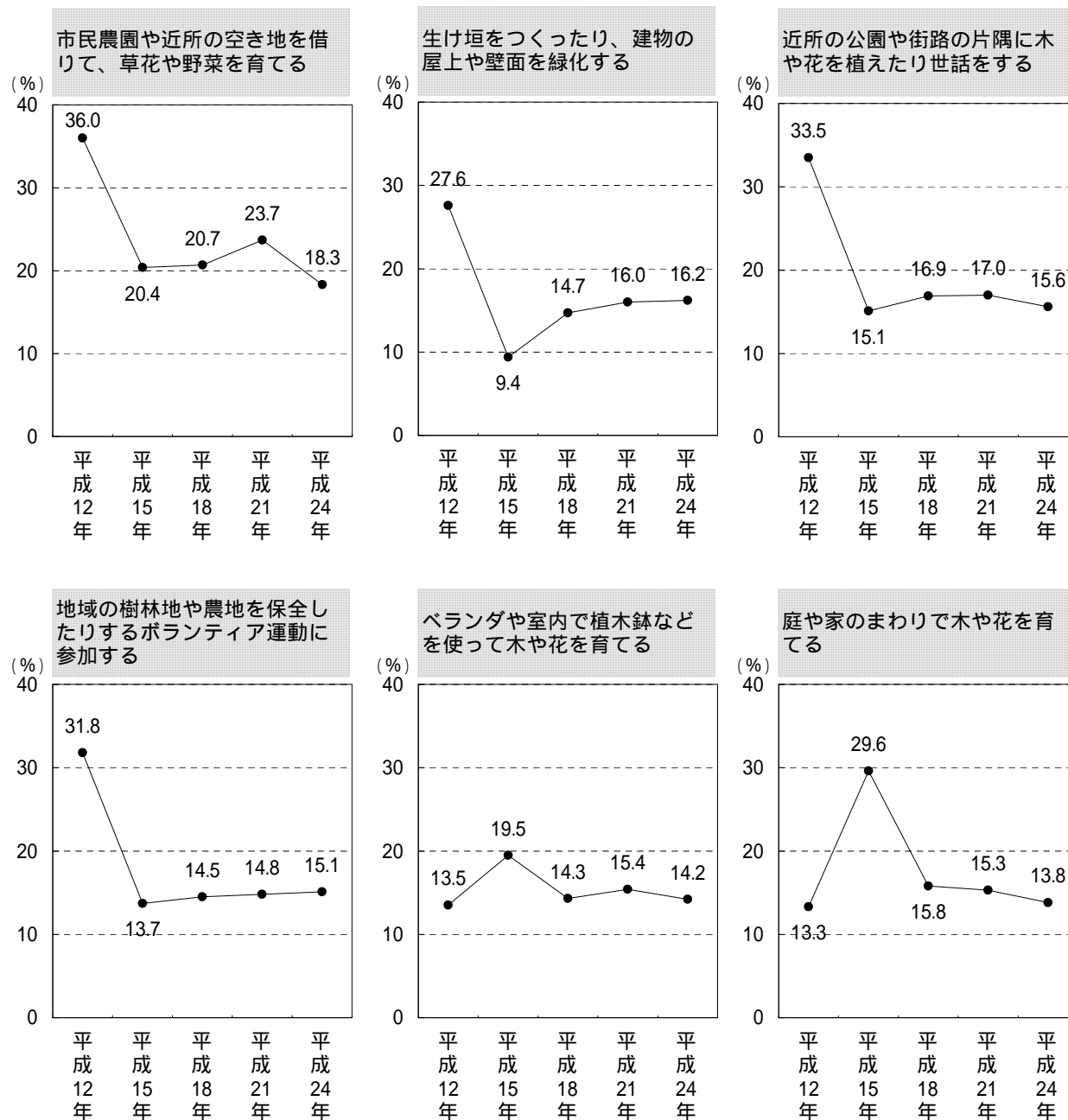
図5-5-2 時系列 まちの緑化への活動内容



まちの緑化のために今後したい活動

まちの緑化のために今後したい活動について時系列でみると、「市民農園や近所の空き地を借りて、草花や野菜を育てる」は前回調査と比べて5.4ポイント減少しているが、それ以外の項目については、平成18年調査以降ではおおむね横ばいとなっている。（図5-5-3）

図5-5-3 時系列 まちの緑化のために今後したい活動

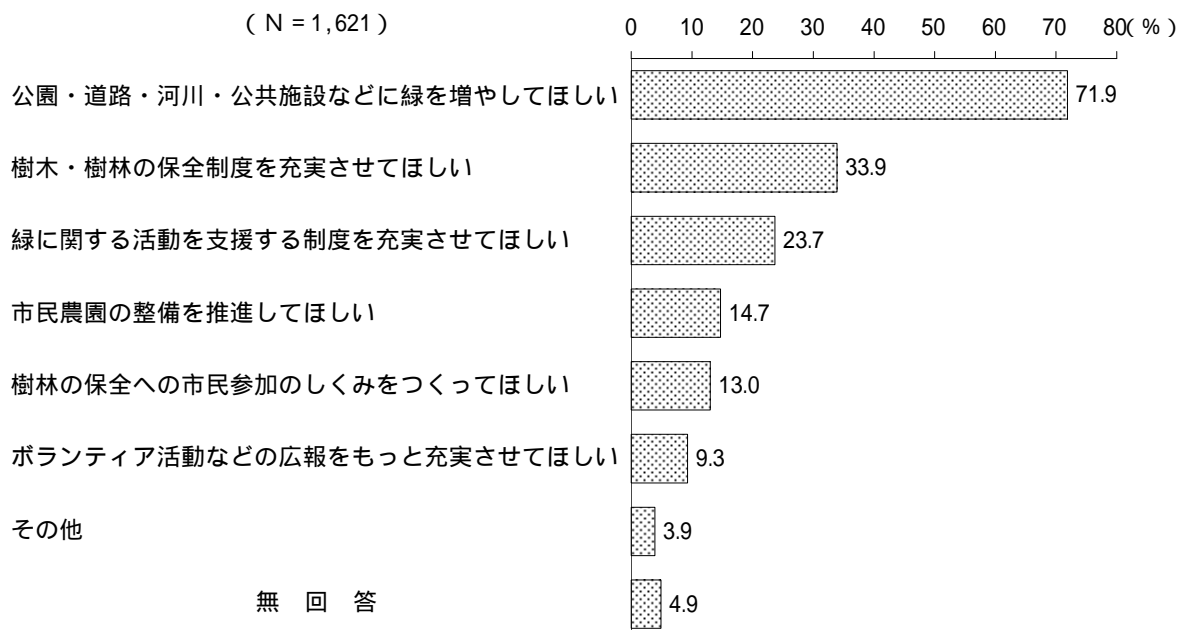


5 - 6 まちの緑化への施策

「公園・道路・河川・公共施設などに緑を増やしてほしい」が71.9%

問31 あなたは街の緑を守り、増やすために、どのようなことを望みますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

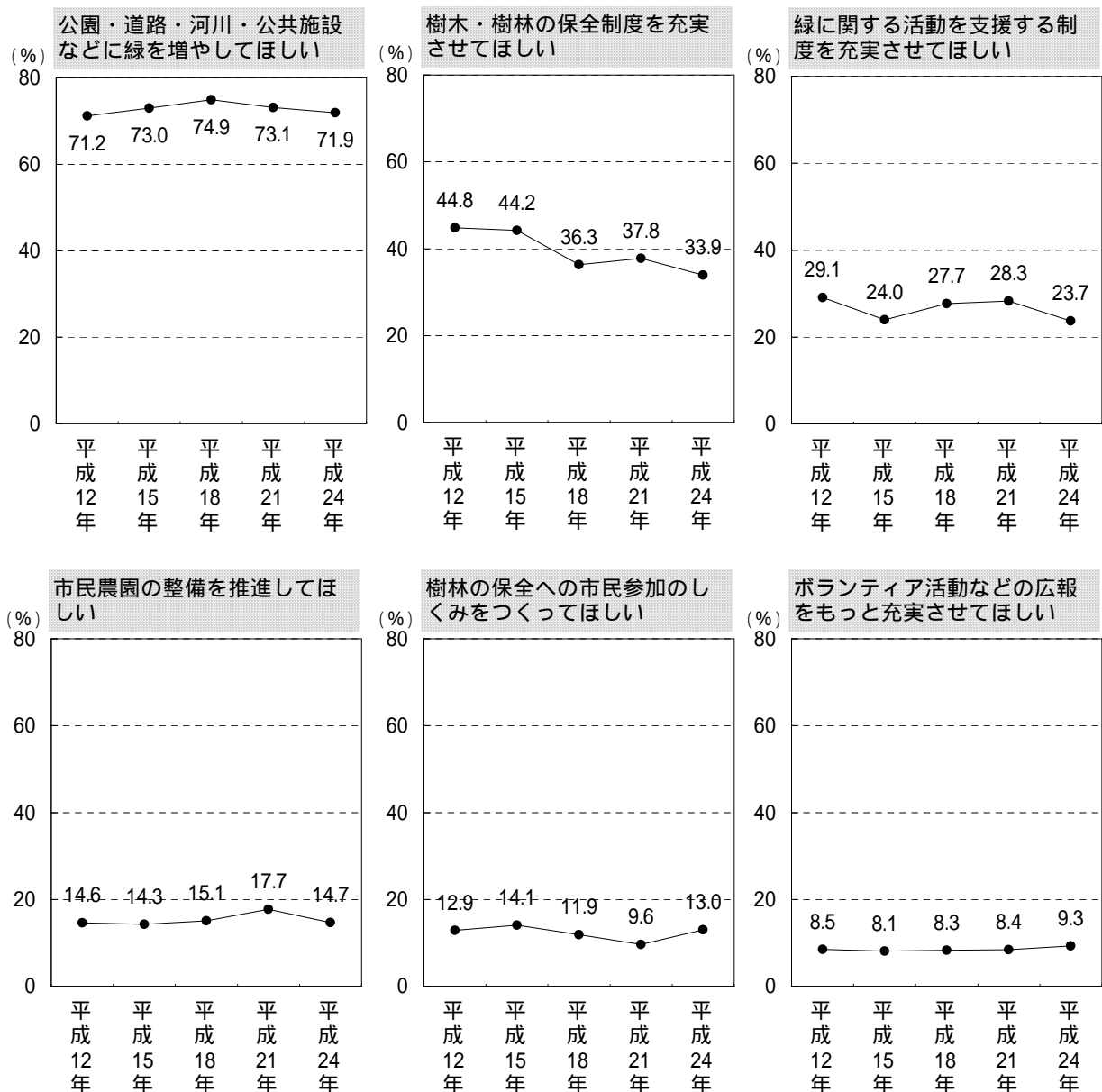
図5 - 6 - 1



まちの緑化への施策をたずねたところ、「公園・道路・河川・公共施設などに緑を増やしてほしい」(71.9%)が最も多く、70%を超えている。以下、「樹木・樹林の保全制度を充実させてほしい」(33.9%)、「緑に関する活動を支援する制度を充実させてほしい」(23.7%)、「市民農園の整備を推進してほしい」(14.7%)、「樹林の保全への市民参加のしくみをつくってほしい」(13.0%)などの順となっている。(図5 - 6 - 1)

時系列でみると、「樹木の保全への市民参加のしくみをつくってほしい」は前回調査と比べて3.4ポイント増加している。「緑に関する活動を支援する制度を充実させてほしい」は前回調査と比べて4.6ポイント、「樹木・樹木の保全制度を充実させてほしい」は前回調査と比べて3.9ポイント、それぞれ減少している。(図5-6-2)

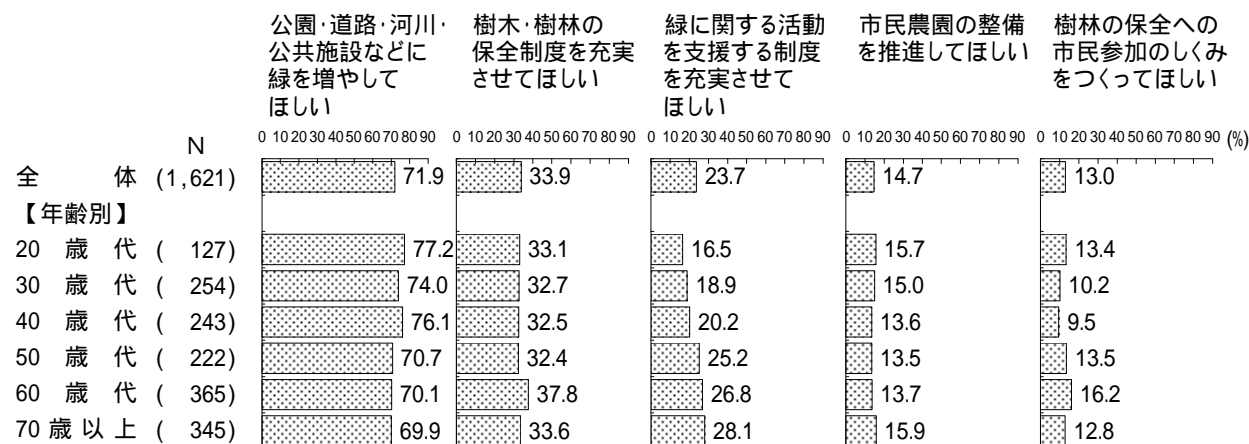
図5-6-2 時系列 まちの緑化への施策



上位5項目を年齢別にみると、「緑に関する活動を支援する制度を充実させてほしい」は高い年代ほど割合がやや高くなる傾向にあるが、それ以外の項目では大きな傾向の違いはみられない。

(図5-6-3)

図5-6-3 年齢別 まちの緑化への施策



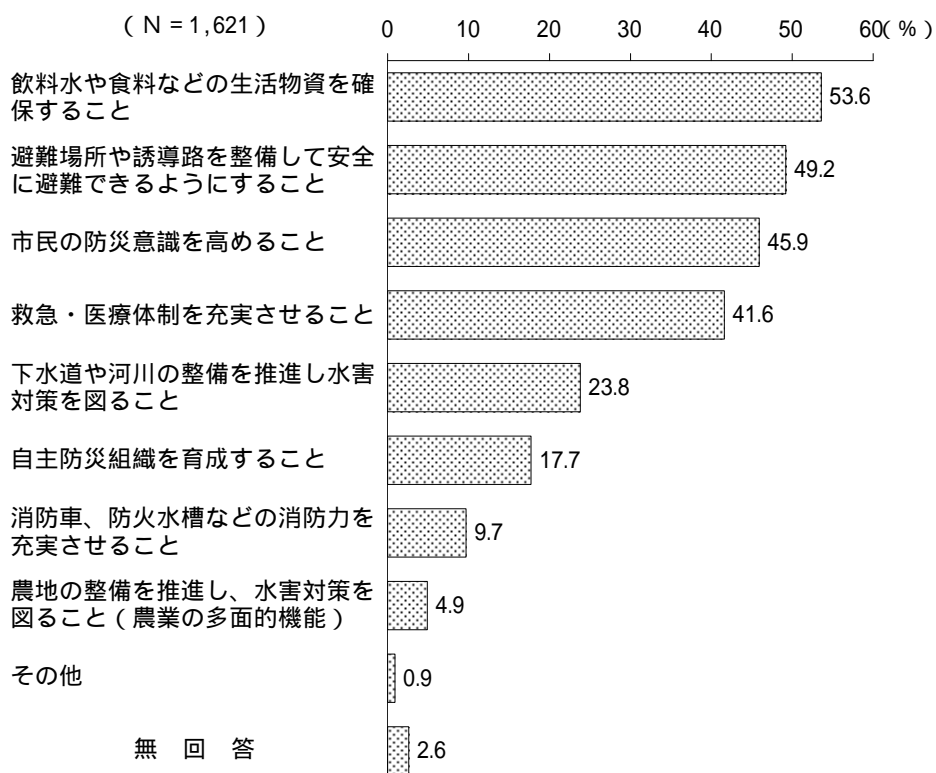
6 . 地域社会と市民生活

6 - 1 防災対策

「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」が53.6%

問32 あなたは、防災対策として、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

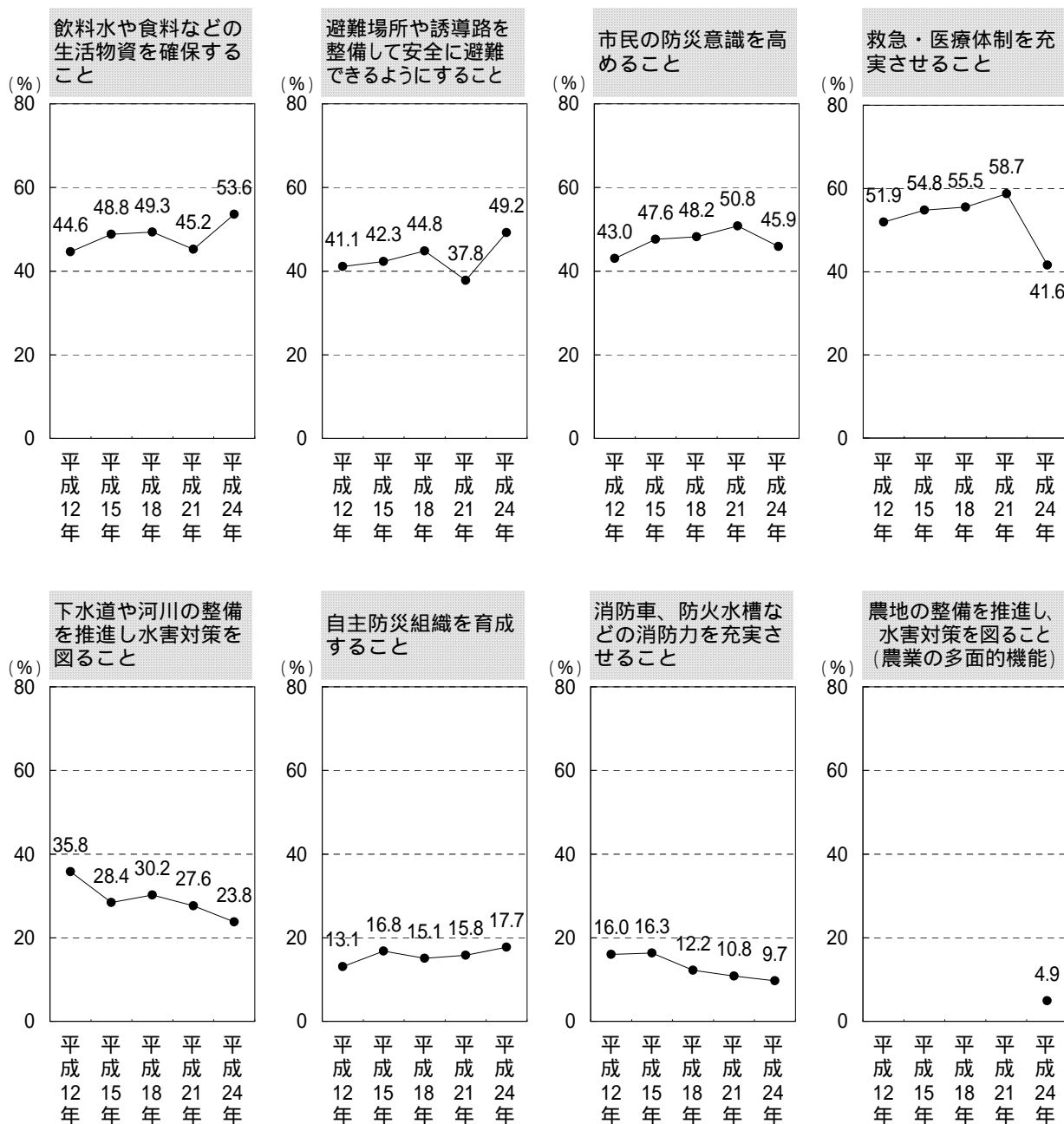
図6 - 1 - 1



防災対策として必要な施策をたずねたところ、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」(53.6%)が最も多く、50%を超えている。以下、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」(49.2%)、「市民の防災意識を高めること」(45.9%)、「救急・医療体制を充実させること」(41.6%)、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」(23.8%)などの順となっている。(図6 - 1 - 1)

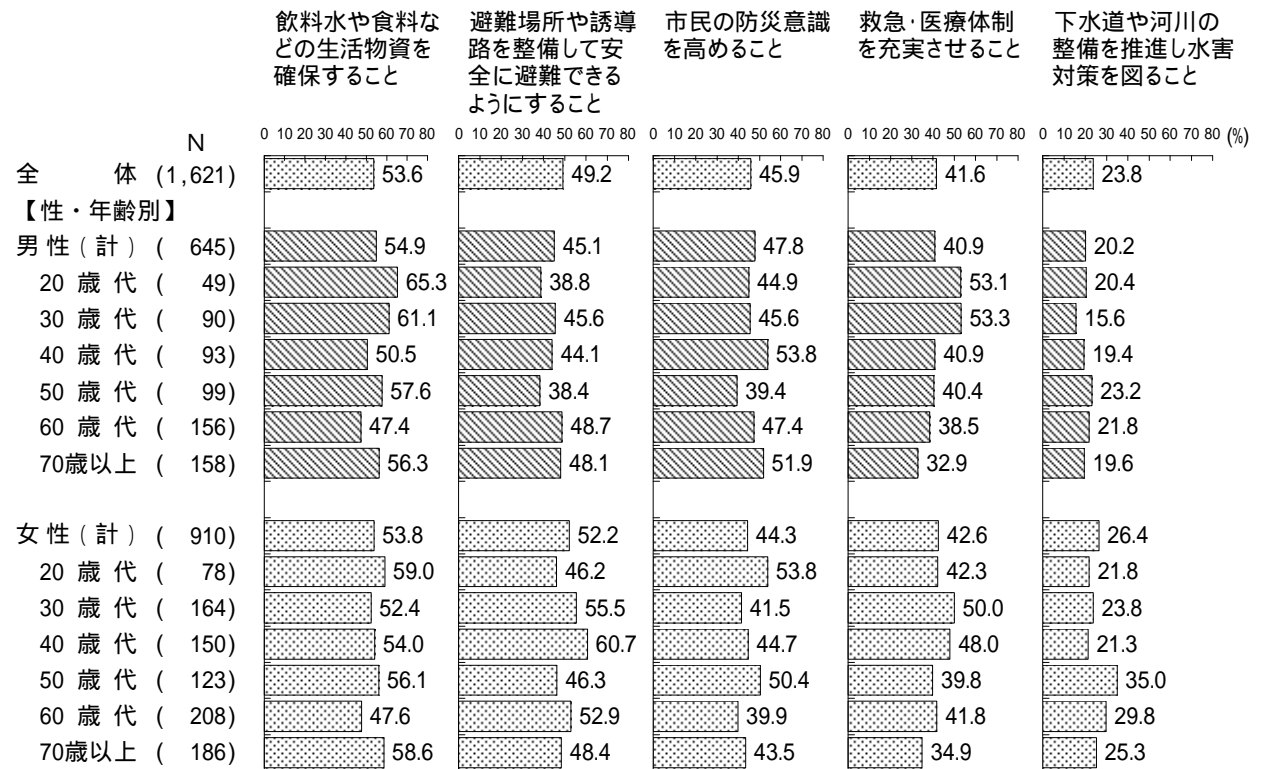
時系列でみると、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は前回調査と比べて11.4ポイント、「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」は前回調査と比べて8.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「救急・医療体制を充実させること」は前回調査と比べて17.1ポイント、「市民の防災意識を高めること」は前回調査と比べて4.9ポイント、それぞれ減少している。(図6-1-2)

図6-1-2 時系列 防災対策



上位5項目を性・年齢別にみると、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は女性40歳代が60%を超えて多くなっている。「救急・医療体制を充実させること」は男性20歳代と30歳代が50%を超えて多くなっている。「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」は女性50歳代が30%半ばで多くなっている。(図6-1-3)

図6-1-3 性・年齢別 防災対策

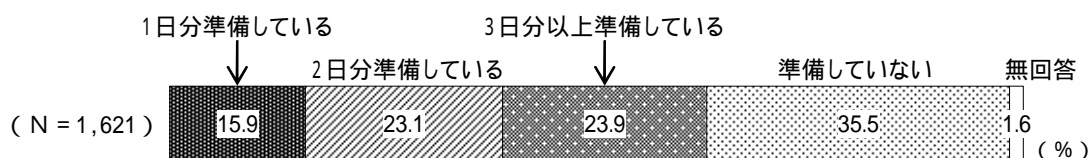


6 - 2 水・食料の備蓄量

「3日分以上準備している」は23.9%

問33 東日本大震災以降、個人で3日分以上の水や食料の備蓄が必要といわれておりますが、あなたは何日分準備していますか。 (は1つ)

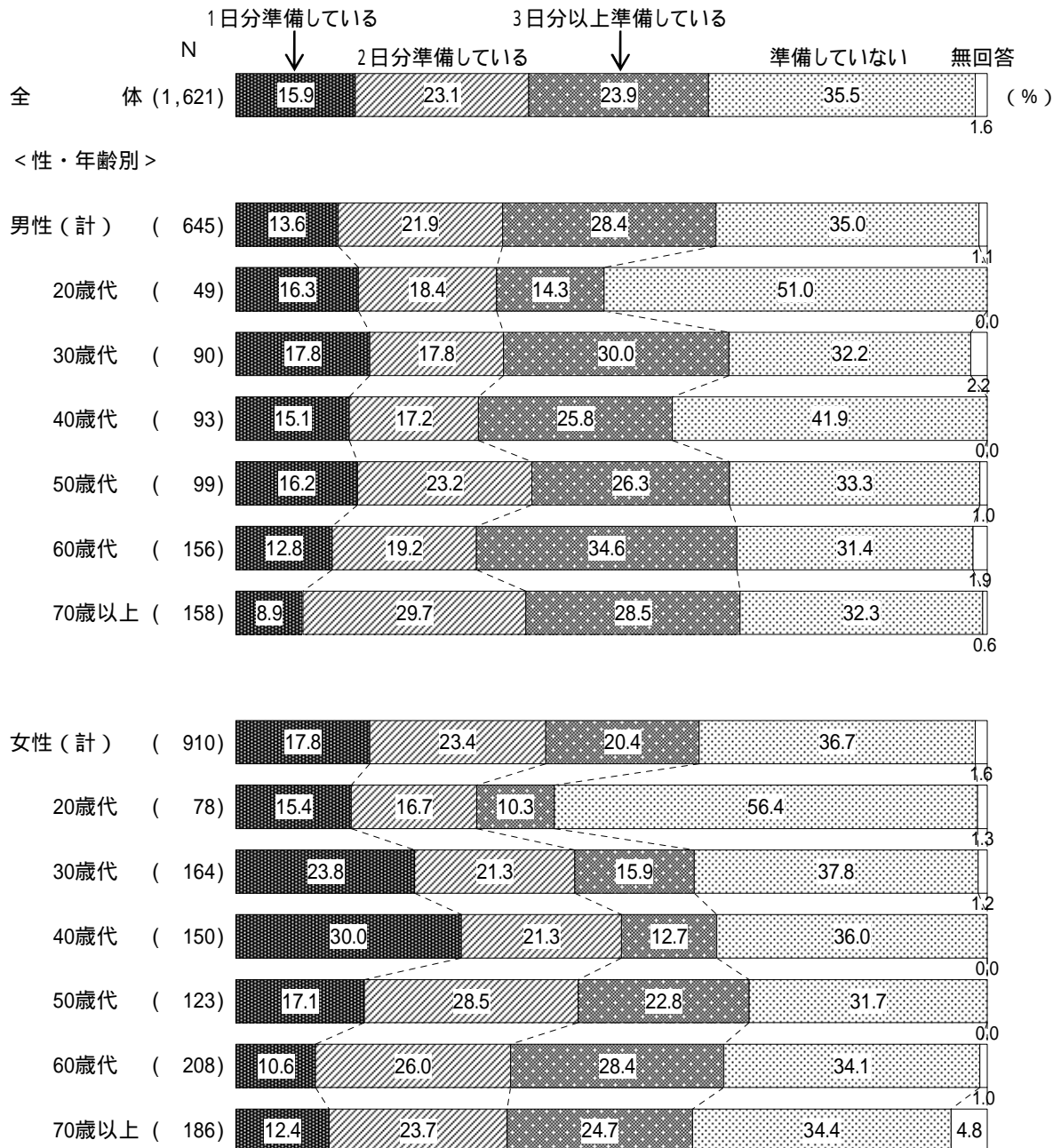
図6 - 2 - 1



水・食料の備蓄量をたずねたところ、「3日分以上準備している」(23.9%)と「2日分準備している」(23.1%)がともに20%を超えており、「1日分準備している」(15.9%)が10%半ばとなっている。また、「準備していない」(35.5%)は30%半ばとなっている。(図6 - 2 - 1)

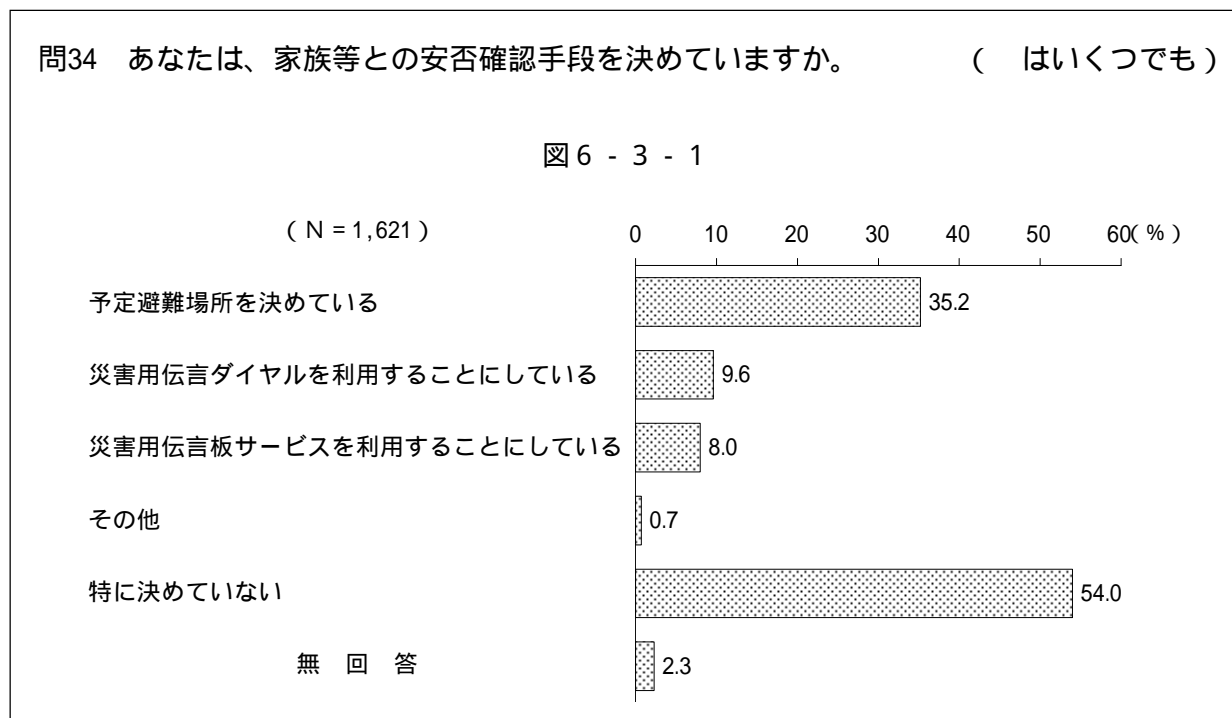
性・年齢別にみると、「3日分以上準備している」は男性60歳代が30%半ばで多くなっているが、男性20歳代と女性の20歳代から40歳代の年代では10%台にとどまっている。「準備していない」は女性20歳代が50%半ば、男性20歳代が50%を超えて多くなっている。(図6-2-2)

図6-2-2 性・年齢別 水・食料の備蓄量



6 - 3 家族等との安否確認手段

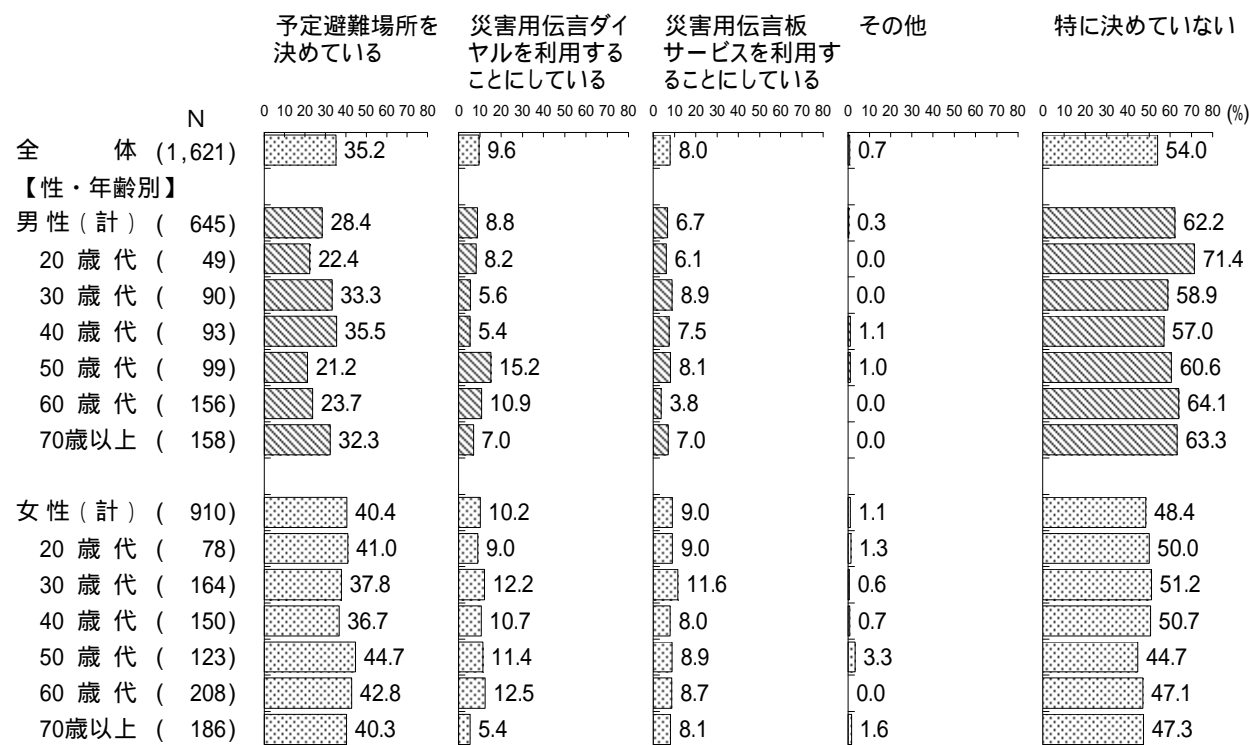
「予定避難場所を決めている」が35.2%、「特に決めていない」が54.0%



家族等との安否確認手段を決めているかたずねたところ、「特に決めていない」(54.0%)が最も多く、50%半ばとなっている。以下、「予定避難場所を決めている」(35.2%)、「災害用伝言ダイヤルを利用することになっている」(9.6%)、「災害用伝言板サービスを利用することになっている」(8.0%)の順となっている。(図6 - 3 - 1)

性・年齢別にみると、「予定避難場所を決めている」は女性（40.4%）が男性（28.4%）より12.0ポイント高くなっており、特に女性50歳代が40%半ばとなっている。「特に決めていない」は男性（62.2%）が女性（48.4%）より13.8ポイント高くなっており、特に男性20歳代が70%を超えて多くなっている。（図6-3-2）

図6-3-2 性・年齢別 家族等との安否確認手段

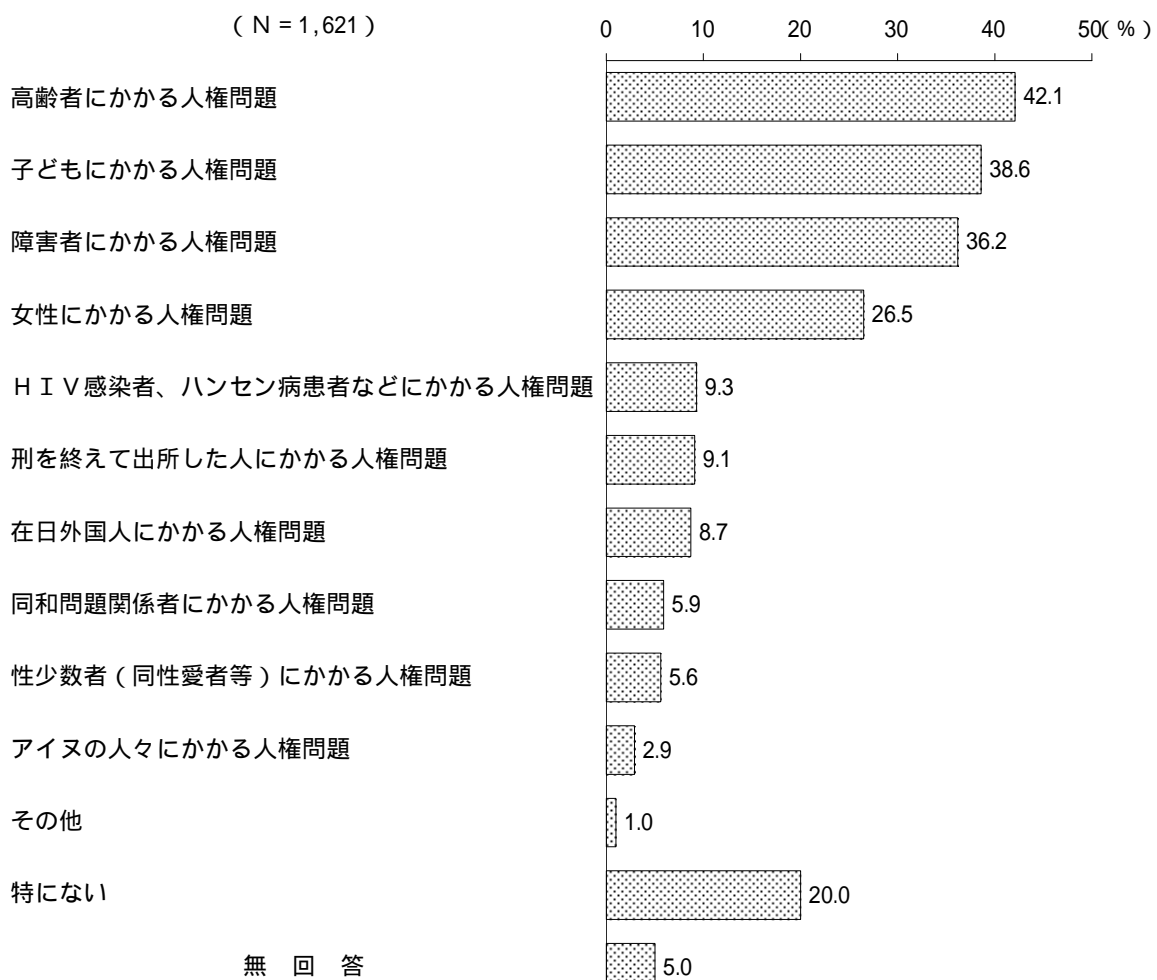


6 - 4 関心のある人権問題

「高齢者にかかる人権問題」が42.1%

問35 現在、日本の社会には基本的人権に関わる問題がいくつかありますが、あなたが関心のあるものはどのようなものですか。 (はいくつでも)

図6 - 4 - 1

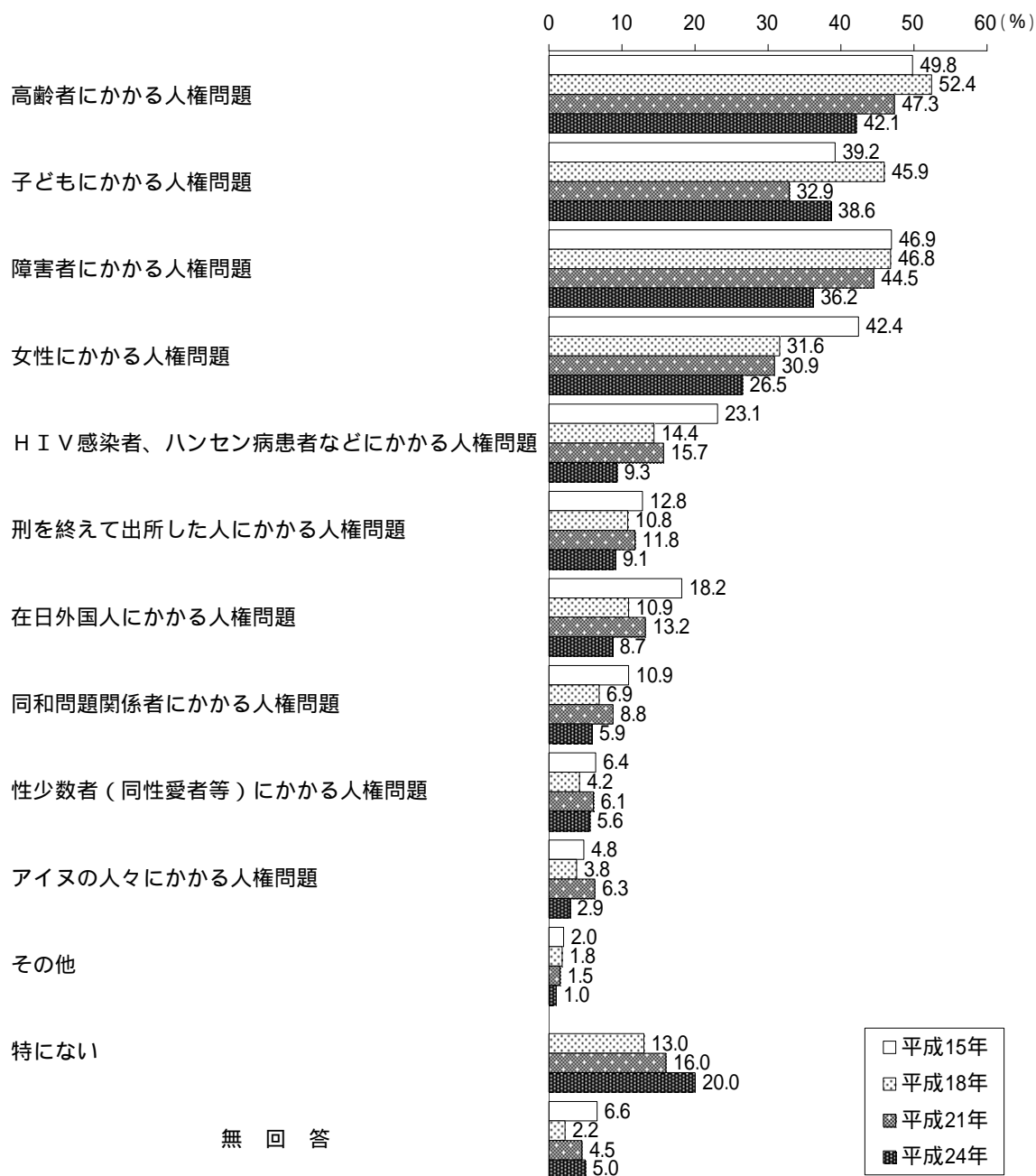


関心のある人権問題をたずねたところ、「高齢者にかかる人権問題」(42.1%)が最も多く、40%を超えている。以下、「子どもにかかる人権問題」(38.6%)、「障害者にかかる人権問題」(36.2%)、「女性にかかる人権問題」(26.5%)の順となっている。また、「特にない」は20.0%となっている。

(図6 - 4 - 1)

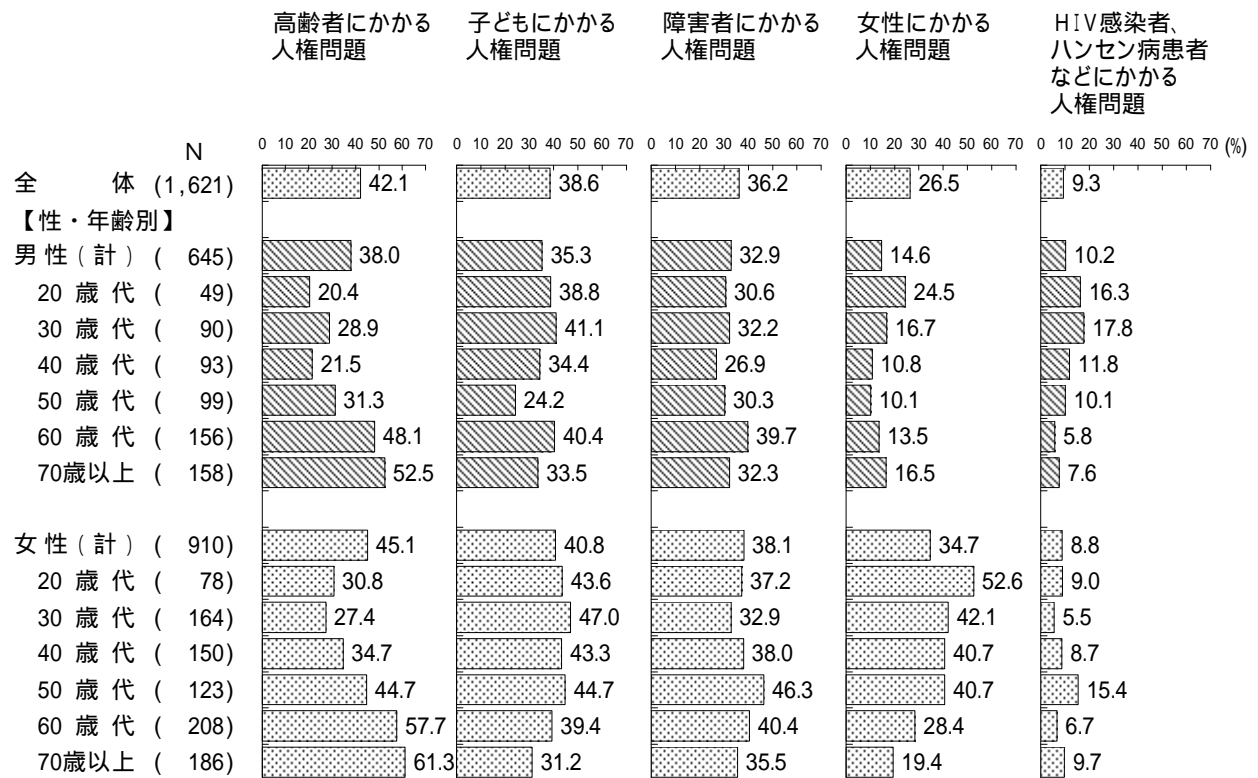
時系列でみると、前回調査と比べて、「障害者にかかる人権問題」は8.3ポイント、「H I V感染者、ハンセン病患者などにかかる人権問題」は6.4ポイント、「高齢者にかかる人権問題」は5.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「子どもにかかる人権問題」は前回調査と比べて5.7ポイント増加している。また、「特にない」は前回調査と比べて4.0ポイント増加している。(図6-4-2)

図6-4-2 時系列 関心のある人権問題



上位5項目を性・年齢別にみると、「高齢者にかかる人権問題」は男女ともにおおむね高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、特に女性70歳以上が60%を超えている。「障害者にかかる人権問題」は女性50歳代が40%半ばで多くなっている。「女性にかかる人権問題」は女性（34.7%）が男性（14.6%）より20.1ポイント高く、特に女性20歳代が50%を超えている。（図6 - 4 - 3）

図6 - 4 - 3 性・年齢別 関心のある人権問題

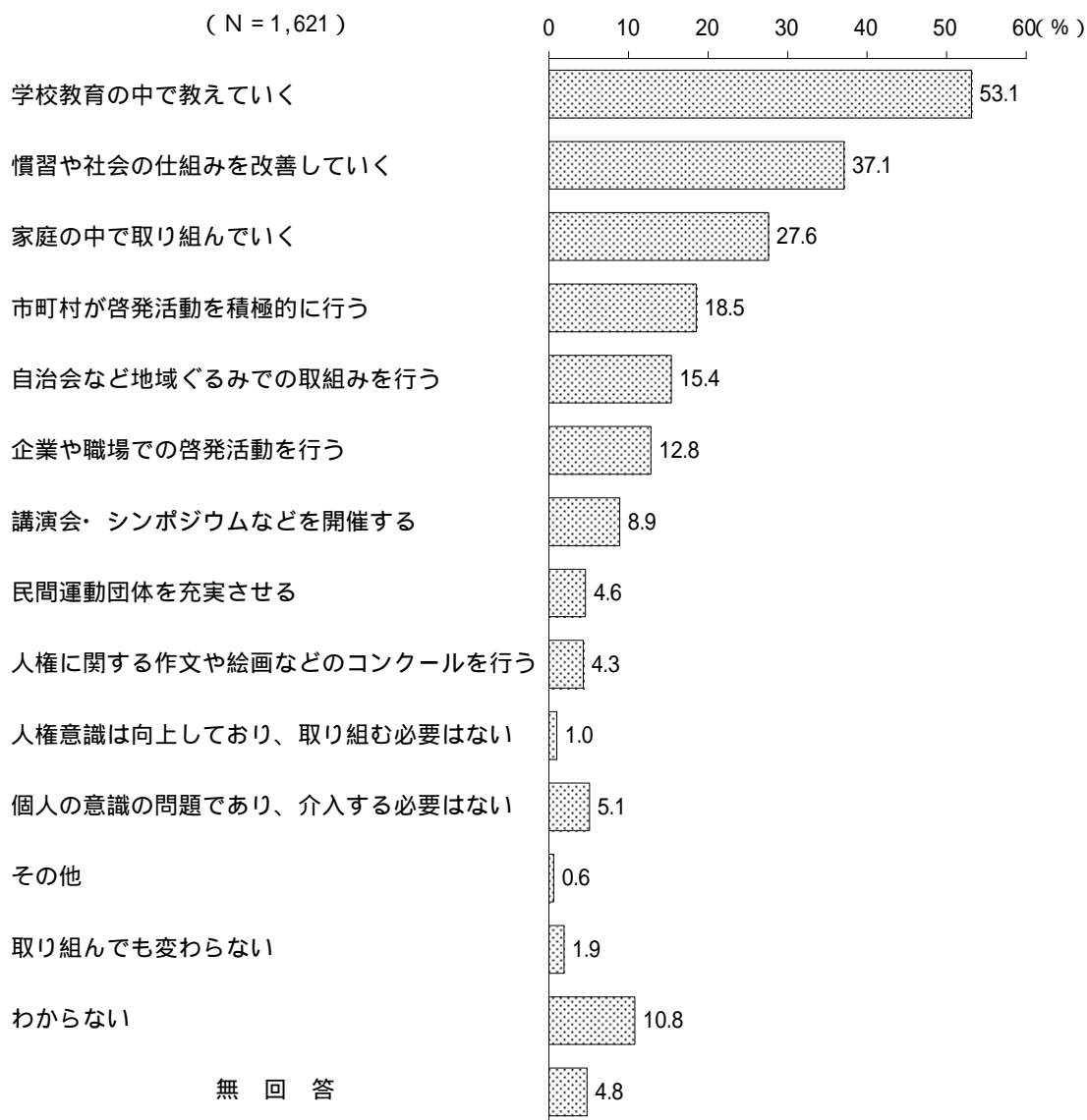


6 - 5 人権意識を高めていくために必要な取組

「学校教育の中で教えていく」が53.1%

問36 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めていくためには、今後どのような取組が必要だとお考えですか。 (はいくつでも)

図6 - 5 - 1

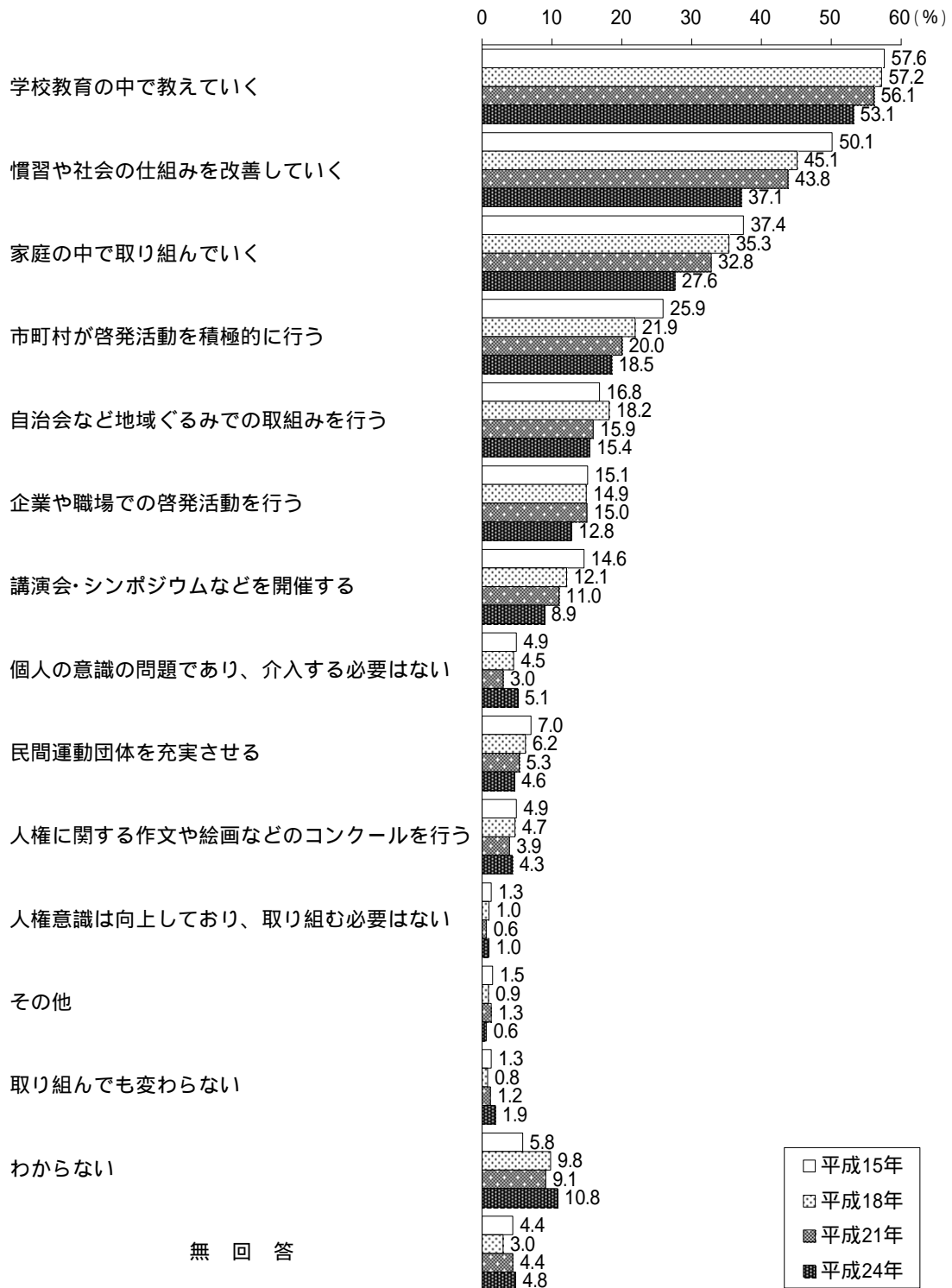


人権意識を高めていくために必要な取組みをたずねたところ、「学校教育の中で教えていく」(53.1%)が最も多く、50%を超えている。以下、「慣習や社会の仕組みを改善していく」(37.1%)、「家庭の中で取り組んでいく」(27.6%)、「市町村が啓発活動を積極的に行う」(18.5%)、「自治会など地域ぐるみでの取組を行う」(15.4%)などの順となっている。(図6 - 5 - 1)

時系列でみると、上位4項目については、順位の変動はないがいずれも減少傾向となっている。

(図6-5-2)

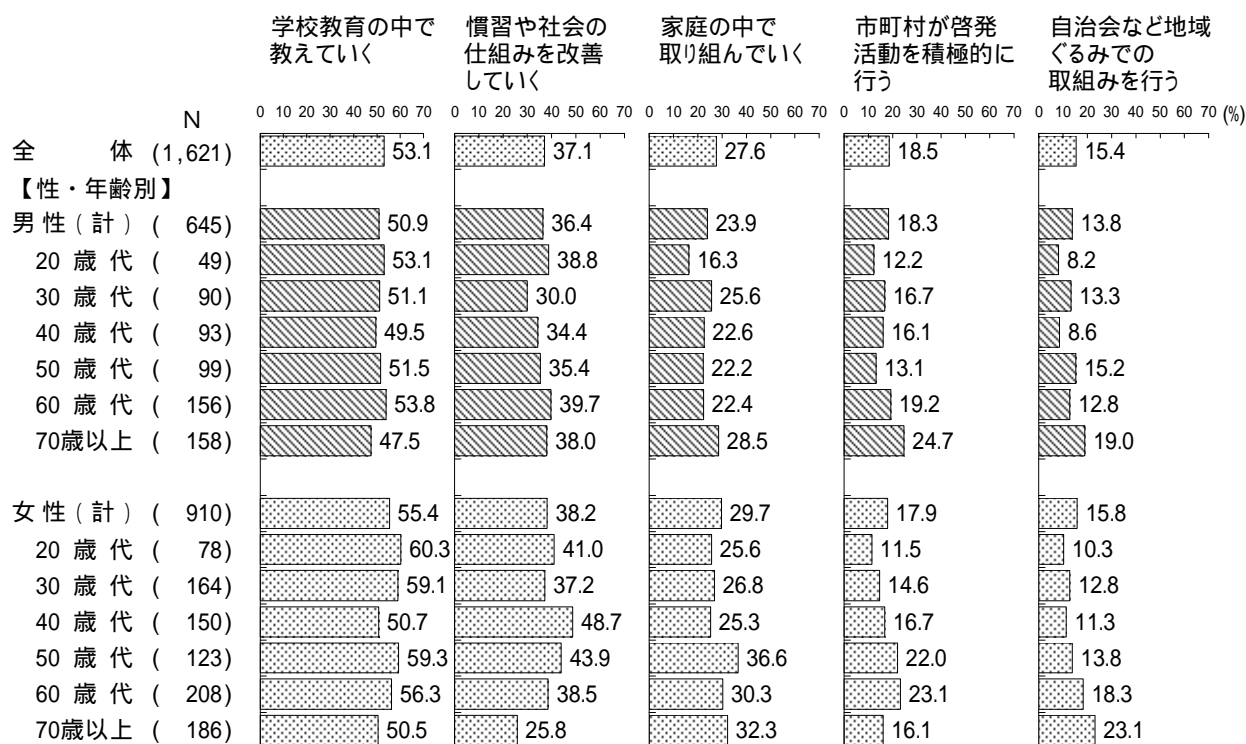
図6-5-2 時系列 人権意識を高めていくために必要な取組



上位5項目を性・年齢別にみると、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は女性40歳代が50%近くで多くなっている。「家庭の中で取り組んでいく」は女性50歳代が30%半ばで多くなっている。

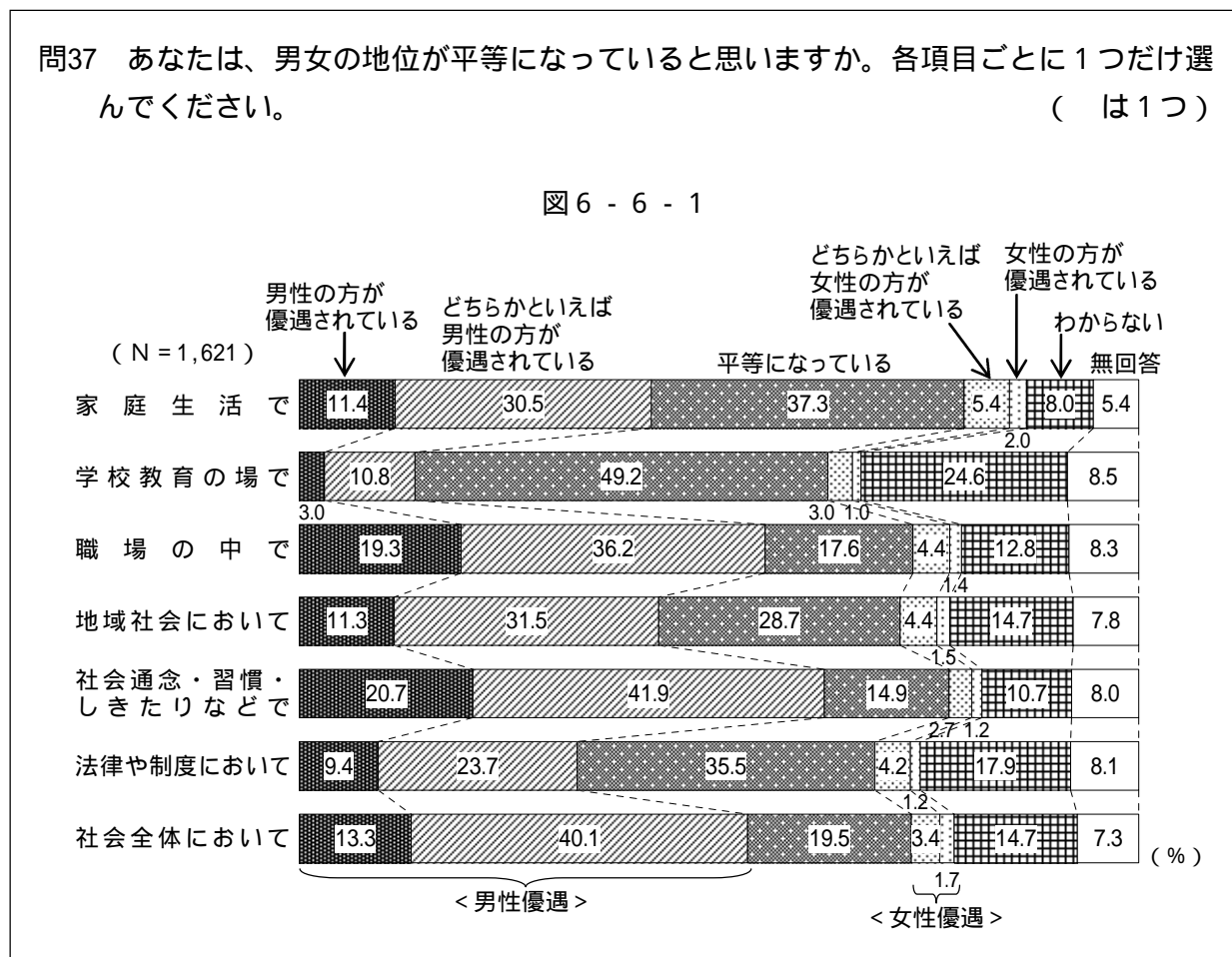
(図6-5-3)

図6-5-3 性・年齢別 人権意識を高めていくために必要な取組



6 - 6 男女平等に関する意識

「平等になっている」は『学校教育の場で』が最も多く49.2%



男女平等に関する意識をたずねたところ、「平等になっている」は『学校教育の場で』(49.2%)が最も多く、50%近くとなっている。以下、『家庭生活で』(37.3%)、『法律や制度において』(35.5%)などの順となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた、<男性優遇>は、『社会通念・習慣・しきたりなどで』(62.6%)が最も多く、60%を超えている。以下、『職場の中で』(55.5%)、『社会全体において』(53.4%)などの順となっている。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた、<女性優遇>は、すべての項目で10%未満となっている。(図6-6-1)

時系列でみると、『家庭生活で』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて3.2ポイント減少している。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」が50%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。

『職場の中で』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて5.4ポイント減少している。

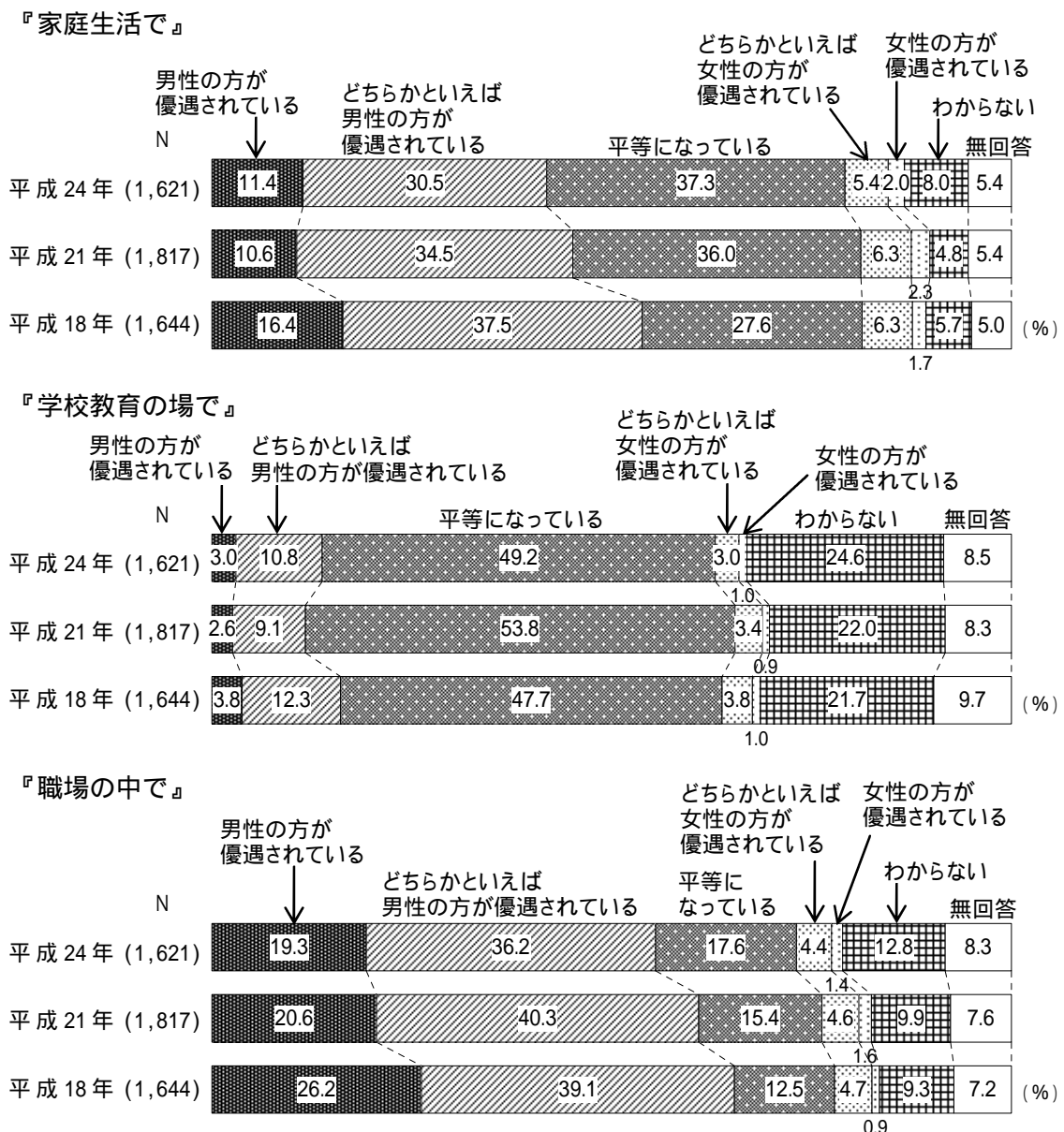
『地域社会において』では、＜男性優遇＞がやや減少傾向にあり、前回調査と比べて1.3ポイント減少している。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて3.3ポイント減少している。

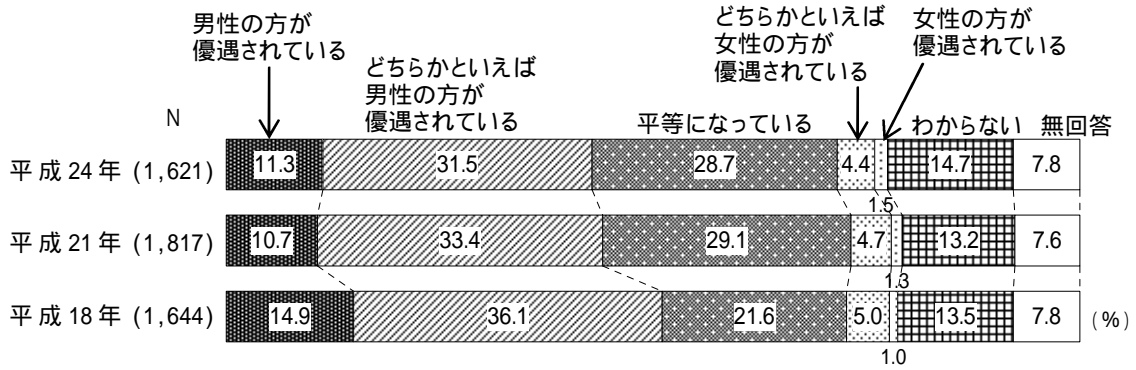
『法律や制度において』では、＜男性優遇＞がやや減少傾向にあり、前回調査と比べて1.8ポイント減少している。

『社会全体において』では、＜男性優遇＞が減少傾向にあり、前回調査と比べて4.6ポイント減少している。(図6-6-2)

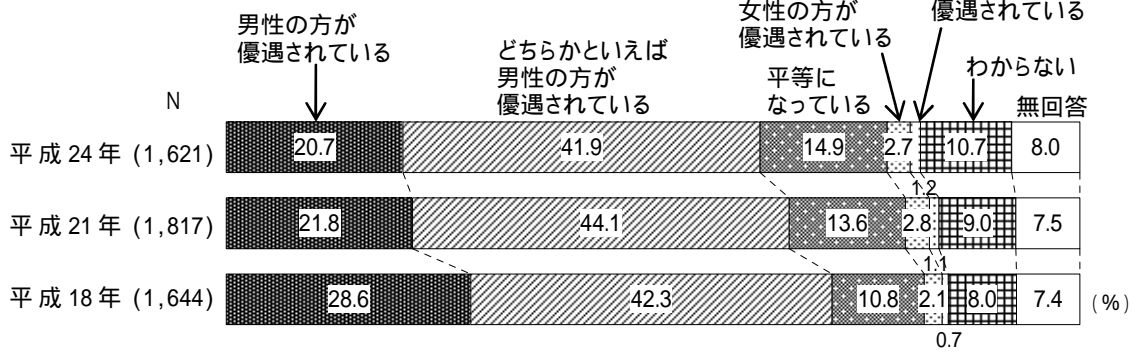
図6-6-2 時系列 男女平等に関する意識



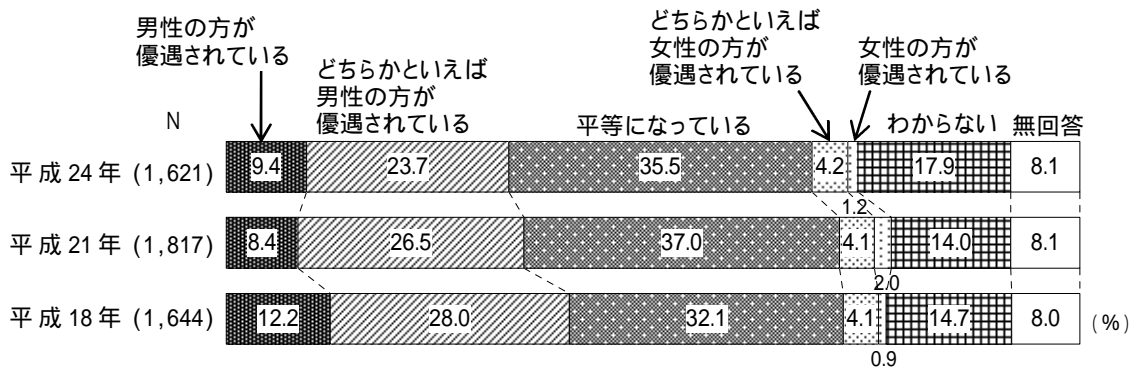
『地域社会において』



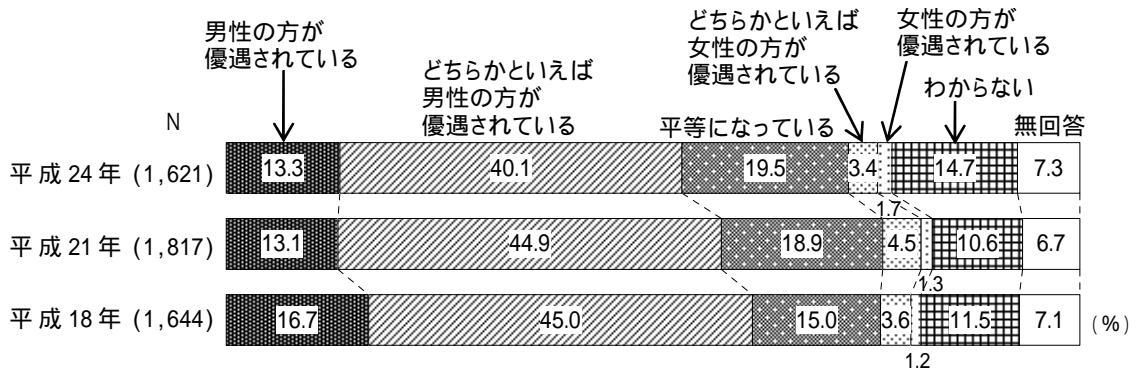
『社会通念・習慣・しきたりなどで』



『法律や制度において』



『社会全体において』



性・年齢別にみると、『家庭生活上』では、＜男性優遇＞は女性（48.4％）が男性（32.3％）より16.1ポイント高く、特に女性40歳代が60％を超えて多くなっている。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」は男性20歳代と女性50歳代が60％を超えて多くなっている。＜男性優遇＞は女性20歳代が20％を超えている。

『職場の中で』では、＜男性優遇＞は女性（60.4％）が男性（49.6％）より10.8ポイント高く、特に女性30歳代が70％を超えて多くなっている。

『地域社会において』では、＜男性優遇＞は女性（51.6％）が男性（30.7％）より20.9ポイント高く、特に女性40歳代が60％を超えて多くなっている。

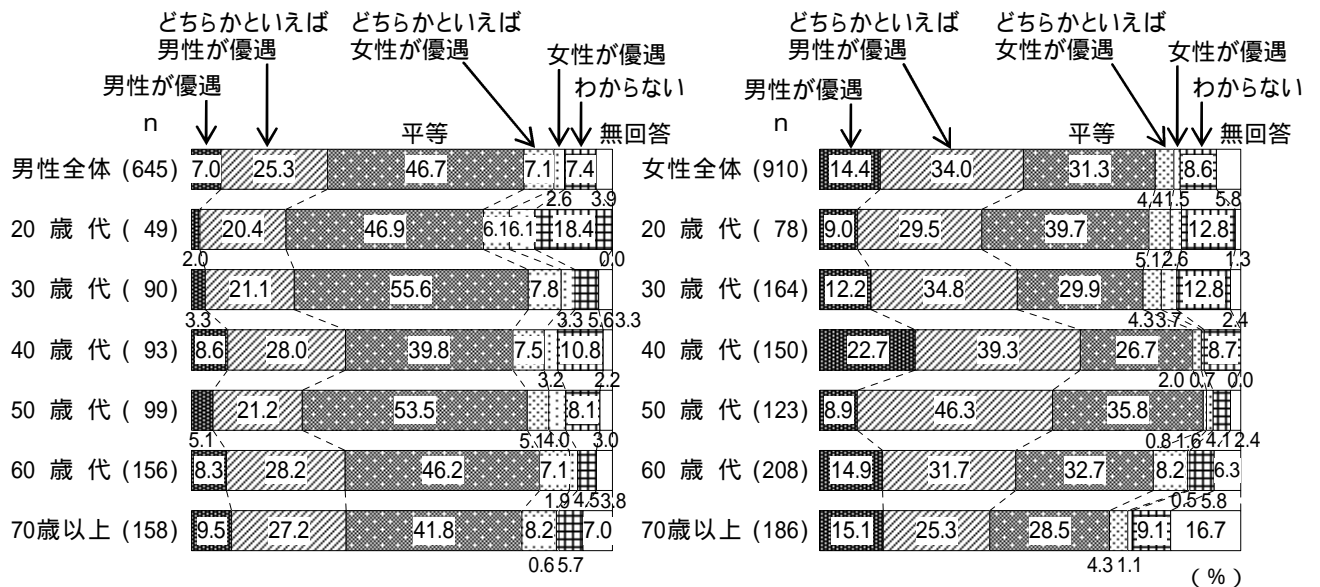
『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、＜男性優遇＞は女性（67.8％）が男性（55.7％）より12.1ポイント高く、特に女性40歳代が80％近くで多くなっている。

『法律や制度において』では、＜男性優遇＞は女性（39.6％）が男性（23.6％）より16.0ポイント高く、特に女性30歳代が50％近くで多くなっている。

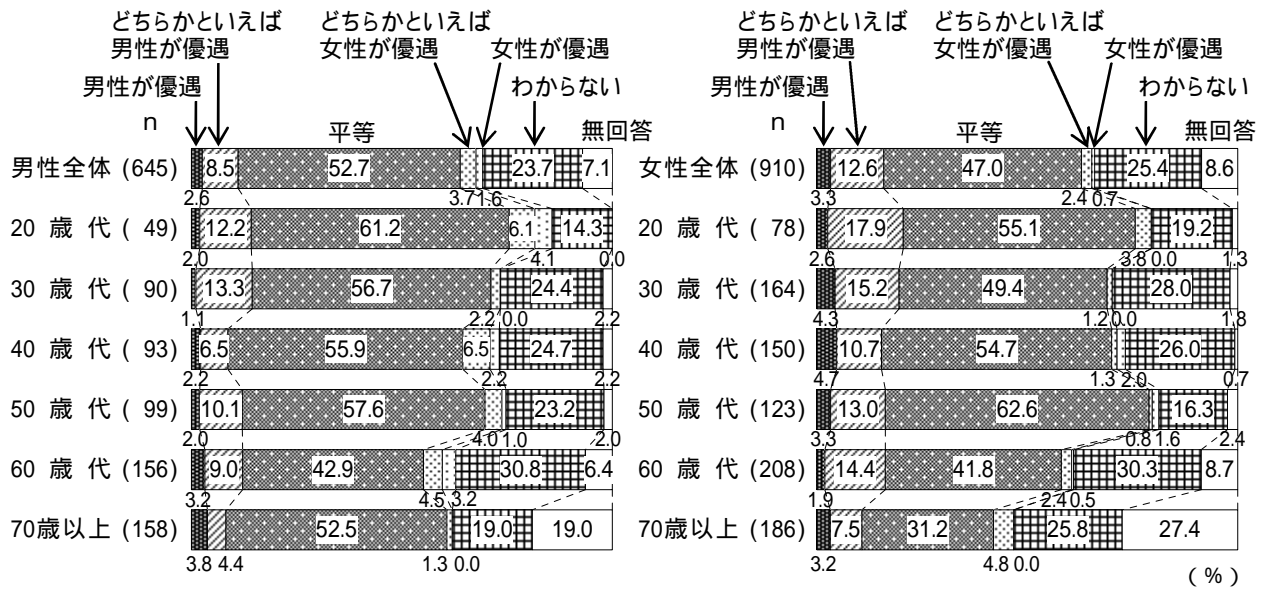
『社会全体において』では、＜男性優遇＞は女性（59.7％）が男性（44.8％）より14.9ポイント高く、特に女性40歳代が70％を超えて多くなっている。（図6-6-3）

図6-6-3 性・年齢別 男女平等に関する意識

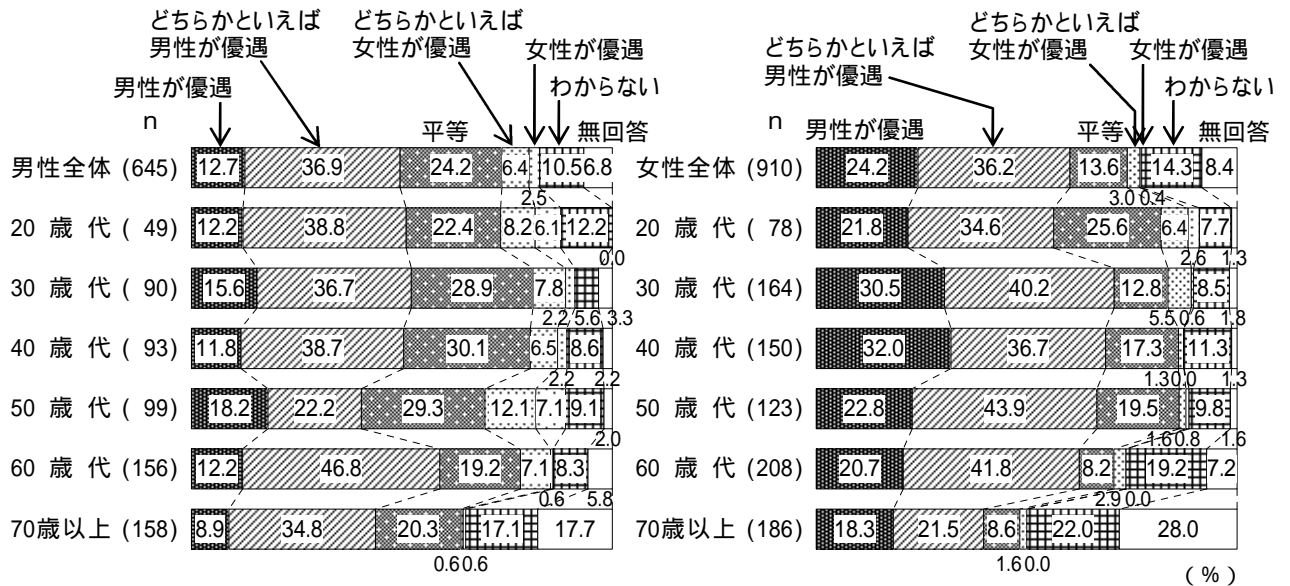
『家庭生活上』



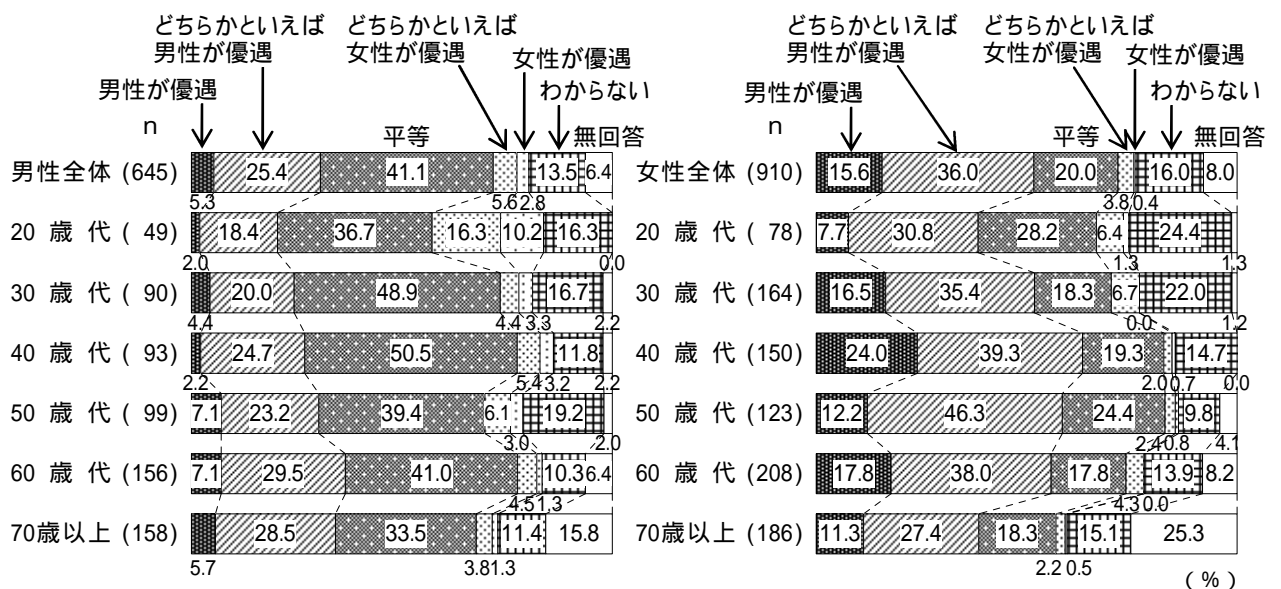
『学校教育の場で』



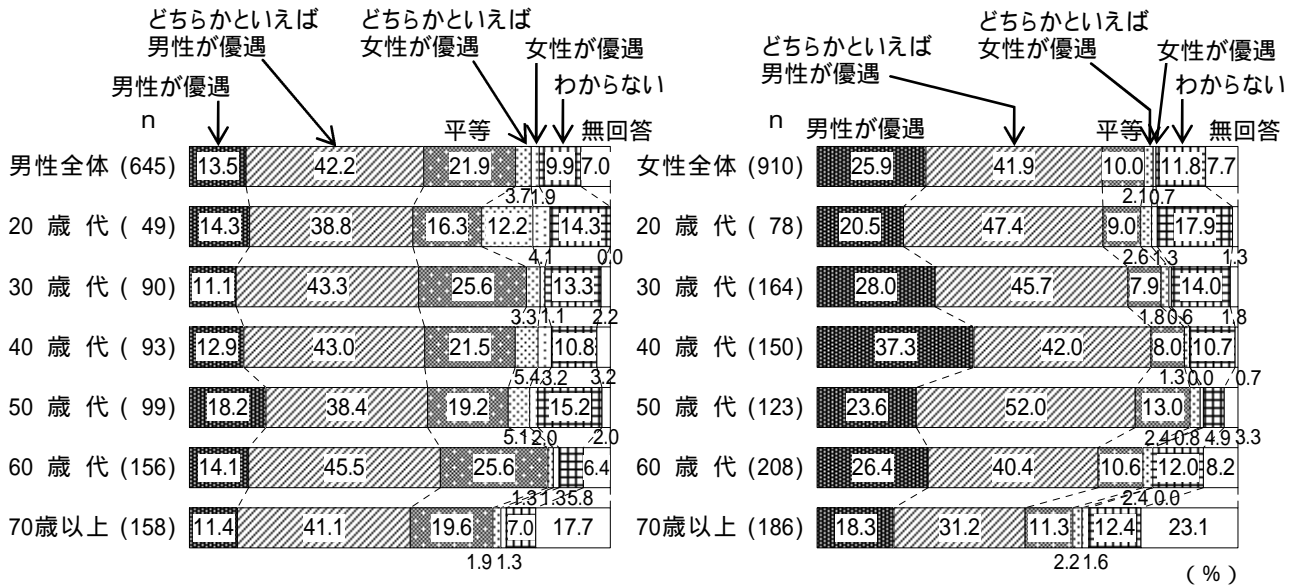
『職場の中で』



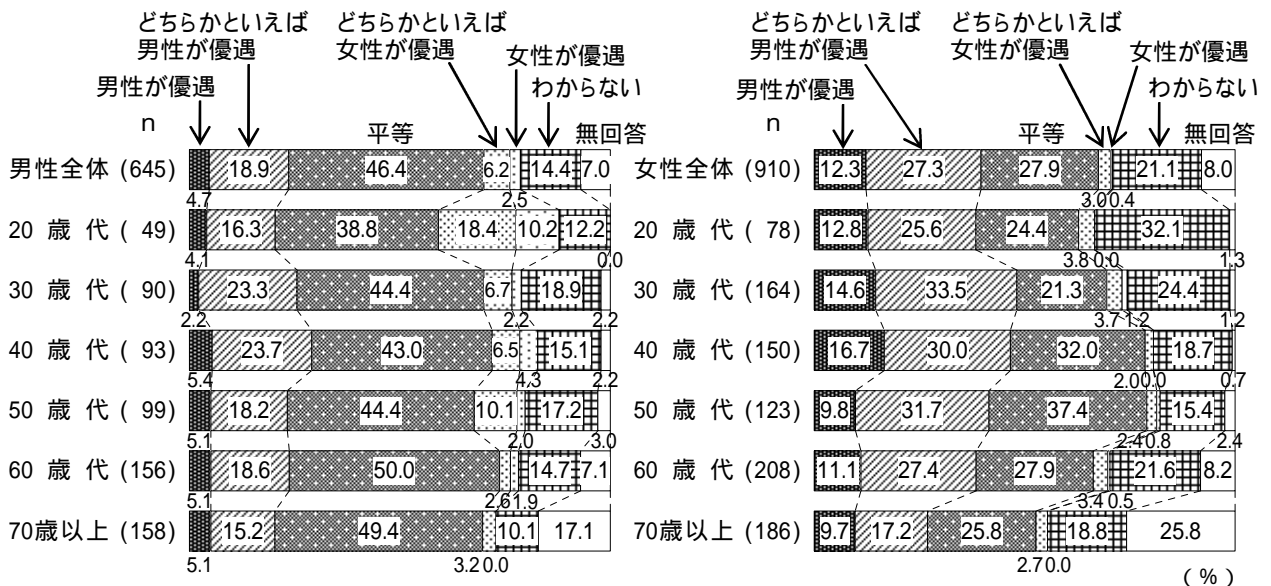
『地域社会において』



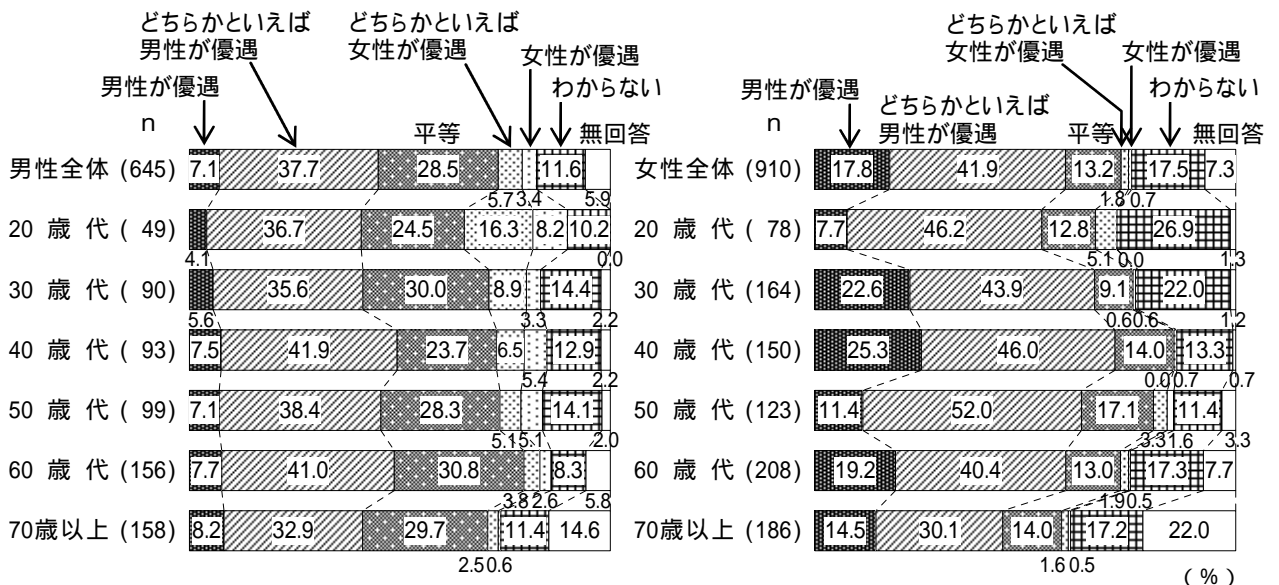
『社会通念・習慣・しきたりなどで』



『法律や制度において』



『社会全体において』



「男は仕事、女は家庭」という考え方(問38・149ページ参照)別にみると、『家庭生活で』では、考え方の違いによる大きな傾向の違いはみられない。

『学校教育の場で』では、「平等になっている」は、“そうは思わない”(54.5%)が“そう思う”(44.3%)より10.2ポイント高くなっている。

『職場の中で』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(59.7%)が“そう思う”(50.0%)より9.7ポイント高くなっている。

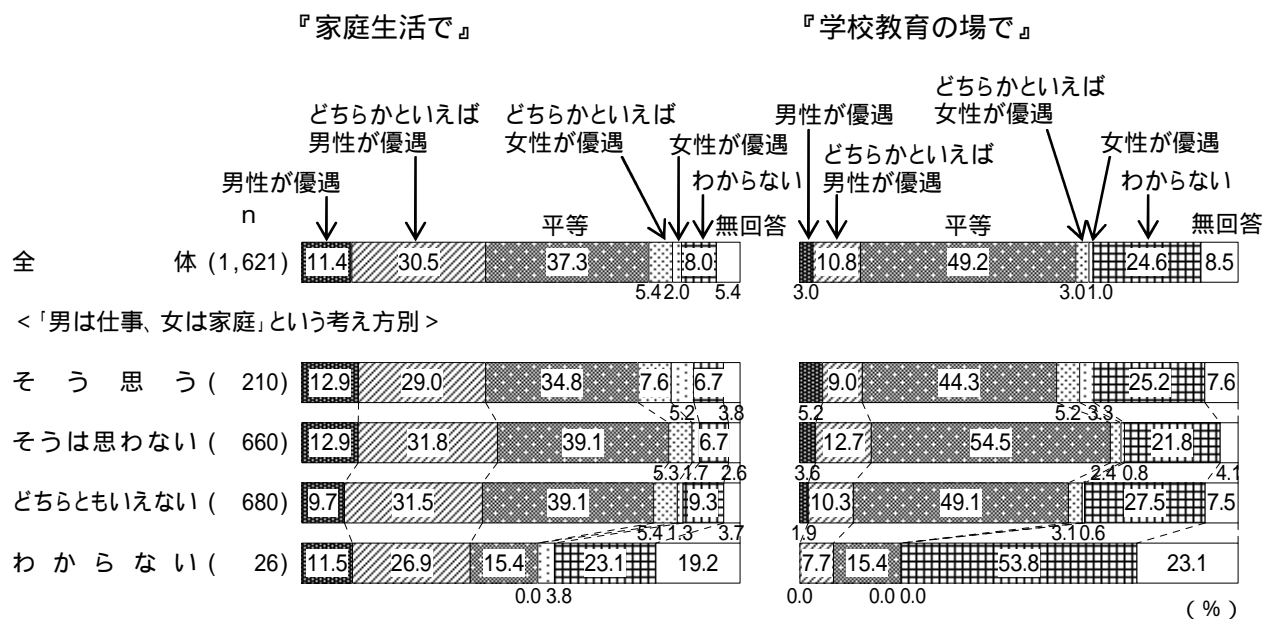
『地域社会において』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(49.7%)が“そう思う”(31.5%)より18.2ポイント高くなっている。

『社会通念・習慣・しきたりなどで』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(70.3%)が“そう思う”(54.7%)より15.6ポイント高くなっている。

『法律や制度において』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(38.2%)が“そう思う”(30.0%)より8.2ポイント高くなっている。

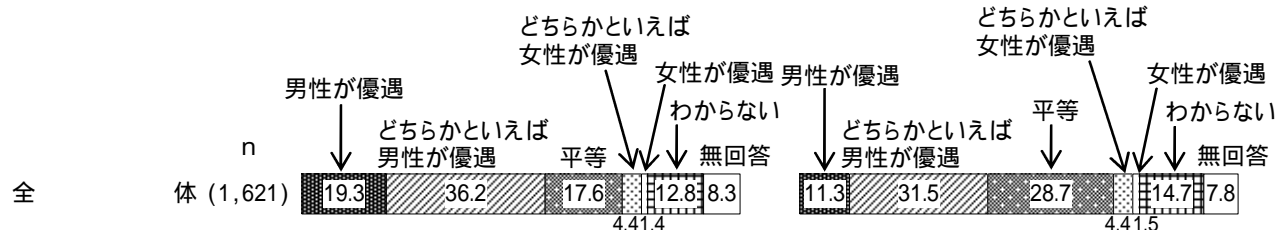
『社会全体において』では、<男性優遇>は、“そうは思わない”(60.9%)が“そう思う”(44.8%)より16.1ポイント高くなっている。(図6-6-4)

図6-6-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方別 男女平等に関する意識

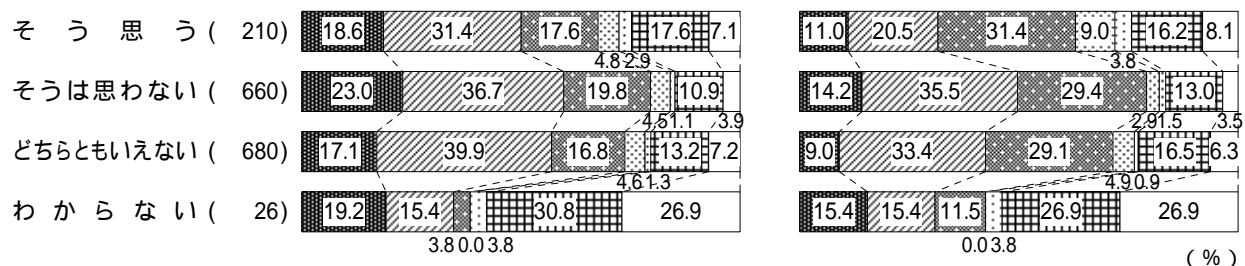


『職場の中で』

『地域社会において』

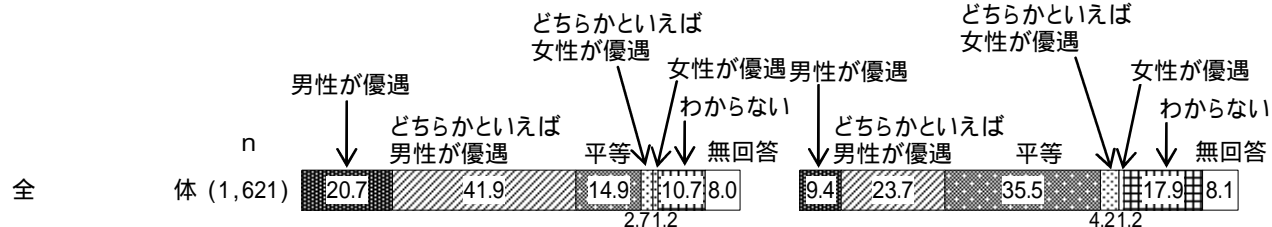


<「男は仕事、女は家庭」という考え方別>

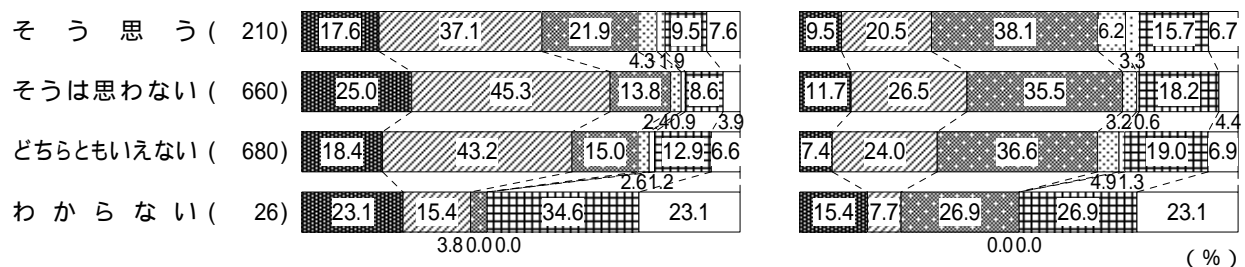


『社会通念・習慣・しきたりなどで』

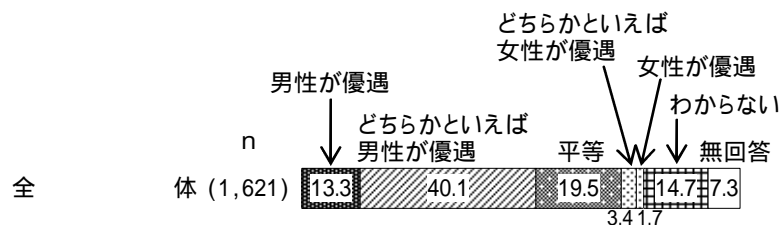
『法律や制度において』



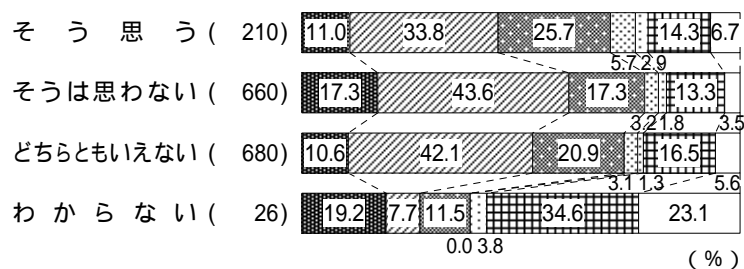
<「男は仕事、女は家庭」という考え方別>



『社会全体において』



<「男は仕事、女は家庭」という考え方別>

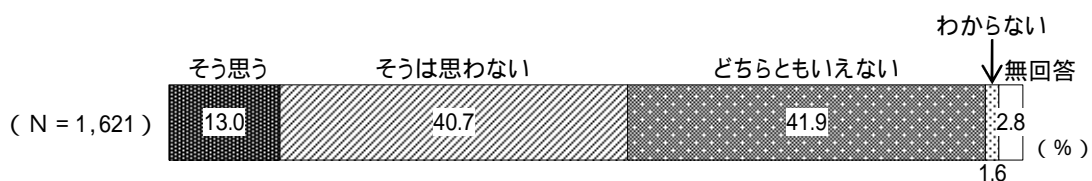


6 - 7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「どちらともいえない」が41.9%、「そうは思わない」が40.7%

問38 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(は1つ)

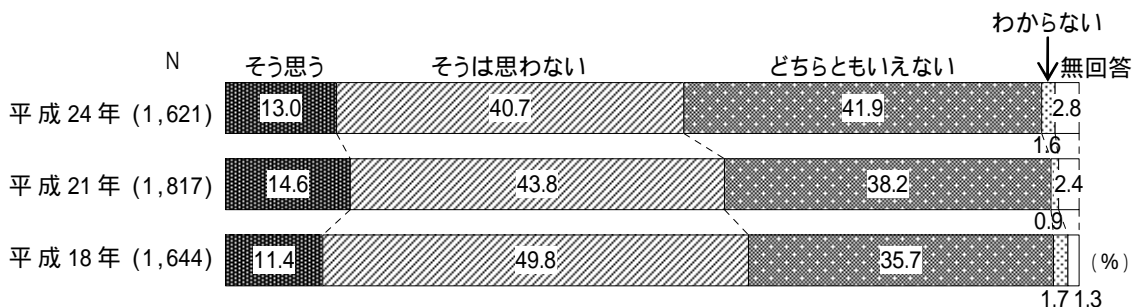
図6 - 7 - 1



「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねたところ、「どちらともいえない」(41.9%)と「そうは思わない」(40.7%)がともに40%を超えている。「そう思う」(13.0%)は10%を超えている。(図6 - 7 - 1)

時系列で見ると、「どちらともいえない」は増加傾向にあり、前回調査と比べて3.7ポイント増加している。一方、「そうは思わない」は減少傾向にあり、前回調査と比べて3.1ポイント減少している。(図6 - 7 - 2)

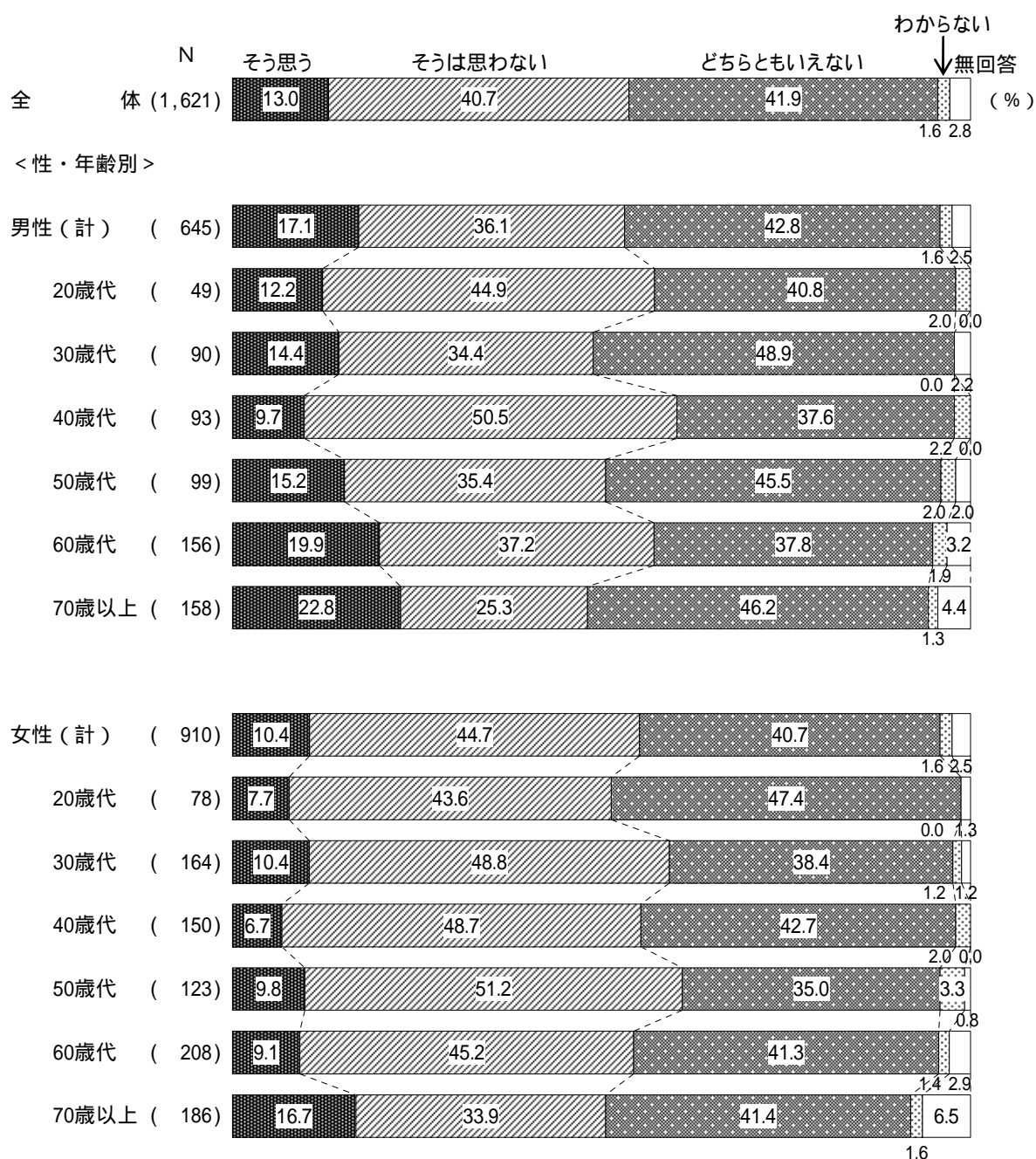
図6 - 7 - 2 時系列 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



性・年齢別にみると、「そうは思わない」は男性40歳代と女性50歳代がともに50%を超えて多くなっている。「そう思う」は男性70歳以上が20%を超え、男性60歳代が20%近くと多くなっている。

(図6-7-3)

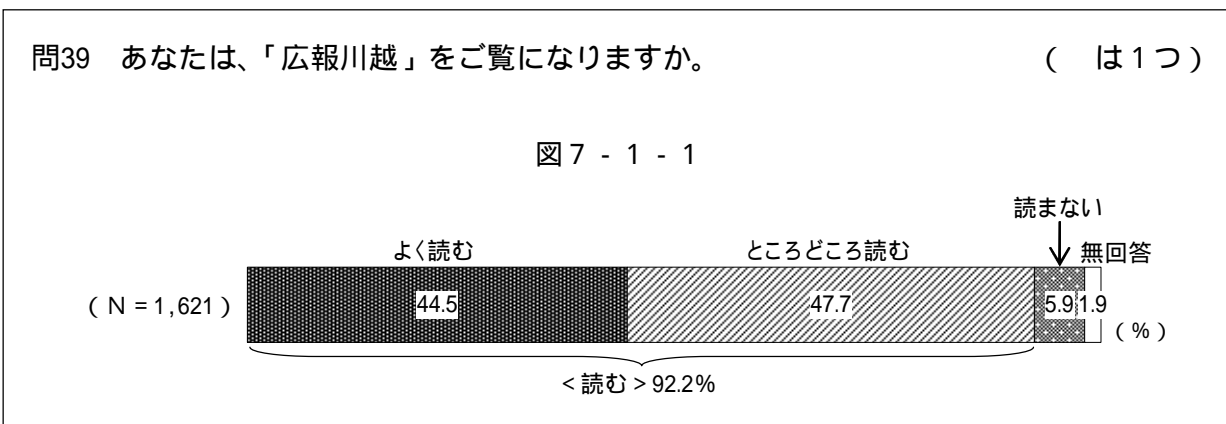
図6-7-3 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



7. 市政全般

7-1 「広報川越」の閲覧状況

<読む>は92.2%

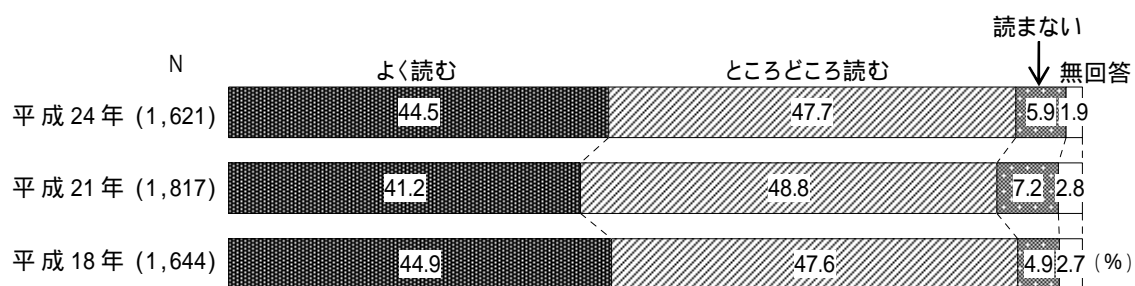


「広報川越」の閲覧状況をたずねたところ、「よく読む」(44.5%)と「ところどころ読む」(47.7%)を合わせた<読む>(92.2%)は90%を超えている。また、「読まない」は5.9%となっている。

(図7-1-1)

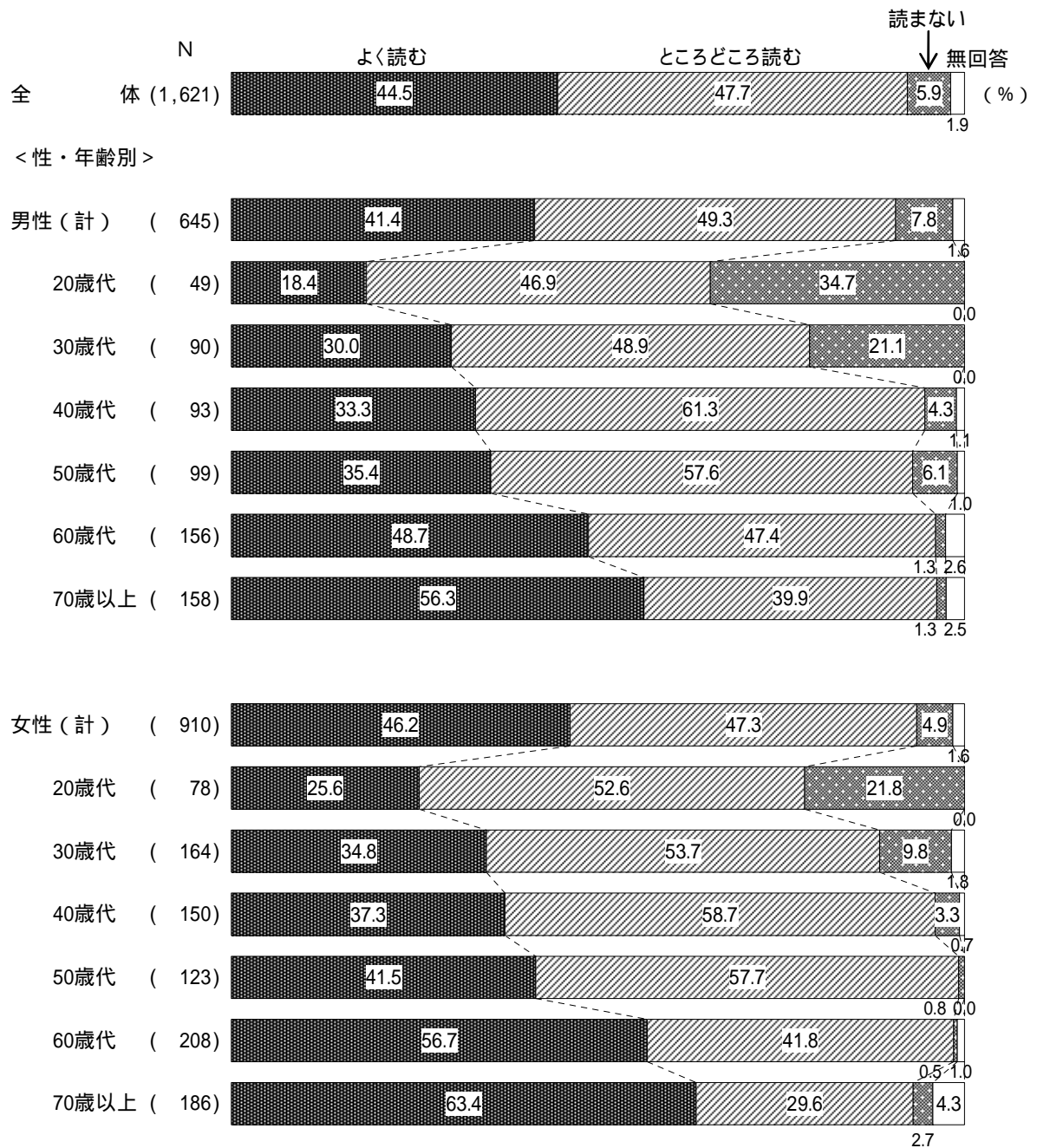
時系列でみると、大きな傾向の違いはみられない。(図7-1-2)

図7-1-2 時系列 「広報川越」の閲覧状況



性・年齢別にみると、「よく読む」は高い年代ほど割合が高くなっており、女性70歳以上が60%を超え、男性70歳以上と女性60歳代がともに50%半ばとなっている。「読まない」は男性20歳代が30%半ば、男性30歳代と女性20歳代が20%を超えて多くなっている。(図7-1-3)

図7-1-3 性・年齢別 「広報川越」の閲覧状況

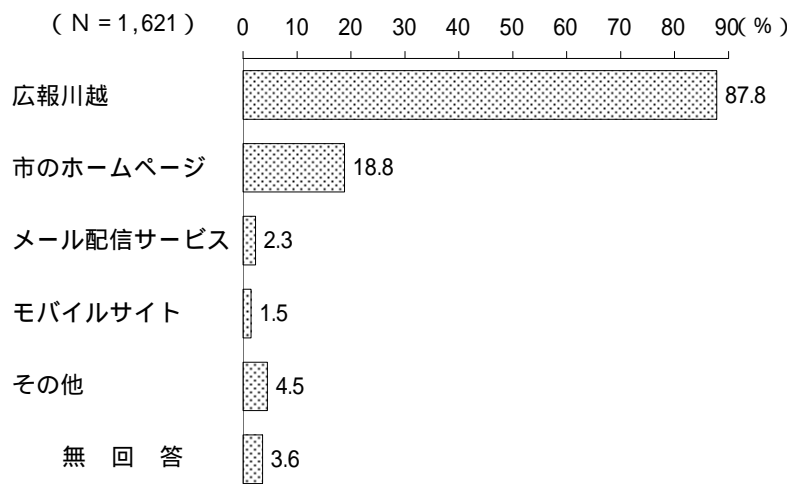


7 - 2 市の情報の入手方法

「広報川越」が87.8%

問40 あなたは、市の情報をどのような方法で取得していますか。 (はいくつでも)

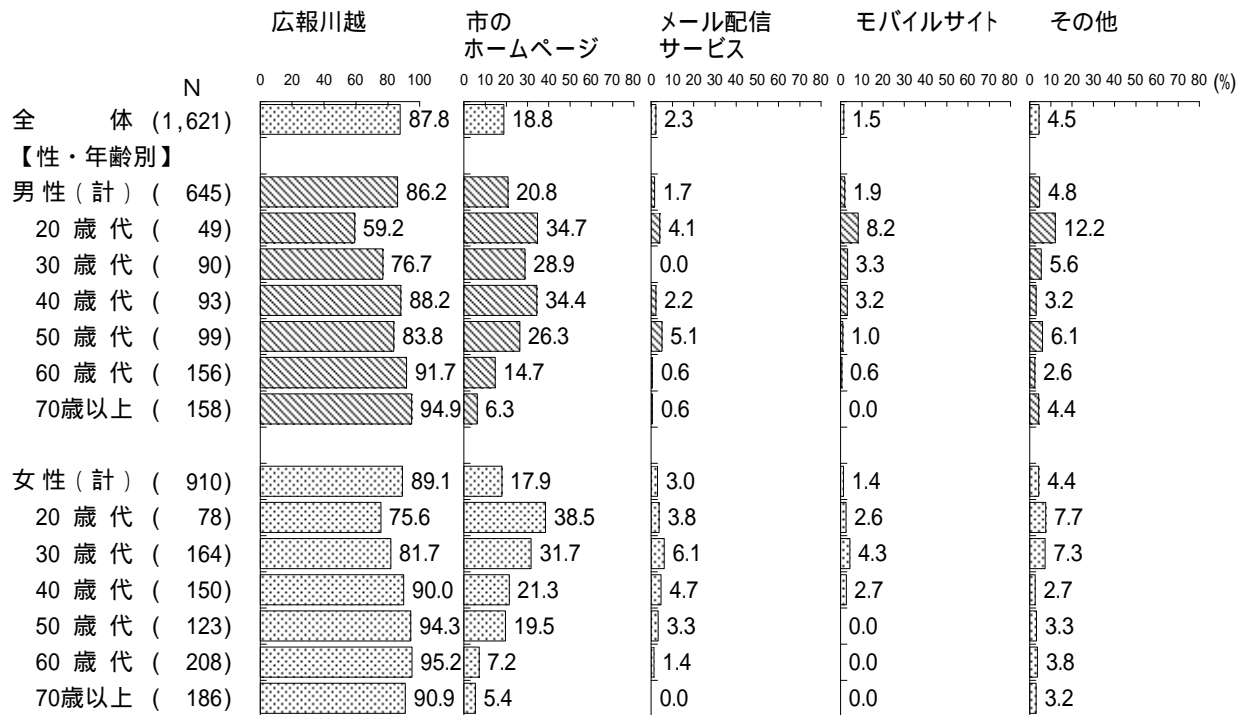
図7 - 2 - 1



市の情報の入手方法をたずねたところ、「広報川越」(87.8%)が最も多く、90%近くとなっている。以下、「市のホームページ」(18.8%)、「メール配信サービス」(2.3%)、「モバイルサイト」(1.5%)の順となっている。(図7 - 2 - 1)

性・年齢別にみると、「広報川越」は男性の60歳代以上、女性の40歳代以上の年代がいずれも90%台となっている。「市のホームページ」は女性20歳代が40%近く、男性20歳代と40歳代が30%半ばで多くなっている。(図7-2-2)

図7-2-2 性・年齢別 市の情報の入手方法

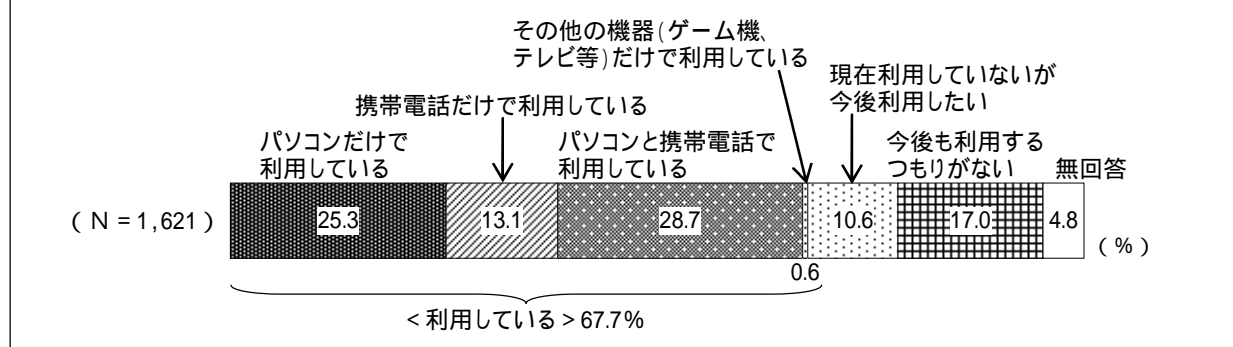


7 - 3 インターネット利用状況

<利用している>は67.7%

問41 あなたは、自宅・職場・学校などでインターネットを利用していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。 (は1つ)

図7-3-1



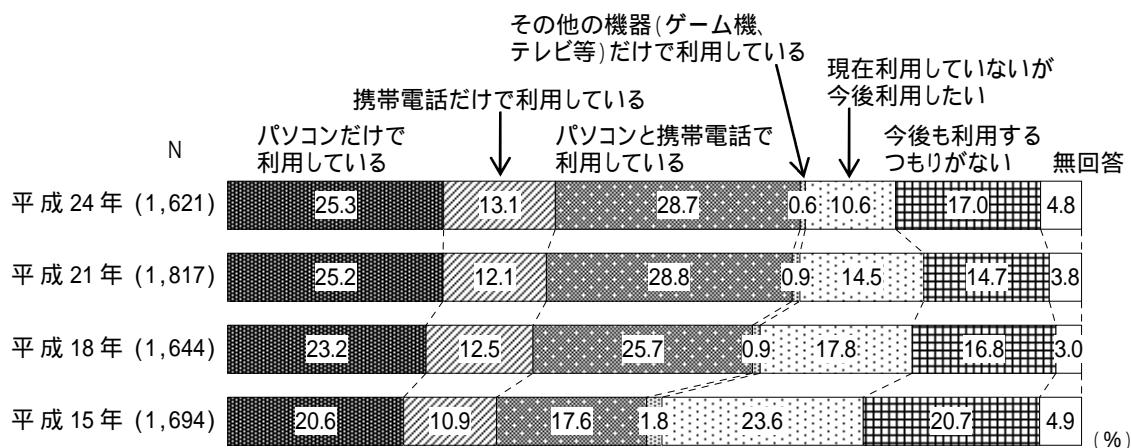
インターネットの利用状況をたずねたところ、「パソコンと携帯電話で利用している」(28.7%)が最も多く、これと「パソコンだけで利用している」(25.3%)、「携帯電話だけで利用している」(13.1%)、「その他の機器(ゲーム機、テレビ等)だけで利用している」(0.6%)を合わせた<利用している>(67.7%)は70%近くとなっている。また、「今後も利用するつもりがない」(17.0%)は20%近くで、「現在利用していないが今後利用したい」(10.6%)は10%を超えている。

(図7-3-1)

時系列でみると、<利用している>の割合は前回調査とほぼ同じ傾向になっている。

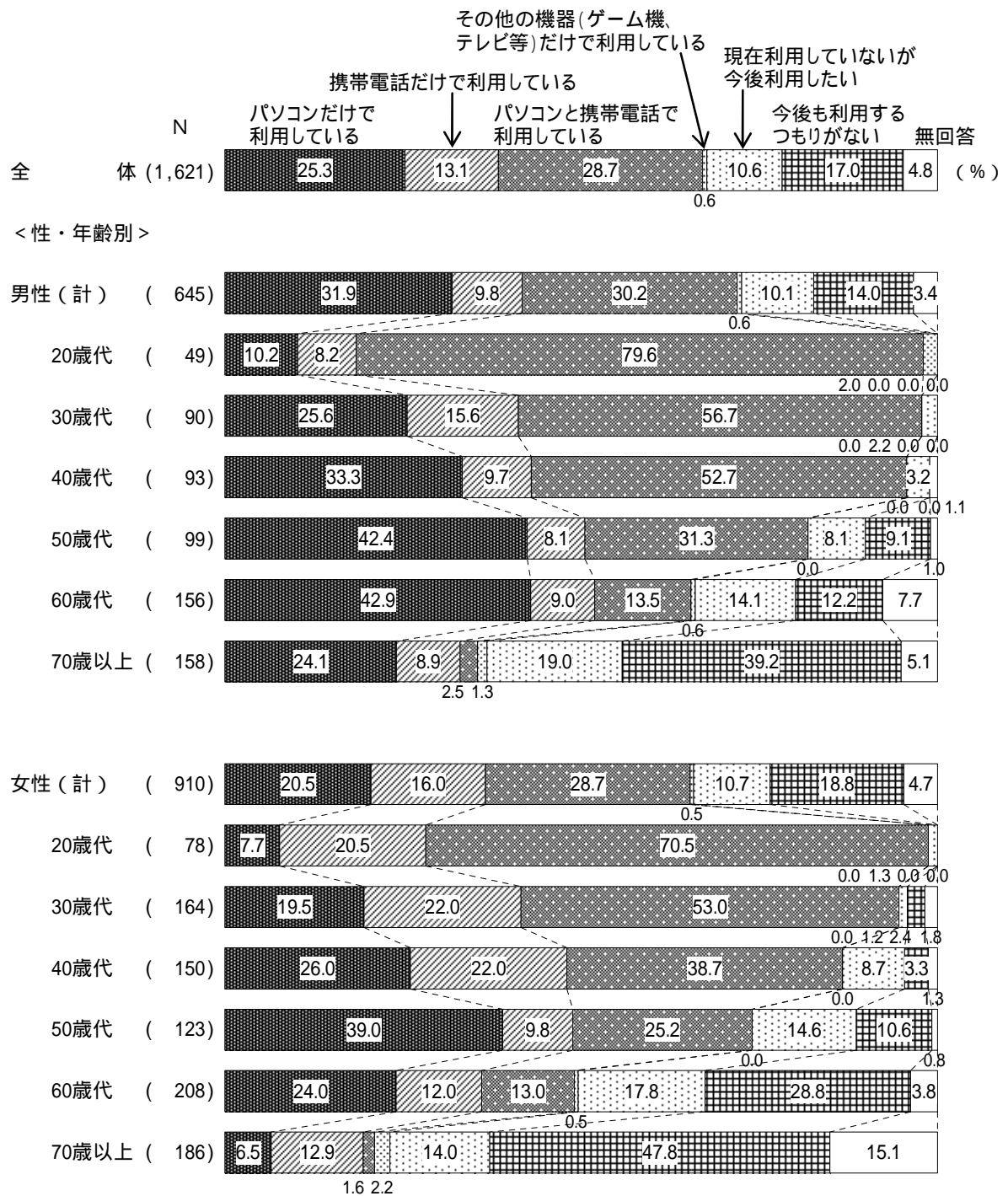
(図7-3-2)

図7-3-2 時系列 インターネット利用状況



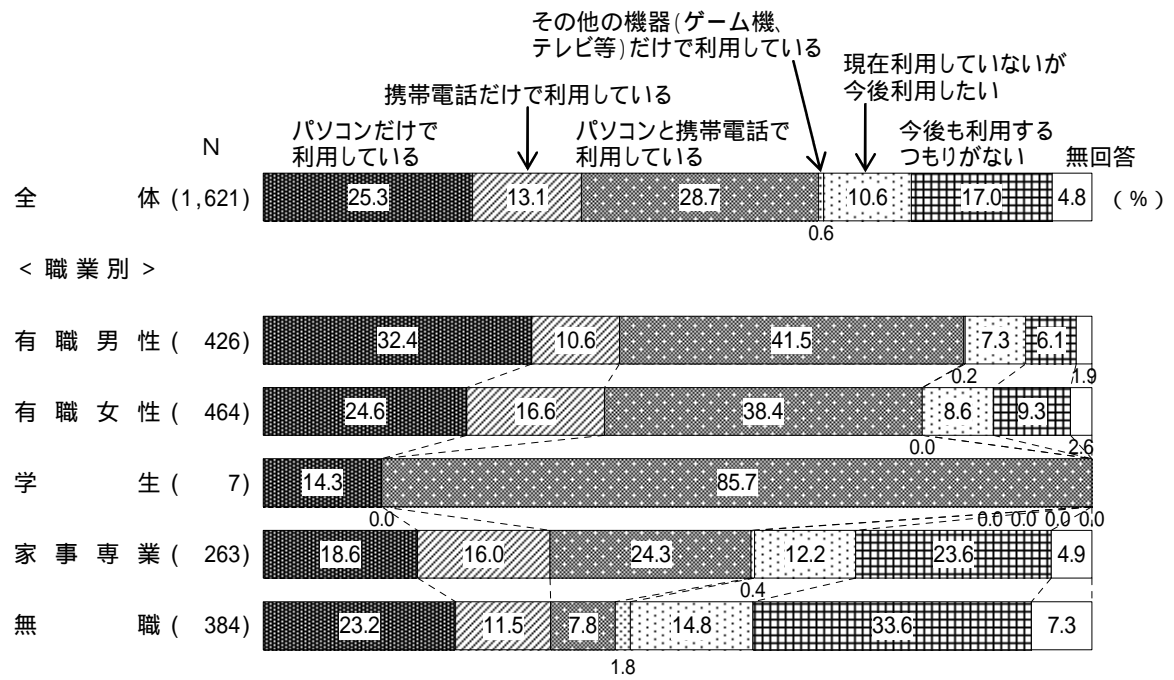
性・年齢別にみると、＜利用している＞は男性の20歳代から40歳代、女性の20歳代と30歳代の年代が90%を超えており、また男性60歳代では60%半ば、女性60歳代では50%近く、男性70歳以上では30%半ば、女性70歳以上では20%を超えている。(図7-3-3)

図7-3-3 性・年齢別 インターネット利用状況



職業別にみると、＜利用している＞は有職男性が80%半ば、有職女性が80%近く、家事専業が60%近く、無職が40%半ばとなっている。(図7-3-4)

図7-3-4 職業別 インターネット利用状況



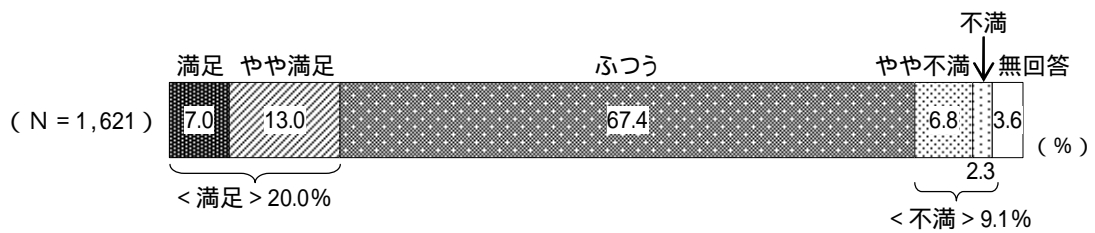
7 - 4 市の情報提供に対する満足度

<満足> は20.0%

問42 あなたは、市の行政に関する情報提供について、どのように感じていますか。1つ選んでください。 (は1つ)

「情報提供」とは、「広報川越」や市のホームページなどによるお知らせや情報公開制度による公文書の公開などを想定しています。

図7 - 4 - 1

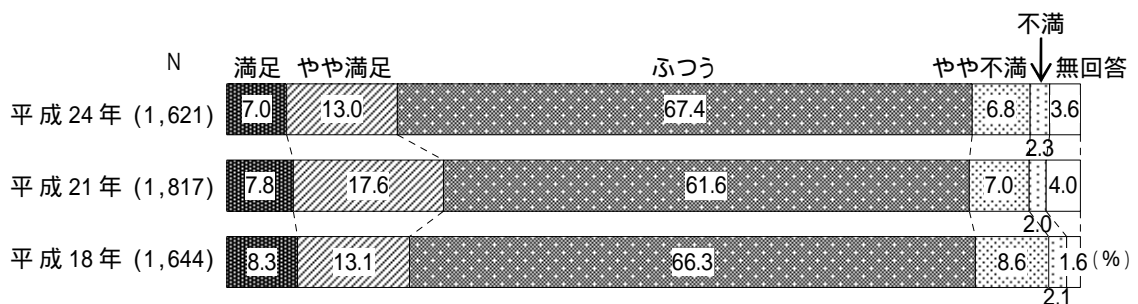


市の情報提供に対する満足度についてたずねたところ、「満足」(7.0%)と「やや満足」(13.0%)を合わせた<満足>(20.0%)は20%となっている。一方、「やや不満」(6.8%)と「不満」(2.3%)を合わせた<不満>(9.1%)は10%近くで、「ふつう」(67.4%)は70%近くとなっている。

(図7 - 4 - 1)

時系列でみると、<満足>が20%台、「ふつう」が60%台、<不満>が10%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。(図7 - 4 - 2)

図7 - 4 - 2 時系列 市の情報提供に対する満足度

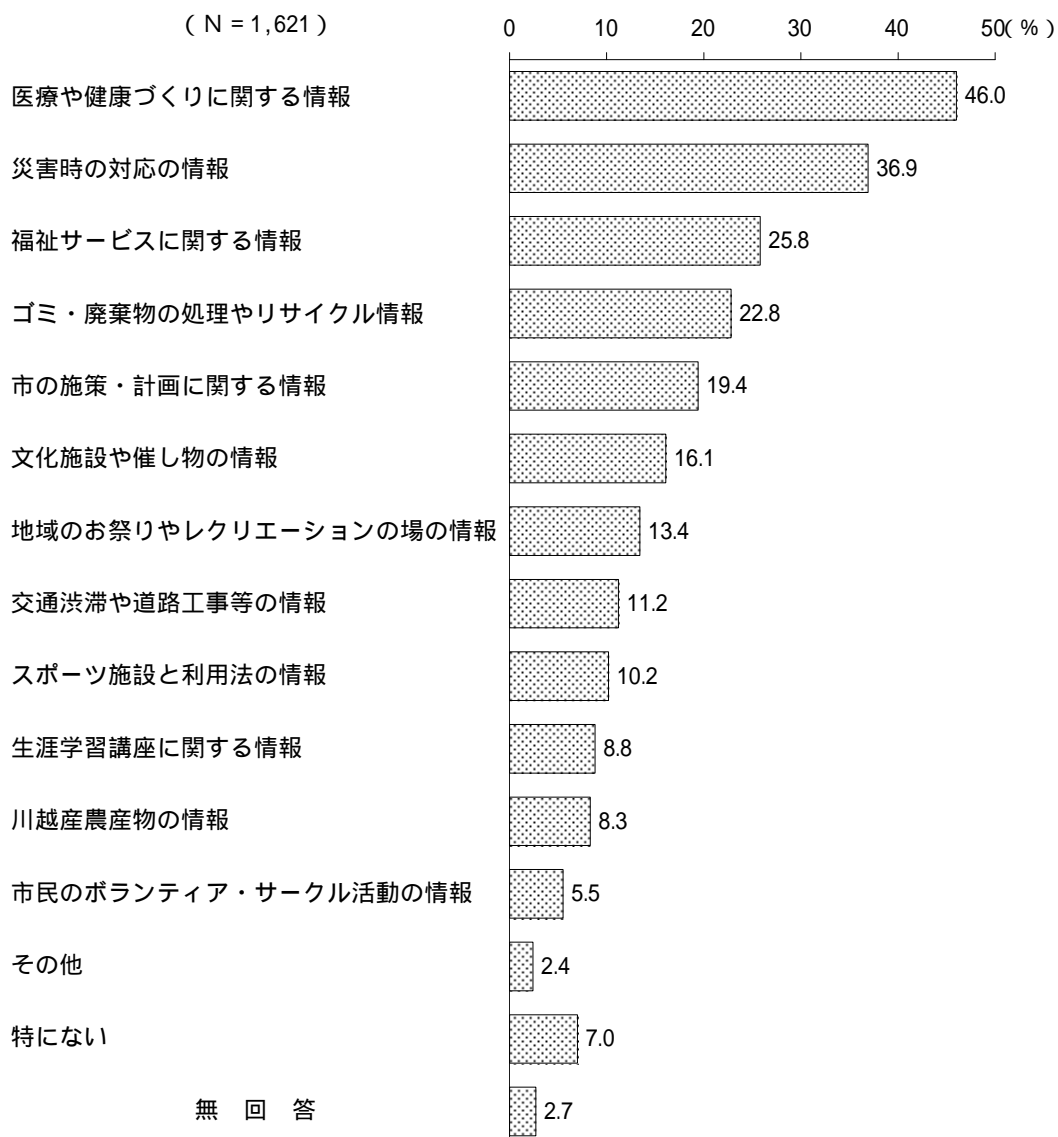


7 - 5 必要な市の行政情報

「医療や健康づくりに関する情報」が46.0%

問43 あなたが、今必要としている市からの情報は何か。次の中から3つ以内で選んでください。(は3つ以内)

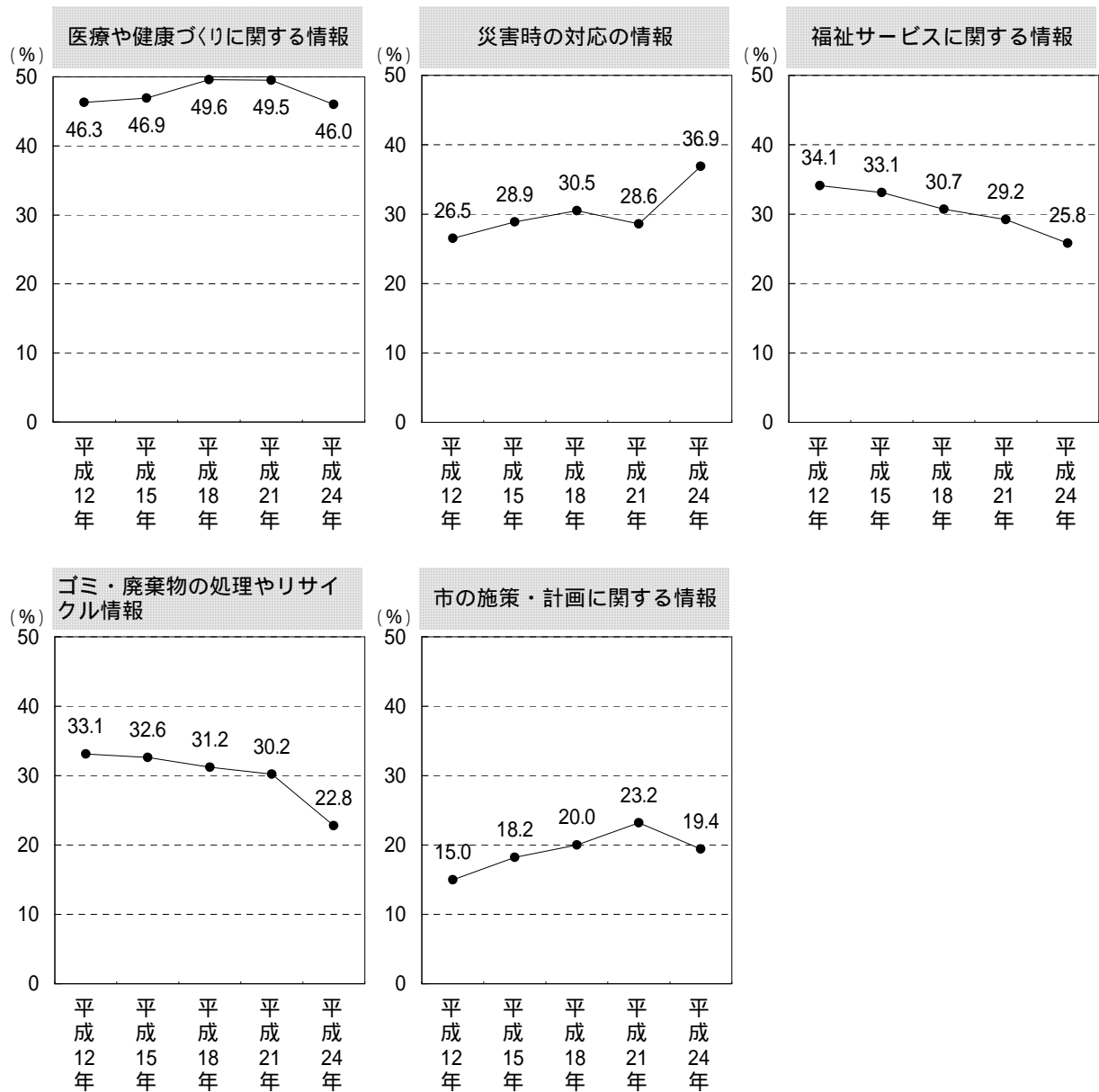
図7 - 5 - 1



必要な市の行政情報をたずねたところ、「医療や健康づくりに関する情報」(46.0%)が最も多く、40%半ばとなっている。以下、「災害時の対応の情報」(36.9%)、「福祉サービスに関する情報」(25.8%)、「ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報」(22.8%)、「市の施策・計画に関する情報」(19.4%)などの順となっている。(図7 - 5 - 1)

上位5項目について時系列でみると、「災害時の対応の情報」は前回調査と比べて8.3ポイント増加している。一方、「福祉サービスに関する情報」と「ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報」は減少傾向となっている。(図7-5-2)

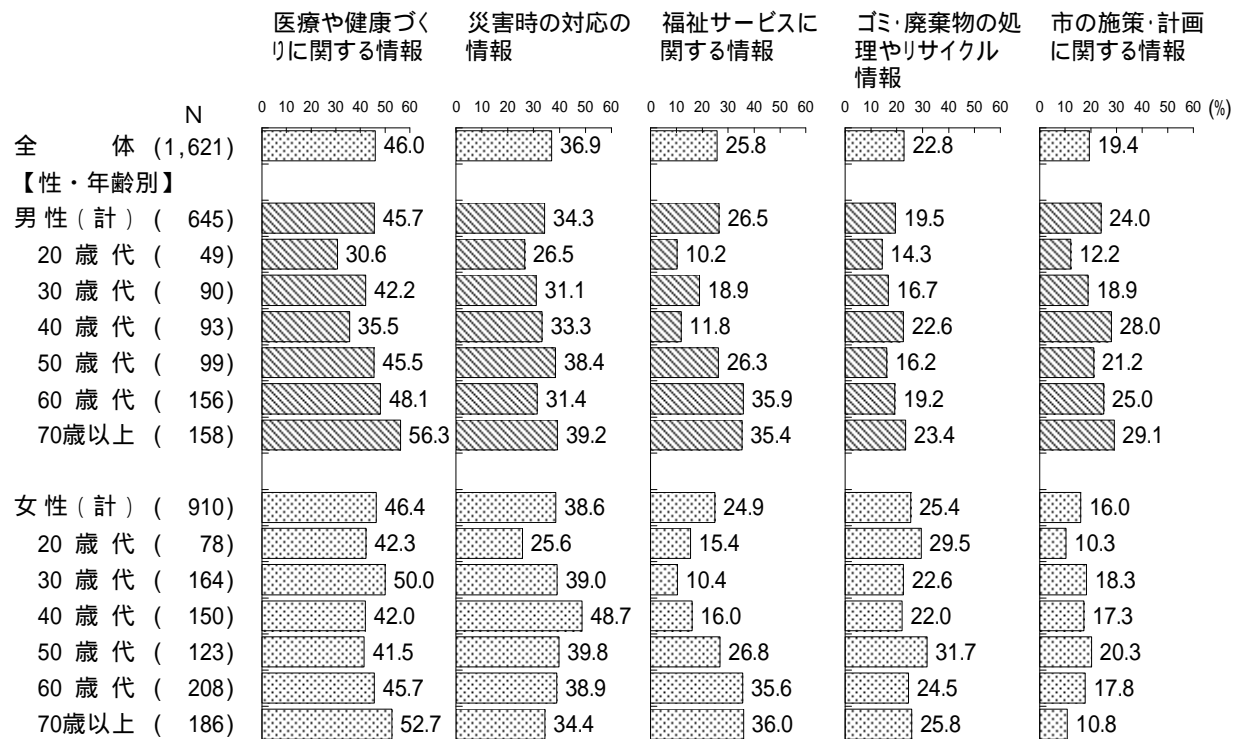
図7-5-2 時系列 必要な市の行政情報



上位5項目を性・年齢別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」は男性70歳以上が50%半ばで、女性70歳以上が50%を超えている。「災害時の対応の情報」は女性40歳代が50%近くと多くなっている。「福祉サービスに関する情報」は男女とも60歳代と70歳以上が30%半ばで多くなっている。

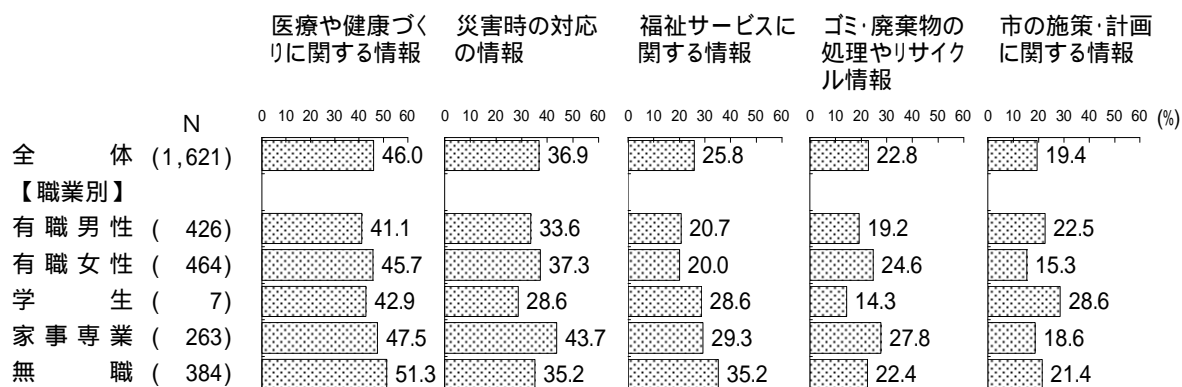
(図7-5-3)

図7-5-3 性・年齢別 必要な市の行政情報



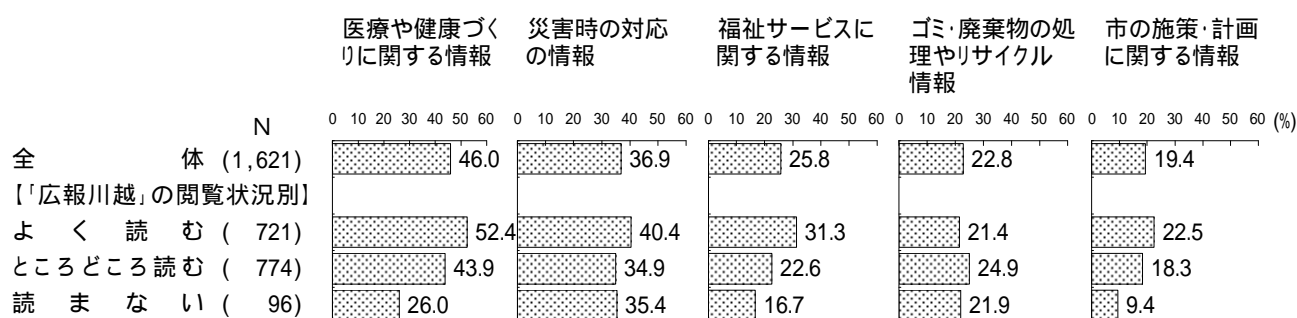
上位5項目を職業別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」は無職が50%を超えている。「災害時の対応の情報」は家事専業が40%を超えている。「福祉サービスに関する情報」は無職が30%半ばとなっている。(図7-5-4)

図7-5-4 職業別 必要な市の行政情報



上位5項目を「広報川越」の閲覧状況(問39・151ページ参照)別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」、「福祉サービスに関する情報」、「市の施策・計画に関する情報」の各項目は、「広報川越」の閲覧頻度が高い人ほど割合が高くなる傾向にある。(図7-5-5)

図7-5-5 「広報川越」の閲覧状況別 必要な市の行政情報

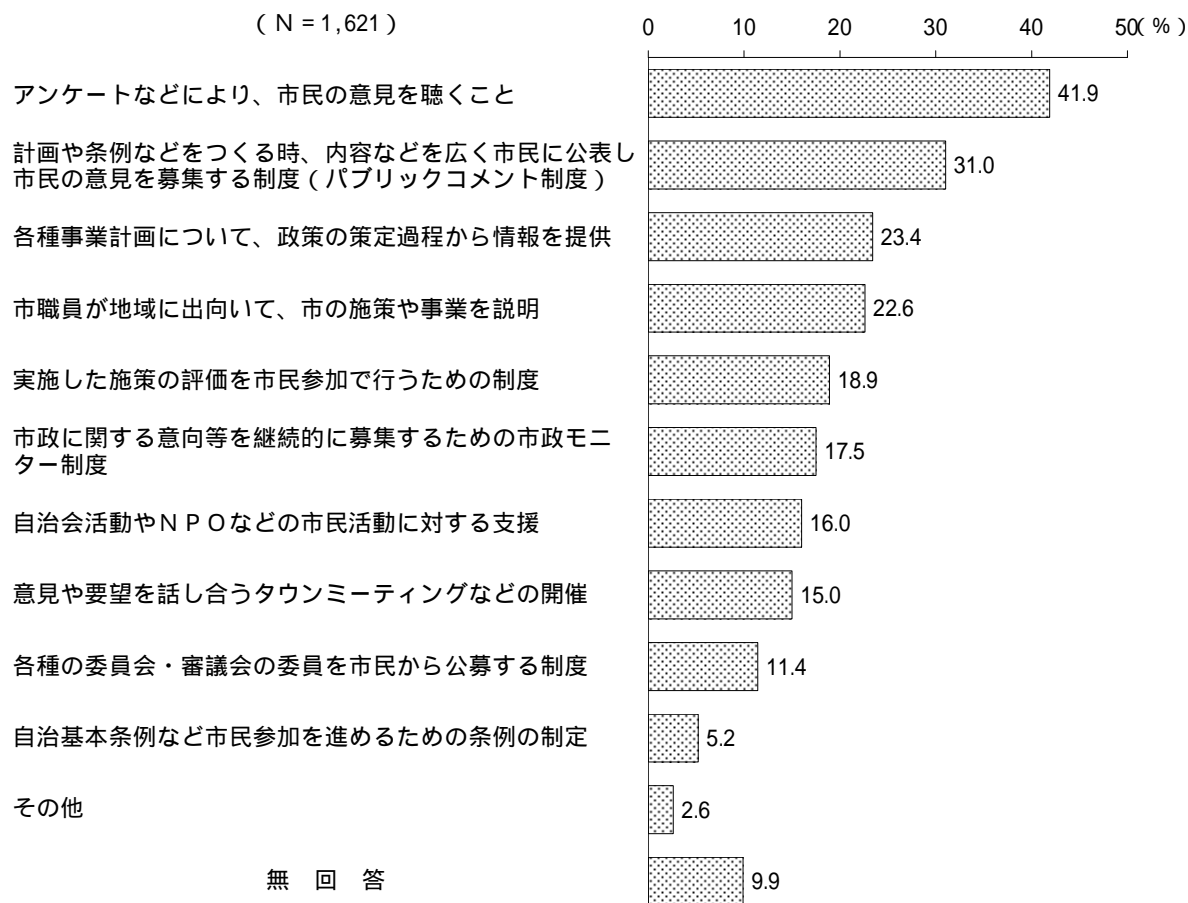


7 - 6 市政への市民参加を進めるための取組

「アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと」が41.9%

問44 あなたは、市政への市民参加を進めるために市はどのような点に力を入れたら良いと思いますか。 (はいいくつでも)

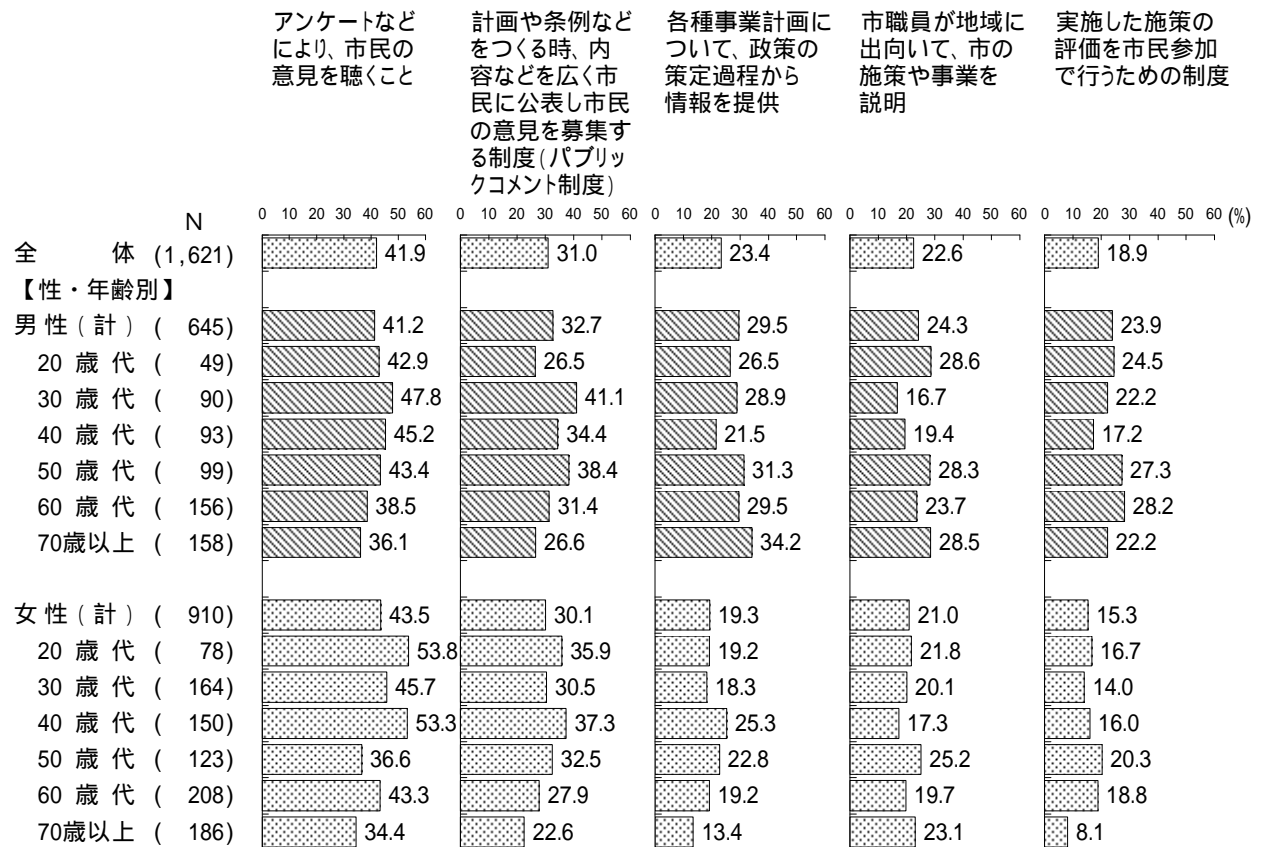
図7 - 6 - 1



市政への市民参加を進めるための取組をたずねたところ、「アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと」(41.9%)が最も多く、40%を超えている。以下、「計画や条例などをつくる時、内容などを広く市民に公表し市民の意見を募集する制度 (パブリックコメント制度)」(31.0%)、「各種事業計画について、政策の策定過程から情報を提供」(23.4%)、「市職員が地域に出向いて、市の施策や事業を説明」(22.6%)などの順となっている。(図7 - 6 - 1)

性・年齢別にみると、「アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと」は女性20歳代と40歳代がともに50%を超えて多くなっている。「計画や条例などをつくる時、内容などを広く市民に公表し市民の意見を募集する制度(パブリックコメント制度)」は男性30歳代が40%を超えて多くなっている。「各種事業計画について、政策の策定過程から情報を提供」は男性70歳以上が30%半ばで多くなっている。(図7-6-2)

図7-6-2 性・年齢別 市政への市民参加を進めるための取組

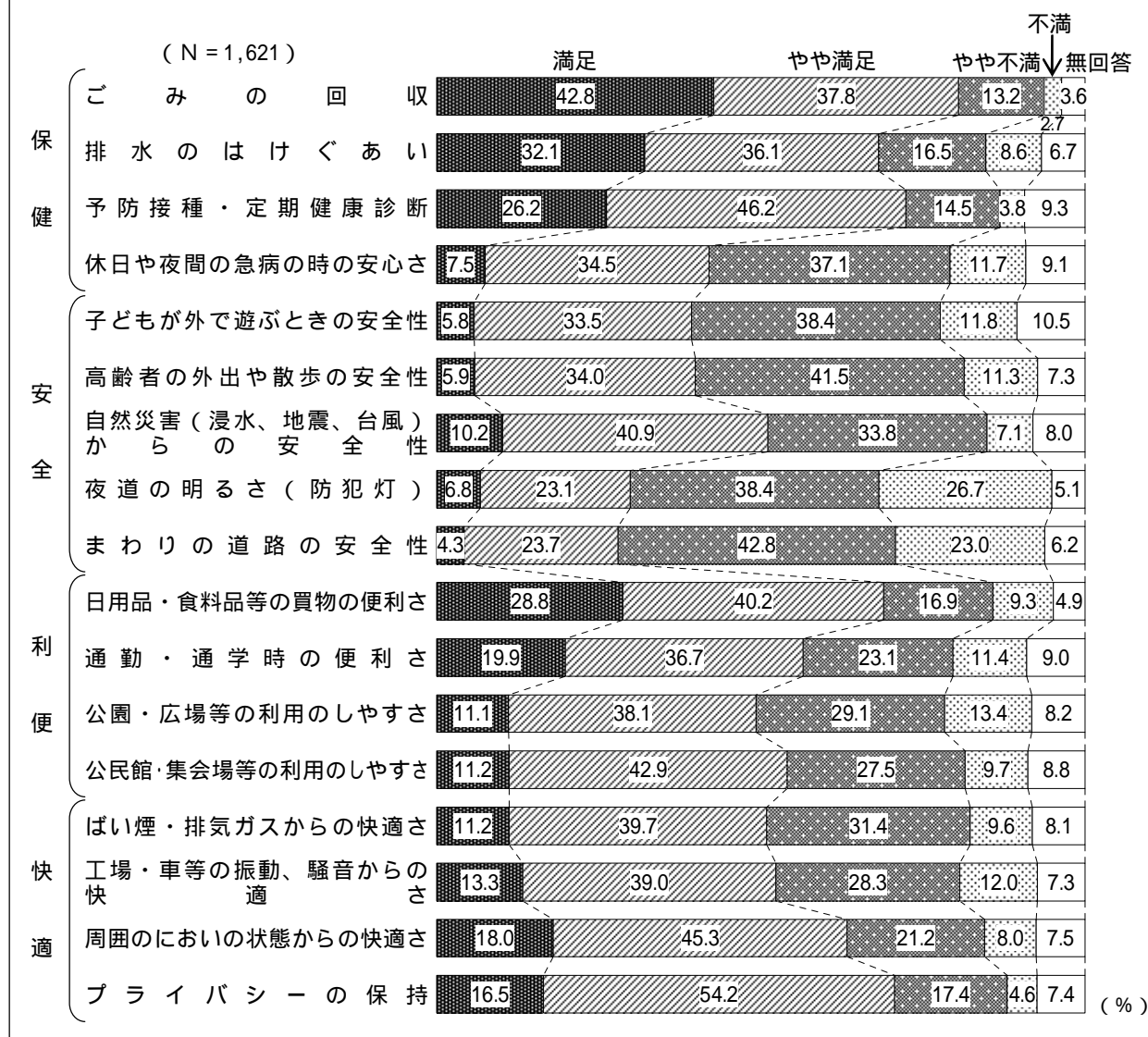


7 - 7 地域の生活環境の満足度

17項目中12項目で<満足>が<不満>を上回る

問45 あなたの住んでいる地域の生活環境について、どのように感じていますか。ア)～チ)の各項目ごとに1つずつ選んでください。(は1つずつ)

図7-7-1



地域の生活環境の満足度をたずねたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた<満足>の割合は、〔保健〕の分野では『ごみの回収』(80.6%)が最も多く、80%を超えている。〔利便〕の分野では、『日用品・食料品等の買物の便利さ』(69.0%)が最も多く、70%近くとなっている。〔快適〕の分野では、『プライバシーの保持』(70.7%)が最も多く、70%を超えている。

一方、〔安全〕の分野では、「満足」と「やや満足」を合わせた<満足>の割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた<不満>の割合を上回るのは、『自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性』(51.1%)のみとなっている。<不満>は、『まわりの道路の安全性』(65.8%)が最も多く、60%半ばとなっている。(図7-7-1)

この質問では、項目間の比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、各項目の評価点を算出した。

$$\text{評価点} = \frac{(\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + [\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})] + [\text{「不満」} \times (-2 \text{点})]}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、評価点は - 2.00点 ~ + 2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、+ 2.00点に近いほど評価が良く、逆に - 2.00点に近いほど評価が悪いことになる。

評価点を地区別にみると、〔保健〕の分野では、『休日や夜間の急病の時の安心さ』以外の3つの項目では、11地区すべてで評価点が0.00以上となっている。『休日や夜間の急病の時の安心さ』で評価点が0.00以上となっているのは、古谷地区と南古谷地区のみである。

〔安全〕の分野では、『子どもが外で遊ぶときの安全性』の評価点が0.00以上となっているのは古谷地区、霞ヶ関北地区、芳野地区である。『高齢者の外出や散歩の安全性』の評価点が0.00以上となっているのは芳野地区、霞ヶ関北地区、古谷地区、霞ヶ関地区となっている。『自然災害（浸水、地震、台風）からの安全性』は、高階地区、福原地区、山田地区、南古谷地区以外の7地区の評価点が0.00以上となっている。『夜道の明るさ（防犯灯）』は11地区すべての地区が0.00以下となっており、特に芳野地区の評価点は-1.33と低くなっている。『まわりの道路の安全性』でもすべての地区の評価点が0.00以下となっている。

〔利便〕の分野では、『日用品・食料品等の買物の便利さ』は福原地区と芳野地区以外の9地区の評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.38で、地域差が大きい。『通勤・通学時の便利さ』は山田地区、福原地区、古谷地区、芳野地区以外の7地区の評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.59で、地域差が最も大きい。『公園・広場等の利用のしやすさ』は、霞ヶ関北地区、霞ヶ関地区、名細地区、古谷地区、大東地区、芳野地区の評価点が0.00以上で、また評価点の最高と最低の差が1.42で、地域差が大きい。『公民館・集会場等の利用のしやすさ』は、福原地区と南古谷地区以外の9地区の評価点が0.00以上となっている。

〔快適〕の分野では、『ばい煙・排気ガスからの快適さ』は芳野地区、福原地区、山田地区以外の8地区の評価点が0.00以上となっている。『工場・車等の振動、騒音からの快適さ』は山田地区、大東地区、南古谷地区、芳野地区、福原地区で評価点が0.00以下となっている。『周囲のにおいの状態からの快適さ』は南古谷地区を除く10地区で評価点が0.00以上となっている。『プライバシーの保持』はすべての地区で評価点が0.00以上となっている。

ア) からチ) までのすべての回答を足し合わせた総合評価点は、芳野地区と福原地区以外の9地区で評価点が0.00以上となっており、最も評価点が高いのは霞ヶ関北地区(0.50)となっている。

(表7-7-1)

表7-7-1 地区別 地域の生活環境の満足度

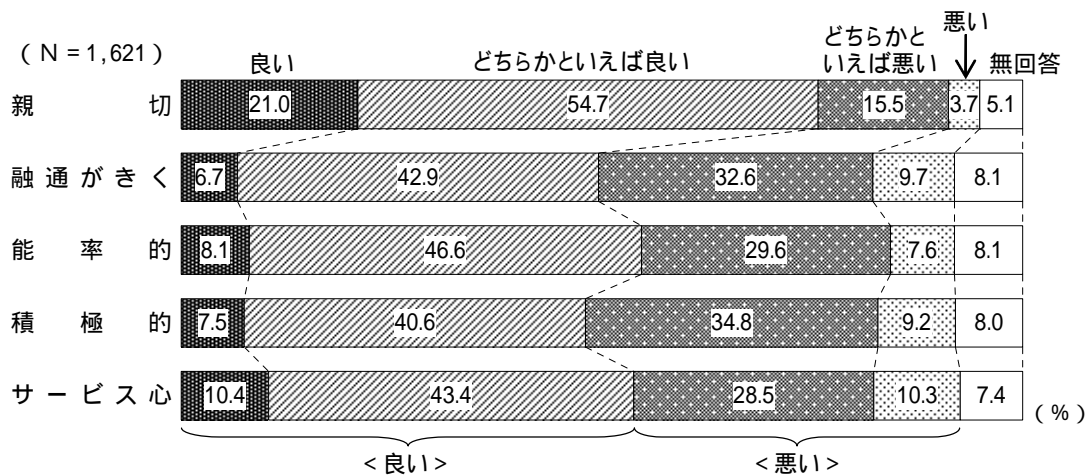
項目		地区											評価点の 最高と最低の 差	
		市 全 体	本 庁 地 区	芳 野 地 区	古 谷 地 区	南 古 谷 地 区	高 階 地 区	福 原 地 区	大 東 地 区	霞 ヶ 関 地 区	霞 ヶ 関 北 地 区	名 細 地 区		山 田 地 区
保 健	ア)ごみの回収	1.09	1.10	0.92	1.32	0.87	1.08	1.12	1.16	1.16	1.07	1.09	1.02	0.45
	イ)排水のはけぐあい	0.71	1.03	0.33	0.93	0.27	0.46	0.35	0.79	0.84	0.86	0.76	0.51	0.76
	ウ)予防接種・定期健康診断	0.84	0.92	0.76	1.04	0.75	0.72	0.88	1.02	0.84	0.87	0.76	0.73	0.32
	エ)休日や夜間の急病の時の 安心さ	-0.12	-0.02	-0.04	0.17	0.05	-0.23	-0.07	-0.10	-0.15	-0.32	-0.33	-0.06	0.50
安 全	オ)子どもが外で遊ぶときの 安全性	-0.19	-0.37	0.09	0.20	-0.19	-0.38	-0.37	-0.17	-0.07	0.14	-0.06	-0.34	0.58
	カ)高齢者の外出や散歩の安 全性	-0.20	-0.30	0.17	0.04	-0.25	-0.37	-0.60	-0.14	0.00	0.13	-0.13	-0.28	0.77
	キ)自然災害(浸水、地震、 台風)からの安全性	0.14	0.30	0.00	0.19	-0.19	-0.05	-0.08	0.29	0.36	0.47	0.04	-0.15	0.66
	ク)夜道の明るさ(防犯灯)	-0.58	-0.42	-1.33	-0.62	-0.99	-0.60	-0.80	-0.77	-0.54	-0.15	-0.28	-0.97	1.18
	ケ)まわりの道路の安全性	-0.60	-0.60	-0.60	-0.56	-0.92	-0.68	-0.92	-0.80	-0.42	-0.07	-0.37	-0.94	0.87
利 便	コ)日用品・食料品等の買物 の便利さ	0.66	0.99	-0.28	0.00	0.78	0.92	-0.06	0.20	0.74	1.10	0.60	0.39	1.38
	サ)通勤・通学時の便利さ	0.34	0.83	-0.76	-0.26	0.05	0.67	-0.23	0.08	0.27	0.58	0.50	-0.21	1.59
	シ)公園・広場等の利用のし やすさ	0.05	-0.05	0.00	0.26	-0.34	-0.14	-0.59	0.28	0.43	0.80	0.39	-0.62	1.42
	ス)公民館・集会場等の利用 のしやすさ	0.20	0.16	0.33	0.37	-0.07	0.20	-0.01	0.20	0.39	0.41	0.44	0.00	0.51
快 適	セ)ばい煙・排気ガスからの 快適さ	0.12	0.01	-0.11	0.16	0.03	0.10	-0.15	0.01	0.43	0.51	0.44	-0.16	0.67
	ソ)工場・車等の振動、騒音 からの快適さ	0.14	0.08	-0.15	0.31	-0.09	0.24	-0.16	-0.06	0.37	0.52	0.41	-0.06	0.68
	タ)周囲のにおいの状態から の快適さ	0.48	0.60	0.02	0.56	-0.09	0.60	0.00	0.26	0.69	0.80	0.67	0.54	0.89
	チ)プライバシーの保持	0.65	0.70	0.53	0.61	0.47	0.63	0.49	0.57	0.79	0.78	0.78	0.66	0.32
総合評価点		0.22	0.29	-0.01	0.28	0.01	0.19	-0.07	0.17	0.36	0.50	0.34	0.00	0.57

7 - 8 市職員のイメージについて

評価が最も高いのは『親切』

問46 市役所職員のイメージについてどう思いますか。それぞれのイメージについて評価してください。(は1つずつ)

図7 - 8 - 1

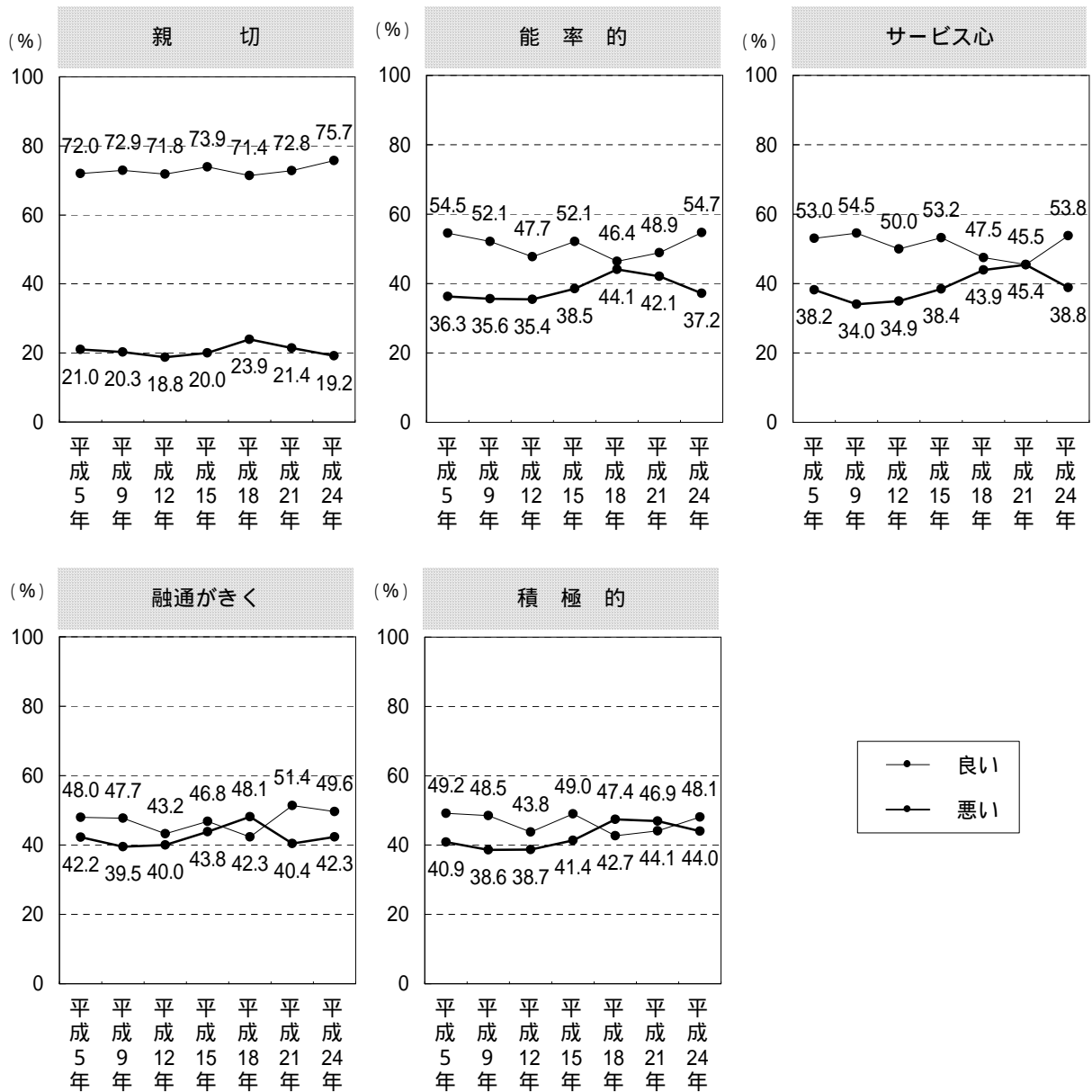


市職員のイメージについて、5項目に分けて評価をたずねたところ、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた<良い>の割合は、『親切』(75.7%)が最も多く、70%半ばとなっている。以下、『能率的』(54.7%)、『サービス心』(53.8%)、『融通がきく』(49.6%)、『積極的』(48.1%)の順となっている。(図7 - 8 - 1)

時系列でみると、＜良い＞の割合は『融通がきく』以外の4項目が前回調査と比べて増加しており、特に『サービス心』が8.3ポイント、『能率的』が5.8ポイント、それぞれ増加している。

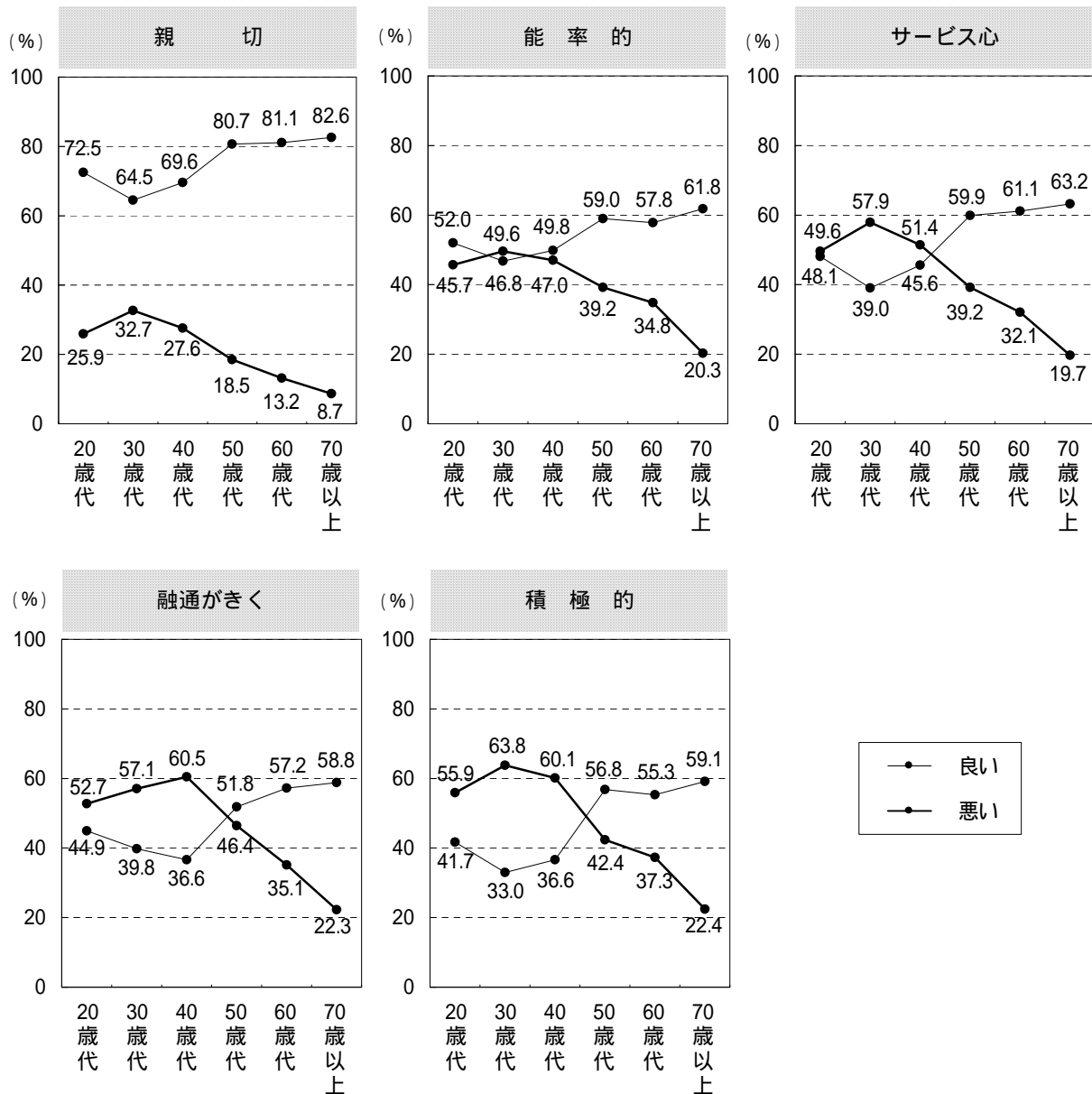
(図7-8-2)

図7-8-2 時系列 市職員のイメージについて



年齢別にみると、すべての項目で、＜良い＞の割合は、40歳代以下の年代に比べて、50歳代以上の年代で割合が高くなっている。また、＜良い＞は、すべての項目で、70歳以上が他の年代に比べて最も割合が多くなっている。一方、＜悪い＞は、『親切』、『能率的』、『サービス心』、『積極的』の4項目は30歳代が、『融通がきく』は40歳代が、それぞれ他の年代に比べて最も割合が多くなっている。(図7-8-3)

図7-8-3 年齢別 市職員のイメージについて



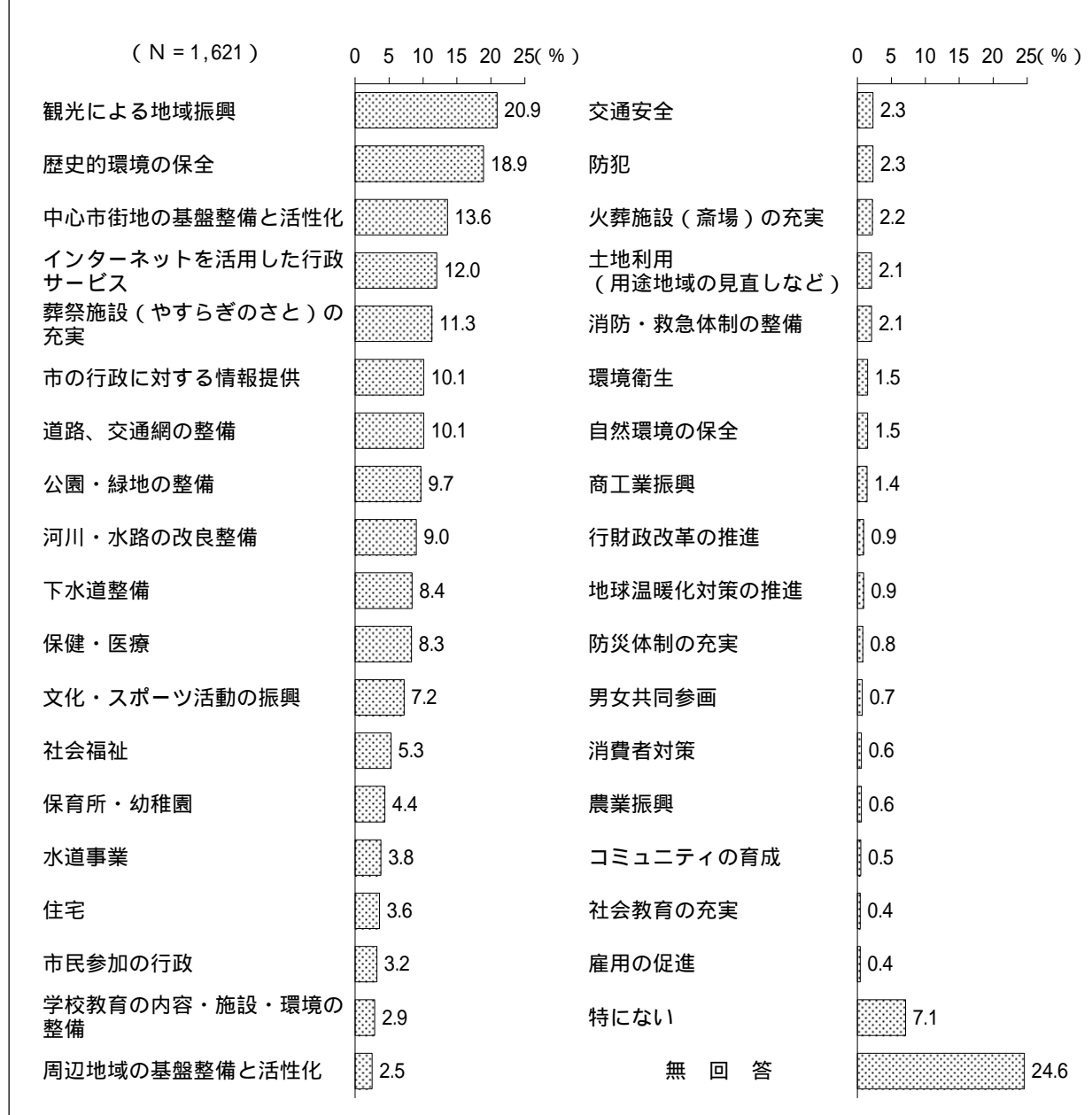
7 - 9 よくなってきた市の施策 / 力を入れるべき市の施策

(1) よくなってきた市の施策

「観光による地域振興」が20.9%

問47 市政全般について、よくなってきた施策を3つ選んで回答欄に番号を記入してください。

図7 - 9 - 1

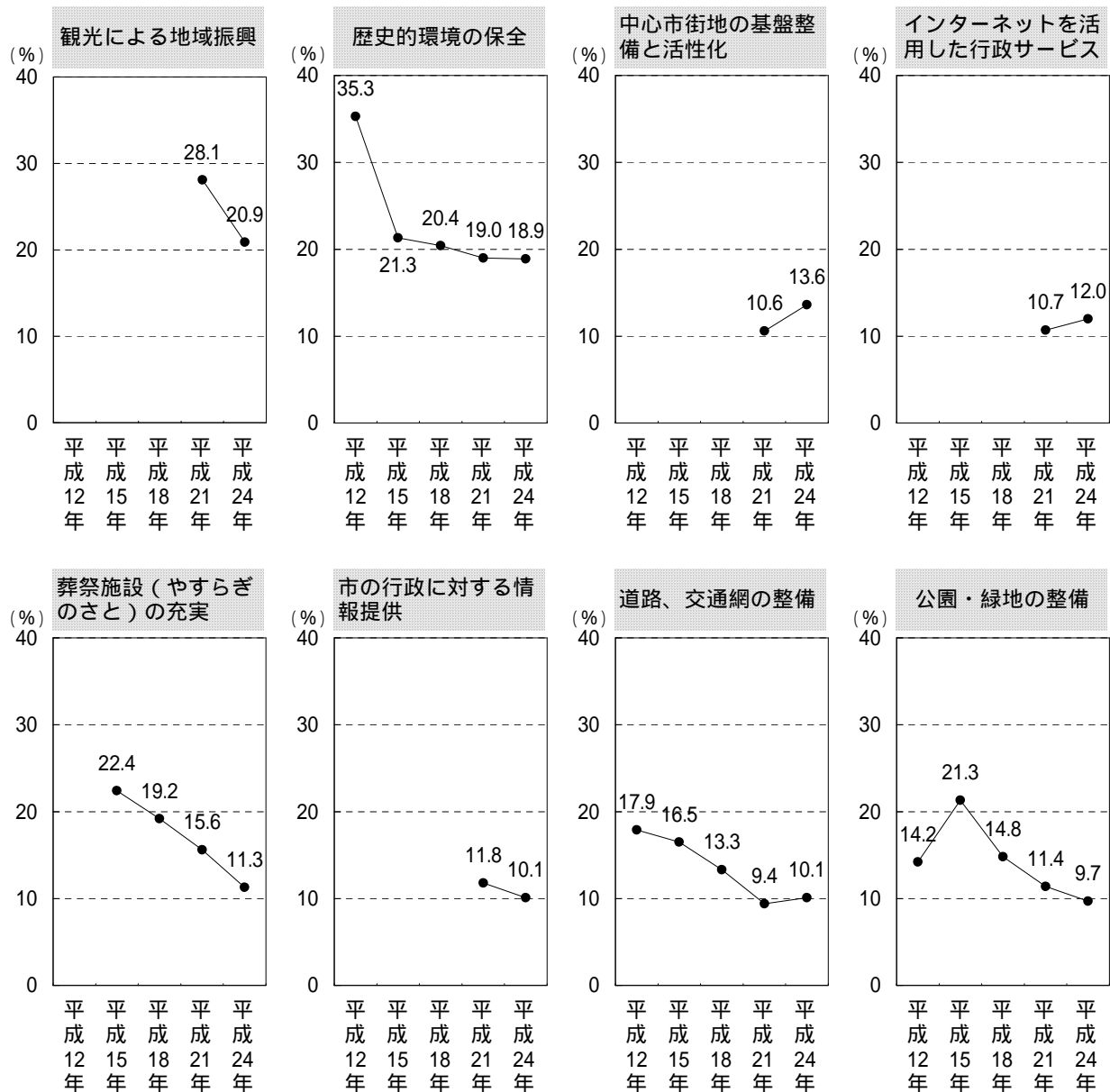


よくなってきた市の施策をたずねたところ、「観光による地域振興」(20.9%)が最も多く、20%を超えている。以下、「歴史的環境の保全」(18.9%)、「中心市街地の基盤整備と活性化」(13.6%)、「インターネットを活用した行政サービス」(12.0%)、「葬祭施設(やすらぎのさと)の充実」(11.3%)などの順となっている。(図7 - 9 - 1)

上位8項目について時系列でみると、平成21年調査で選択肢の追加・変更があったため平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「中心市街地の基盤整備と活性化」は前回調査と比べて3.0ポイント増加している。一方、「観光による地域振興」は前回調査と比べて7.2ポイント、「葬祭施設（やすらぎのさと）の充実」は前回調査と比べて4.3ポイント、それぞれ減少している。

(図7-9-2)

図7-9-2 時系列 よくなってきた市の施策



上位5項目を地区別にみると、「観光による地域振興」は本庁地区、芳野地区、福原地区、霞ヶ関地区、名細地区、山田地区の計6地区で第1位となっている。「歴史的環境の保全」は古谷地区、南古谷地区、高階地区が第1位、大東地区で同率の第1位となっている。「公園・緑地の整備」は霞ヶ関北地区で第1位、大東地区で同率の第1位となっている。(表7-9-1)

表7-9-1 地区別 よくなってきた市の施策

属性	順位	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		1,621	観光による地域振興 20.9%	歴史的環境の保全 18.9%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.6%	インターネットを活用した行政サービス 12.0%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.3%
【地区別】							
本 庁 地 区		373	観光による地域振興 30.0%	歴史的環境の保全 23.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 18.0%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.7%	インターネットを活用した行政サービス 11.3%
芳 野 地 区		50	観光による地域振興 22.0%	歴史的環境の保全 20.0%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 下水道整備 16.0%	インターネットを活用した行政サービス / 保健・医療 14.0%	
古 谷 地 区		74	歴史的環境の保全 25.7%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 21.6%	観光による地域振興 16.2%	インターネットを活用した行政サービス 14.9%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 公園・緑地の整備 / 保健・医療 12.2%
南古谷地区		115	歴史的環境の保全 20.9%	観光による地域振興 18.3%	インターネットを活用した行政サービス 13.9%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 12.2%	河川・水路の改良整備 11.3%
高 階 地 区		202	歴史的環境の保全 18.8%	観光による地域振興 16.3%	市の行政に対する情報提供 / 河川・水路の改良整備 11.9%	中心市街地の基盤整備と活性化 / インターネットを活用した行政サービス / 下水道整備 11.4%	
福 原 地 区		87	観光による地域振興 19.5%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 / 河川・水路の改良整備 16.1%	歴史的環境の保全 / 中心市街地の基盤整備と活性化 / 道路、交通網の整備 12.6%		
大 東 地 区		139	歴史的環境の保全 / 公園・緑地の整備 20.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 道路、交通網の整備 18.0%	観光による地域振興 16.5%		
霞ヶ関地区		179	観光による地域振興 19.6%	歴史的環境の保全 15.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 15.1%	公園・緑地の整備 12.8%	インターネットを活用した行政サービス 12.3%
霞ヶ関北地区		108	公園・緑地の整備 24.1%	観光による地域振興 19.4%	歴史的環境の保全 15.7%	市の行政に対する情報提供 12.0%	河川・水路の改良整備 / 下水道整備 / 文化・スポーツ活動の振興 10.2%
名 細 地 区		121	観光による地域振興 21.5%	歴史的環境の保全 18.2%	下水道整備 13.2%	インターネットを活用した行政サービス 12.4%	公園・緑地の整備 11.6%
山 田 地 区		66	観光による地域振興 22.7%	歴史的環境の保全 21.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 道路、交通網の整備 15.2%	インターネットを活用した行政サービス 12.1%	

上位5項目を性別にみると、「歴史的環境の保全」は男性(21.7%・第1位)が女性(17.8%・第2位)より3.9ポイント高くなっている。

上位5項目を性・年齢別にみると、「観光による地域振興」は男性の40歳代から60歳代、女性の20歳代から60歳代の年代で同率も含めて第1位となっている。「歴史的環境の保全」は男性30歳代で第1位、女性40歳代で同率の第1位となっている。「中心市街地の基盤整備と活性化」は男性20歳代、「下水道整備」は男性70歳以上、「市の行政に対する情報提供」は女性70歳以上でそれぞれ第1位となっている。(表7-9-2)

表7-9-2 性・年齢別 よくなってきた市の施策

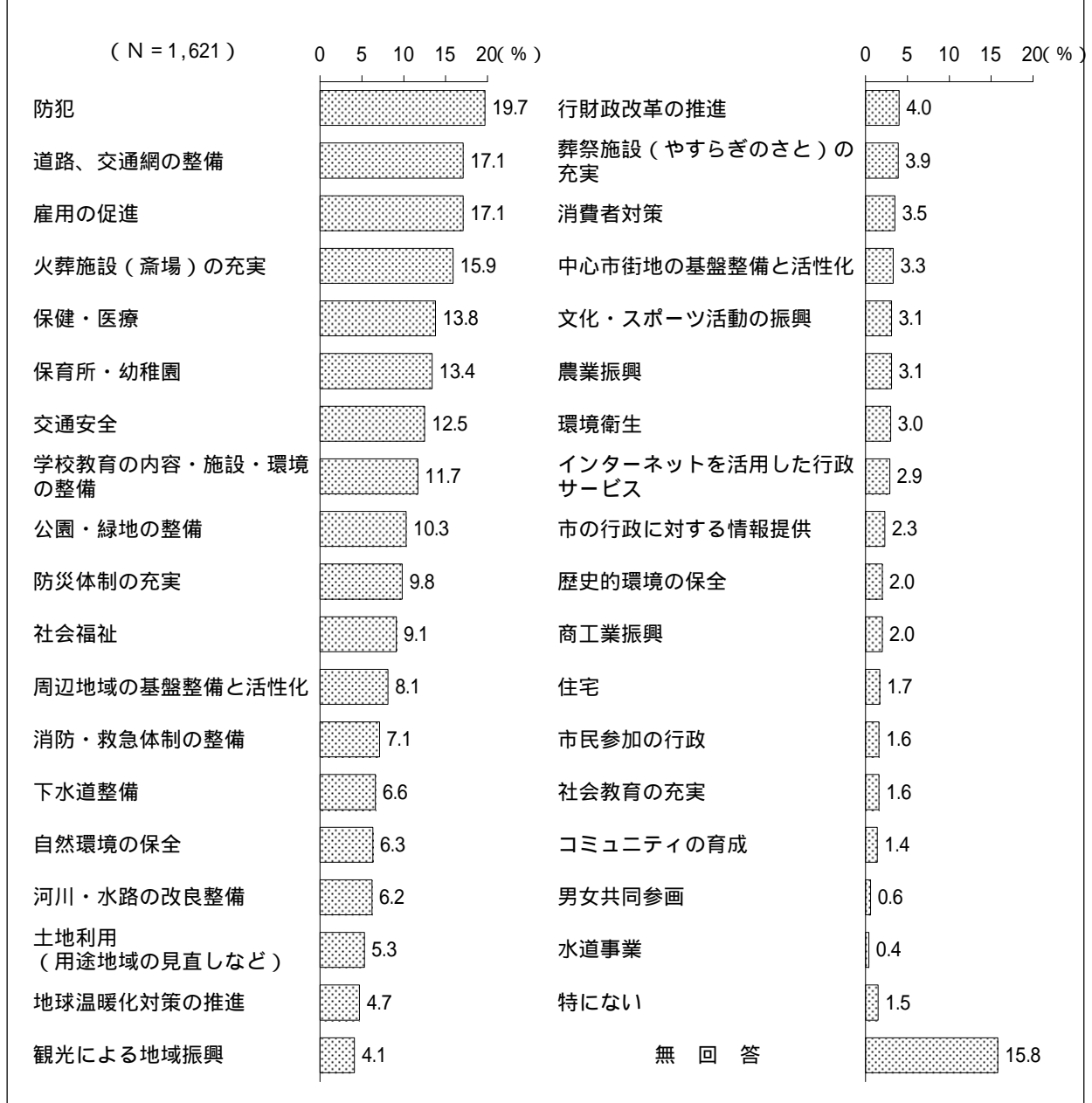
属性	順位	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,621	観光による地域振興 20.9%	歴史的環境の保全 18.9%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.6%	インターネットを活用した行政サービス 12.0%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.3%
【性・年齢別】							
男性		645	歴史的環境の保全 21.7%	観光による地域振興 21.4%	道路、交通網の整備 14.0%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.2%	下水道整備 11.8%
女性		910	観光による地域振興 20.9%	歴史的環境の保全 17.8%	中心市街地の基盤整備と活性化 14.0%	インターネットを活用した行政サービス 12.1%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.1%
男性20歳代		49	中心市街地の基盤整備と活性化 28.6%	道路、交通網の整備 20.4%	観光による地域振興 18.4%	インターネットを活用した行政サービス 16.3%	歴史的環境の保全 14.3%
30歳代		90	歴史的環境の保全 27.8%	観光による地域振興 23.3%	公園・緑地の整備 14.4%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.3%	
40歳代		93	観光による地域振興 29.0%	歴史的環境の保全 23.7%	インターネットを活用した行政サービス 21.5%	道路、交通網の整備 19.4%	中心市街地の基盤整備と活性化 12.9%
50歳代		99	観光による地域振興 29.3%	歴史的環境の保全 27.3%	道路、交通網の整備 20.2%	河川・水路の改良整備 19.2%	インターネットを活用した行政サービス / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 16.2%
60歳代		156	観光による地域振興 21.8%	歴史的環境の保全 21.2%	下水道整備 14.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 12.2%	
70歳以上		158	下水道整備 18.4%	歴史的環境の保全 16.5%	市の行政に対する情報提供 15.8%	保健・医療 14.6%	社会福祉 12.0%
女性20歳代		78	観光による地域振興 26.9%	歴史的環境の保全 23.1%	インターネットを活用した行政サービス 19.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 14.1%	文化・スポーツ活動の振興 9.0%
30歳代		164	観光による地域振興 25.6%	歴史的環境の保全 20.1%	インターネットを活用した行政サービス 18.3%	道路、交通網の整備 11.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 9.8%
40歳代		150	観光による地域振興 / 歴史的環境の保全 25.3%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.7%	インターネットを活用した行政サービス / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.3%		
50歳代		123	観光による地域振興 24.4%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 22.8%	歴史的環境の保全 / 中心市街地の基盤整備と活性化 / インターネットを活用した行政サービス 17.9%		
60歳代		208	観光による地域振興 20.2%	歴史的環境の保全 17.3%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.8%	公園・緑地の整備 15.9%	河川・水路の改良整備 12.5%
70歳以上		186	市の行政に対する情報提供 15.1%	道路、交通網の整備 10.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 保健・医療 9.7%	観光による地域振興 / 下水道整備 9.1%	

(2) 力を入れるべき市の施策

「防犯」が19.7%

問47 市政全般について、あなたが力を入れてほしい施策を3つ選んで回答欄に番号を記入してください。

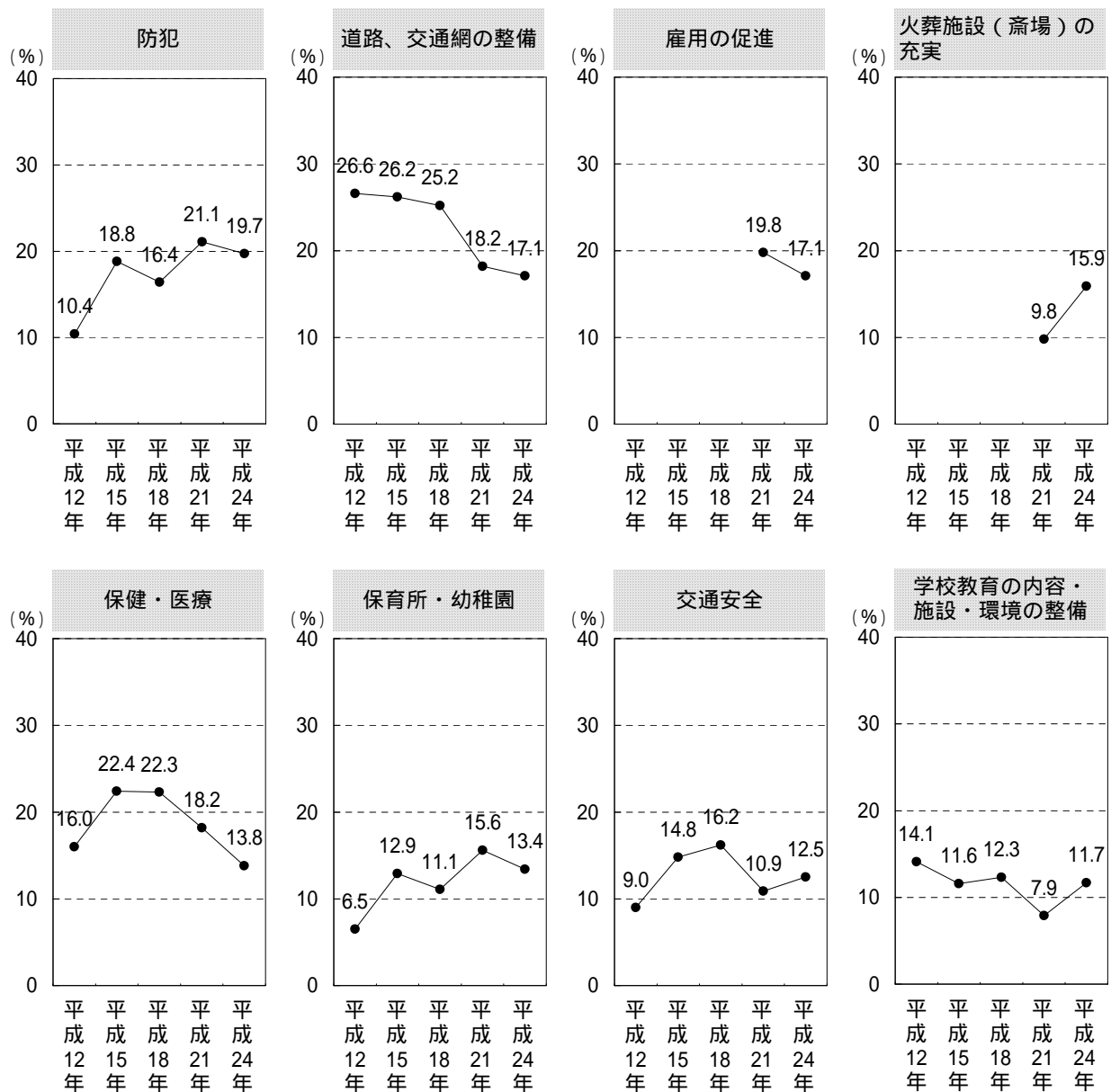
図7-9-3



力を入れるべき市の施策をたずねたところ、「防犯」(19.7%)が最も多く、以下、「道路、交通網の整備」(17.1%)、「雇用の促進」(17.1%)、「火葬施設(斎場)の充実」(15.9%)、「保健・医療」(13.8%)などの順となっている。(図7-9-3)

上位8項目について時系列でみると、平成21年調査で選択肢の追加・変更があったため平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「火葬施設（斎場の整備）の充実」は前回調査と比べて6.1ポイント、「学校教育の内容・施設・環境の整備」は前回調査と比べて3.8ポイント増加している。一方、「保健・医療」は前回調査と比べて4.4ポイント減少している。（図7-9-4）

図7-9-4 時系列 力を入れるべき市の施策



上位5項目を地区別にみると、「防犯」は本庁地区、古谷地区、霞ヶ関地区、霞ヶ関北地区で第1位、南古谷地区で同率の第1位となっている。「雇用の促進」は高階地区、大東地区、名細地区で第1位、芳野地区で同率の第1位となっている。「道路、交通網の整備」は福原地区で第1位、南古谷地区で同率の第1位となっている。「火葬施設（斎場）の充実」は山田地区で第1位となっている。「学校教育の内容・施設・環境の整備」は芳野地区で同率の第1位となっている。（表7-9-3）

表7-9-3 地区別 力を入れるべき市の施策

属性	順位	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		1,621	防犯 19.7%	道路、交通網の整備(注) 17.1%	雇用の促進(注) 17.1%	火葬施設(斎場)の充実 15.9%	保健・医療 13.8%
【地 区 別】							
本 庁 地 区		373	防犯 23.6%	道路、交通網の整備 19.0%	交通安全 16.4%	火葬施設(斎場)の充実 15.5%	保健・医療/学校教育の内容・施設・環境の整備 14.2%
芳 野 地 区		50	雇用の促進/学校教育の内容・施設・環境の整備 22.0%	火葬施設(斎場)の充実 20.0%	保健・医療/周辺地域の基盤整備と活性化 16.0%		
古 谷 地 区		74	防犯 25.7%	雇用の促進 21.6%	火葬施設(斎場)の充実/保育所・幼稚園 18.9%	道路、交通網の整備 17.6%	
南 古 谷 地 区		115	防犯/道路、交通網の整備 21.7%	保育所・幼稚園 20.0%	公園・緑地の整備 16.5%	下水道整備 15.7%	
高 階 地 区		202	雇用の促進 19.8%	道路、交通網の整備 19.3%	火葬施設(斎場)の充実 16.8%	保育所・幼稚園 14.9%	防犯 14.4%
福 原 地 区		87	道路、交通網の整備 27.6%	防犯 24.1%	雇用の促進 17.2%	保健・医療/下水道整備 16.1%	
大 東 地 区		139	雇用の促進 20.1%	防犯 19.4%	道路、交通網の整備 18.7%	火葬施設(斎場)の充実 16.5%	保健・医療/交通安全/防災体制の充実 15.1%
霞ヶ 関 地 区		179	防犯 19.0%	道路、交通網の整備 15.6%	雇用の促進/火葬施設(斎場)の充実 15.1%	保健・医療 14.5%	
霞ヶ 関 北 地 区		108	防犯 21.3%	雇用の促進 20.4%	火葬施設(斎場)の充実 16.7%	社会福祉 15.7%	保健・医療 14.8%
名 細 地 区		121	雇用の促進 20.7%	防災体制の充実 16.5%	防犯 14.9%	火葬施設(斎場)の充実/交通安全 14.0%	
山 田 地 区		66	火葬施設(斎場)の充実 25.8%	保健・医療 19.7%	防犯 18.2%	道路、交通網の整備 15.2%	雇用の促進 13.6%

(注) 全体では、「道路、交通網の整備」と答えた人は1,621人中278人(17.1%)、「雇用の促進」と答えた人は1,621人中277人(17.1%)となっている。

上位5項目を性別にみると、「防犯」が男女とも第1位となっている。「道路、交通網の整備」は男性(19.4%・第2位)が女性(16.0%・第3位)より3.4ポイント高く、「雇用の促進」は女性(18.6%・第2位)が男性(14.9%・第4位)より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「防犯」は男性30歳代と40歳代で、「道路、交通網の整備」は男性20歳代と50歳代で第1位となっている。「雇用の促進」は女性50歳代で、「火葬施設(斎場)の充実」は男女とも60歳代と70歳以上で第1位となっている。「保育所・幼稚園」は女性20歳代と30歳代で、「学校教育の内容・施設・環境の整備」は女性40歳代で第1位となっている。(表7-9-4)

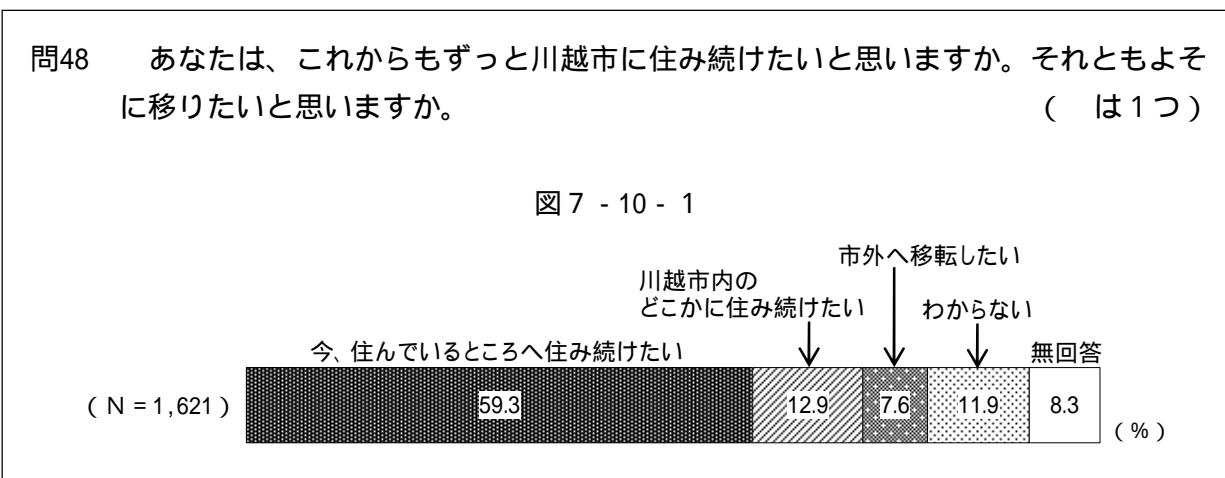
表7-9-4 性・年齢別 力を入れるべき市の施策

属性	順位	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,621	防犯 19.7%	道路、交通網の整備(注) 17.1%	雇用の促進(注) 17.1%	火葬施設(斎場)の充実 15.9%	保健・医療 13.8%
【性・年齢別】							
男性		645	防犯 20.0%	道路、交通網の整備 19.4%	火葬施設(斎場)の充実 16.9%	雇用の促進 14.9%	保健・医療 14.0%
女性		910	防犯 19.7%	雇用の促進 18.6%	道路、交通網の整備 16.0%	保育所・幼稚園 15.9%	火葬施設(斎場)の充実 14.8%
男性20歳代		49	道路、交通網の整備 34.7%	防犯 28.6%	公園・緑地の整備 22.4%	雇用の促進 20.4%	交通安全 18.4%
30歳代		90	防犯 27.8%	保育所・幼稚園 / 学校教育の内容・施設・環境の整備 24.4%	道路、交通網の整備 22.2%	交通安全 17.8%	交通安全 17.8%
40歳代		93	防犯 32.3%	道路、交通網の整備 / 交通安全 16.1%	雇用の促進 14.0%	公園・緑地の整備 12.9%	公園・緑地の整備 12.9%
50歳代		99	道路、交通網の整備 28.3%	保健・医療 19.2%	雇用の促進 18.2%	交通安全 16.2%	防犯 / 火葬施設(斎場)の充実 15.2%
60歳代		156	火葬施設(斎場)の充実 27.6%	雇用の促進 18.6%	道路、交通網の整備 16.7%	防犯 16.0%	保健・医療 13.5%
70歳以上		158	火葬施設(斎場)の充実 22.8%	防犯 12.7%	道路、交通網の整備 / 保健・医療 12.0%	雇用の促進 11.4%	雇用の促進 11.4%
女性20歳代		78	保育所・幼稚園 35.9%	公園・緑地の整備 26.9%	防犯 25.6%	交通安全 20.5%	道路、交通網の整備 / 雇用の促進 19.2%
30歳代		164	保育所・幼稚園 30.5%	防犯 25.6%	道路、交通網の整備 / 雇用の促進 22.0%	学校教育の内容・施設・環境の整備 18.3%	学校教育の内容・施設・環境の整備 18.3%
40歳代		150	学校教育の内容・施設・環境の整備 27.3%	防犯 24.7%	道路、交通網の整備 23.3%	雇用の促進 / 保健・医療 21.3%	雇用の促進 / 保健・医療 21.3%
50歳代		123	雇用の促進 22.8%	防犯 21.1%	火葬施設(斎場)の充実 19.5%	道路、交通網の整備 16.3%	社会福祉 15.4%
60歳代		208	火葬施設(斎場)の充実 25.0%	雇用の促進 17.8%	防犯 15.4%	道路、交通網の整備 / 社会福祉 13.0%	道路、交通網の整備 / 社会福祉 13.0%
70歳以上		186	火葬施設(斎場)の充実 19.9%	防犯 11.8%	雇用の促進 11.3%	保健・医療 / 防災体制の充実 9.7%	保健・医療 / 防災体制の充実 9.7%

(注) 全体では、「道路、交通網の整備」と答えた人は1,621人中278人(17.1%)、「雇用の促進」と答えた人は1,621人中277人(17.1%)となっている。

7 - 10 市への定住意向

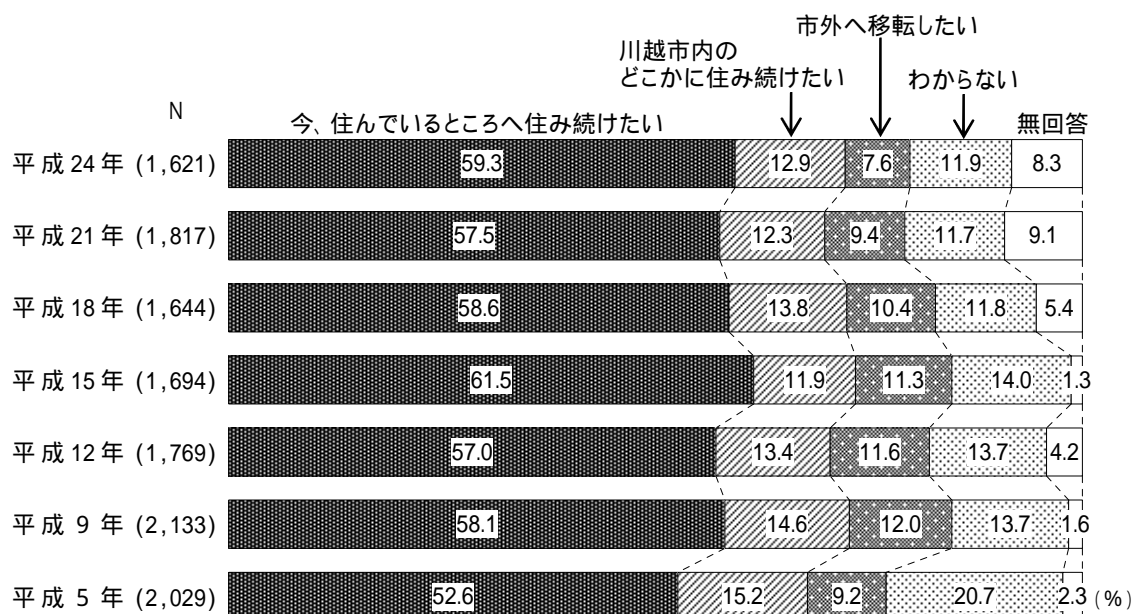
「今、住んでいるところへ住み続けたい」が59.3%



市への定住意向をたずねたところ、「今、住んでいるところへ住み続けたい」(59.3%)が最も多く、60%近くとなっている。「川越市内のどこかに住み続けたい」(12.9%)は10%を超え、「市外へ移転したい」(7.6%)は10%未満となっている。(図7 - 10 - 1)

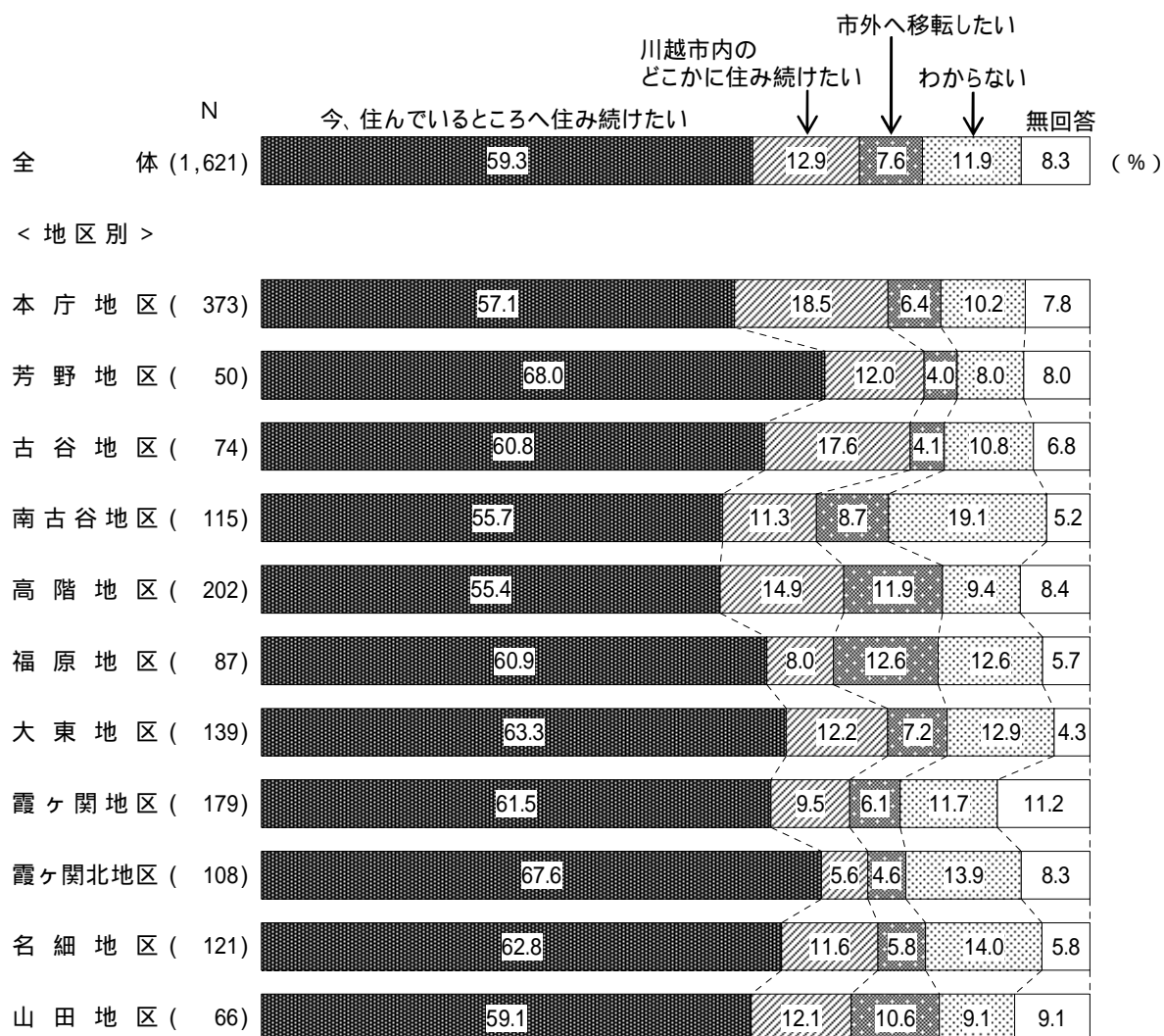
時系列でみると、「今、住んでいるところへ住み続けたい」は平成9年調査以降60%前後で推移しており、大きな傾向の変化はみられない。(図7 - 10 - 2)

図7 - 10 - 2 時系列 市への定住意向



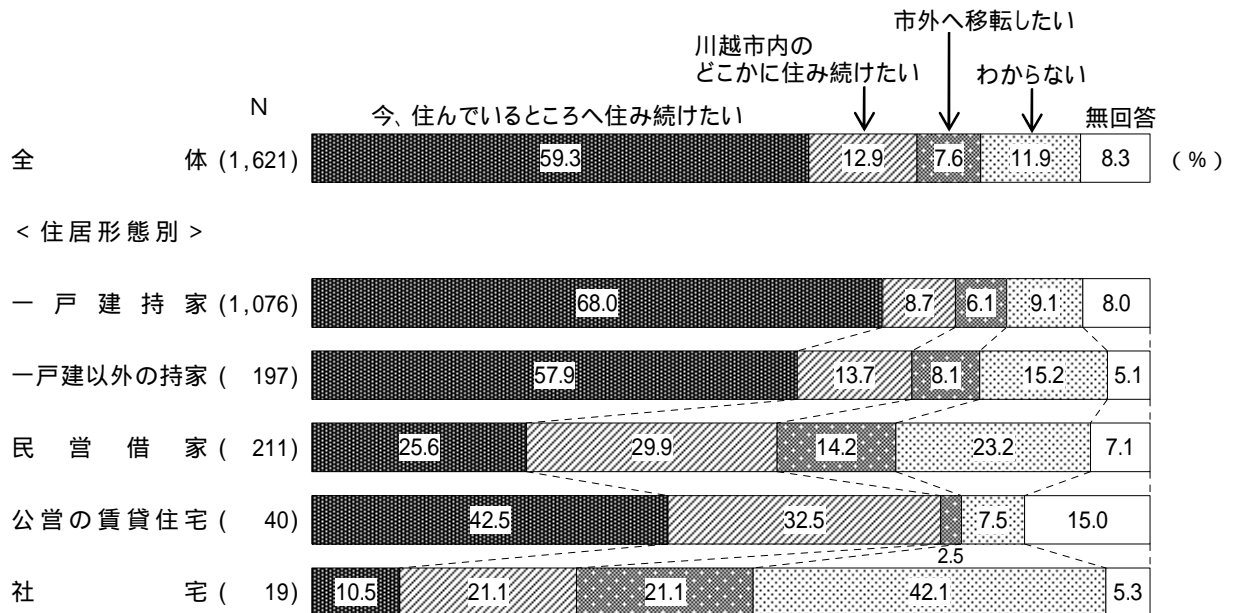
地区別にみると、「今、住んでいるところへ住み続けたい」はすべての地区で50%半ばを超えており、特に芳野地区と霞ヶ関北地区では70%近くとなっている。(図7-10-3)

図7-10-3 地区別 市への定住意向



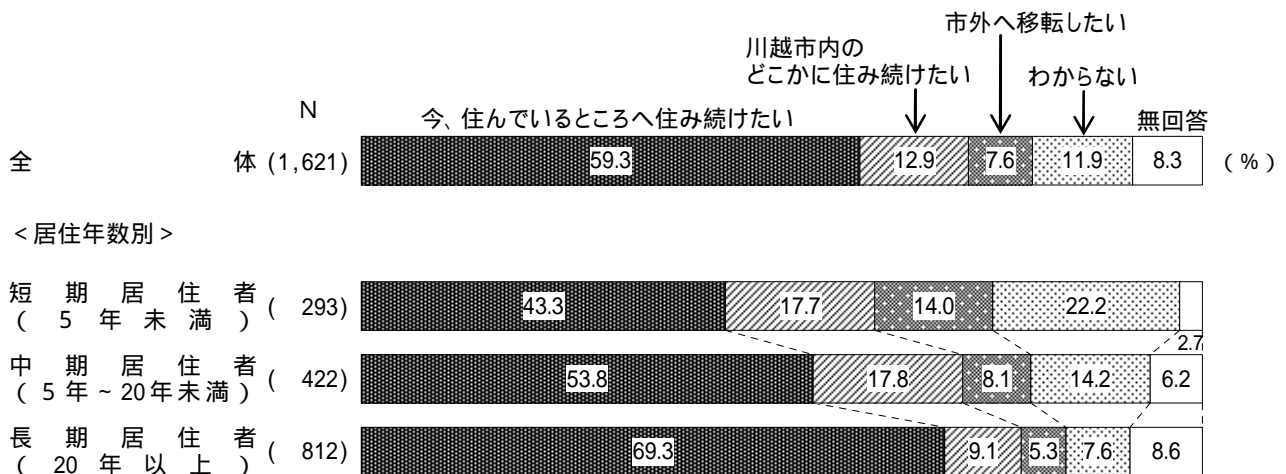
住居形態別にみると、「今、住んでいるところへ住み続けたい」は一戸建持家が70%近くと多くなっている。「川越市内のどこかに住み続けたい」は公営の賃貸住宅が30%を超え、民間借家が30%近くとなっている。(図7-10-4)

図7-10-4 住居形態別 市への定住意向



居住年数別にみると、居住年数の長い人ほど「今、住んでいるところへ住み続けたい」の割合が多く、長期居住者では70%近くとなっている。「川越市内のどこかに住み続けたい」は短期居住者と中期居住者が20%近くとなっており、「市外へ移転したい」は短期居住者が10%半ばとなっている。(図7-10-5)

図7-10-5 居住年数別 市への定住意向



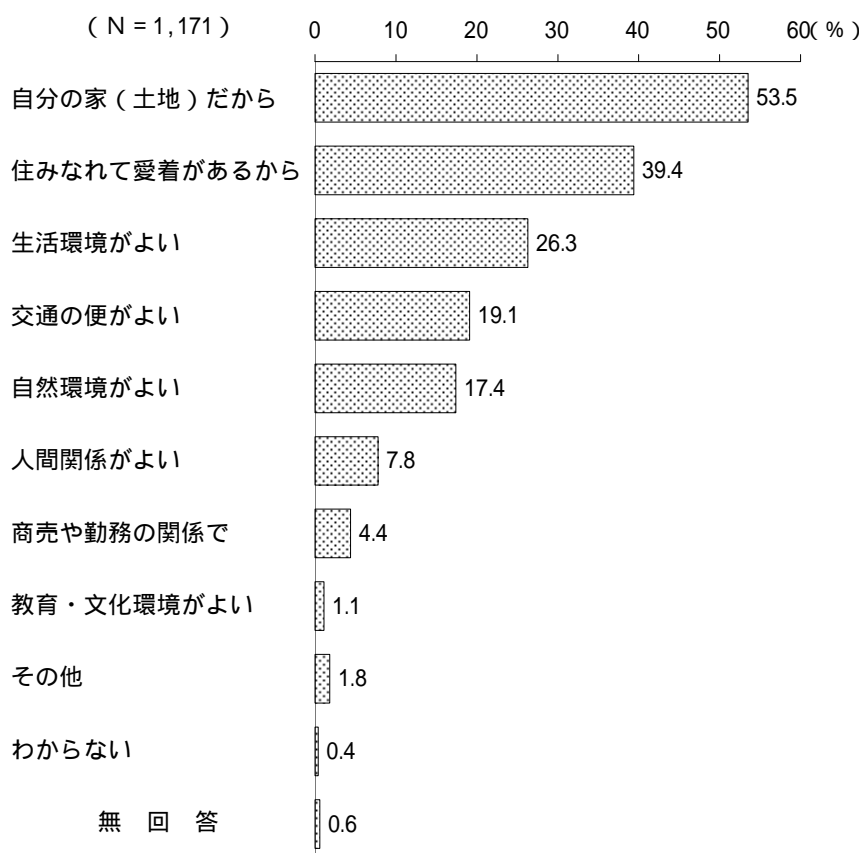
7 - 11 定住意向理由

「自分の家（土地）だから」が53.5%

問48 で「今、住んでいるところへ住み続けたい」と「川越市内のどこかに住み続けたい」と答えた方におたずねします。

問48 川越市に住み続けたいというのは、特にどういう理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。（ は2つ以内）

図7 - 11 - 1

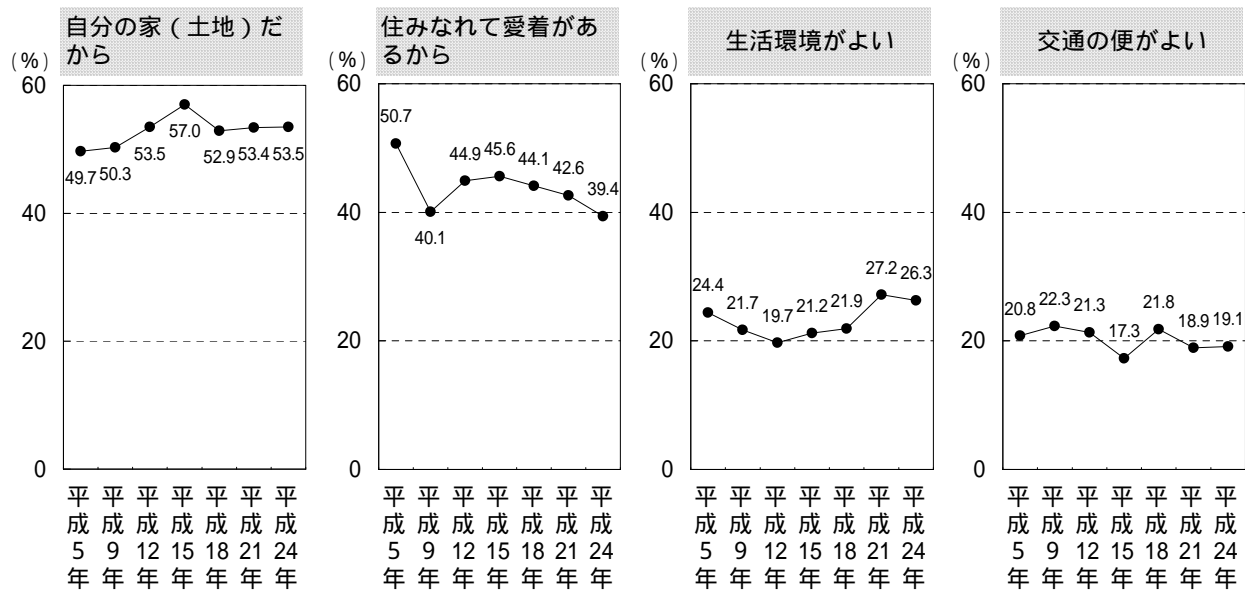


問48 で「今、住んでいるところへ住み続けたい」または「川越市内のどこかに住み続けたい」と答えた人(1,171人)に、その理由をたずねたところ、「自分の家（土地）だから」(53.5%)が最も多く、50%を超えている。以下、「住みなれて愛着があるから」(39.4%)、「生活環境がよい」(26.3%)、「交通の便がよい」(19.1%)、「自然環境がよい」(17.4%)などの順となっている。(図7 - 11 - 1)

上位4項目について時系列でみると、前回と同様に「自分の家（土地）だから」が最も多い理由となっている。また、「住みなれて愛着があるから」は前回調査と比べて3.2ポイント減少している。

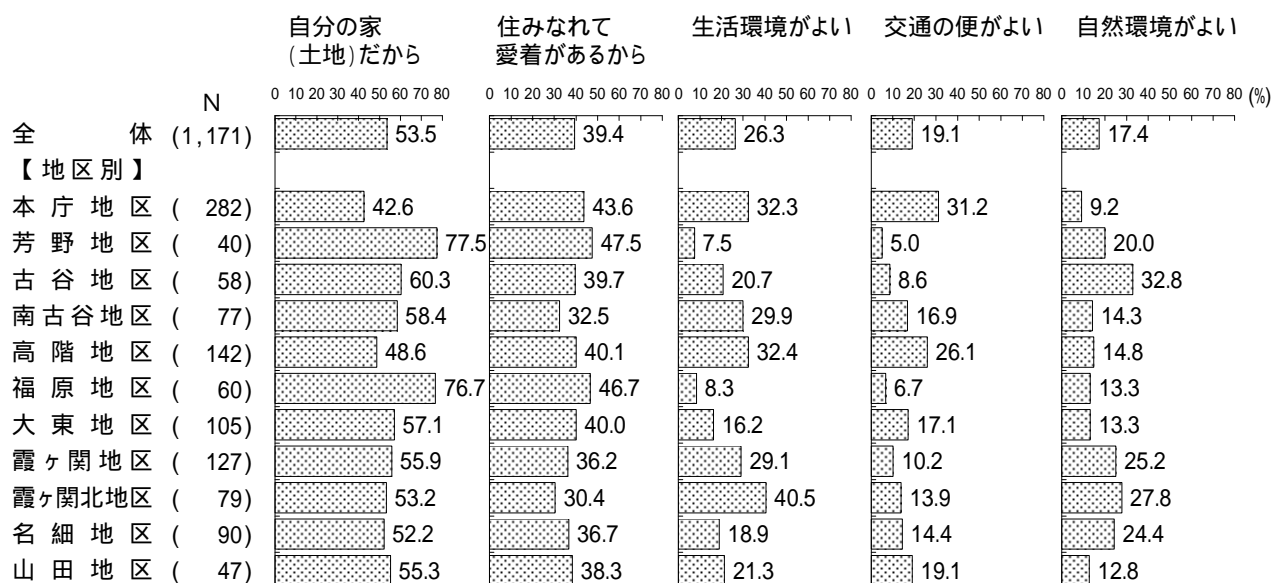
(図7-11-2)

図7-11-2 時系列 定住意向理由



上位5項目を地区別にみると、「自分の家(土地)だから」は芳野地区が80%近く、福原地区が70%半ばで多くなっている。「生活環境がよい」は霞ヶ関北地区が40%を超えて最も多く、「交通の便がよい」は本庁地区が30%を超えて多くなっている。「自然環境がよい」は古谷地区が30%を超えて多くなっている。(図7-11-3)

図7-11-3 地区別 定住意向理由



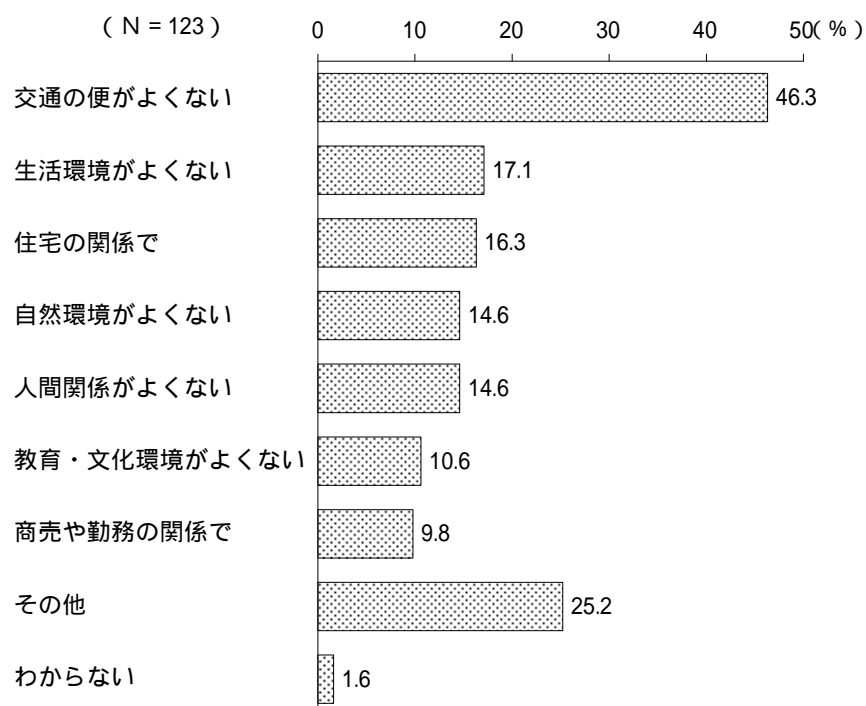
7 - 12 転出意向理由

「交通の便がよくない」が46.3%

問48 で「市外へ転出したい」と答えた方におたずねします。

問48 市外へ移りたいというのは、特にどういう理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

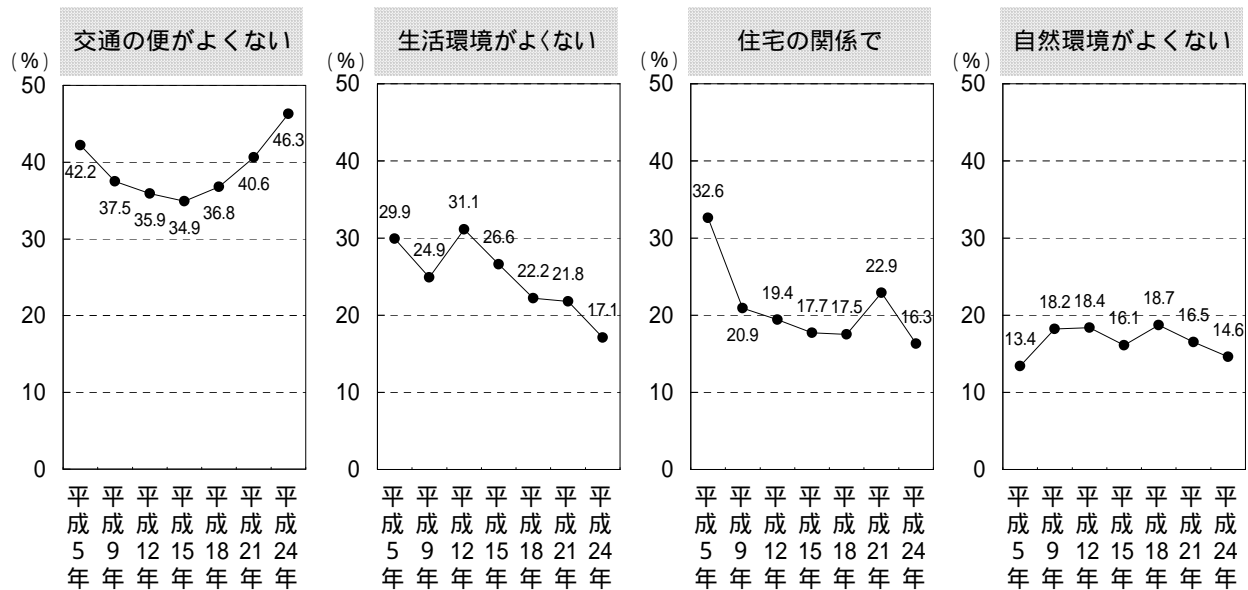
図7 - 12 - 1



問48 で「市外へ移転したい」と答えた人(123人)に、その理由をたずねたところ、「交通の便がよくない」(46.3%)が最も多く、40%半ばとなっている。以下、「生活環境がよくない」(17.1%)、「住宅の関係で」(16.3%)、「自然環境がよくない」(14.6%)、「人間関係がよくない」(14.6%)などの順となっている。(図7 - 12 - 1)

上位4項目について時系列でみると、「交通の便がよくない」は前回調査と比べて5.7ポイント増加している。「住宅の関係で」は前回調査と比べて6.6ポイント、「生活環境がよくない」は前回調査と比べて4.7ポイント、それぞれ減少している。(図7-12-2)

図7-12-2 時系列 転出意向理由



8 . 市政運営に対する意見・まちづくりへの要望

最後に、市に対するご意見やこれからのまちづくりについてのご希望がありましたら、ご自由にお書きください。

「市政運営に対する意見・まちづくりへの要望」欄には、534人（32.9%）の方からの記入があった。その中で、具体的な要望やアイデアを記入していただいたものについて、地区別にその内容を分類し、表にした。また、複数の記入はそれぞれ1件に数えてあるので、意見要望は合計で986件となっている。

地区別 / カテゴリー別 記入状況

	本 庁	芳 野	古 谷	南 古 谷	高 階	福 原	大 東	霞 ヶ 関	霞 ヶ 関 北	名 細	山 田	地区 不明	合 計	比 率
全体合計	278	28	37	64	112	53	88	102	61	77	31	55	986	100.0%
都市基盤・生活基盤	104	16	14	31	43	26	35	36	15	29	13	20	382	38.7%
道路の整備・バリアフリー	25	1	1	1	4	5	7	5	3		1	2	55	
歩道の整備	12	2	2	4	6	5	5	6		5	2	3	52	
公園・緑地の整備	15	1	2	3	7	2	4	7	2	3	1	2	49	
街路灯の整備	10	1		3	3	1	3	5		2	2	1	31	
駅前・周辺の整備	5	2	2	3	5	2	3	4		1		1	28	
排水路、下水道の整備	1	1	1	7	2	4		2	1	1	3	2	25	
バス路線の便の増加、路線の変更	3	3		4	1	2	3	1		4	1	2	24	
中心部以外の市街地の開発	2	1	1	1	3	1	2	3	2	8			24	
道路の拡幅	10	1			4		2		2	1	2		22	
道路交通の整備	12		1			2	1		2	1		2	21	
市内交通網の充実	2	2	1	2	4	1	2			1	1	3	19	
鉄道関係について	1		1	1	1		2	2	1	2		2	13	
河川の整備	1	1	1	1		1							5	
市営住宅関連	1			1	1		1						4	
その他	4		1		2			1	2				10	
産業・観光	20	2	3	2	9	1	4	3	2	5	4	7	62	6.3%
産業全般	8	1	2	1	5		2	1	1	2	4	1	28	
観光行政	8	1	1	1	2	1	1		1	3		3	22	
イベント・お祭り関連	4				2		1	2				3	12	
教育・文化・スポーツ	17	0	3	2	9	8	7	11	7	4	0	2	70	7.1%
学校教育	5			1	2	4	4	4	3				23	
スポーツ関連	3		2		1	1		3	1				11	
図書館関連	1					1			1	4			7	
青少年教育							2	2				2	6	
文化施設の建設	3				3								6	
公民館関連	1			1	1	1		1	1				6	
幼児教育	3				1	1		1					6	
その他	1		1		1		1		1				5	

	本 庁	芳 野	古 谷	南 古 谷	高 階	福 原	大 東	霞 ヶ 関	霞 ヶ 関 北	名 細	山 田	地 区 不 明	合 計	比 率
保健・医療・福祉	34	4	3	8	21	5	11	19	5	15	2	8	135	13.7%
児童・母子（父子）福祉	12			3	9	3	4	9		8		3	51	
高齢者福祉	5	1	1	2	3	1	2	2	2	3			22	
医療関連	2			1	4	1	2	2	1		1		14	
福祉全般	5		1		3		1	1				2	13	
健診（検診）	3	1			1			1	1	1	1	1	10	
働く女性への支援	2			1				3		1		1	8	
障害者（児）福祉	2		1				2	1		1			7	
介護保険	1	1			1				1			1	5	
その他	1	1		1									3	
少子化対策	1									1			2	
環境	18	1	2	6	4	0	4	4	3	4	2	0	48	4.9%
ゴミ収集	4	1		5			1	2	1	3	1		18	
その他環境について	6		1	1	3		1	1	1				14	
たばこ関連	5				1		1						7	
騒音対策	3						1				1		5	
環境保全			1					1	1	1			4	
地域社会と市民生活	20	1	3	3	4	2	7	10	7	1	4	4	66	6.7%
駐車場・駐輪場に関して	7	1	2		1	2	3	3	2	1	2	2	26	
防犯に関して	11			3	2		2	3	2			2	25	
防災関係	2		1		1		2	4	3		2		15	
市政全般	65	4	9	12	22	11	20	19	22	19	6	14	223	22.6%
市職員の態度	5			2	5	1	2		2	2	1	1	21	
その他、生活環境に関して	5	1	2	1	2	2	1	1		1	1		17	
市長、市職員に対して	3			1	1	1	1	4	1	1	1	2	16	
行政サービスについて	3		2	2	3	1	3	1				1	16	
広報関連	5			1			2	1	3	2	1	1	16	
税金関連	5		1	1	1		1	1	3			1	14	
地域社会に関して	4	1	1	1	2			2	2			1	14	
市役所に関して	4	1	1	2			1		1	2		1	13	
公共施設関連	5		1	1		3			1		1		12	
市内の地域間格差の是正に関して	1				2			1	2	2			8	
市民のマナー、モラルに関して	2					1	1		2				6	
行政運営に関して	2				1			1		1		1	6	
計画的・効果的な財政運営に関して	1				1		2			1			5	
議員・政治・選挙に関して	1						1					2	4	
今回のアンケート調査に関して	9		1		2		3	4	1	5	1	1	27	
その他	10	1			2	2	2	3	4	2		2	28	

続いて記入していただいた多くの意見の中から、各カテゴリー別にいくつかの内容を次に掲載している。

都市基盤・生活基盤

< 道路の整備・バリアフリー >

歩行者のための歩道をどの道路にもつけてほしい。特に車通りの激しい所は早めに...観光地以外にも通学路や駅周辺などたくさん危険な所はあり、危険な思いもしています。南古谷駅周辺は道幅が狭く、車も危険です。事故がなければ改善されないのでしょうか。とても怖いです。

【女性・30～39歳・南古谷地区】

< 街路灯の整備 >

名細地区に限らず、全体的に街灯の数が少なく夜は心細く感じる事が多々あります。折角、街灯があっても、電球が切れていることもよく見かけるので、もう少し防犯の意味も込めて灯りを増やして欲しいです。

【女性・40～49歳・名細地区】

< バス路線の便の増加、路線の変更 >

川越シャトルバス（鶴ヶ島駅と霞ヶ関駅行）の便が少ないので本数を増やしてほしいです。車を運転できないので、バスの時間が午前中9時からないし、いちばん使いたい時間にすごく困っています。1時間に3本ぐらいはほしいです。よろしくおねがいします。

【男性・30～39歳・名細地区】

< 中心部以外の市街地の開発 >

名細地区に在住しておりますが、川越市のはずれの為日常生活はすべて坂戸・鶴ヶ島の商圈の施設（スーパー・病院）です。中途半端な地区だと、思いますので今後の生活する為に充実して頂きたいと思います。

【男性・50～59歳・名細地区】

産業・観光

< 観光行政 >

観光地としてはずいぶん観光客が多くて驚くほどです。それだけ居心地のよい町なのだと思います。皆さん店々をのぞいては土産物を手にして歩いておられます。しかし、さつま芋、さつま芋菓子を除くと、あまり「川越」ならではの品が少ない気がします。例えば一番街に、古くからの店々が並んでいてこれは誇れると思うのですが、他に安価な土産物にはない上質なものが川越土産物として欲しいと思っています。

【女性・60～69歳・本庁地区】

< イベント・お祭り関連 >

若者が参加できるイベントをもっと増やしてほしい。小江戸川越検定を年1回ではなく、2回くらいにさせていただき、受検者を増やせるようにしてほしい。

【女性・20～29歳・高階地区】

川越に住んで、26年になりますが、今年の川越まつりは、とても、整備・配慮が完ぺきで、住民にとっても気持ちよく、観光客に対しても不満があまり感じられないものでした(トイレ・休憩所・ゴミ置場の多さと、ゴミ収集管理の徹底・案内板の完備など)。例年、住民にとっては、楽しい祭りが、苦痛な点多かったのですが、今年は、よかったと思います。

【女性・50～59歳・本庁地区】

教育・文化・スポーツ

< 図書館関連 >

図書館は増やさなくていいのですが、返却ポストを駅に欲しい。また、借りるのも、図書館でなくてもできるようにして欲しい。メルトに返却ポスト(週1回収)がありますが、そこに予約端末機械を1台おいて、借りられるようにして欲しい。週1回の締め切りで、1週間後回収時に窓口に預けてとりに行くというのはどうでしょうか。公民館・文化会館・つばさ館などの市の施設に端末機をおいて、予約で回収と両方をする、もしくは予約は家のパソコンにして、端末なしでもいいです。回収ボックスと受取の両方をお願いしたいです。

【男性・40～49歳・名細地区】

< 学校教育 >

市内の公立保育園と小学校・学童に通う子どもがいます。学童に通い始めて、施設のメンテナンスの悪さ、特にトイレが男女一緒な事に驚きました。子どもには「学校へ行ったらトイレは男女別」と教えたのに...正直戸惑いました。その他、雨漏れ等、市へ改善を求めてもお金がないと断られます。子どもたちは毎日、嫌な思いで男女一緒のトイレを使っているのに、あまりにも誠意のない答えではないでしょうか。絶対に改善して下さい。また、小・中学校でエアコンの導入を検討してください。

【女性・30～39歳・高階地区】

< その他 >

若者が集まれる環境を作ってほしい。街が栄えるためにも若い人たちが満足できると、更に活気がでるのではないのでしょうか。友人達とスケートボードやBMX、FIXED BIKE等趣味で楽しんでいます、場所がありません。道ではダメ、場所によっては禁止されており、どこでやったら良いのですか?ストリートを好む者にとっては行き場はありません。都市にはそのための場が作られています。全てを禁止する前に、そのような面の保障があったらいいなと感じる日々です。

【女性・20～29歳・霞ヶ関地区】

保健・医療・福祉

< 児童・母子（父子）福祉 >

子どもを育てやすい街としてPRできれば移り住む人が多くなり、活気が出ると思う。お金がかかったり、保育園へ預けるのがむずかしく2人目、3人目を産まない人も多いです。1人への支援より、2人、3人とたくさん子どもがいる方が手厚い手当や支援をしてもらえると子どもを産む人が増えると思います。少子化は国として対策をしなければいけませんが、日の出市のような施策を川越市でも検討していただけると嬉しいです。

【男性・40～49歳・名細地区】

< 高齢者福祉 >

高齢独居世帯が増加している。医療・介護・ボランティア等連携をとり在宅で生活できる組織づくりをしてほしい。

【女性・60～69歳・本庁地区】

高齢者でも市の健診が受けやすい環境にしてほしいです。受ける施設が出来るだけ住居に近い所であってほしいです。

【女性・60～69歳・高階地区】

< 医療関連 >

土曜保育等子育てしながら働きやすい環境にしてほしいです。また、子どもが救急の際、休日・夜間であったため受け入れ先の病院が見つからず、不安な時間を過ごしました。医療の充実も希望します。

【女性・20～29歳・名細地区】

< 障害者（児）福祉 >

障害者福祉サービスの居住系サービスの件でお尋ねしたい事があります。平成26年までにグループホーム・ケアホーム150人・施設入所支援297人という数値目標が掲げられています。それはどのような形で計画されているのでしょうか。市内には多数の障害者施設がありますが、「市立みよしの支援センター」では現在そのような計画はない様子です。利用者も40代～60代の年齢が多くなりそれに伴って親の高齢化がどんどん進み、片親や両親が病気がちの家庭もふえてきています。家族構成によっては障害を持っている子どもの世話ができなくなります。その時に市内の他の施設にお世話になれば安心ですが、満員の時には市外や遠くの施設にという事もあります。家族にとっては川越市内で暮らせるようにと願っていますし、親・兄弟が元気なうちは自宅と施設を行ったり来たりできればと思います。

【女性・60～69歳・大東地区】

環境

< ゴミ収集 >

引越して来て1年半ですが、いまだゴミ収集日がわかりにくく、絵入りのポスターのような子どもでもわかるような方法を取って欲しい。

【女性・40～49歳・南古谷地区】

蔵造り周辺のゴミ収集時間の見直しが必要ではないでしょうか。観光客は早くて9時半ぐらいから来ます。せめてそれまでには周辺の収集を終える。又は夜間収集するなど観光地としてのゴミ収集をすべきだと思います。観光地は非日常でゴミは日常です。

【男性・30～39歳・芳野地区】

< 環境保全 >

今では、駅周辺・商店街、そして高層マンションも、たくさんでき、すっかり環境が変わりました。街の活性化につながり、多くの観光客が訪れるためには、良い事だと思いますが、やはり、昔のたたずまいが懐かしく、変化に戸惑いもあります。都会化過ぎず、自然な環境づくりをしてほしいです。

【女性・50～59歳・本庁地区】

地域社会と市民生活

< 防犯に関して >

以前に比べ、不審者が多発して、とても物騒になってきている。私自身、自宅近辺で、2度おそわれた経験あり。軽いケガだけで大事には至らなかったが、2度とも警察に通報した。年頃の子を持つ親として、とても心配している。パトロール等、防犯に力を入れてもらいたい。

【女性・40～49歳・本庁地区】

市政全般

< 駐車場・駐輪場に関して >

蔵造りの町並みを中心とする市街地に点在する空地やパーキングがものすごく気になる。観光に来た人々も違和感があると言っている。空いたところを上手に利用する方法はないか。老朽化している初雁球場を運動公園等に移転し、跡地に一大駐車場を造り(有料)車で来られる観光客の拠点とすることで、川越を訪れる人々の増加を図る。

【男性・50～59歳・福原地区】

< 市長、市職員に対して >

不況が続く公務員が攻撃された結果アメリカでは市役所が解体され民間業者が担うことになったが採算がとれず撤退し、市民サービスがなくなってしまったという事を聞きます。日本ではそこまでの民営化が進むかはわかりませんが、市サービスは利益ではなく公益のために存在すると思いますので効率化はすすめながらも市民の幸福と利益のため力をつくして頂ければと思っています。

【女性・30～39歳・大東地区】

< 市役所に関して >

市役所に手続きに行くと、とにかく、時間がかかる！ひどいときには、何回も同じ話を色々な人に話す事もあります。

【女性・60～69歳・大東地区】

< 税金関係 >

今年度から税金が上がり、とても負担ですが、川越市の為にとまいどうにか納税しますのでどうか市民の為に住みやすい街にしていってください。

【女性・30～39歳・本庁地区】

< 行政サービスについて >

市のホームページは見たい情報になかなかたどりつけない。面倒になり、検索サイトからダイレクトにそのページを見つけている。他市のホームページを参考にもっと使いやすくして下さい。

【女性・40～49歳・本庁地区】

< 今回のアンケート調査に関して >

当アンケートについて、一度にいろいろ市民の声を集約（調査）したい気持ちは理解できますが、設問が多すぎます。途中で面倒になるし、回収率にも影響ではないでしょうか？

また、老後のことなど全年齢に問うのはいかがなものでしょうか？最後の2ページにある内容は通常一番始めに問うものではないのではないのでしょうか。最後にならないと自分の基本項目が記入できないのでは回答しにくい。

【男性・50～59歳・名細地区】

第 1 1 回 川越市市民意識調査

発行日 平成 2 5 年 2 月

発 行 川越市市民部広聴課

〒350-8601 川越市元町 1 丁目 3 番地 1

☎ 0 4 9 (2 2 4) 8 8 1 1 (代表)



この印刷物は、グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。